

——農業開発総合センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ——

農業開発総合センター遺跡群Ⅵ

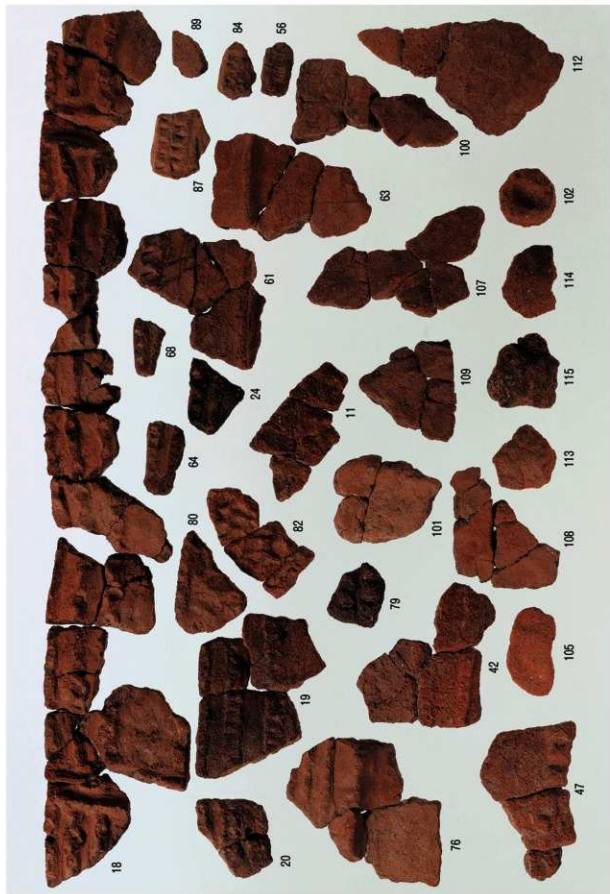
NAKA O ARA TA
中尾遺跡 荒田遺跡

SAKURA DANI
桜谷遺跡

2009年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター







荒田遺跡 縄文時代早期 土器



桜谷遺跡 ①縄文時代早期 土器

②異なる色の粘土により製作された土器（内面）

③赤色顔料が塗られた岩本式土器

序 文

この報告書は、鹿児島県農業開発総合センター建設に伴って、平成8年度から平成15年度にかけて実施した南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）に所在する中尾遺跡、荒田遺跡、桜谷遺跡の発掘調査の記録です。

中尾遺跡では、旧石器時代、縄文時代草創期・早期・晩期の遺構・遺物が発見されました。特筆すべきものとしては、縄文時代草創期の集石遺構10基と連穴土坑8基が検出され、その周辺に数多くの頁岩の剥片と隆帯文土器が伴って出土していることです。

また、荒田遺跡では、旧石器時代、縄文時代草創期・早期の遺構・遺物が発見されました。本遺跡からは旧石器時代の細石器文化とナイフ文化の2つの文化期が確認され、これまで南薩地域における旧石器時代の遺跡数は少なくその様相については不明で、それを補うものとして貴重な資料と言えます。

桜谷遺跡では、旧石器時代、縄文時代草創期・早期・晩期、弥生時代の遺構・遺物が発見されました。縄文時代早期の県内では希少な文様を有する押型文土器が出土し、南九州における押型文土器の様相を考えていく上で貴重な資料となるものと考えています。また、弥生時代の堅穴住居跡からは、入来式土器が一括で出土し中期前葉の数少ない資料となっています。

本報告書が、県民の皆様はじめ多くの方々を活用され、埋蔵文化財に対する関心と御理解をいただくとともに文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査に当たり御協力いただいた県農政部、南さつま市の関係部局及び発掘調査に従事された地域の方々には厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 長 宮 原 景 信

報 告 書 抄 録

ふりがな	のりあけはつこうけんたいせきん せきせき せきせき さくせきせき						
書名	農業開発総合センター遺跡群VI (中尾遺跡・荒田遺跡・桜谷遺跡)						
副書名	農業開発総合センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	VI						
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書						
シリーズ番号	138						
編集者名	関明恵、長崎慎太郎、吉岡康弘、新中なるみ						
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター						
所在地	〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号 TEL0995-48-5811						
発行年月日	2009年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査起因
中尾遺跡	鹿児島県 鹿兒島県	462209 35-18	31° 28' 16"	130° 20' 16"	2001年度 2003年度	25,260	農業開発総合センター 建設
荒田遺跡	南さつま市	462209 35-10	31° 28' 52"	130° 20' 24"	2002年度	17,000	
桜谷遺跡	金峰町	462209 35-12	31° 28' 42"	130° 20' 23"	2002年度	20,000	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な出土遺物	特記事項		
中尾遺跡		旧石器時代 縄文時代 (草創期) (早期) (後期) (晩期) 古墳時代	落とし穴・土坑 集石遺構・連穴土坑 落とし穴・土坑 集石遺構 集石遺構・柱穴列 掘立柱建物跡	ナイフ形石器・三稜尖頭器 隆帯文土器・石鏃・石槍・石斧・ 丸ノミ形石斧・スクレイパー・ 磨石・敲石 石板式土器・押型文土器・石鏃 市来式土器 上加世田式土器・入佐式土器・石 鏃・石鏝・石斧・磨石・石皿 成川式土器			
荒田遺跡		旧石器時代 縄文時代 (草創期) (早期)	ブロック ブロック 集石遺構	ナイフ形石器・三稜尖頭器 細石刃核・細石刃 隆帯文土器 丸ノミ形石器・押型文土器 右京西タイプ・石鏃・磨石・凹石			
桜谷遺跡		旧石器時代 縄文時代 (草創期) (早期) (晩期) 弥生時代	ブロック 集石遺構 石器製作跡 土坑・柱穴列 壑穴式住居跡	ナイフ形石器・台形石器 三稜尖頭器・細石刃・細石核 土器・石鏃・磨石 前平式土器・石板式土器・押型文 土器・石鏃・礮器・磨石・石皿 環状石斧・有溝砥石 上加世田式土器・入佐式土器・ 磨製石鏃・磨製石斧 入来式土器			
遺跡の概要	<p>中尾遺跡は、旧石器時代から古墳時代までの複合遺跡である。旧石器時代では落とし穴遺構が検出され、三稜尖頭器が出土している。縄文時代草創期では、集石遺構と連穴土坑に隆帯文土器と打製石斧が伴い出土している。遺構周辺では土器や石斧などの石器とともに頁岩の剥片も多数出土している。縄文時代早期では押型文土器や石板式土器が出土している。縄文時代晩期では掘立柱建物跡9軒が検出されている。荒田遺跡では、旧石器時代の包含層が2層確認されている。縄文時代草創期については、頁岩のブロックが検出され石器製作所の跡の様相が窺える。縄文時代早期については、押型文土器・丸ノミ形石器の出土量が多く、南九州における押型文土器についての在地の土器との関連性を考える上で貴重な資料である。桜谷遺跡では、縄文時代早期の遺物が多数出土しており、特に網代底など県内では希少な文様を有するものを含む押型文土器が特徴的であり、南九州における押型文土器の様相を考える上で貴重な資料としていきたい。弥生時代においては中期の壑穴式住居跡1軒が検出され、住居内から入来式土器が出土し、柱穴や炉跡と思われる掘り込みも検出され注目される。</p>						



農業センター遺跡群 位置図 (1/50,000)

例 言

- 1 本書は、鹿児島県農業開発総合センター建設に伴う中尾遺跡、荒田遺跡、桜谷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）に所在する。
- 3 発掘調査及び報告書作成は、鹿児島県農政部農業開発総合センター整備事務局から鹿児島県教育委員会が依頼を受け、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 4 発掘調査は、中尾遺跡を平成13・15年度に、荒田遺跡を平成14年度に、桜谷遺跡を平成14年度に実施した。

整理作業・報告書作成は平成19・20年度に実施した。

- 5 遺物番号は、各遺跡毎に通し番号とし、本文・挿図・表・図版の番号は一致する。
- 6 挿図の縮尺は、基本的に土器は3分の1、大型石器は3分の1、小型石器は原寸とするが、遺物によっては例外もある。各挿図毎の縮尺を参考にされたい。
- 7 本書で用いたレベル数値は、農業開発総合センター整備事務局が提示した工事計画図面に基づく海拔絶対高である。
- 8 発掘調査における図面の作成、写真の撮影は調査担当者が行ったが、一部は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。空中写真撮影は、有限会社ふじたに委託した。
- 9 遺構実測図のトレースは、整理担当者が行った。
- 10 土器の実測・トレースは、整理作業員の協力を得て整理担当者が行った。
- 11 石器の実測・トレースは、整理作業員の協力を得て整理担当者が行ったが、一部は国際航業株式会社、株式会社パスコ、株式会社九州文化財研究所、株式会社埋蔵文化財サポートシステム、大成エンジニアリング株式会社に委託し、監修は整理担当者が行なった。
- 12 遺物の写真撮影は、吉岡康弘が行った。
- 13 本書の執筆・編集は、中村耕治・井ノ上秀文・佐藤義明・関明恵・長崎慎太郎・吉岡康弘・新中なるみ・福蘭慶明が担当し、執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章 発掘調査の経過	中村耕治
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	佐藤義明
第Ⅲ章 層位	中村耕治
第Ⅳ章 中尾遺跡の発掘調査成果	長崎慎太郎・関明恵・吉岡康弘・新中なるみ 井ノ上秀文
第Ⅴ章 荒田遺跡の発掘調査成果	新中なるみ・福蘭慶明
第Ⅵ章 桜谷遺跡の発掘調査成果	関明恵・吉岡康弘・佐藤義明

- 14 遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示活用する予定である。なお、各遺跡の遺物注記の略号は次のとおりである。中尾遺跡（ノセナカ）、荒田遺跡（ノセアラ）、桜谷遺跡（ノセサク）。

凡 例



煤附着範囲



石皿作業面

目 次

序 文
報告書抄録
例 言
凡 例

第I章 調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	1
第II章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置	2
第2節 周辺遺跡	2
第III章 層位	4
第IV章 中尾遺跡の発掘調査成果	5
第1節 調査の経過	5
第2節 遺跡の層序	7
第3節 発掘調査の方法及び概要	7
第4節 旧石器時代の調査	11
第5節 縄文時代の調査	14
1 縄文時代草創期の調査	14
(1) 遺構	14
(2) 遺物	27
2 縄文時代早期の調査	45
(1) 遺構	45
(2) 遺物	47
3 縄文時代後期の調査	61
4 縄文時代晩期の調査	61
(1) 遺構	61
(2) 遺物	69
第6節 その他の遺物	81
第7節 小結	82

第V章 荒田遺跡の発掘調査成果	83
第1節 調査の経過	83
第2節 遺跡の層序	88
第3節 発掘調査の方法及び概要	88
第4節 旧石器時代の調査	88
第5節 縄文時代の調査	98
1 縄文時代草創期の調査	98
(1) 遺構	98
(2) 遺物	101
2 縄文時代早期の調査	104
(1) 遺構	104
(2) 遺物	118
3 縄文時代晩期の調査	159
第6節 小結	160
第VI章 桜谷遺跡の発掘調査成果	161
第1節 調査の経過	161
第2節 遺跡の層序	161
第3節 発掘調査の方法及び概要	165
第4節 旧石器時代の調査	165
第5節 縄文時代の調査	167
1 縄文時代草創期	167
2 縄文時代早期	173
(1) 遺構	182
(2) 遺物	191
3 縄文時代前期・後期の調査	262
4 縄文時代晩期の調査	262
(1) 遺構	262
(2) 遺物	262
第6節 弥生時代の調査	268
第7節 その他の時代の調査	270
第8節 小結	272
第VII章 まとめ	273

写真図版 287
あとがき

挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡位置図	3
第2図	模式柱状図	4

中 尾 遺 跡

第1図	中尾遺跡位置図	5
第2図	中尾遺跡地形図	6
第3図	土層断面図1	8
第4図	土層断面図2	9
第5図	土層断面図3	10
第6図	旧石器時代 遺構・遺物分布図	11
第7図	旧石器時代 遺構	12
第8図	旧石器	13
第9図	縄文時代草創期 遺構・遺物分布図	14
第10図	縄文時代草創期 遺構配置図	15
第11図	集石遺構1	16
第12図	集石遺構2	17
第13図	集石遺構3	18
第14図	集石遺構4	19
第15図	連穴土坑1	20
第16図	連穴土坑2	21
第17図	連穴土坑3	22
第18図	連穴土坑4	23
第19図	落とし穴状遺構・土坑	24
第20図	遺構内遺物	26
第21図	縄文時代草創期 土器出土状況	27
第22図	縄文時代草創期 土器1	28
第23図	縄文時代草創期 土器2	29
第24図	縄文時代草創期 土器3	30
第25図	縄文時代草創期 土器4	31
第26図	縄文時代草創期 土器5	32
第27図	縄文時代草創期 石器出土状況	36
第28図	縄文時代草創期 石材別分布図	37
第29図	縄文時代草創期 真岩剥片分布図	38
第30図	縄文時代草創期 石器1・石鏃分類図	39
第31図	縄文時代草創期 石器2	40
第32図	縄文時代草創期 石器3	41
第33図	縄文時代草創期 石器4	42

第34図	縄文時代草創期 石器5	43
第35図	縄文時代早期 遺構・遺物分布図	45
第36図	集石遺構	46
第37図	縄文時代早期 土器出土状況	48
第38図	縄文時代早期 土器1	49
第39図	縄文時代早期 土器2	50
第40図	縄文時代早期 土器3	51
第41図	縄文時代早期 土器4	52
第42図	縄文時代早期 石器出土状況	55
第43図	縄文時代早期 石器1	56
第44図	縄文時代早期 石器2	57
第45図	縄文時代早期 石器3	58
第46図	縄文時代後期 土器	61
第47図	集石遺構	61
第48図	縄文時代晩期 遺構配置図	62
第49図	掘立柱建物跡1	63
第50図	掘立柱建物跡2	64
第51図	掘立柱建物跡3	65
第52図	柱穴列1	66
第53図	柱穴列2	67
第54図	柱穴列3	68
第55図	柱穴	69
第56図	縄文時代晩期 土器1	70
第57図	縄文時代晩期 土器2	71
第58図	縄文時代晩期 土器3	72
第59図	縄文時代晩期 石器1	74
第60図	縄文時代晩期 石器2	75
第61図	縄文時代晩期 石器3	76
第62図	縄文時代晩期 石器4	77
第63図	縄文時代晩期 石器5	78
第64図	縄文時代晩期 石器6	79
第65図	縄文時代晩期 石器7	80
第66図	その他の遺物	81
第67図	縄文時代後期・晩期 その他の遺物出土状況	81

荒田遺跡

第1図	荒田遺跡位置図(1/25000)	83	第37図	縄文時代早期 土器2 (V類土器)	119
第2図	地形図及びグリッド配置図	84	第38図	縄文時代早期 土器3 (V類土器)	120
第3図	土層断面図1	85	第39図	縄文時代早期 土器4 (V類土器)	121
第4図	土層断面図2	86	第40図	縄文時代早期 土器5 (V類土器)	122
第5図	土層断面図3	87	第41図	縄文時代早期 土器6 (V・VI類土器)	123
第6図	旧石器時代遺物出土状況	89	第42図	縄文時代早期 土器7 (VII類土器)	124
第7図	旧石器1	90	第43図	縄文時代早期 土器8 (VII類土器)	125
第8図	旧石器2	91	第44図	縄文時代早期 土器9 (VII類土器)	126
第9図	旧石器3	92	第45図	縄文時代早期 土器10 (VII類土器)	127
第10図	旧石器4	93	第46図	縄文時代早期 土器11 (VII類土器)	128
第11図	旧石器5	94	第47図	縄文時代早期 土器12 (VII類土器)	129
第12図	旧石器6	95	第48図	縄文時代早期 土器13 (VII類土器)	130
第13図	旧石器7	96	第49図	縄文時代早期 土器14 (VII類土器)	131
第14図	旧石器8	97	第50図	縄文時代早期 土器15 (VIII類土器)	132
第15図	縄文時代草創期 出土状況	98	第51図	縄文時代早期 土器16 (IX類土器)	133
第16図	縄文時代草創期 集石遺構	98	第52図	縄文時代早期 土器17 (IX類土器)	134
第17図	縄文時代草創期1	99	第53図	縄文時代早期 土器18 (IX類土器)	135
第18図	縄文時代草創期2	100	第54図	縄文時代早期 土器19 (IX類土器)	136
第19図	縄文時代草創期3	101	第55図	縄文時代早期 土器20 (X類土器)	137
第20図	縄文時代草創期4	102	第56図	縄文時代早期 土器21 (X類土器)	138
第21図	縄文時代早期 遺構配置図	103	第57図	縄文時代早期 土器22 (X類土器)	139
第22図	縄文時代早期 集石遺構1	104	第58図	縄文時代早期 土器23 (X類土器)	140
第23図	縄文時代早期 集石遺構2	105	第59図	縄文時代早期 土器24 (X類土器)	141
第24図	縄文時代早期 集石遺構3	106	第60図	縄文時代早期 土器25 (XI類土器)	142
第25図	縄文時代早期 集石遺構4	107	第61図	縄文時代早期 石器出土状況	143
第26図	縄文時代早期 集石遺構5	108	第62図	縄文時代早期 石器1	144
第27図	縄文時代早期 集石遺構6	109	第63図	縄文時代早期 石器2	145
第28図	縄文時代早期 集石遺構7	110	第64図	縄文時代早期 石器3	146
第29図	縄文時代早期 集石遺構8	111	第65図	縄文時代早期 石器4	147
第30図	縄文時代早期 集石遺構9	112	第66図	縄文時代早期 石器5	148
第31図	縄文時代早期 集石遺構10	113	第67図	縄文時代早期 石器6	149
第32図	縄文時代早期 集石遺構11	114	第68図	縄文時代早期 石器7	150
第33図	縄文時代早期 土坑	115	第69図	縄文時代早期 石器8	151
第34図	縄文時代早期 土器出土状況1 (II類～VI類)	116	第70図	縄文時代早期 石器9	152
第35図	縄文時代早期 土器出土状況2 (VII類～XI類)	117	第71図	縄文時代早期 石器10	153
第36図	縄文時代早期 土器1 (II類～IV類土器)	118	第72図	縄文時代早期 石器11	154
			第73図	縄文時代早期 石器12	155
			第74図	縄文時代早期 石器13	156

第75図	縄文時代早期	石器14	157
第76図	縄文時代晩期	土器・石器	159

第31図	集石遺構11	191
------	--------	-----

第32図	縄文時代早期	土器1 (I類)	192
------	--------	----------	-----

第33図	縄文時代早期	土器2 (I類)	193
------	--------	----------	-----

第34図	縄文時代早期	土器3 (II類)	194
------	--------	-----------	-----

第35図	縄文時代早期	土器4 (III類)	195
------	--------	------------	-----

第36図	縄文時代早期	土器5 (III類)	196
------	--------	------------	-----

第37図	縄文時代早期	土器6 (III類)	197
------	--------	------------	-----

第38図	縄文時代早期	土器7 (IV類)	198
------	--------	-----------	-----

第39図	縄文時代早期	土器8 (IV類)	199
------	--------	-----------	-----

第40図	縄文時代早期	土器9 (V類)	200
------	--------	----------	-----

第41図	縄文時代早期	土器10 (V類)	201
------	--------	-----------	-----

第42図	縄文時代早期	土器11 (V類)	202
------	--------	-----------	-----

第43図	縄文時代早期	土器12 (V類)	203
------	--------	-----------	-----

第44図	縄文時代早期	土器13 (V類)	204
------	--------	-----------	-----

第45図	縄文時代早期	土器14 (V類)	205
------	--------	-----------	-----

第46図	縄文時代早期	土器15 (V類)	206
------	--------	-----------	-----

第47図	縄文時代早期	土器16 (V類)	207
------	--------	-----------	-----

第48図	縄文時代早期	土器17 (V類)	208
------	--------	-----------	-----

第49図	縄文時代早期	土器18 (V類)	209
------	--------	-----------	-----

第50図	縄文時代早期	土器19 (V類)	210
------	--------	-----------	-----

第51図	縄文時代早期	土器20 (V類)	211
------	--------	-----------	-----

第52図	縄文時代早期	土器21 (V類)	212
------	--------	-----------	-----

第53図	縄文時代早期	土器22 (V類)	213
------	--------	-----------	-----

第54図	縄文時代早期	土器23 (V類)	214
------	--------	-----------	-----

第55図	縄文時代早期	土器24 (V類)	215
------	--------	-----------	-----

第56図	縄文時代早期	土器25 (V類)	216
------	--------	-----------	-----

第57図	縄文時代早期	土器26 (V類)	217
------	--------	-----------	-----

第58図	縄文時代早期	土器27 (VI類)	218
------	--------	------------	-----

第59図	縄文時代早期	土器28 (VI・VII類)	219
------	--------	----------------	-----

第60図	縄文時代早期	土器29 (VIII類)	220
------	--------	--------------	-----

第61図	縄文時代早期	土器30 (VIII類)	221
------	--------	--------------	-----

第62図	縄文時代早期	土器31 (IX類)	222
------	--------	------------	-----

第63図	縄文時代早期	土器32 (IX類)	223
------	--------	------------	-----

第64図	縄文時代早期	土器33 (X類)	224
------	--------	-----------	-----

第65図	縄文時代早期	土器34 (X類)	225
------	--------	-----------	-----

第66図	縄文時代早期	土器35 (X類)	226
------	--------	-----------	-----

第67図	縄文時代早期	土器36 (X類)	227
------	--------	-----------	-----

第68図	縄文時代早期	土器37 (X類)	228
------	--------	-----------	-----

第69図	縄文時代早期	土器38 (X類)	229
------	--------	-----------	-----

第70図	縄文時代早期	土器39 (XI・XII類)	230
------	--------	----------------	-----

桜谷遺跡

第1図	桜谷遺跡位置図 (1/25000)	161
-----	-------------------	-----

第2図	桜谷遺跡地形図・調査範囲・グリッド 配置図 (1/2000)	162
-----	-----------------------------------	-----

第3図	土層断面図1	163
-----	--------	-----

第4図	土層断面図2	164
-----	--------	-----

第5図	旧石器時代遺構配置図及び遺物出土状況 配置図	165
-----	---------------------------	-----

第6図	旧石器時代ブロック1遺物出土状況	166
-----	------------------	-----

第7図	旧石器時代ブロック2遺物出土状況	167
-----	------------------	-----

第8図	旧石器1	168
-----	------	-----

第9図	旧石器2	169
-----	------	-----

第10図	旧石器3	170
------	------	-----

第11図	旧石器4	171
------	------	-----

第12図	旧石器5	172
------	------	-----

第13図	縄文時代草創期 出土遺物	173
------	--------------	-----

第14図	縄文時代早期 遺構配置図及び 遺物出土状況	174
------	--------------------------	-----

第15図	縄文時代早期 土器出土状況1	175
------	----------------	-----

第16図	縄文時代早期 土器出土状況2	176
------	----------------	-----

第17図	縄文時代早期 土器出土状況3	177
------	----------------	-----

第18図	縄文時代早期 土器出土状況4	178
------	----------------	-----

第19図	縄文時代早期 石器出土状況及び 頁岩製大型剥片出土状況	179
------	--------------------------------	-----

第20図	石材別 小型剥片出土状況	180
------	--------------	-----

第21図	集石遺構1	181
------	-------	-----

第22図	集石遺構2	182
------	-------	-----

第23図	集石遺構3	183
------	-------	-----

第24図	集石遺構4	184
------	-------	-----

第25図	集石遺構5	185
------	-------	-----

第26図	集石遺構6	186
------	-------	-----

第27図	集石遺構7	187
------	-------	-----

第28図	集石遺構8	188
------	-------	-----

第29図	集石遺構9	189
------	-------	-----

第30図	集石遺構10	190
------	--------	-----

第71図	縄文時代早期	土器40 (Ⅷ類)	231
第72図	縄文時代早期	土器41 (Ⅷ類)	232
第73図	縄文時代早期	土器42 (Ⅷ類)	233
第74図	縄文時代早期	土器43 (Ⅷ・Ⅷ類)	234
第75図	縄文時代早期	石器1	240
第76図	縄文時代早期	石器2	241
第77図	縄文時代早期	石器3	242
第78図	縄文時代早期	石器4	243
第79図	縄文時代早期	石器5	244
第80図	縄文時代早期	石器6	245
第81図	縄文時代早期	石器7	246
第82図	縄文時代早期	石器8	247
第83図	縄文時代早期	石器9	248
第84図	縄文時代早期	石器10	249
第85図	縄文時代早期	石器11	250
第86図	縄文時代早期	石器12	251
第87図	縄文時代早期	石器13	252
第88図	縄文時代早期	石器14	253

第89図	縄文時代早期	石器15	254
第90図	縄文時代早期	石器16	255
第91図	縄文時代早期	石器17	256
第92図	縄文時代早期	石器18	257
第93図	縄文時代早期	石器19	258
第94図	縄文時代早期	石器20	259
第95図	縄文時代前期～弥生時代遺構配置図 及び遺物出土状況		263
第96図	縄文時代前期・後期 土器 (Ⅷ類～Ⅷ類)		264
第97図	土坑1～3・土坑3内出土遺物 及び柱穴列		265
第98図	縄文時代晩期出土遺物1		266
第99図	縄文時代晩期出土遺物2		267
第100図	弥生時代中期 竪穴式住居跡		269
第101図	竪穴式住居跡内出土遺物		270
第102図	その他の出土遺物		271

図 版 目 次

巻頭図版1	荒田遺跡・桜谷遺跡 遠景(空中写真)
巻頭図版2	中尾遺跡 縄文時代草創期 土器
巻頭図版3	荒田遺跡 縄文時代早期 土器
巻頭図版4	桜谷遺跡 ①縄文時代早期 土器 ②異なる色の粘土により製作された土器(内面) ③赤色顔料が塗られた岩本式土器

図版3	縄文時代草創期 ①～④3～6号集石遺構 ⑤調査風景(C-10～11区)
図版4	縄文時代草創期 ①～④7～10号集石遺構 ⑤・⑥1・2号連穴土坑 ⑦遺構検出状況(C-11区)
図版5	縄文時代草創期 ①～④3～6号連穴土坑 ⑤4号連穴土坑煙道部 ⑥・⑦7号・8号連穴土坑
図版6	縄文時代草創期 ①1号落とし穴状遺構 ②土器(18)出土状況 ③遺物出土状況(C-10～11区) 縄文時代早期 ④2号集石遺構 縄文時代晩期 ⑥2号集石遺構 ⑦7・8号掘立柱建物跡検出状況 ⑧土器(285・293)出土状況
図版7	旧石器 縄文時代草創期 土器1

中 尾 遺 跡

図版1	中尾遺跡全景 縄文時代草創期 遺構検出状況(B～D-9～11区)
図版2	①土層断面(C-9区西壁) ②・③旧石器時代落とし穴状遺構 ④・⑤縄文時代草創期 1・2号集石遺構

- 図版8 縄文時代草創期 土器 2
 図版9 縄文時代草創期 土器 3
 図版10 縄文時代草創期 石器 1
 図版11 縄文時代草創期 石器 2
 図版12 縄文時代早期 土器・石器
 図版13 ①縄文時代後期・晩期 土器
 ②縄文時代晩期 石器

荒田遺跡

- 図版14 ①荒田遺跡 近景
 ②土層断面
 ③・④旧石器時代遺物出土状況
 ⑤石斧出土状況
 ⑥縄文時代草創期 集石遺構
- 図版15 縄文時代早期
 ①～⑥10・12・20・23・29・31号集石遺構
 ⑦1号土坑
 ⑧V類土器出土状況
- 図版16 旧石器時代
 図版17 縄文時代草創期 石器・土器
 図版18 縄文時代早期 土器 1
 図版19 縄文時代早期 土器 2
 図版20 縄文時代早期 土器 3
 図版21 縄文時代早期 土器 4
 図版22 縄文時代早期 土器 5
 図版23 縄文時代早期 石器 1
 図版24 縄文時代早期 石器 2

桜谷遺跡

- 図版25 桜谷遺跡 全景
 図版26 ①土層断面
 ②旧石器時代遺物出土状況
 ③～⑥縄文時代早期 1・3～5号集石遺構
- 図版27 ①～⑥縄文時代早期 6・7・9・12～14号
 集石遺構
- 図版28 縄文時代早期 ①～④20・21・24・25号
 集石遺構
 ⑤磨石集積遺構
- 図版29 縄文時代早期
 ①石皿出土状況
 ②環状石斧出土状況
 ③有溝砥石出土状況
 ④X類土器出土状況
 弥生時代 ⑤竪穴式住居跡検出状況
- 図版30 ①旧石器 ②旧石器時代 接合資料
- 図版31 縄文時代早期 土器 1
 図版32 縄文時代早期 土器 2
 図版33 縄文時代早期 土器 3
 図版34 縄文時代早期 土器 4
 図版35 縄文時代早期 土器 5
 図版36 縄文時代早期 土器 6
 図版37 縄文時代早期 石器 1
 図版38 縄文時代早期 石器 2
 図版39 ①・②縄文時代早期 石器 3
 ③縄文時代前・後・晩期 土器
- 図版40 ①縄文時代晩期 石器
 弥生時代中期
 ②～④竪穴式住居内出土土器
 ⑤榎のついた土器
 ⑥電子顕微鏡拡大写真

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

農農政部農業開発総合センター整備事務局（以下農開総センター整備事務局）は、「鹿児島県総合基本計画」（平成6年）に基づく戦略プロジェクト「食の創造拠点鹿児島島の形成」の一環として、鹿児島県農業開発総合センター建設事業を日置市吹上町（大字入来・中之里・湯之浦・和田）、南さつま市金峰町（大字大野・代表地番南さつま市金峰町大野諏訪前2935-1番地）内において計画した。このため農開総センター整備事務局は、本事業に先立って、対象地内における埋蔵文化財の有無について県教育庁文化課（平成8年から文化財課以下文化財課）に照会を行った。これを受けた文化課は平成6年11月に分布調査を実施した。その結果、事業区域内に10遺跡が存在することが判明した。

分布調査の結果を受けて、県農政部・文化財課・県立埋蔵文化財センター（以下埋文センター）の三者で協議した結果、対象地内の遺跡の範囲と性格を把握するために当該地域において確認調査を実施することとし、調査は埋文センターが担当した。

確認調査は、平成8年度・9年度に実施した。確認調査の結果、24遺跡（約100ヘクタール）が存在することが明らかになり、建築物予定地及び圃場整備により削除される部分等について記録保存のための本調査を引き続き平成15年度まで実施した。

報告書作成のための整理作業は平成15年度からはじめて、平成16年度に日置市（旧日置郡吹上町）に所存する7遺跡の報告書を刊行した。平成17年度に南さつま市（旧日置郡金峰町）に所在する4遺跡について報告書を刊行した。平成18年度は南さつま市金峰町に所在する4遺跡の報告書を刊行した。平成19年度は南さつま市金峰町の5遺跡について報告書を刊行した。平成20年度は南さつま市の中尾遺跡・荒田遺跡・桜谷遺跡の3遺跡について報告書を刊行することとした。

第2節 調査の組織

平成20年度

事業主体者	鹿児島県経営技術課技術管理係
整理主体者	鹿児島県教育委員会
整理責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 宮原 景信
整理企画者	〃 次長兼総務課長 平山 章 〃 次長兼 南の縄文調査室長 池畑 耕一 〃 調査第一課長 青崎 和憲 〃 主任文化財主事兼調査第一課 第二調査係長 井ノ上秀文
整理担当者	〃 文化財主事 関 明恵 〃 文化財主事 長崎慎太郎 〃 文化財主事 吉岡 康弘 〃 文化財主事 新中なるみ
事務担当者	〃 総務係長 紙屋 伸一 〃 主事 木曾 美幸
整理指導	鹿児島大学法文学部准教授 本田 道輝 南九州縄文研究会 新東 晃一
報告書作成検討委員会	平成20年12月3日(水) 宮原所長他12名
報告書作成指導委員会	平成20年12月1日(月) 池畑次長他5名
企画担当	黒川忠広・馬籠亮道

第3節 調査の経過

中尾遺跡・荒田遺跡・桜谷遺跡は、平成6年度の分布調査により確認されたもので、平成8・9年度の確認調査で旧石器時代から中世までの遺物が出土することが判明した。

本調査は、平成10年度から平成15年度まで、農業大学校用地及び耕種試験場用地の中で建築物予定地、幹線道路、研究畑等で削平される範囲、深さについて実施した。詳細については各遺跡の概要で記す。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

農業開発総合センター建設予定地は南さつま市金峰町大野と日置市吹上町和田・中之里・入来に計画され敷地面積180㌔と広範囲におよぶものである。南さつま市は、平成17年度に加世田市・笠沙町・大浦町・金峰町の1市3町が合併してできたもので、人口約42,000人の市となったものである。

南さつま市金峰町は、西側は東シナ海に面し、中央に金峰山がそびえ、東から西へ山地・シラス台地・低地・海岸砂丘へと続く地勢を示す。また、万之瀬川の支流堀川・境川・岩元川・長谷川が山地や台地を縫うように西流している。これらの河川に開析された谷が発達し、谷に面した台地上に多くの遺跡が存在する。代表的な遺跡としては、縄文時代の阿多貝塚、弥生時代の高橋貝塚・松木園遺跡、古墳時代の中津野遺跡が知られているが、近年万之瀬川の河川改修に伴う調査で、持松遺跡・芝原遺跡など古代から中世の重要な遺跡も発見されている。

第2節 周辺遺跡

金峰町側は主に耕種試験場関連の計画地であるが、大字は大野で大野原と呼ばれている広大な台地である。遺跡は大門口遺跡・諏訪前遺跡・諏訪半田遺跡・尾ヶ原遺跡・馬塚松遺跡・諏訪脇遺跡・宗円堀遺跡・神原遺跡・桜谷遺跡・荒田遺跡・頭無遺跡・頭無迫田遺跡・市堀遺跡・中尾遺跡・南原内堀遺跡・加治屋堀遺跡とほぼ全域にわたって遺跡が存在し、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世と各時期の遺構・遺物が出土している。

金峰町は古くより発掘調査が行われ、県内外で著名な遺跡が多い。阿多貝塚は縄文時代前期を中心とした遺跡で、人骨の出土した上焼田遺跡と共に貝塚を形成する希少な遺跡である。小中原遺跡は旧石器時代・縄文時代早期・古代の遺構・遺物が多く出土した遺跡であるが、現在残っている阿多という地名と同じ「阿多」という文字が刻まれた土師器・須恵器が出土したことで注目された。上水流遺跡では縄文時代中期・後期・晩期の夥しい遺物が出土している。その中には、南島との交流をうかがわせる遺物

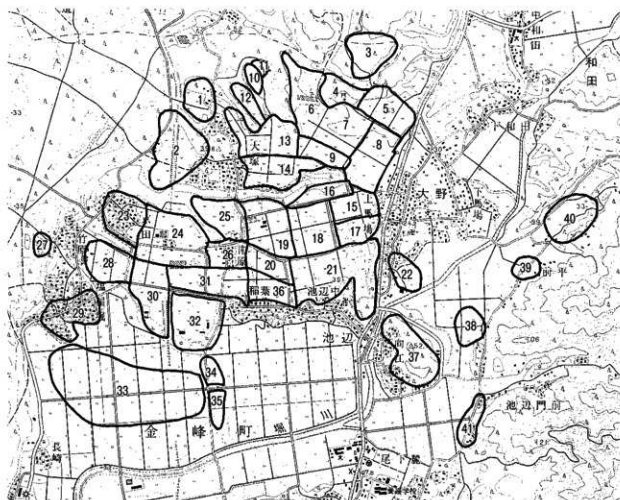
(南島系の土器)も見られる。弥生時代になると遺跡数も増加し内容も豊富になる。下原遺跡は縄文時代から弥生時代への移行期にあたる遺跡で、靱痕の認められる土器片が出土し、早くから稲作が行われていたことがうかがえるものである。高橋貝塚は下原遺跡の後続するものであるが、弥生時代前期の土器(高橋式)と共に靱痕のある土器片・柱状挟入石器・ノミ形石器・磨製石鏃・磨製石剣・石鏃・石包丁等が出土しており、稲作農耕がいち早く伝わってきたことを物語る遺跡である。また、貝塚を形成することや南海産のゴホウラ貝が出土することから、海洋性に富んでおり南島と北部九州などの中継地としての位置付けも重要視されている。

下小路遺跡では、鹿児島県では数少ない合口妻棺が発見され、弥生時代中期に北部九州との交流があったことが知られる。近年調査された下堀遺跡では、弥生時代中期の集落が確認され、大隅半島から西海岸に分布する間仕切りを持つ堅穴住居跡が当地方にも存在することが知られた。また、中九州や北部九州系の土器が多く出土している点も注目される。松木園遺跡は、限られた範囲の調査であるが、弥生時代後期の大溝(幅4～5m・深さ3mのV字状)が発見され環状集落の可能性を想定させられる。また、溝中より出土した多量の土器はそれまで希薄だった弥生時代後期の土器編年に欠かせないものである。

中津野遺跡からは、弥生時代から古墳時代への移行期にあたる土器群が出土している。万之瀬川改修工事に伴う近年の調査では、持松遺跡・芝原遺跡・渡畑遺跡などから古代・中世の遺構・遺物が数多く発見されている。特に中世の中国製陶磁器が大量に出土しており、南島・中国との交流が大きく取り沙汰されてきている。平成16年・17年の調査では縄文時代後期の足形土製品が渡畑遺跡と芝原遺跡から出土し接合している。荒平古窯跡群は県内でも数少ない古代の須恵器窯で、生産遺跡の研究上欠かせないものである。白塚野遺跡では、石組を伴った墓塚が発見され、その中から土師器の甕骨器(短頸壺・蓋)と4隅に「山」と墨書された土師器杯と鍛冶滓・輪の羽口2点が出土している。

遺跡地名表（金峰町）

番号	遺跡名	所在地	時代	番号	遺跡名	所在地	時代
1	塚山	大野	古墳	22	寺下	大野	中世
2	大塚	〃	古墳	23	京田	〃	縄文・古墳・中世
3	尾ヶ原	〃	縄文早～晩期・弥生・古墳	24	京田原	〃	古墳
4	諏訪牟田	〃	縄文・古墳・古代・中世	25	鎮守尾	〃	古墳・中世
5	諏訪前	〃	縄文早期・晩期	26	南原A	〃	縄文中期・後期
6	馬塚松	〃	縄文晩期・中世・近世	27	砂漢	池辺	古墳
7	諏訪脇	〃	縄文早期・晩期・中世	28	小堀	〃	古墳・古代
8	大門口	〃	縄文早期・晩期	29	萩ノ上	〃	古墳
9	宗門堀	〃	旧石器・縄文早期・中世	30	地頭堀	〃	古墳・古代
10	荒田	〃	旧石器・縄文早期	31	塩原堀	〃	古墳
11	秋葉	〃	旧石器	32	玄同堀	〃	古墳・中世
12	桜谷	〃	旧石器・縄文早期・弥生	33	主水堀	〃	弥生・古墳
13	神原	〃	旧石器・縄文早期・古代	34	秋葉下	〃	古墳
14	頭無	〃	縄文早期・古代	35	烏田	〃	古墳
15	市場	〃	縄文早期・中世	36	宮間	〃	古墳・古代
16	頭無追田	〃	旧石器・縄文早期・中世	37	牟礼ヶ城跡	〃	中世
17	加治屋堀	〃	縄文	38	小城田	〃	縄文
18	中尾	〃	旧石器・縄文章創期・早期	39	本寺	〃	古墳
19	南原内堀	〃	縄文後期・晩期	40	前平	〃	縄文・古墳
20	南原外堀	〃	古墳・古代	41	宮の前	〃	縄文・古代
21	原口	〃	古墳・古代				



第1図 周辺遺跡位置図

第三章 層位

I 層 灰黒色土
II 層 黒色土
III 層 黄橙色火山灰土
IV 層 黄褐色土
V 層 黒褐色土
VI 層 暗黄橙色火山灰土
VII 層 明茶褐色土
VIII 層 茶褐色粘質土
IX 層 暗茶褐色粘質土
X 層 黄橙色シルト質
XI 層 白色シラス

第2図
模式柱状図

農業開発総合センター予定地は、旧日置郡金峰町と吹上町にまたがる南北2km、東西1.5kmの広大な範囲に及ぶ。地形も標高86mから13mと高低差があり、山・台地・沖積地・開析谷と変化に富んでいる。そのために、それぞれの地点で層位が異なっている。第2図は台地部分の標準的な地層の模式図である。

また、以下の各層の説明も標準的なものである。

I層 灰黒色土

現在の耕作土。白色の小軽石を含むことによってII層との区別が可能である。地点によってはa・b・cの3層に細分できる。Ic層は黒色に近い色調であるが、3mm大の白色軽石が混在している。中世末から近世初めの層である。I層の平均的な厚さは20cm程度であるが、圃場整備により削除されたり、盛り土されたりしており一定ではない。

II層 黒色土

弥生時代・古墳時代・奈良時代～鎌倉時代の遺物包含層である。圃場整備により削除されている部分が多いが、谷の部分などを中心に良好に残存している。層厚10～30cm。

III層 黄橙色火山灰土

鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰（BP6400年）とその腐植土である。上位（IIIa層）はII層との漸位層であり、やや黒色をおびる。縄文時代晚期及び

弥生時代前期の遺物包含層である。中位（IIIb層）は縄文時代前期から後期の遺物包含層である。下位（IIIc層）はアカホヤ火山灰の一次堆積と考えられるが残存状況は悪く、IV層との境目が明瞭ではない。層厚30～40cm。

IV層 黄褐色土

III層と類似するが、より褐色味を帯び粘質である。縄文時代早期の遺物包含層で層厚20～30cm。

V層 黒褐色土

硬質でよくしまる。2～3cm大の黄橙色のバミスが混入する。縄文時代早期の遺物包含層で層厚30cm。

VI層 暗黄橙色火山灰土

桜島起源の摩崖火山灰（BP11,500年）である。非常に薄くブロック状に堆積している。層厚は厚い所で15cm程度堆積している。

VII層 明茶褐色土

粘質土であるが、火山灰の混入によるザラついた感触を持つ。縄文時代草創期の遺物包含層で層厚10cm。

VIII層 茶褐色粘質土

いわゆるチョコ層である。粘質が強く含水率が高い。旧石器時代から縄文時代草創期の遺物包含層である。層厚10cm。

IX層 暗茶褐色粘質土

VII層とほとんど同じ土質であるが、VIII層に比べてやや褐色土味を帯び、シルト質化している。旧石器時代の遺物包含層である。層厚30cm。

X層 黄橙色シルト質（シラス質）

シラスの腐食したもので、5cm大の黄色軽石を含む。上位は旧石器時代（ナイフ形石器文化）の遺物包含層である。層厚80cm。

XI層 白色シラス

始良カルデラ起源のシラス（BP24,500年）である。近辺の露頭では10数mの堆積が見られる。

各遺跡の大半が標準土層のとおりであるが、中尾遺跡一部は上部の層が削除されているため表層下位はVII層で縄文草創期の遺物が出土する状況である。また、荒田遺跡・桜谷遺跡も一部上層が削除されているところがある。詳細については各遺跡の調査成果の項で記述することとする。

中 尾 遺 跡

第IV章 中尾遺跡の発掘調査成果

第1節 調査の経過

中尾遺跡の本調査は、平成12年7月に行った農開総センター事務局との現地協議の結果に基づいて調査区域と調査深度を設定した。本調査は、工事に伴う削平部分、建設にかかる範囲を対象とした。

1 調査日誌抄

平成13年

10月 表土剥ぎ、B～C-9～11区、D～F-10～12区Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ

11月 E～G-9～11区Ⅱ～Ⅳ層掘り下げ

12月 E～I-9～12区Ⅲ～Ⅳ層掘り下げⅢ層コンター図作成、B～D-9～11区Ⅶ～Ⅷ層掘り下げ、集石遺構・連穴土坑検出

平成14年

1月 B～D-10～11区Ⅷ層掘り下げ、C～D-2～6区、H～J-3～5区Ⅱ～Ⅴ層掘り下げ、上部層削平確認、晩期掘立柱建物跡検出、C～D-10～11区土層断面実測

2月 B～D-10～11区Ⅷ層掘り下げ、D～E-3～4区Ⅱ～Ⅳ層掘り下げ

3月 C～D-4～6区Ⅱ～Ⅳ層掘り下げ
B～D-9～11区Ⅸ層コンター図作成

平成15年

8月 D～H-12～17区表土剥ぎ、下層確認トレンチ設定・掘り下げ

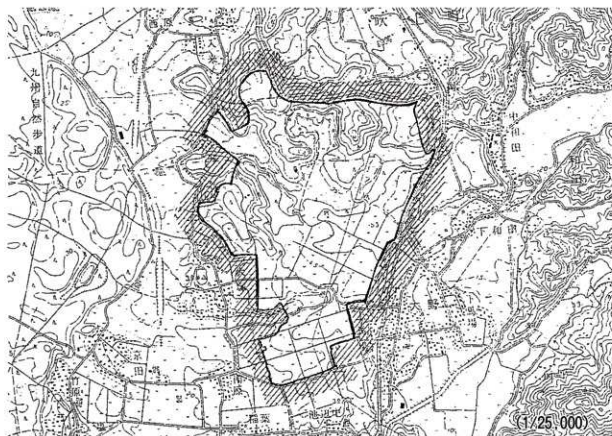
9月 D～H-12～17区トレンチ掘り下げ、9T早期集石検出、K～L-5～8区トレンチ掘り下げ、P～R-8～9区Ⅲ層掘り下げ、トレンチ掘り下げ

10月 P～R-8～9区トレンチ掘り下げ

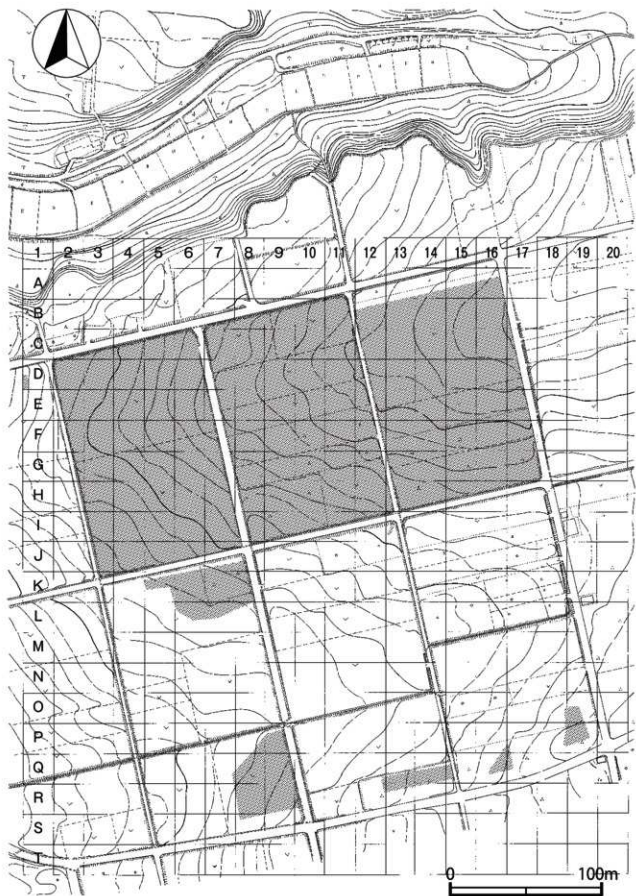
平成16年

1月 C～D-12～16区Ⅳ層掘り下げ、集石・柱穴列検出、A～C-16～17区Ⅴ～Ⅷ層掘り下げ、O～P-19区、P～Q-16区、Q-13～15区表土剥ぎ、トレンチ掘り下げ、Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ、I-13区トレンチ掘り下げ

2月 B～C-15～16区、B-13～14区Ⅶ～Ⅷ層



第1図 中尾遺跡位置図



第2図 中尾遺跡地形図

掘り下げ、C～D-12～13区Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ、集石遺構検出、F～H-8～12区トレンチ掘り下げ、落とし穴状遺構検出、トレンチ拡張精査、I～J-4～6区トレンチ掘り下げ

第2節 遺跡の層序

中尾遺跡は、大野原台地の南側に位置しており、農業開発総合センター遺跡群の最南端部になる。その層序は、農業開発総合センター遺跡群における標準的な層序と同様である。

土層断面図とコンター図から、旧地形は八つ手状の尾根をもつ台地であったと考えられる。昭和40年代の圃場整備で、尾根部分の削平・谷部の埋め立てが行われ、現在は緩やかに傾斜するほぼ平坦な地形である。

削平の影響で、表土直下にV～X層が検出される箇所もみられた。なお、工事深度に応じた調査のため、全面掘り下げはB～D-9～11区のみで、コンター図もこの範囲のみ作成している。

主な時代と包含層、遺構・遺物は以下の通りである。

- ・弥生時代～古墳時代初期（Ⅱ層）
成川式土器
- ・縄文時代後～晩期（Ⅲ～Ⅳ層）
集石遺構・柱穴列・掘立柱建物跡・土坑
土器・石器
- ・縄文時代早期（Ⅳ層）
集石遺構
土器・石器
- ・縄文時代草創期（Ⅶ～Ⅷ層）
集石遺構・連穴土坑・落とし穴状遺構・土坑
土器・石器
- ・旧石器時代（Ⅷ層）
落とし穴状遺構・土坑
石器

第3節 発掘調査の方法及び概要

中尾遺跡は、東西に延びた馬の背状の小台地に立地しており、南北及び西方向に傾斜している。北側

は頭無迫田遺跡へと続き、急激に谷へ落ちる地形である。西方向へは、やや緩やかに傾斜して、南原内堀遺跡に続いている。東側には、北から市堀遺跡、加治屋堀遺跡が隣接している。南側へは緩やかに傾斜して、農業開発総合センター遺跡群調査区外へと続いている。

調査前の現状は、畑地として利用されていた。発掘調査は、公共座標Ⅱ系にあわせて一辺20mの調査区域（グリッド）を設定し、遺跡地内の北側からA・B・C…、西側から1・2・3…とした。A-1区の北西地点で、X座標-169.120、Y座標-62.560になる。調査面積は、平成13年度が約18,000㎡、平成15年が約7,000㎡である。調査方法は、表土を重機で掘り下げ、その後、人力での掘削を行った。旧石器時代と縄文時代草創期・早期・後期・晩期の遺構・遺物、弥生時代～古墳時代の遺物が、検出・発見された。

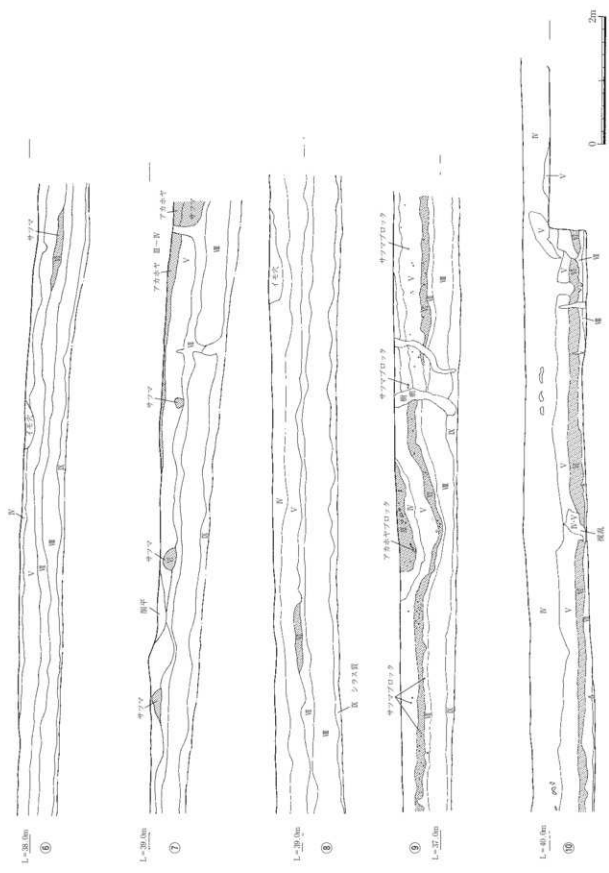
表土を除去したところ、一部分はV～X層が露出していた。また、工事掘削深度と傾斜した地形、圃場整備に伴う削平と埋め立ての関係から、調査区南側は南端隅部のみ調査となり、調査深度の大きい調査区北側が調査の中心になった。調査区北側では、B-9～D-11区はⅨ層面まで調査されたが、その他の区域は工事掘削深度に応じて、Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ層上面までの調査である。調査区南側は、P-10区、P～Q-16区、P～Q-8～9区で下層確認トレンチ設定し調査した。

調査区北側では、旧地形の馬の背状の尾根北側で旧石器が出土した。尾根伝いに縄文草創期の土器と石斧を中心とした石器、頁岩の薄片が出土し、集石遺構と連穴土坑、落とし穴状遺構を検出した。また、縄文時代早期の土器・石器も出土している。調査区中央部では、縄文晩期の掘立柱建物跡と柱穴列を検出した。下層確認トレンチからは、調査区中央部で旧石器時代の落とし穴状遺構を検出し、調査区南側ではナイフ形石器が出土している。

なお、南原内堀遺跡（既刊行）の一部遺物が、中尾遺跡の遺物とされていたため、本報告書に掲載している。



第3図 土層断面図1



第4図 土層断面図2



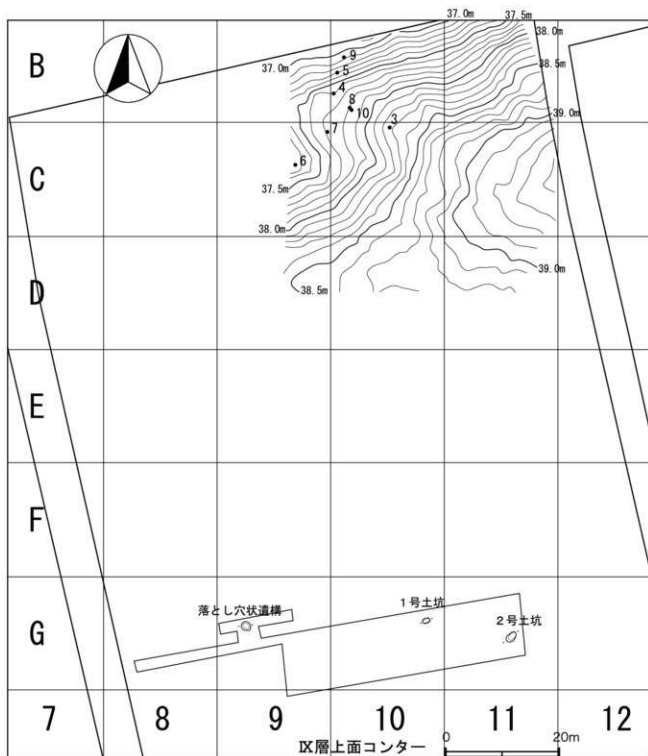
第5図 土層断面図3

第4節 旧石器時代の調査

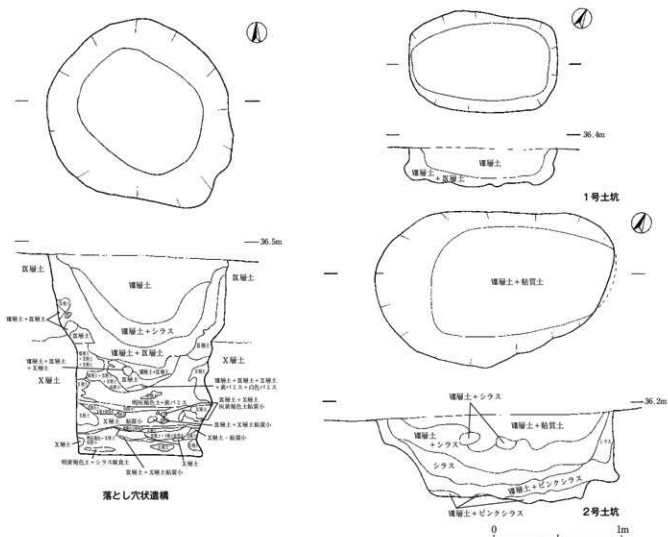
旧石器時代は、Ⅷ層から下位の層に該当する。落とし穴状遺構1基と土坑2基が検出された。Ⅷ層は縄文時代草創期とも重なり、旧石器時代と考えられる石器と縄文草創期土器が混在して出土している。Ⅷ層出土の石器を旧石器時代と縄文時代草創期に選

別することは困難であり、Ⅷ層出土遺物の中から、ナイフ形石器と台形石器、三稜尖頭器、両面加工尖頭器を、旧石器時代の遺物として本節に掲載している。

調査区中央部に近い、G-9区の下層確認トレンチからは、深さ1.5m超の落とし穴状遺構が検出さ



第6図 旧石器時代 遺構・遺物分布図



第7図 旧石器時代 遺構

れた。

周辺を拡張して調査したが、1基のみの検出であった。北側に隣接する頭無迫田遺跡でも、同様の落とし穴状遺構が1基のみ検出されている。遺物は頭無迫田遺跡に隣接するB～C-9～10区で三稜尖頭器などが出土し、調査区西南部のQ-8～9区の下層確認トレンチでは、ナイフ形石器が出土している。

1 遺構

遺構は、落とし穴状遺構1基と土坑2基が確認された。

(1) 落とし穴状遺構(第7図)

落とし穴状遺構は、G-9区のⅨ層上面で検出された。平面形は円形に近い楕円形で、底面は隅丸の

方形を呈している。大きさは長径1.57m、短径1.42m、である。底面は長径1.03m、短径0.82mである。深さは検出面から1.56mである。底面はほぼ平坦で小ピット等は確認されなかった。

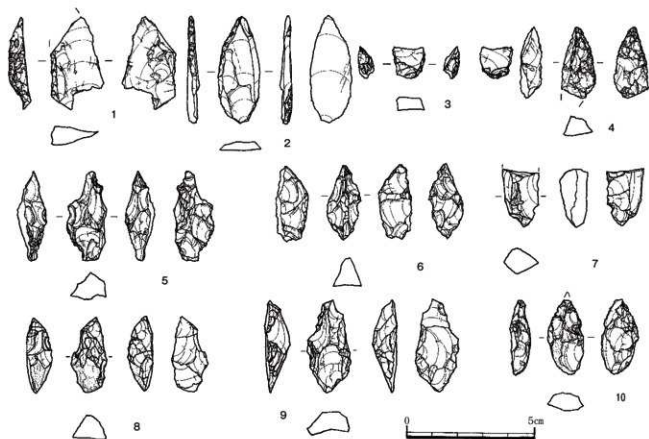
(2) 土坑

1号土坑(第7図)

G-10区Ⅸ層上面で検出された。平面形は隅丸の長方形で、大きさは長径1.16m、短径0.80m、検出面からの深さは0.31mである。底面はわずかな凸凹が見られる。

2号土坑(第7図)

G-11区Ⅸ層上面で検出された。平面形は楕円形で、長径1.85m、短径1.23m、深さは検出面から



第8図 旧石器

0.67mである。短軸方向の掘り込みが、片方は段を持つ形で緩やかであるが、もう片方は垂直に近く抉るように掘り込んでいる。

2 遺物

石器10点を図化し掲載した。3～10は、旧石器時代の遺構・遺物が多数確認された頭無迫田遺跡に隣接するB～C-9～10区から出土している。なお、黒曜石の分類については、P36を参照されたい。

(1) ナイフ形石器 (第8図 1～2)

1は西側に隣接する南原内堀遺跡の9トレンチ内から出土した。左側縁にブランディングが施されている。基部が欠けている。2は調査区南端に位置するQ-8区内の下層確認トレンチから出土した。薄手の木の葉形剥片に左側縁と基部へブランディングが施されている。

(2) 台形石器 (第8図 3)

3は、剥片を横位に利用し細かいブランディングを施された部分を両側縁にしたものである。

旧石器時代 石器観察表

検出番号	遺物番号	器種	出土区	層	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	遺物番号	備考
第8図	1	ナイフ形石器	南原内堀	V	黒曜石C	3.65	2.10	0.90	3.98	黒形139	P13
	2	ナイフ形石器	Q-8	V	頁岩	4.25	1.70	0.50	3.04	2934	下層確認トレンチ
	3	小型台形石器	C-10	V	黒曜石C	1.30	1.30	0.35	0.91	2104	
	4	三稜尖頭器	B-10	V	黒曜石A	2.80	1.35	0.80	2.50	1183	レンズ状
	5	三稜尖頭器	B-10	V	黒色安山岩	3.60	1.50	1.10	4.22	1164	
	6	三稜尖頭器	C-9	V	黒曜石C	3.05	1.29	1.28	3.45	2154	
	7	三稜尖頭器	C-9	V	黒曜石C	1.40	130.00	1.02	3.24	2115	基部
	8	三稜尖頭器	B-10	V	黒曜石C	3.05	1.40	0.90	2.93	1748	
	9	三稜尖頭器	B-10	V	黒色安山岩	3.70	1.75	0.75	4.08	2085	
	10	両面加工尖頭器	B-10	V	黒曜石C	2.90	1.40	0.80	2.99	1225	

(3) 三稜尖頭器 (第8図 4~9)

4~9は三稜尖頭器である。4は表面の剥離面をほぼ残し、右側縁および基部への二次加工を施されている。7は基部のみ残存している。

(4) 両面加工尖頭器 (第8図 10)

薄手の剥片の両面と周辺に調整を施し、先端部を作り出している。

第5節 縄文時代の調査

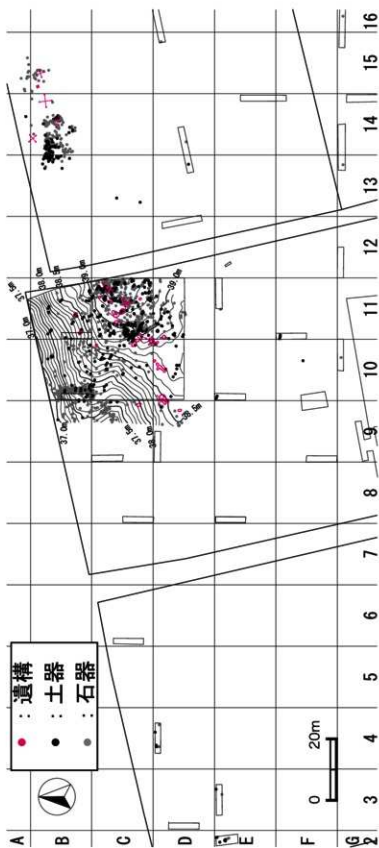
本遺跡では縄文時代草創期と晩期の遺構数および遺物数が際立っている。調査区北側で、この時期の集石遺構と連穴土坑、落とし穴状遺構、土坑が検出されている。その周辺からは隆帯文土器と石器、剥片が出土している。早期は、土器を中心に出土している。後期~晩期は、土器・石器とも出土量が増え、掘立柱建物跡と柱穴列が多数検出されている。

1 縄文時代草創期の調査

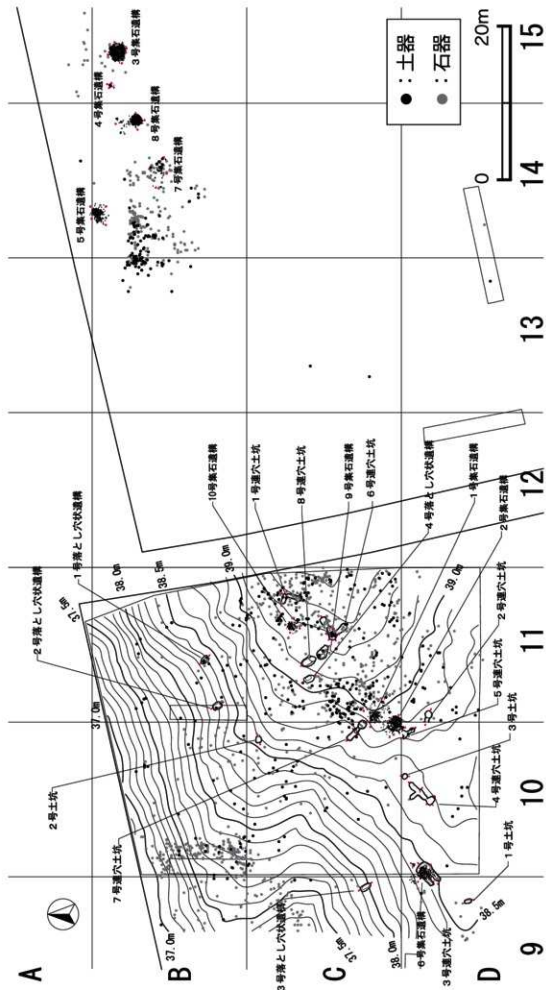
草創期では、Ⅸ層上面まで掘り下げたB~D-9~11区と、削平によりⅦ~Ⅷ層が露出したB-13~15区といった、遺構・遺物が出土している。調査区北側で集石遺構10基と連穴土坑8基、落とし穴状遺構4基、土坑3基が検出された。隆帯文土器と石器、頁岩の剥片が多く出土している。また、石器の中では石斧が多く出土している。

(1) 遺構

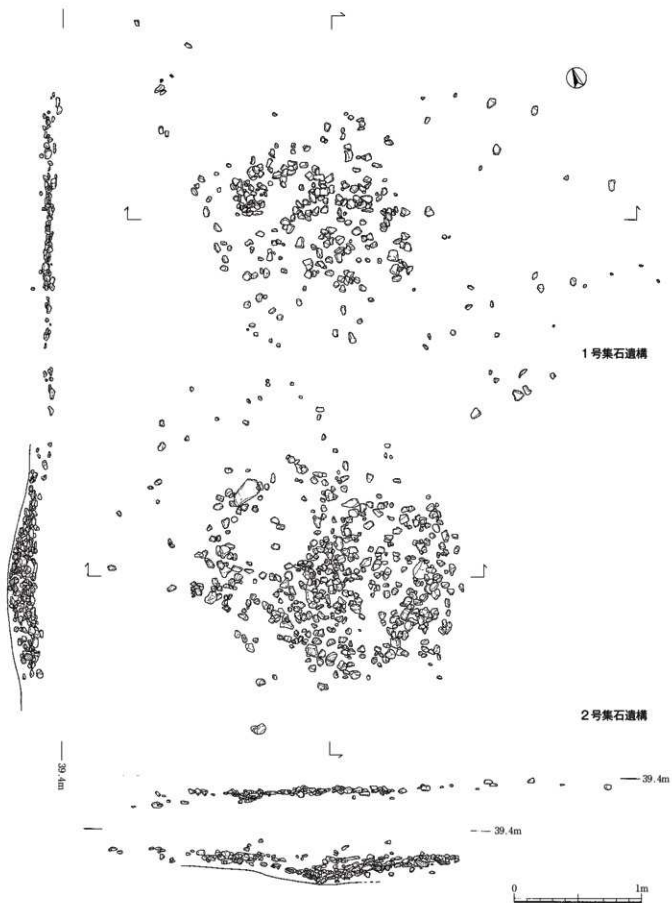
遺構は、集石遺構10基と連穴土坑8基、落とし穴状遺構4基、土坑3基が検出されている。旧地形の平坦部で集石遺構、連穴土坑、傾斜面で落とし穴状遺構が検出されている。



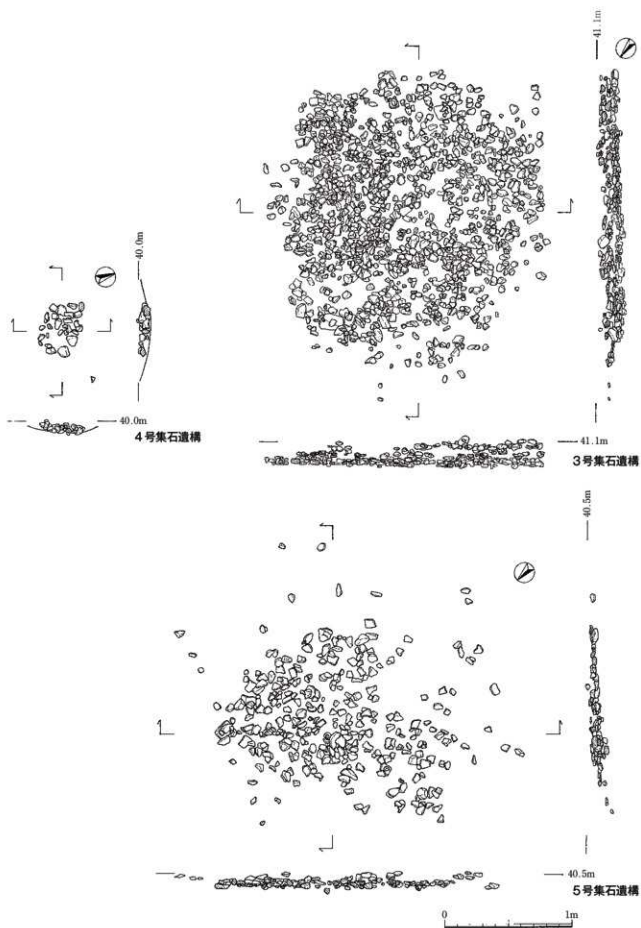
第9図 縄文時代草創期 遺構・遺物分布図



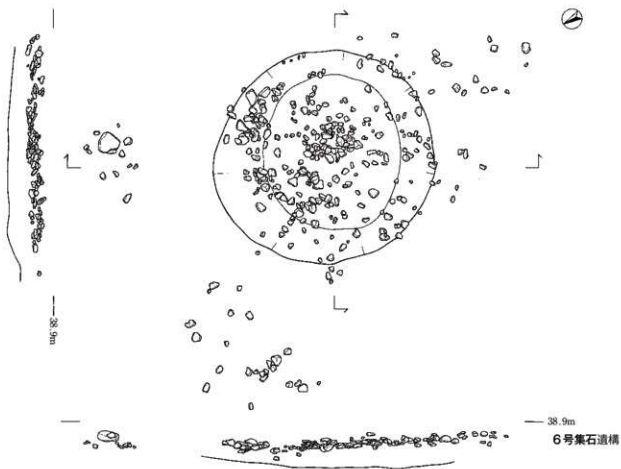
第10図 縄文時代草創期 遺構配置図



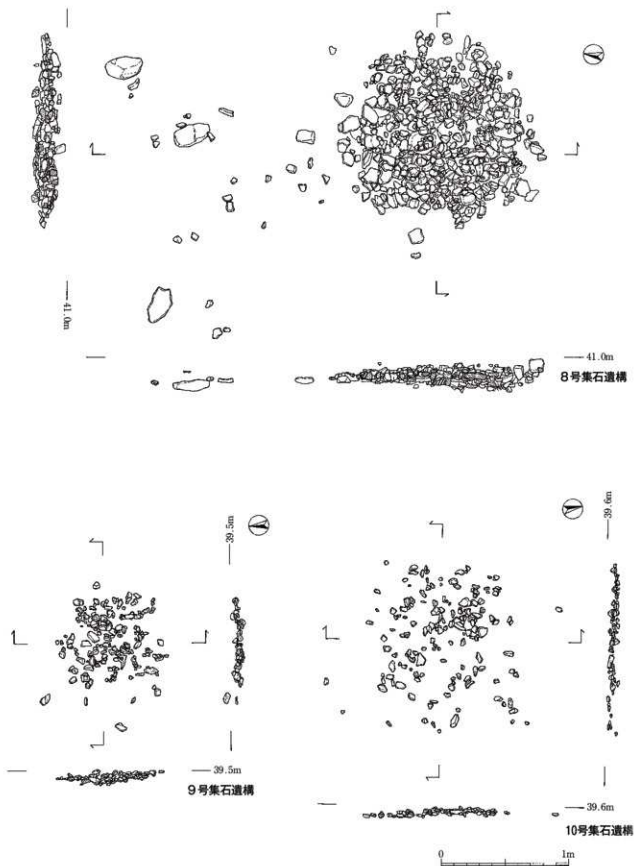
第11図 集石遺構 1



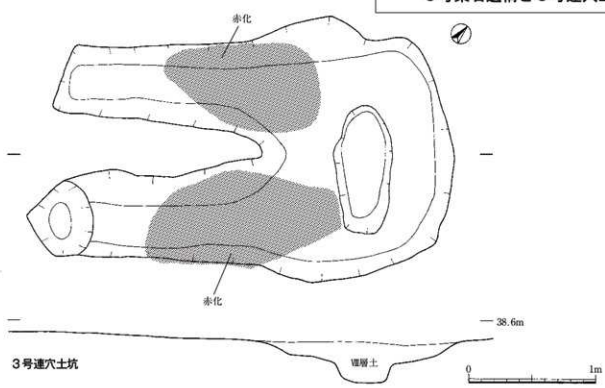
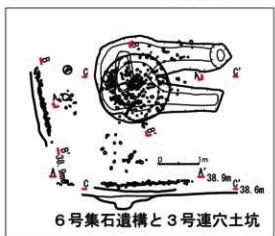
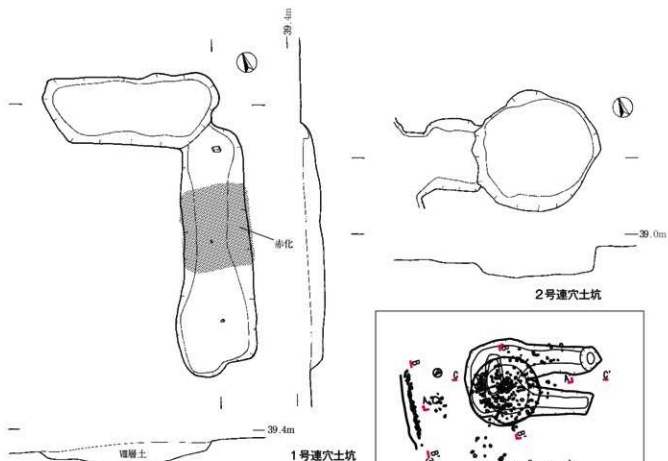
第12図 集石遺構 2



第13図 集石遺構3



第14回 集石遺構 4



第15図 連穴土坑 1

①集石遺構

1号集石遺構 (第11図)

C-11区で検出された。礫数301, 平均重量76.2gである。掘り込みは見られず, 平坦である。土器片を出土した。2号集石遺構, 7号連穴土坑と隣接している。

2号集石遺構 (第11図)

C-10~11区で検出された。礫数550, 平均重量106.9gである。円形の掘り込みがあり, 直径1.6mで, 検出面からの深さは0.25mである。土器片・石器を出土した。1号集石遺構と隣接し, 直下で5号連穴土坑が検出された。

3号集石遺構 (第12図)

B-15区で検出された。礫数1175, 平均重量97.6gである。直径2.3mの円形に集中している。掘り込みは見られず, 平坦である。

4号集石遺構 (第12図)

B-15区で検出された。礫数29, 平均重量155.5gである。5cm大の礫で構成されている。検出面からの深さ0.1mの掘り込みがある。

5号集石遺構 (第12図)

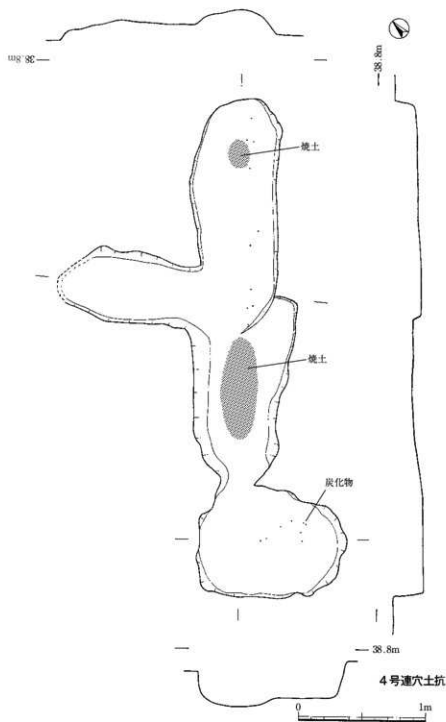
A~B-14区で検出された。礫数320, 平均重量110.4gである。掘り込みは見られず, 平坦である。

6号集石遺構 (第13図)

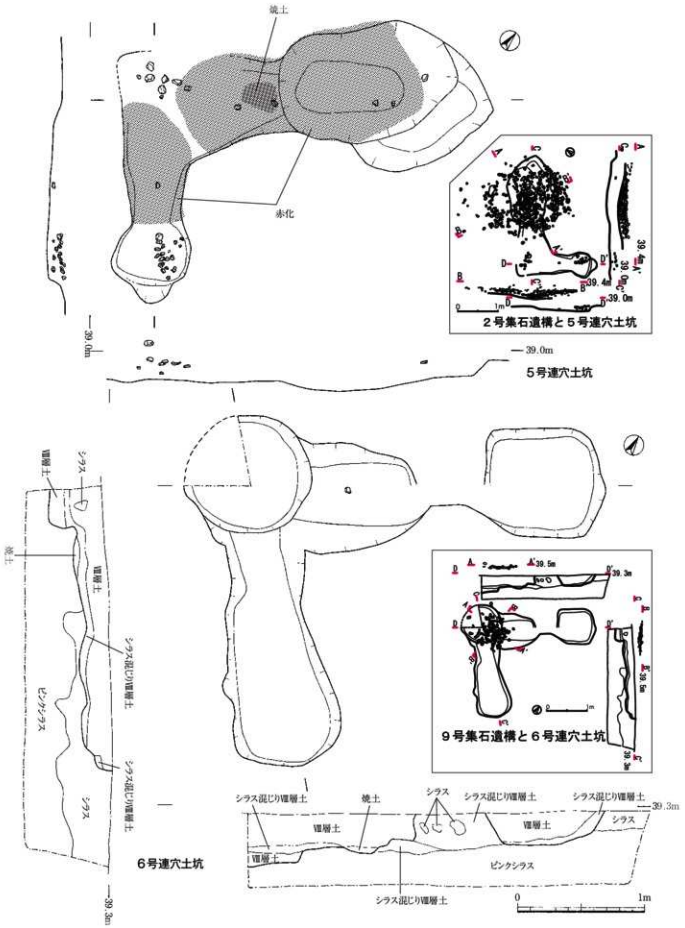
D-9~10区で検出された。礫数335, 平均重量52.0gである。円形の掘り込みがあり, 直径1.8mで, 検出面からの深さは0.3mである。直下で3号連穴土坑が検出された。

7号集石遺構 (第13図)

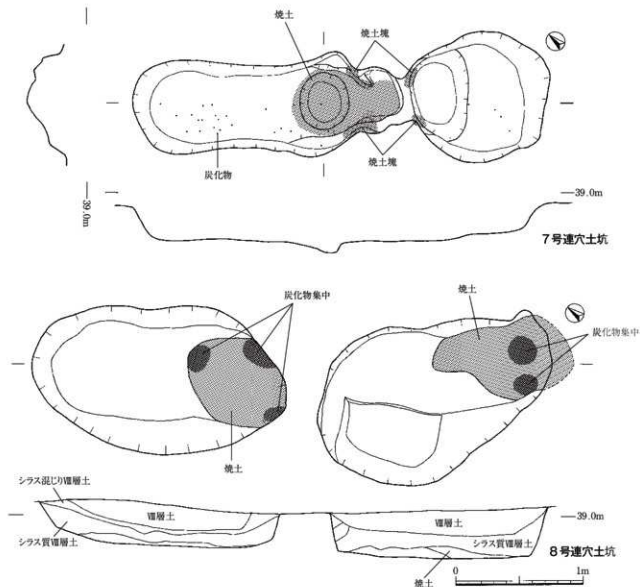
B-14区で検出された。礫数50, 平均重量371.7gである。15cm大の礫で構成されている。直径0.7mの円形に集中している。掘り込みは見られず, 平坦である。



第16図 連穴土坑2



第17図 連穴土坑3



第18図 連穴土坑4

8号集石遺構 (第14図)

B-14区で検出された。礫数602, 平均重量224.6gである。1.6×1.4mの楕円形に集中している。掘り込みは見られず, 平坦である。

9号集石遺構 (第14図)

C-11区で検出された。礫数178, 平均重量56.8gである。0.7×0.6mの楕円形に集中している。掘り込みは見られず, 平坦である。直下で6号連穴土坑が検出された。

10号集石遺構 (第14図)

C-11区で検出された。礫数158, 平均重量56.5gである。掘り込みは見られず, 平坦である。

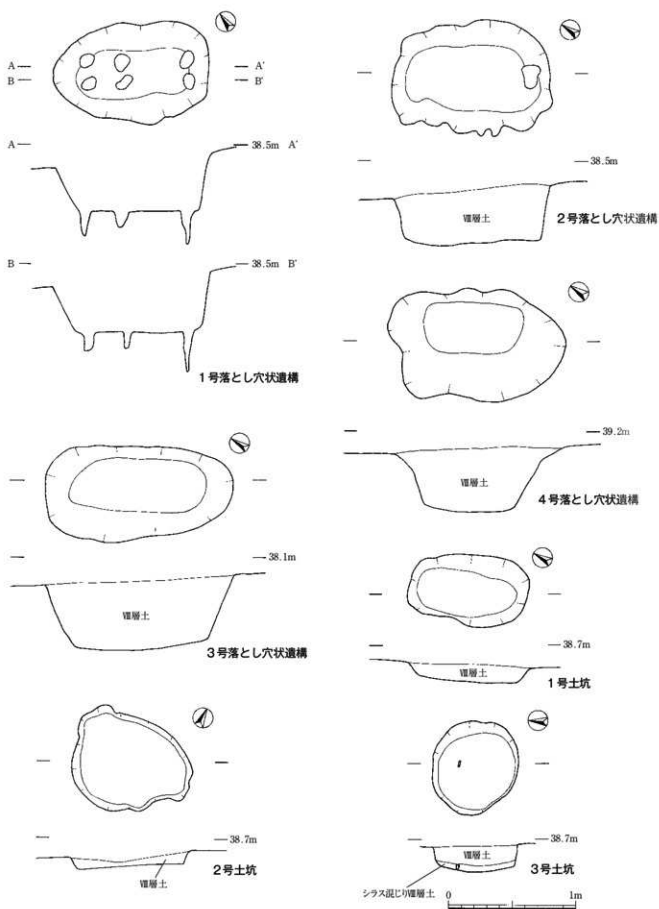
②連穴土坑

1号連穴土坑 (第15図)

C-11区で検出された。平面形はL字形で, 大きさは, 長辺の長径1.9m, 短径0.6m, 検出面からの深さは0.15mで, 短辺の長径1.7m, 短径0.6m, 検出面からの深さは0.15mである。底面は平坦である。土器片を出土した。

2号連穴土坑 (第15図)

D-11区で検出された。一部削平されている。平面形は円形で, 大きさは直径0.9m, 検出面からの深さは0.25mで, 長さ0.7m以上, 深さ0.1mの土坑が接続している。底面は平坦である。



第19図 落とし穴状遺構・土坑

3号連穴土坑 (第15図)

D-9~10区で検出された。平面形はコの字型で、連結部直上では6号集石遺構が検出された。大きさは、長径3.2m、短径0.6m、検出面からの深さは0.2mと、長径2.9m、短径0.6m、検出面からの深さは0.2mの2つの平行する土坑が、片方の端部で接続している。接続部の長さは2.1mで、中心部に長径1.2m、短径0.3m、検出面からの深さは0.35mの掘り込み面がある。

4号連穴土坑 (第16図)

D-10区で検出された。平面形はト字形で、大きさは長辺の長径3.9m、短径0.7m、検出面からの深さは0.2mで、短辺の長径1.3m、短径0.6m、検出面からの深さは0.1mである。長辺は、2つの楕円形の炬穴と円形の炬穴が直線的に連続している。円形の炬穴と楕円形の炬穴の結合部には、ブリッジの下半分が残存していた。底面は平坦である。炭化物と土器片を出土した。

5号連穴土坑 (第17図)

C~D-10区で検出された。平面形はL字形で、長辺の端部直上では2号集石遺構が検出された。大きさは、長辺の長径2m、短径0.4m、検出面からの深さは0.15mで、短辺の長径1.6m、短径1.3m、検出面からの深さは0.1mである。底面は平坦である。礫を33点出土した。

6号連穴土坑 (第17図)

C-11区で検出された。平面形はL字形で、連結部直上では9号集石遺構が検出された。大きさは、長辺の長径3.3m、短径0.8m、検出面からの深さは0.4mで、短辺の長径2.7m、短径0.8m、検出面からの深さは0.2mである。

7号連穴土坑 (第18図)

C-10区で検出された。平面形は隅丸方形と円形が接続している。大きさは長径3.3m、短径0.7m、円形部の直径1mで、検出面からの深さは0.2mである。底面は平坦である。炭化物と土器片を出土した。炭化物については放射性炭素年代別測定を行っており、年代は11620BP (修正年代11590BP) の結果を得ている。

8号連穴土坑 (第18図)

C-11区で検出された。平面形は2つの楕円形で、大きさは長径2m、短径1.2m、検出面からの深さは0.2mと、長径1.8m、短径1.2m、検出面からの深さは0.3mである。削平により連結部が消失している。底面は平坦で、連結部近くには、円形の掘り込み部がある。隆帯文土器と炭化物を出土した。炭化物については樹種同定及び放射性炭素年代別測定を行っており、イネ科タケ亜科のミヤコザサ節を多く検出し、年代は11660BP (修正年代11620BP) の結果を得ている。

③落とし穴状遺構

1号落とし穴状遺構 (第19図)

B-11区で検出された。平面形は楕円形で、大きさは長径1.2m、短径0.8m、検出面からの深さは0.5mである。底面は平坦で2列の小ピットが検出された。

2号落とし穴状遺構 (第19図)

B-11区で検出された。平面形は隅丸方形で、大きさは長径1.2m、短径0.9m、検出面からの深さは0.4mである。底面は平坦である。

3号落とし穴状遺構 (第19図)

C-9区で検出された。平面形は隅丸方形で、大きさは長径1.5m、短径0.7m、検出面からの深さは0.5mである。底面は平坦である。

4号落とし穴状遺構 (第19図)

C-11区で検出された。平面形は隅丸方形で、大きさは長径1.3m、短径0.9m、検出面からの深さは0.5mである。底面は平坦である。

④土坑

1号土坑 (第19図)

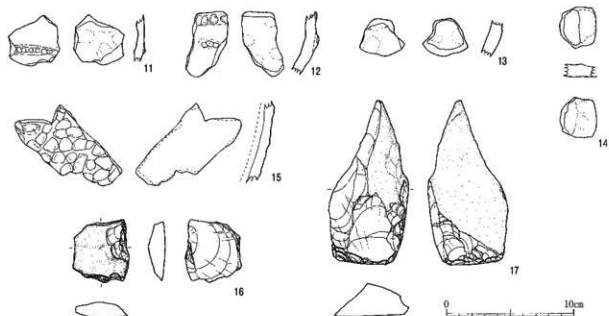
D-9区で検出された。平面形は隅丸方形で、大きさは長径1.5m、短径0.5m、検出面からの深さは0.1mである。底面は平坦である。

2号土坑 (第19図)

C-10区で検出された。平面形は円形で、大きさは長径0.9m、短径0.8m、検出面からの深さは0.1mである。底面は平坦である。

3号土坑 (第19図)

D-10区で検出された。平面形は円形で、大きさは



第20図 遺構内遺物

は直径0.7m、検出面からの深さは0.2mである。底面は平坦である。

⑤遺構内遺物

土器 (第20図 11~15)

11, 12は屈曲部近くの胴部で、稜上に隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が、重ならないで施されている。後述するⅠ類土器に該当する。13は底部近くの胴部で、14は底部である。1号集石遺構で出土した。

15は胴部で、爪痕を確認できる指頭圧痕が密接に施され、隆帯文は幅広く薄くなり、条数は確認できない。後述するⅣ類土器に該当する。8号連穴土坑で出土した。

石器 (第20図 16・17)

石材は頁岩と硅質頁岩である。16はスクレイパーで、下部に細かな割離を施し、刃部を形成している。17は打製石斧未製品である。刃部の内外面に丁寧な割離調整を施している。2号集石遺構で出土した。

縄文時代草創期 遺構内遺物 (土器) 観察表

検出番号	掲載番号	層位	出土区	部位	色調 (内面)	色調 (外面)	粘土石質	長石	角閃石	その他	破綻	調整 (内面)	調整 (外面)	類	遺物番号	備考
第20図	11	Ⅱ	C-11	屈曲部	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	○	○			良	指圧痕	指圧痕、ナデ	I	SS4-7	1号集石遺構出土
	12	Ⅱ	C-11	屈曲部	にぶい赤褐色	赤褐色	○	○		赤石	良	指圧痕、ナデ	ナデ	I	SS4-8	1号集石遺構出土
	13	Ⅱ	C-11	胴部	にぶい赤褐色	赤褐色	○	○		赤石	良	指圧痕、ナデ	ナデ	I	SS4-10	1号集石遺構出土
	14	Ⅱ	C-11	底部	にぶい赤褐色	赤褐色	○	○		赤石	良	指圧痕、ナデ	ナデ	底部	SS4-5	1号集石遺構出土
	15	Ⅱ	C-11	胴部	にぶい赤褐色	赤褐色	○	○		良		指圧痕	指	2194	8号連穴土坑出土	

縄文時代草創期 遺構内遺物 (石器) 観察表

検出番号	掲載番号	器種	出土区	層	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	遺物番号	備考
第20図	16	スクレイパー	C-11	Ⅱ	頁岩	4.90	4.30	1.30	32.73	SS5-2	2号集石遺構
	17	打製石斧未製品	C-11	Ⅱ	硅質頁岩	12.80	6.20	2.60	200.00	SS5-3	2号集石遺構

(2) 遺物

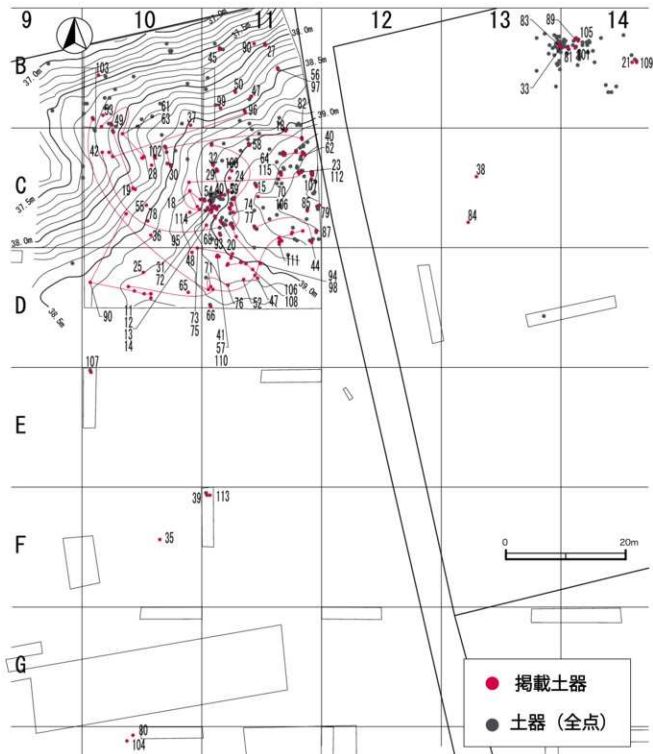
土器102点と石器57点を図化し掲載した。

① 土器

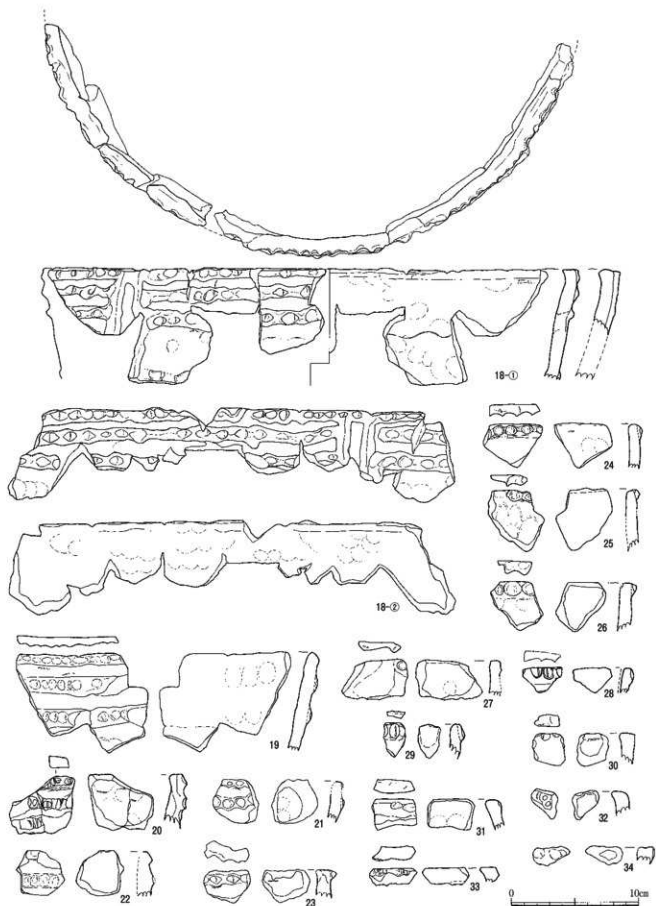
B～D-10～11区と、B-13～14区を中心に出土した。断片が多く、隆帯文の条数と全体的な器形を確定できる資料を得られなかったため、隆帯文の形

状から以下のように分類した。

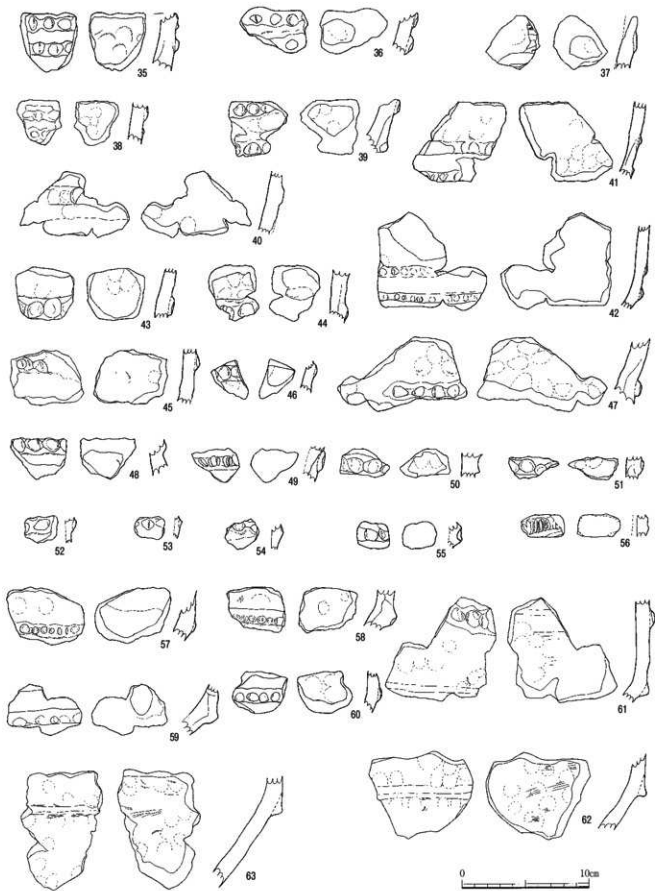
- I 類土器 太い隆帯文を施したもの
- II 類土器 細い隆帯文を施したもの
- III 類土器 隆帯文を密接に施したもの
- IV 類土器 幅広の隆帯文を施したもの
- V 類土器 隆帯文を施さないもの



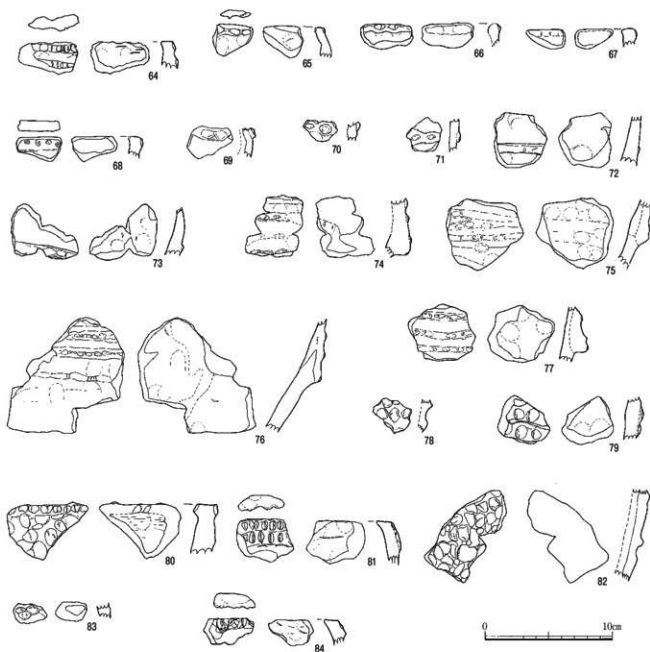
第21図 縄文時代草創期 土器出土状況



第22図 縄文時代草創期 土器 1



第23図 縄文時代草創期 土器 2

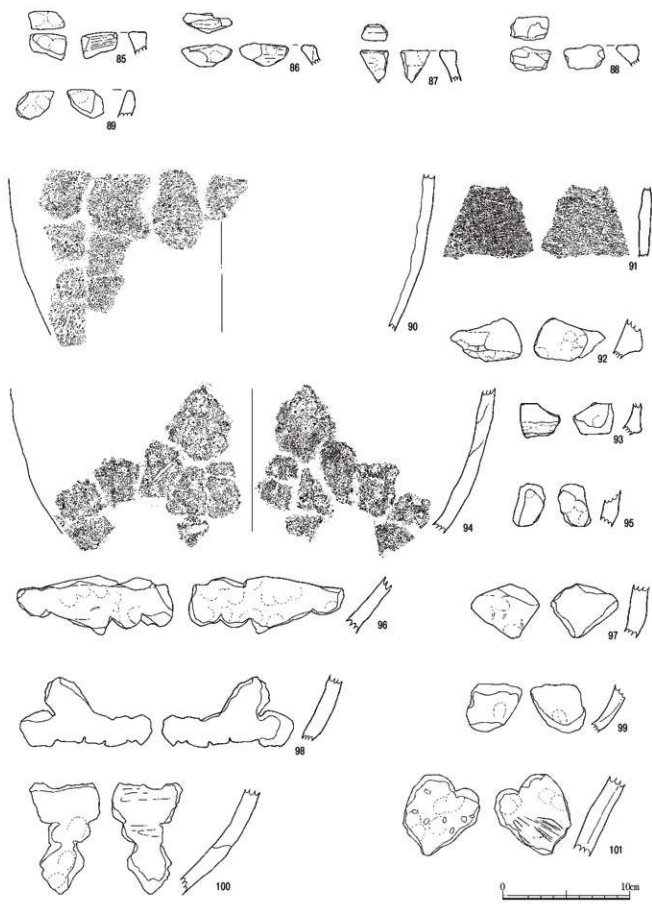


第24図 縄文時代草創期 土器3

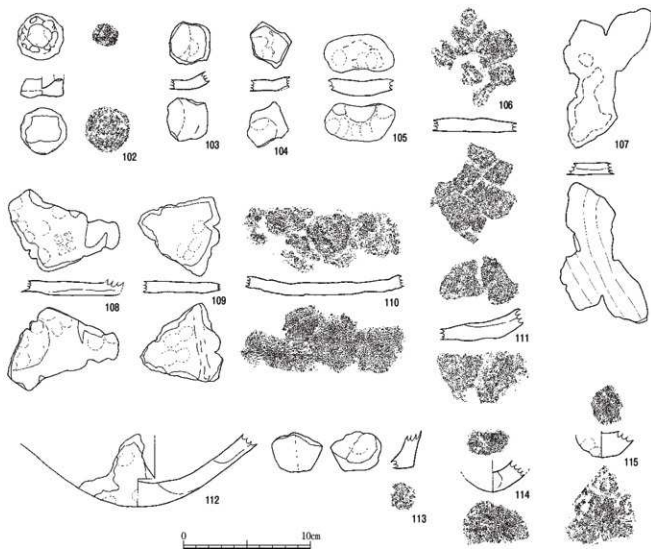
I類土器 (第22図 18~34・第23図 35~63)

18は口縁部に間隔をあけた横位3条の隆帯文と口縁部から垂下する縦位の2条の隆帯文が施されている。横位の隆帯文には、爪痕を確認できる指頭圧痕が重ならないで施されている。縦位の隆帯文には指頭圧痕は施されていない。胴部には3条の隆帯文から離れて施された横位の隆帯文の剥離痕が確認できる。口唇部内側に張り出す形で隆帯文が施されているが、指頭圧痕は施されていない。

隆帯文は断面三角形で、貼り付ける際の押圧による波状痕が確認できる。やや内湾する器形である。19は口縁部に間隔をあけた横位3条の隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が、間隔を開けずに施されている。直線的に開く器形である。20は口縁部に間隔をあけた横位3条の隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が、重ならないで施されている。口唇部内側に張り出す形で隆帯文が施されているが、指頭圧痕は施されていない。



第25図 縄文時代草創期 土器4



第26図 縄文時代草創期 土器5

21は指頭圧痕が、重ならないで施され、貼り付けの際の押圧による波状痕が確認できる。22は指頭圧痕が重なりながら施され、隆帯文の上下には調整段階でついた横位の爪痕が確認できる。22は口縁部に間隔をあげた横位2条の隆帯文が施され、隆帯文は断面三角形である。23は18と同一個体の可能性がある。口唇部内側に張り出す形で隆帯文が施されているが、指頭圧痕は施されていない。24～27、29は横位1条の隆帯文が施され、残存する胴部に他の隆帯文が確認できない。また、口唇部内側の張り出しも確認できない。25と26、29は爪痕を確認できる指頭圧痕が、密接に施されている。28と34は口縁部に横位の隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が、

重ならないで施されている。30～33は口縁部に横位の隆帯文が施され、隆帯文と平行した押圧が間隔をあけて施されている。35と36、38～40は胴部に横位2条の隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が重ならないで施されている。36と39は器形と厚みから、屈曲部直上の可能性がある。37は19と同一個体の可能性がある。41は屈曲部とその直上の胴部に横位2条の隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が重ならないで施されている。屈曲部は肥厚しない。43～51は胴部に横位1条の隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が施されている。45と46、48、50、51、53、57には密接な指頭圧痕が施されている。47は隆帯文の端部が確認できる。短い粘土紐

を用いたか、螺旋状の貼り付けが施されていた可能性がある。隆帯文のある土器片では最も厚いものである。49は19と同一個体で、2条目の隆帯文の左側に接合する。52~56は隆帯文が胴部から剥離したものと考えられる。56は爪型文を横位に密接して施している。57~60は屈曲部で、稜上に隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が、重ならないで施されている。同様のものが1号集石遺構からも出土している。58と59は屈曲外側に稜を確認できるが、57と60は緩やかである。61は横位1条の隆帯文がやや左上がりに施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が、重なるように施されている。屈曲部は内外面とも、隆帯文を施さず、やや肥厚する。器形から62と63と同一個体の可能性がある。

II類土器 (第24図 64~77)

64は口縁部に間隔をあけた横位2条の隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が、間隔をあけて施されている。口唇部内側に張り出す形で隆帯文が施されているが、指頭圧痕は施されていない。65~68は口縁部に横位の隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が、重ならないで施されている。口唇部内側に張り出す形で隆帯文が施されているが、指頭圧痕は施されていない。69~71は隆帯文が胴部から剥離したものと考えられる。72と73は口縁部に近い胴部で、横位1条の隆帯文を施されている。指頭圧痕は施されていない。74~77は屈曲部で、横位3~4条の隆帯文を施されている。屈曲部の肥厚が大きい。隆帯文は断面三角形で、貼り付けの際の押圧による波状痕が確認できる。爪痕を確認できる指頭圧痕が、重ならないで施されている。75では隆帯文の1条目と2条目の一部重なりが確認できる。

III類土器 (第24図 78, 79)

78は横位2条の隆帯文がやや蛇行しながら、密接に施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が重ならないで施されている。2条の間で、爪による条痕が隆帯文と平行していることが確認できる。79は胴部から剥離した隆帯文で、2列の指頭圧痕が重ならないで施されている。2列の間に境目はない。

IV類土器 (第24図 80~84)

80は口縁部に横位の隆帯文が施され、爪痕を確認できる指頭圧痕が、間隔を開けずに施されている。口唇部内側に張り出す形で隆帯文が施されているが、調整時についた爪痕が確認できる。胴部には爪痕を確認できる指頭圧痕が密接に施され、隆帯文は幅広で薄くなり、条数は確認できない。81は口縁部に幅広の扁平な隆帯文を貼り付け、それに2条の爪型文を横位に施し、口唇部は内側に張り出している。82は胴部で、内面は剥落している。爪痕を確認できる指頭圧痕が密接に施され、条数は確認できない。8号連穴土坑から出土した15に類似する。83は密接して、貝殻腹縁による刺突が施されている。84は口唇部のみである。

V類土器 (第25図 85~101)

85は口縁部外面に横位のナデ調整が施され、口唇部は内側に張り出している。89は舌状の口縁断面形で、内外面に調整段階での指押さえが確認できる。90と91、94~99、101は隆帯文のない胴部である。91は隣接する南原内堀遺跡のトレンチ内から出土した胴部である。92と93は屈曲部で、稜上に浅い指圧が確認できる。97は屈曲部直下の胴部である。96と98、99は底部近くの胴部である。96の外面上部には接合痕が確認できる。98は胴部から底部にあたり、厚みが大きい。99の内面下部は内湾している。100の部位は胴部から底部にかけてであり、62と112に類似する。101は厚みがあり、5mm大の石粒が外面に確認できる。

底部 (第26図 102~115)

102は口台様の底部で、底部内側は丸く落ち込んでいる。接合面には間隔をおいて、浅い指頭圧痕が確認できる。103~107は平丸底の底部である。107の外面には、弧状の浅い溝を2条確認できる。108~111は丸平底の底部である。112は丸底の底部で、89~92と同一個体の可能性がある。113は平底の底部で、外面に緩やかな稜が確認できる。114と115は尖底状の底部である。114は断面中央に接合痕が確認できる。

縄文時代草創期 土器観察表(1)

種別 番号	調査 番号	部位	出土区	部位	色調 (内面)	色調 (外面)	胎土 石質	裏石	内附 石	その他	産 地	調査(内面)	調査(外面)	数	遺物番号	備考	
3024	18	Ⅱ	C-10・C-11	口縁部	橙	橙	○	○	○	赤石	真	灰白と、橙十ナ	橙白と、橙十ナ	1	861, 865, 1023, 1026, 1100, 2126, 2203		
	19	Ⅱ	C-10	口縁部	明赤褐	褐	○	○	○	真	橙褐色	橙褐色, 灰白と	1	1111, 1112, 2105			
	20	Ⅱ	C-11	口縁部	明赤褐	褐	○	○	○	真	橙褐色	橙褐色, 灰白と	1	1444			
	21	Ⅱ	D-14	口縁部	灰白+黄褐	褐	○	○	○	赤石	真	橙褐色	灰白と、橙十ナ	1	3709		
	22	-	-	口縁部	明黄褐	暗褐	○	○		真		橙褐色, 灰白と	1	-			
	23	Ⅱ	C-11	口縁部	橙	橙	○	○	○	真	橙褐色, 灰白と	十ナ, 灰白と	1	1289			
	24	Ⅱ	C-11	口縁部	明黄褐	灰褐	○	○	○	赤石	真	橙褐色	橙褐色, 灰白と	1	1584		
	25	Ⅱ	D-10	口縁部	赤褐	灰褐	○	○		真	十ナ	橙褐色	1	752			
	26	Ⅱ	-	口縁部	灰白+赤褐	灰褐	○	○	○	赤石	真	橙褐色, 灰白と	十ナ	1	-		
	27	Ⅱ	D-11	口縁部	明赤褐	灰白+黄褐	○	○	○	真	橙褐色, 十ナ	灰白と	1	2256			
	28	Ⅱ	C-10	口縁部	灰褐	灰褐	○	○		真		灰白と、赤褐色	1	1115			
	29	Ⅱ	C-11	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	赤石	真	十ナ	橙褐色, 十ナ	1	1307		
	30	Ⅱ	C-10	口縁部	灰白+黄褐	暗褐	○	○	○	真	十ナ, 赤褐色	橙褐色, 十ナ	1	1550			
	31	Ⅱ	C-11	口縁部	灰白+黄褐	灰白+黄褐	○	○	○	真	橙褐色, 十ナ	橙褐色, 十ナ	1	1051			
	32	Ⅱ	C-11	口縁部	灰白+黄褐	灰白+黄褐	○	○	○	真	十ナ	橙褐色, 灰白と	1	1538			
	33	Ⅱ	D-13	口縁部	灰白+黄褐	明赤褐	○	○	○	赤石	真	橙十ナ	黄褐色	1	3048		
	34	Ⅱ	-	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	赤石	真	十ナ	橙褐色, 十ナ	1	-		
	3025	35	Ⅱ	D-10	胴部	明赤褐	灰白+黄褐	○	○	○	真	橙褐色, 十ナ	灰白と、橙十ナ	1	1571		
		36	Ⅱ	C-10	胴部	暗灰黄	黄	○	○		真	橙褐色, 灰白と	灰白と	1	793		
		37	Ⅱ	D-10	胴部	褐	灰白+黄褐	○	○		赤石	真	橙褐色	1	1750		
		38	Ⅱ	C-13	胴部	明褐	灰白+黄褐	○	○		真	橙褐色	橙褐色, 十ナ	1	3486		
		39	Ⅱ	F-11	胴部	灰白+黄褐	赤褐	○	○	○	真	橙褐色	橙褐色, 灰白と	1	1232		
		40	Ⅱ	C-11	胴部-頸部	黄褐	灰白+黄褐	○	○	○	赤石	真	橙褐色, 十ナ	橙褐色	1	1282, 1289, 1483	
		41	Ⅱ	D-11	胴部	灰白+黄褐	明赤褐	○	○	○	真	橙褐色, 十ナ	橙褐色, 十ナ	1	614		
		42	Ⅱ	C-10・C-11	胴部	褐	赤褐	○	○	○	真	橙十ナ	橙褐色, 灰白と	1	1119, 1424		
		43	Ⅱ	C-11	胴部	灰白+黄褐	明赤褐	○	○	○	真	橙褐色, 十ナ	橙褐色, 灰白と	1	-		
		44	Ⅱ	C-11	胴部	灰白+黄褐	暗褐	○	○	○	赤石	真	橙褐色, 十ナ	橙褐色, 十ナ	1	1378, 1398	
		45	Ⅱ	D-11	胴部-頸部	明褐	灰白+黄褐	○	○		真	橙褐色	十ナ, 灰白と	1	2259		
		46	Ⅱ	C-11	胴部	灰白+黄褐	灰白+黄褐	○	○		真	橙褐色	橙褐色, 十ナ	1	1307		
		47	Ⅱ	D-11	胴部	明黄褐	赤褐	○	○	○	真	橙褐色	橙褐色, 灰白と	1	2268		
		48	Ⅱ	D-10	胴部	黄褐	暗+赤褐	○	○	○	真	十ナ	十ナ, 灰白と	1	793		
		49	Ⅱ	D-10	胴部	灰褐	灰褐	○	○		真		灰白と	1	1904		
50		Ⅱ	D-11	胴部	灰白+黄褐	灰白+赤褐	○	○	○	真	橙褐色, 十ナ	灰白と	1	2253			
51		Ⅱ	D-11・D-11	胴部	赤褐	褐	○	○		真	橙褐色	橙褐色, 灰白と	1	699, 2248			
52		Ⅱ	D-11	胴部	明褐	赤褐	○	○	○	真		橙褐色, 十ナ	1	546			
53		Ⅱ	D-10	胴部	灰白+黄褐	褐	○	○	○	真		橙褐色, 灰白と, 十ナ	1	1399			
54		Ⅱ	C-11	胴部	灰白+黄褐	赤褐	○	○	○	真		橙褐色, 十ナ	1	1462			
55		Ⅱ	C-10	胴部	灰白+黄褐	灰白+黄褐	○	○	○	真		橙褐色, 灰白と	1	623			
56		Ⅱ	D-11	胴部	灰白+黄褐	褐	○	○	○	真		灰白と	1	2254			
57		Ⅱ	D-11	胴部	灰白+黄褐	明赤褐	○	○	○	真	十ナ	橙褐色, 十ナ	1	613			
58		Ⅱ	C-11	胴部	灰白+黄褐	褐	○	○	○	真	橙褐色	橙褐色, 灰白と	1	1725			
59	Ⅱ	C-11	胴部	灰白+黄褐	赤褐	○	○	○	真	十ナ	橙褐色, 灰白と	1	1905				
60	Ⅱ	D-11	胴部	灰白+黄褐	赤褐	○	○	○	赤石	真	橙褐色	十ナ, 灰白と	1	-			
61	Ⅱ	D-10, C-10	胴部	明黄褐	暗褐	○	○		真	橙褐色, 赤褐色	橙褐色	1	858, 859, 1585				
62	Ⅱ	C-11	胴部	暗灰黄	赤褐	○	○		真	橙褐色, 赤褐色	橙褐色, 十ナ	1	1363				
63	Ⅱ	C-10	胴部-頸部	黄褐	明赤褐	○	○	○	真	橙褐色, 灰白と, 橙十ナ	橙褐色, 赤褐色	1	860, 866				

縄文時代草創期 土器観察表(2)

時代 番号	図録 番号	部位	出土区	部名	色調(内面)	色調(外面)	胎土 石割	長石	内 肉石	その他	底 色	溝敷(内面)	溝敷(外面)	類	遺物番号	備考	
24区	64	Ⅱ	C-11	口縁部	じい+黄緑	じい+黄緑	○	○	○	○	黄	凹行痕, 爪あと	凹行痕	Ⅱ	3107		
	65	Ⅱ	D-10	口縁部	黄	じい+赤褐	○	○	○	○	黄	凹行痕, 爪あと	凹行痕	Ⅱ	726		
	66	Ⅱ	D-11	口縁部	黄	暗黄褐	○	○	○	○	黄	凹行痕	凹行痕, 爪あと	Ⅱ	1470		
	67	Ⅱ	D-10	口縁部	じい+黄緑	じい+黄緑	○	○	○	○	黄	凹行痕, 爪あと, ナテ	爪あと, 凹ナテ	Ⅱ	1877		
	68	Ⅱ	C-11	口縁部	明赤褐	じい+黄緑	○	○			黄	凹行痕, 爪あと, ナテ	爪あと, 凹突	Ⅱ	1455		
	69	-	-	胴部	じい+黄緑	赤褐	○	○			黄	凹行痕, ナテ		Ⅱ	-		
	70	Ⅱ	C-11	胴部	暗灰黄	じい+赤褐	○	○			黄	凹行痕		Ⅱ	975		
	71	Ⅱ	D-11	胴部	じい+黄	黄	○		○		黄	凹行痕, ナテ		Ⅱ	646		
	72	Ⅱ	C-11	胴部	じい+黄緑	明赤褐	○	○			黄	凹行痕, 爪あと, ナテ	凹行痕, 爪あと, ナテ	Ⅱ	1652		
	73	Ⅱ	C-10・D-11	胴部	じい+黄緑	黄	○	○			黄	凹行痕, 爪あと, ナテ	凹行痕, 爪あと, ナテ	Ⅱ	567, 773		
	74	Ⅱ	C-11	脛曲部	じい+黄緑	黄	○		○		黄	凹行痕	凹行痕	Ⅱ	3108, 1037		
	75	Ⅱ	D-11	脛曲部	じい+黄	明赤褐	○	○			黄	凹行痕	凹行痕	Ⅱ	599		
	76	Ⅱ	B-10・D-11	脛曲部	じい+黄緑	黄	○	○			黄	凹行痕, 条痕	凹行痕, 条痕	Ⅱ	633, 639, 1199		
	77	Ⅱ	C-11	脛曲部	黄褐	黄	○	○			黄	凹行痕	凹行痕	Ⅱ	1453		
	78	Ⅱ	C-10	胴部	黄褐	じい+赤褐	○	○			黄	凹行痕	凹行痕	Ⅱ	824		
	79	Ⅱ	C-11	胴部	赤褐	黄褐	○	○			黄	凹跡さえ	凹行痕, 爪あと	Ⅱ	2223		
	80	Ⅱ	C-11	口縁部	明褐	黄	○		○		黄	凹行痕, 条痕	凹行痕, 爪あと	Ⅱ	1399		
	81	Ⅱ	B-14	口縁部	明黄褐	黄	○	○			黄	凹行痕, 条痕	凹行痕, 爪あと	Ⅱ	3029		
	82	Ⅱ	C-10・C-11	胴部	黄褐	黄	○	○			黄	凹行痕, 爪あと	凹行痕, 爪あと	Ⅱ	1386, 1554		
	83	Ⅱ	B-14	胴部	じい+黄緑	黄	○	○			黄	ナテ	ナテ	Ⅱ	3646		
	84	Ⅱ	B-13	口縁部	じい+黄緑	じい+黄緑	○	○			黄	凹突	凹行痕, ナテ	Ⅱ	3070		
	30区	85	Ⅱ	C-11	口縁部	じい+黄	じい+黄緑	○	○			黄	条痕	凹行痕	V	1307	
		86	Ⅱ	C-11	口縁部	黄	黄褐	○	○			黄	条痕	凹行痕	V	-	
		87	Ⅱ	C-11	口縁部	じい+黄緑	暗灰黄	○	○			黄	凹行痕, 条痕	ナテ	V	1572	
88		Ⅱ	C-10・C-11	口縁部	じい+黄	黄褐	○	○			黄	条痕	凹行痕	V	1268, 1580, 1554		
89		Ⅱ	B-14	口縁部	黄褐	じい+黄緑	○	○			黄	凹行痕	凹行痕, 爪あと	V	3666		
90		Ⅱ	B-11・C-10・D-10	胴部	暗褐	赤褐	○	○			黄	ナテ	ナテ	V	726, 727, 738, 739, 790, 795, 816, 2557, 2559		
91		Ⅱ	D-1	胴部	じい+黄緑	黄褐	○	○			黄	ナテ	ナテ, 条痕	V	南沢内層23		
92		Ⅱ	D-11	脛曲部	じい+黄緑	じい+黄緑	○	○			黄	凹行痕	ナテ	V	-		
93		Ⅱ	C-11	胴部	じい+黄緑	明赤褐	○	○			黄	凹行痕	凹行痕	V	1545		
94		Ⅱ	C-11・D-11	脛曲部	じい+黄緑	明赤褐	○	○			黄	凹行痕, 爪あと, ナテ	凹行痕, ナテ	V	529, 540, 647, 915, 925, 933, 946, 1034		
95		Ⅱ	C-11	胴部	明赤褐	黄	○	○			黄	凹行痕	凹行痕	V	2295		
96		Ⅱ	B-10・C-10	胴部	じい+黄緑	黄	○	○			黄	凹行痕, 爪あと, ナテ	凹行痕, 爪あと, ナテ	V	868, 870, 1169		
97		Ⅱ	B-11	胴部	じい+黄緑	黄	○	○			黄	ナテ	凹行痕, 爪あと	V	2254		
98		Ⅱ	D-10・C-11	胴部	じい+黄	赤褐	○	○			黄	ナテ	ナテ	V	742, 934, 942, 943, 1425, 1533		
99		Ⅱ	B-11	胴部	じい+黄	明褐	○	○			黄	凹行痕, ナテ	凹行痕, ナテ	V	1770		
100		Ⅱ	C-11	胴部	じい+黄緑	赤褐	○	○			黄	条痕	凹行痕	V	878, 1239, 1272		
101		Ⅱ	B-14	胴部	じい+黄	明黄褐	○	○			黄	条痕	凹行痕	V	3643		
102		Ⅱ	C-10	底部	明赤褐	明赤褐	○	○			黄	凹突	ナテ	底部	1548		
103		Ⅱ	B-10	底部	浅黄	黄	○	○			黄	凹行痕, ナテ	ナテ	底部	1155		
104		Ⅱ	C-11	底部	明赤褐	じい+黄緑	○	○			黄	凹行痕, ナテ	凹行痕, ナテ	底部	1377		
105		Ⅱ	B-14	底部	じい+黄	黄	○	○			黄	凹行痕	凹行痕	底部	3667		
106		Ⅱ	C-11・D-11	底部	じい+黄	明赤褐	○	○			黄	ナテ	ナテ	底部	578, 589, 1036		
107		Ⅱ	C-11・E-10	底部	黄褐	黄	○	○			黄	凹ナテ, 条痕	底部	1233, 1309, 1310, 1311			
108		Ⅱ	D-11	底部	暗灰黄	黄	○	○			黄	凹行痕, ?	凹行痕, ナテ	底部	577, 584, 1142, 1143		
109	Ⅱ	B-14	底部	じい+黄緑	明赤褐	○	○			黄	凹行痕	凹行痕	底部	3790			
110	Ⅱ	D-11	底部	じい+黄緑	赤褐	○	○			黄	凹行痕	凹行痕	底部	617, 1131			
111	Ⅱ	C-11	底部	じい+黄緑	赤褐	○	○			黄	凹行痕, 条痕	凹行痕	底部	1022			
112	Ⅱ	C-10・C-11	胴部-底部	じい+黄	明褐	○	○			黄	凹行痕, ナテ	ナテ	底部	852, 1102, 1302			
113	Ⅱ	C-11	底部	じい+黄緑	赤褐	○	○			黄	凹ナテ	凹行痕	底部	926			
114	Ⅱ	C-10	底部	黄	明赤褐	○	○			黄	ナテ	凹ナテ	底部	1165			
115	Ⅱ	C-11	底部	じい+黄緑	黄褐	○	○			黄	ナテ	ナテ	底部	1938			

②石器

石器はB～D-9～11区とB-14区を中心に出土している。遺物包含層はⅦ～Ⅷ層であるが、Ⅶ層には旧石器時代の遺物も含まれる。黒曜石および頁岩の類別出土状況を、第28図と第29図に掲載した。

打製石鏃と楔形石器、石槍、スクレイパー、礫器、二次加工剥片、使用痕剥片、剥片、丸ノミ型石斧、磨製石斧、打製石斧、磨石、敲石、砥石などが出土している。55点を図化した。

なお、黒曜石を次のように分類する。

黒曜石A

黒色・ガラス質で、小粒の不純物が多く含まれる。伊佐市大口日東産に類似する。

黒曜石B

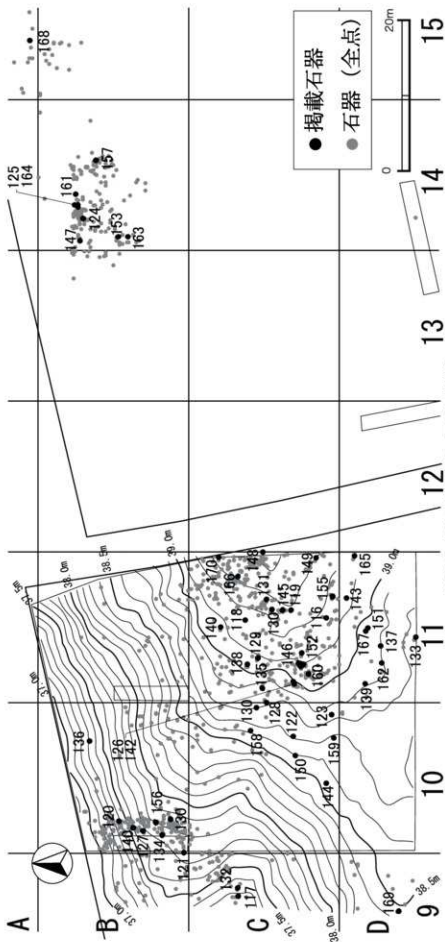
青灰色で、不純物が少なく良質。長崎県佐世保市針尾、淀姫産等西北九州系に類似する。

黒曜石C

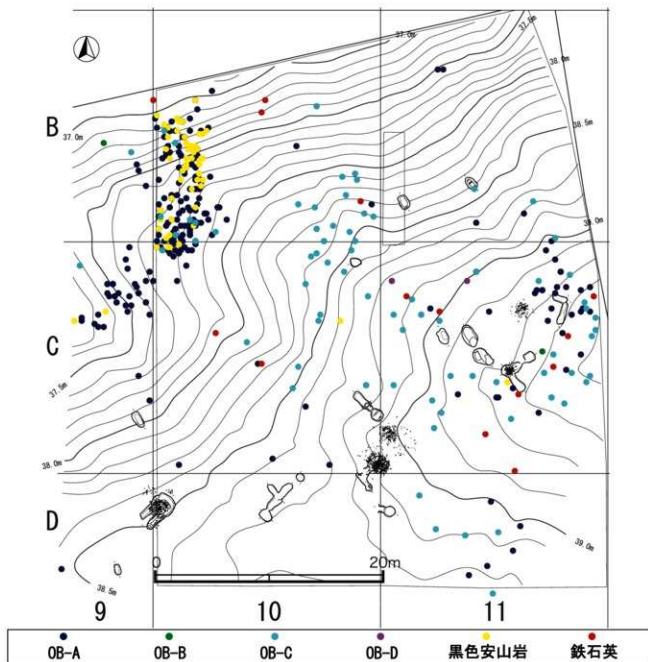
黒色・炭状で、光を通さず、不純物が少ない。薩摩川内市種脇町上牛鼻、いちき串木野市平木場産に類似する。

黒曜石D

灰色もしくはアメ色で半透明のガラス質。不純物は少なく、黒色の紐状の織が入る。宮崎県えびの市桑ノ木津留産に類似する。



第27図 縄文時代草創期 石器出土状況



第28図 縄文時代草創期 石材別分布図

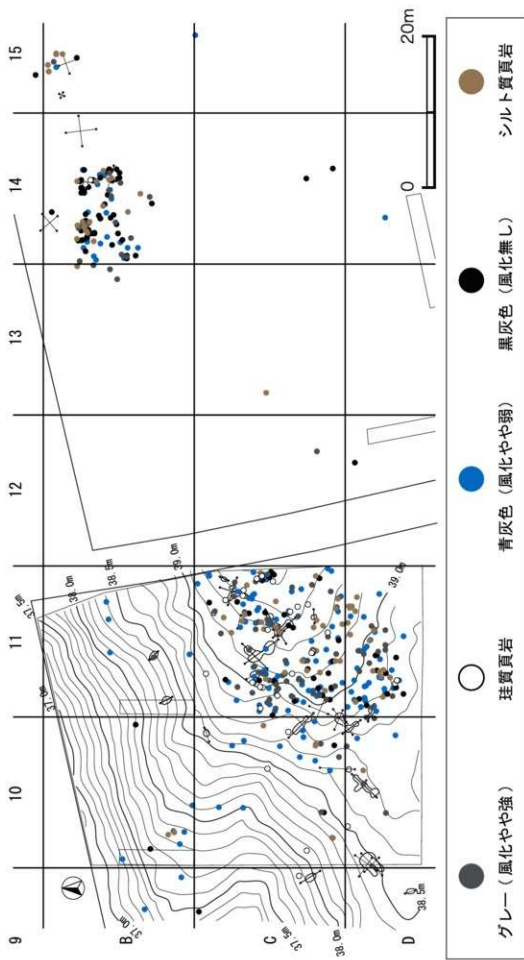
石鎌 (第30図 116~119)

欠損品を含めて5点を図化した。すべて打製石鎌で、入念な交互剥離により調整されている。116は背面に自然面を残して側縁部がやや外湾し、逆刺は丸く抉れ、先端部は鋭い作りになっている。117は直線的な側縁部と基部を持つ二等辺三角形で先端部を欠損している。118は背面に自然面を残す二等辺三角形で、逆刺はわずかに丸く抉れ、先端部を一部

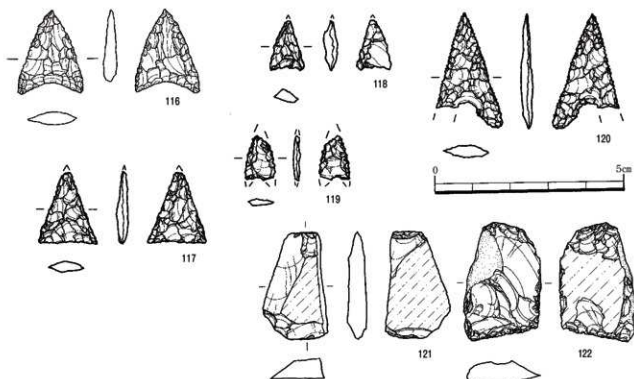
欠損している。119は逆刺がV字形に抉れ先端部と基部の一部を欠損している。120は側縁部が直線的な作りで、逆刺はU字形に抉れ、先端部は鋭い作りになっている。基部の一部を欠損している。

楔形石器 (第30図 121~122)

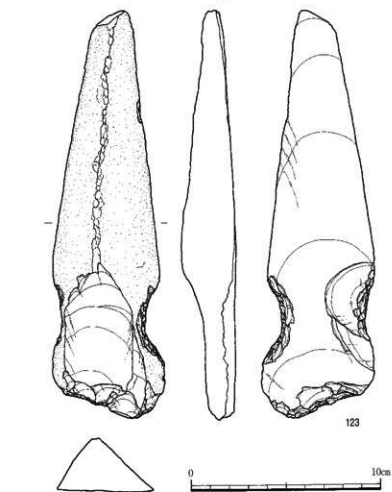
2点を図化した。上部と下部の表裏に二次加工を施し刃部としている。122には入念な剥離調整が施されている。



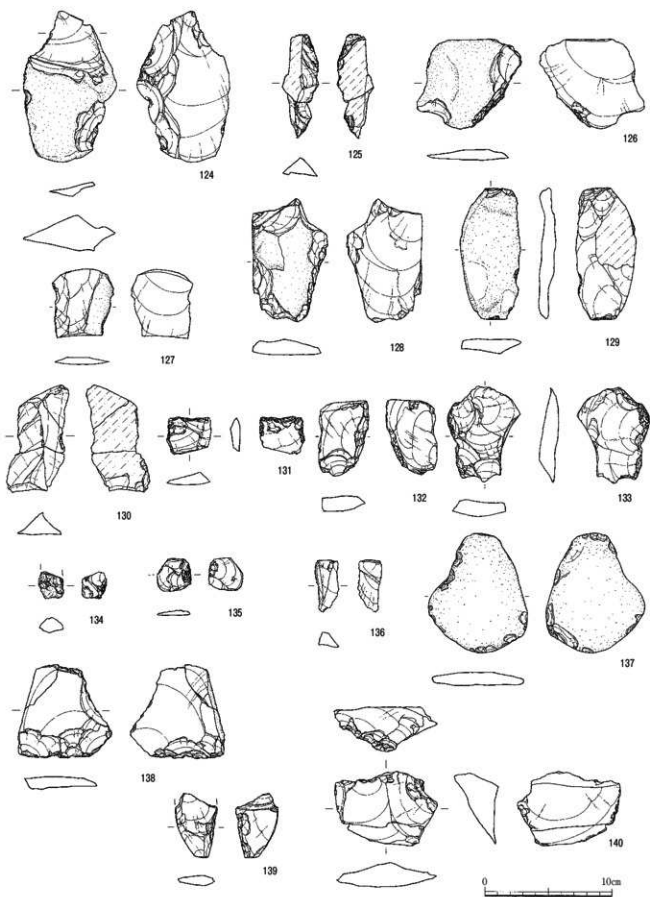
第29図 縄文時代草創期 頁岩切片分布図



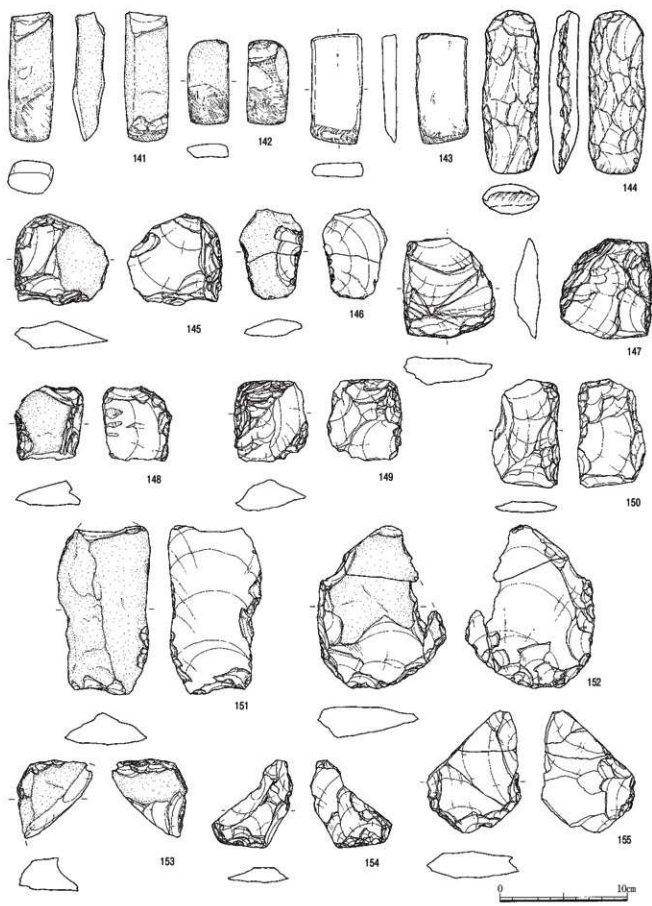
	A (ほぼ三角形)	B (ほぼ五角形)	C (ほぼ丸形)	
形状				
	a (1~15: ほぼ正三角形)	b (15~20: ほぼ等辺三角形)	c (2以上: 縦長)	
長短比 長さ =幅				
	a (平組)	b (浅い)	c (深い)	d (U字形)
基部				



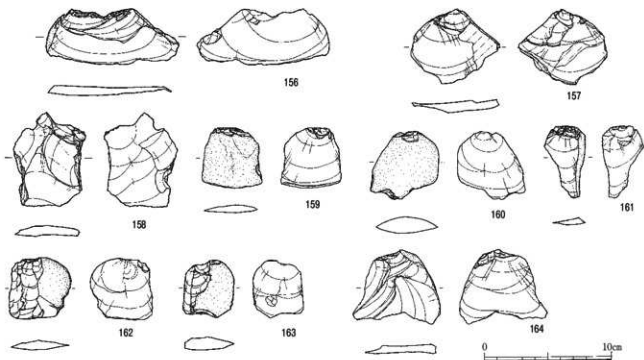
第30図 縄文時代草創期 石器 1・石鏃分類図



第31図 縄文時代草創期 石器2



第32図 縄文時代草創期 石器3



第33図 縄文時代草創期 石器4

石槌 (第30図 123)

自然礫の稜部を生かした縦長剥片を素材とし、左右側縁の挟り部に敲打調整を施している。

スクレイパー (第31図 124~129, 131~135, 138)

12点を図化した。125は縦長の剥片を素材とし、断面は三角形で上部を欠損している。126と128は右側縁に二次加工を施し刃部としている。129は円礫の剥片を素材とし、右側縁の背面に大きめの剥離を施し刃部としている。131は右側縁に二次加工を施し刃部とし、上部の表裏にも細かい剥離を施している。140は上部の背面と左側縁の表裏に二次加工を施し、刃部としている。149は左右側縁に二次加工を施し、刃部としている。

礫器 (第31図 137)

137は扁平な円礫を素材とし、下部に二次加工を施し刃部としている。

使用痕剥片 (第31図 130・140)

縦長の剥片を素材としたもので、片側縁に微細な使用痕がみられる。

二次加工剥片 (第31図 136)

136は縦長の剥片を利用したもので、断面は三角

形で、稜部に二次加工がみられる。

丸ノミ石斧 (第32図 141)

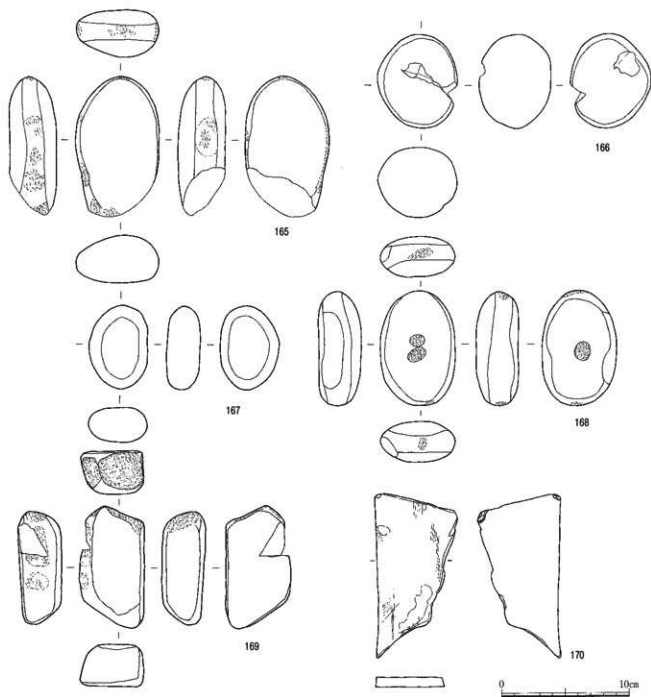
厚手の角柱状の頁岩を素材とし、基部を欠損している。刃部内外面に入念な研磨調整を施し、内面には下部から剥離調整が加えられている。E-3区トレンチで出土した。

磨製石斧 (第32図 142~144)

3点を図化した。142と143は、短冊状の頁岩へ研磨調整を施し、刃部内外面に丁寧な調整を施している。144は角柱状のシルト質頁岩へ粗い剥離を施し、刃部に丁寧な研磨調整を施している。

打製石斧 (第32図 145~155)

欠損品を含めて、12点を図化した。石材は頁岩とシルト質頁岩である。148は未製品で、左側縁に剥離調整を施している。149は全面に粗い剥離を施し、中間部と刃部を欠損している。151は縦長の剥片の側縁に二次加工を施している。基部と刃部の一部を欠損している。153は表裏に自然面を残す礫の基部に粗い剥離を施している。中間部と刃部を欠損している。155は未製品である。左側縁と刃部に粗い剥離を施している。



第34図 縄文時代草創期 石器5

石斧製作に伴う剥片 (第33図 156~164)

中尾遺跡のⅦ~Ⅷ層では、頁岩類の打製石斧が12点出土している。また、頁岩類の薄手の剥片が多数出土している。第29図で頁岩の類別出土状況を提示し、ここでは頁岩の剥片の9点を図化した。

磨石・敲石・砥石 (第34図 165~170)

6点を図化した。円礫を利用した4点、角礫を利

用した1点である。165は上部と右側縁に敲打痕がみられ、左側縁から下部、右側縁背面下部を欠損している。166と167には敲打痕がみられない。168は上端と下端、正面と背面の中央部に小さめの敲打痕がみられる。169は角礫を利用したもので、上部から左側縁にかけて敲打痕がみられる。170は頁岩の板状の剥片を利用した砥石である。

縄文時代草創期 石器観察表

挿入番号	掲載番号	器種	出土区	層	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	遺物番号	備考
第30図	116	打製石鎌	C-11	Ⅲ	ホルンフェルス	2.20	1.65	0.35	1.27	920	A-a-b
	117	打製石鎌	C-9	Ⅲ	黒曜石B	1.90	1.55	0.25	0.78	2152	A-a-a
	118	打製石鎌	C-11	Ⅲ	黒曜石A	1.30	0.95	0.30	0.29	986	A-a-a
	119	打製石鎌	C-11	Ⅲ	黒曜石A	1.20	0.85	0.15	0.17	968	A-b-c
	120	打製石鎌	B-10	Ⅲ	安山岩	3.00	1.60	0.30	1.11	1627	A-b-d
	121	礫器	B-9	Ⅲ	硅質頁岩	5.70	3.45	1.20	24.38	2161	
	122	楔形石器	C-10	Ⅲ	硅質頁岩	6.00	3.95	1.10	35.55	838	
	123	石槍	C-10	Ⅲ	頁岩	21.45	5.70	3.00	300.00	775	
	124	スクレイパー	B-14	Ⅲ	硅質頁岩	11.90	7.30	2.80	193.80	3673	
	125	スクレイパー	B-14	Ⅲ	頁岩	8.10	2.80	1.30	23.76	3690,3699	
126	スクレイパー	C-11	Ⅲ	頁岩	7.00	7.35	0.80	53.42	1458		
127	スクレイパー	B-10	Ⅲ	頁岩	5.25	4.30	0.60	20.07	1995		
128	スクレイパー	C-10	Ⅲ	頁岩	9.70	5.90	1.20	96.46	1099		
129	スクレイパー	C-11	Ⅲ	頁岩	10.40	4.65	1.10	74.31	1072		
130	使用痕測片	B-10-C-11	Ⅲ	硅質頁岩	8.35	4.95	3.50	67.40	856,1595,2287		
131	スクレイパー	C-11	Ⅲ	安山岩	2.95	3.45	1.00	10.75	2191		
132	スクレイパー	C-9	Ⅲ	硅質頁岩	5.80	3.55	1.20	39.04	2148		
133	スクレイパー	D-11	Ⅲ	頁岩	7.00	5.65	1.20	56.45	1672		
134	スクレイパー	B-10	Ⅲ	黒曜石C	7.50	1.85	1.15	4.63	1646		
135	スクレイパー	C-11	Ⅲ	頁岩	2.10	2.65	0.40	3.56	1093		
136	二次加工測片	B-10	Ⅲ	シルト質頁岩	2.60	1.95	1.38	9.62	1980		
137	礫器	D-11	Ⅲ	頁岩	4.10	7.70	1.00	92.10	543		
138	スクレイパー	C-11	Ⅲ	頁岩	9.35	7.40	1.25	57.40	1083,1495		
139	測片	D-11	Ⅲ	シルト質頁岩	7.40	3.25	0.80	13.67	573		
140	使用痕測片	B-10-C-11	Ⅲ	頁岩	4.70	8.00	3.45	110.24	993,1999		
141	丸ノミ形石斧	E-3	Ⅲ	頁岩	10.25	3.60	2.50	133.45	2278		
142	磨製石斧	C-11	Ⅲ	頁岩	6.70	3.30	1.20	42.29	904		
143	磨製石斧	D-11	Ⅲ	頁岩	8.65	4.10	1.30	76.05	710		
144	磨製石斧	C-10	Ⅲ	シルト質頁岩	12.90	3.00	2.60	198.30	798		
145	打製石斧	C-11	Ⅲ	シルト質頁岩	6.90	7.35	2.00	135.53	962		
146	打製石斧	C-11	Ⅲ	頁岩	7.05	5.00	1.55	55.08	1039,1448		
147	打製石斧	B-14	Ⅲ	頁岩	7.80	7.15	2.10	146.44	3652		
148	打製石斧未製品	C-11	Ⅲ	頁岩	5.75	5.30	1.90	82.17	1334		
149	打製石斧	C-11	Ⅲ	頁岩	5.75	5.70	2.20	83.51	1706	割れ	
150	打製石斧	C-10	Ⅲ	シルト質頁岩	13.30	7.15	2.90	300.00	825		
151	斧形石器	D-11	Ⅲ	頁岩	8.30	5.75	0.80	50.10	686		
152	打製石斧	C-11	Ⅲ	頁岩	12.18	10.20	2.40	300.00	1418,1419		
153	打製石斧	B-14	Ⅲ	シルト質頁岩	5.70	5.25	2.55	81.28	3602	割れ	
154	打製石斧		Ⅲ	シルト質頁岩	6.20	5.20	1.20	38.07		割れ	
155	打製石斧	C-11	Ⅲ	頁岩	9.60	7.40	2.20	160.12	936,1386,1414		
第33図	156	打製石斧製作に伴う測片	B-10	Ⅲ	硅質頁岩	5.95	10.40	0.80	38.11	1604	
	157	打製石斧製作に伴う測片	B-14	Ⅲ	頁岩	4.40	6.90	0.80	33.43	3781	
	158	打製石斧製作に伴う測片	C-10	Ⅲ	頁岩	5.60	5.35	0.90	41.56	1110	
	159	打製石斧製作に伴う測片	C-10	Ⅲ	頁岩	7.35	4.65	0.70	16.28	786	
	160	打製石斧製作に伴う測片	C-11	Ⅲ	頁岩	4.75	5.15	1.30	33.66	1441	
	161	打製石斧製作に伴う測片	B-14	Ⅲ	頁岩	5.20	3.15	0.60	9.74	3722	
	162	打製石斧製作に伴う測片	D-11	Ⅲ	シルト質頁岩	5.60	4.60	0.80	18.73	532	
	163	打製石斧製作に伴う測片	B-14	Ⅲ	硅質頁岩	4.80	3.90	1.05	19.38	3598	
	164	打製石斧製作に伴う測片	B-14	Ⅲ	頁岩	4.60	6.85	0.80	30.15	3841	
第34図	165	磨石・敲石	D-11	Ⅲ	安山岩	10.90	6.60	3.70	390.00	1669	
	166	磨石・敲石	C-11	Ⅲ	砂岩	7.40	6.35	5.50	300.00	2225	
	167	磨石	D-11	Ⅲ	砂岩	6.60	4.10	2.70	124.41	591	
	168	磨石・敲石	A-15	Ⅲ	砂岩	9.00	5.80	3.30	250.00	3812	
	169	磨石・敲石	D-9	Ⅲ	砂岩	8.80	5.20	3.30	250.00	2171	
	170	砥石	C-11	Ⅲ	頁岩	12.90	6.50	0.80	100.21	2233	

2 縄文時代早期の調査

早期の包含層であるIV層は、調査区北側では削平の影響を受け、調査区南側では工事掘削深度に達しないために、前後の時期に比べ、調査面積が小さい。

遺構は集石遺構が2基検出された。また、遺物は土器の出土量が比較的大きい。調査区北側で出土した。

(1) 遺構

遺構は、調査区北西部のV層直上で集石遺構が2基検出されている。

1号集石遺構 (第36図)

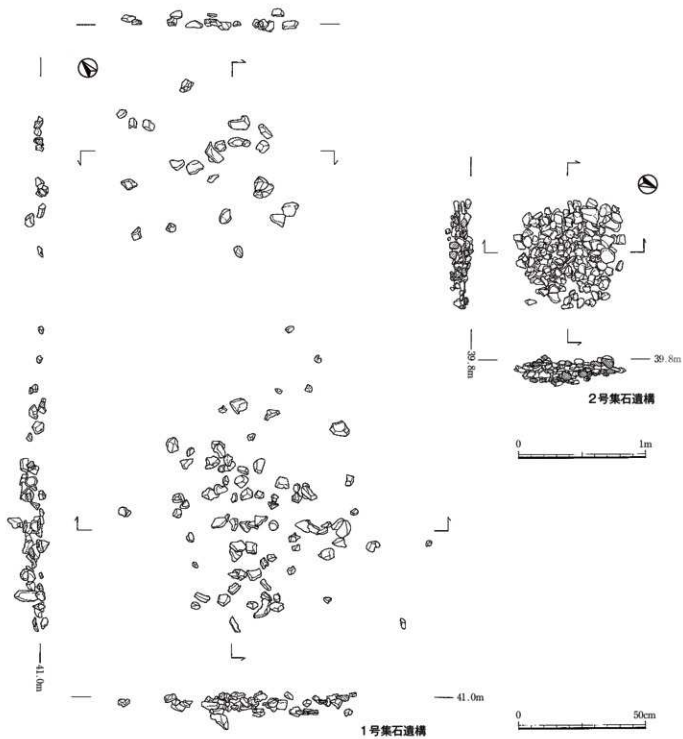
C-14区で検出された。400×250cmの範囲に散碟状に広がる。碟数113、平均重量80.7gである。掘り込みは見られず、平坦である。

2号集石遺構 (第36図)

D-12区の9トレンチ内で検出された。80×80cmの範囲に集中する。碟数247、平均重量229.4gである。10cm大の碟で構成されている。



第35図 縄文時代早期 遺構・遺物分布図



第36図 集石遺構

(2) 遺物

調査区北半分で土器、石器が出土した。土器を65点、石器を36点図化し掲載した。

①土器

縄文時代の早期の土器は、調査区北側で出土した。VI類からXII類土器に分類できた。出土数の多かったものでは、IX類土器が調査区東側、XI類土器が調査区西側で出土している。

VI類土器 (第38図 171)

VI類土器は口唇部が外面に傾斜する貝殻条痕文系円筒土器である。1点を図化した。

171は口縁部に貝殻刺突文が連続して施されている。胴部には横位、斜位の貝殻条痕が施されている。C-6区で出土している。

VII類土器 (第38図 172・173)

VII類土器は、口縁部に横位の貝殻刺突文、胴部に斜位の条痕を施し、その上から貝殻刺突文を重ねているものである。また、楔形貼付文を有するものもある。

172と173は胴部である。172は左右に刺突を施した楔形貼付文を有する。173は縦位の貝殻刺突文が直線状に施されている。B-C-15区で出土している。

VIII類土器 (第38図 174・175)

VIII類土器は口縁部が外反し、横位の貝殻刺突文がめぐり、その下に楔形貼付文や密接な貝殻刺突文を施すことで、楔状を呈するものである。また、胴部には貝殻押引文が施されるものである。

174は口縁部である。口縁部上端に横位の貝殻刺突文が1条廻り、その下に貝殻押引文、その下に横位の条痕文が施されるものである。175は胴部である。貝殻押引文が施されている。隣接する南原内堀遺跡から出土している。

IX類土器 (第38図 176～192・第39図 193～198)

IX類土器は、口縁部に貝殻刺突文が廻り、胴部には貝殻条痕が施されている円筒形の土器である。貝殻条痕文は綾杉状のものがほとんどであるが、縦位、横位のものもある。口唇部には刻目を施すものが大半である。口縁部が肥厚し外反するものと、ほぼ直行するものがある。

176～188は外反もしくはやや外反する口縁部をもつタイプである。176～183は口縁部に斜位の貝殻刺突文を施すものである。176と177は胴部に綾杉状の貝殻条痕文が施されている。183は斜位の刺突文の下部に横位の貝殻刺突文が1条廻る。184～188は口縁部に横位の貝殻刺突文が数条施されるものである。また、口唇部には刻目が施されている。185は不完全なヘラ状の工具による補修孔がある。189～192は口縁部が直行するタイプである。189と190は口縁部に横位の貝殻刺突文が施されている。また、胴部には横位の条痕文が施されている。191と192は口縁部に縦位の貝殻刺突文が施されている。192は縦位の貝殻刺突文の下部に横位の貝殻刺突文が1条廻る。193～196は胴部である。193と194は綾杉状の条痕文が施されている。195と196は棒状の工具による矢印状の刺突文が施されている。197と198は底部である。内面はヘラもしくは指で撫で調整されている。

C-4～6区を中心に出土している。また、南原内堀遺跡に隣接する調査区北東端のトレンチ内や、調査区北端中央部のB-11区からも出土している。

X類土器 (第39図 199)

X類土器は1点である。199は口縁部が直行し、短い条痕を施すものである。内面は丁寧に磨かれている。B-12区で出土している。

XI類土器 (第39図 200～203)

円筒形条痕文土器と呼ばれるものである。胴部から口縁部にかけて波状の条痕文が横位に施されている。

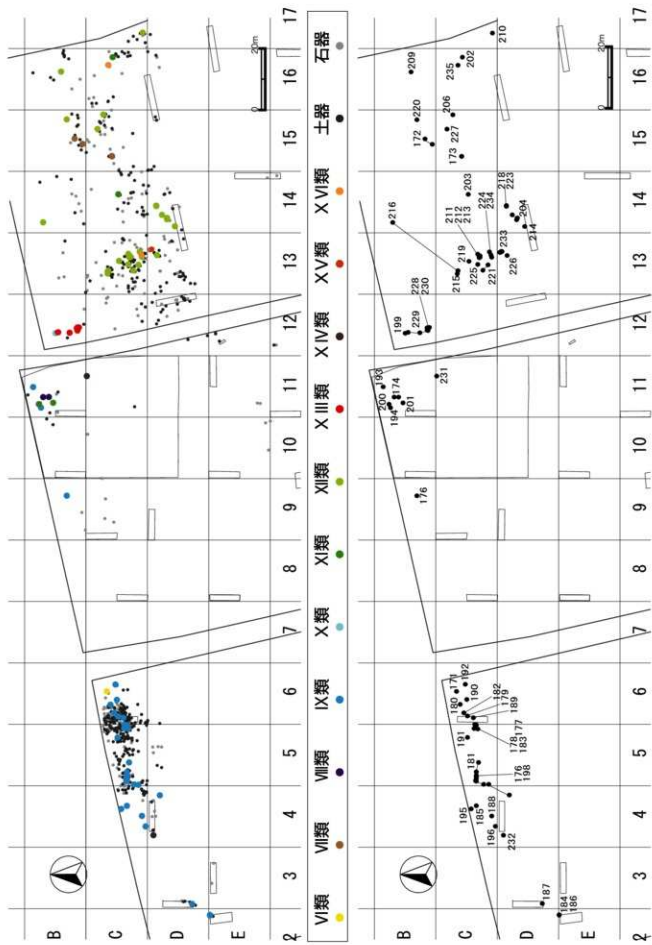
200は口縁部である。端部は丸くつくられている。201～203は胴部である。波状の条痕文が施されている。B-11区と調査区西側にかけて出土している。

XII類土器

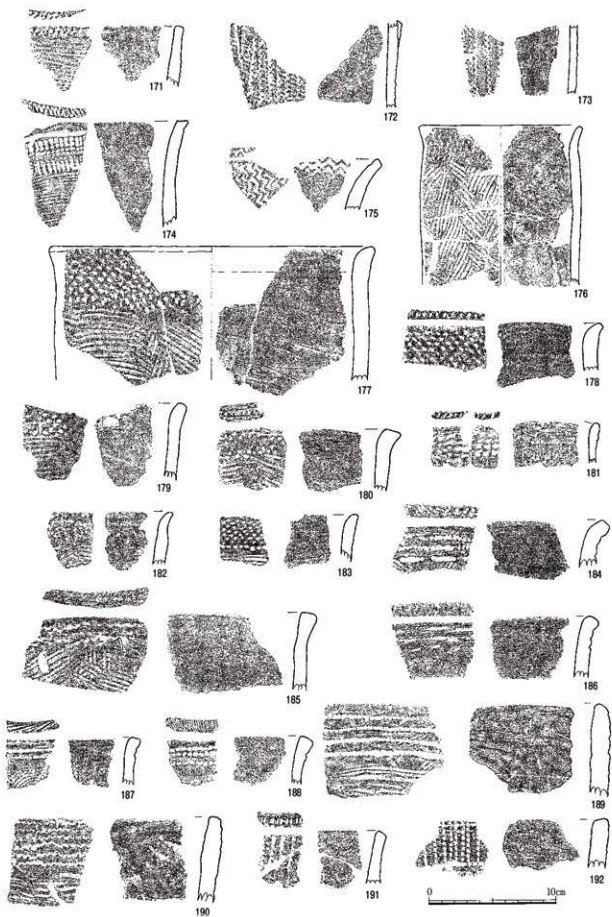
(第39図 204～210・第40図・第41図 223～227)

XII類土器は器面に山形・楕円の押型文を施文するものである。

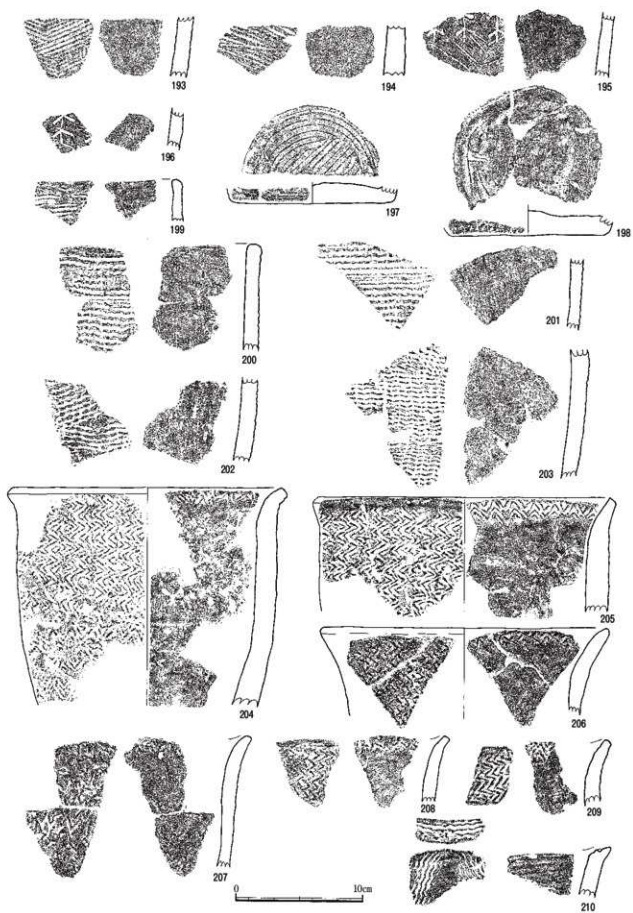
204～214は山形の押型文土器である。204～210は口縁部である。内面上端に山型押型文が施されている。204と205は膨らんだ胴部から口縁部にかけてやや窄まり外反するものである。206～210は外反もしくはやや外反するものである。207～210は波状口縁



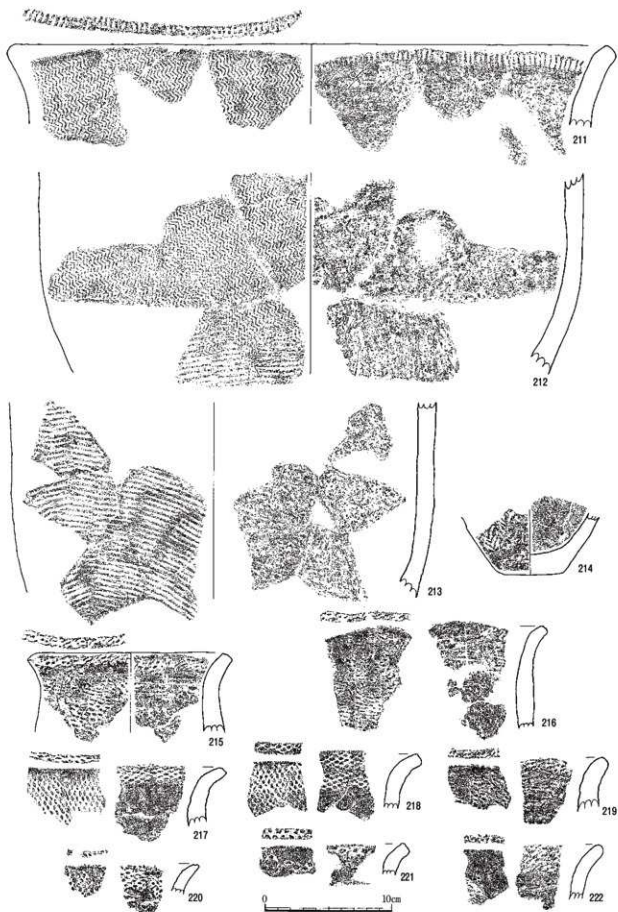
第37図 縄文時代早期 土器出土状況



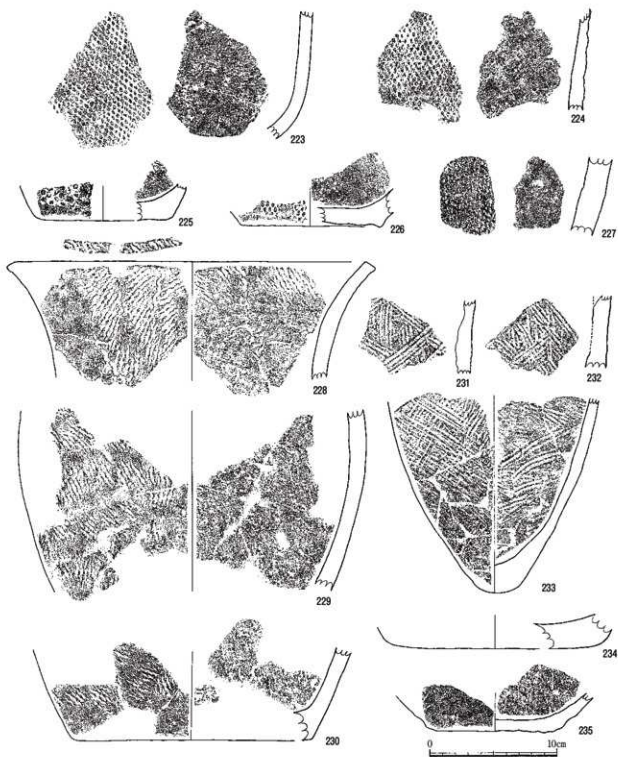
第38図 縄文時代早期 土器 1



第39図 縄文時代早期 土器2



第40図 縄文時代早期 土器3



第41図 縄文時代早期 土器 4

である。210は山型押型文が一部撫で消されている。また、口唇部に竹管によると思われる刺突文が施されている。211～213は同一個体と思われる。口唇部から内面上端に刻みが施され、口縁部から胴部上部にかけて山型押型文が施され、胴部下部から底部にかけて短い横位の条痕が施されている。210は底部である。

215～226は楕円の押型文土器である。211～218は外反もしくはやや外反する口縁部である。口縁部内面上端にも楕円の押型文が施されている。222は外面をナデで調整している。223と224は胴部である。225と226は底部である。226の内面はナデで調整されている。227は苺の表面状の文様が施されている。C-13、D-14区を中心に、調査区西側にかけて出土している。

Ⅻ類土器（第41図 228～230）

Ⅻ類土器は縄文が施されるものである。228は口縁部である。口縁部外面、口唇部、内面上端に縄文が施されている。外面については結節縄文が施されている。上端から下部に向かい連続した「R」字状の文様が見られる。229と230は胴部である。同一個体と思われる。B-12区で出土している。

Ⅼ類土器（第41図 231・232）

Ⅼ類土器は2点である。231と232は胴部である。斜位の条痕文が施されている。D-4、C-11区で出土している。

Ⅾ類土器（第41図 233）

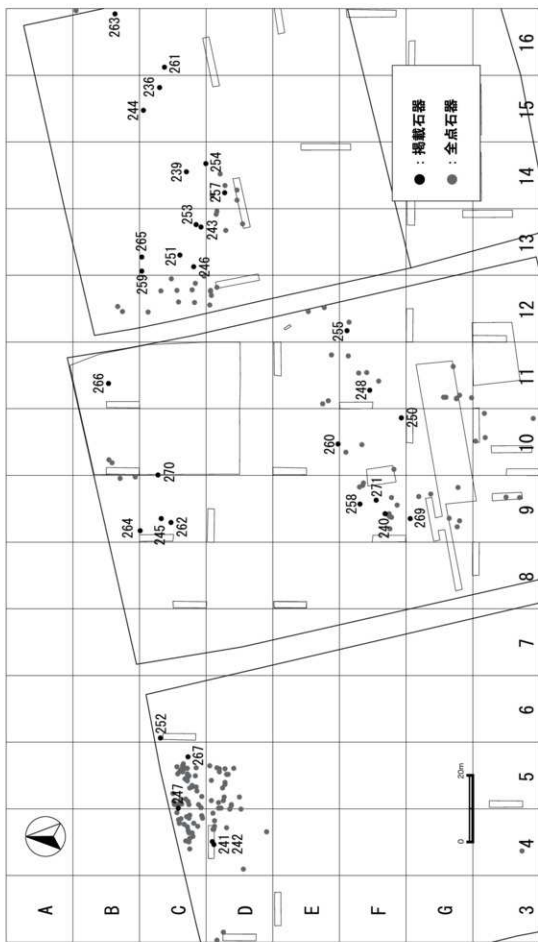
Ⅾ類土器は1点である。233は尖底の器形である。外面の文様はⅩ類土器と類似した条痕文が施されている。D-13区で出土している。

Ⅿ類土器（第41図 234・235）

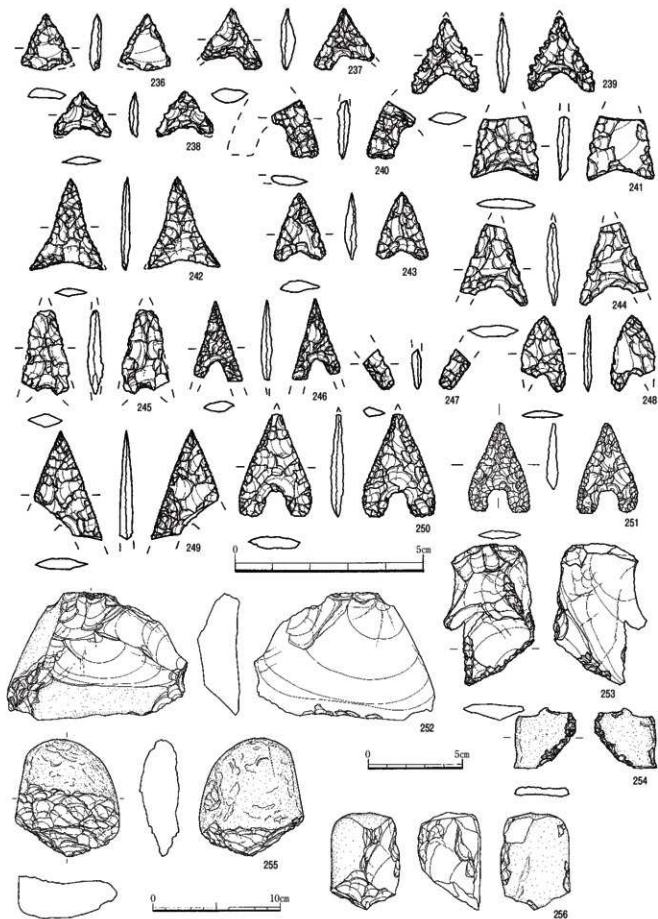
早期の特徴を持つものの、細分化が不可能なものを一括しⅯ類として扱った。234と235は底部である。234の底部外面は磨かれている。235は底部から大きく開いて立ち上がるものである。C-13、16区で出土している。

縄文時代早期 土器観察表

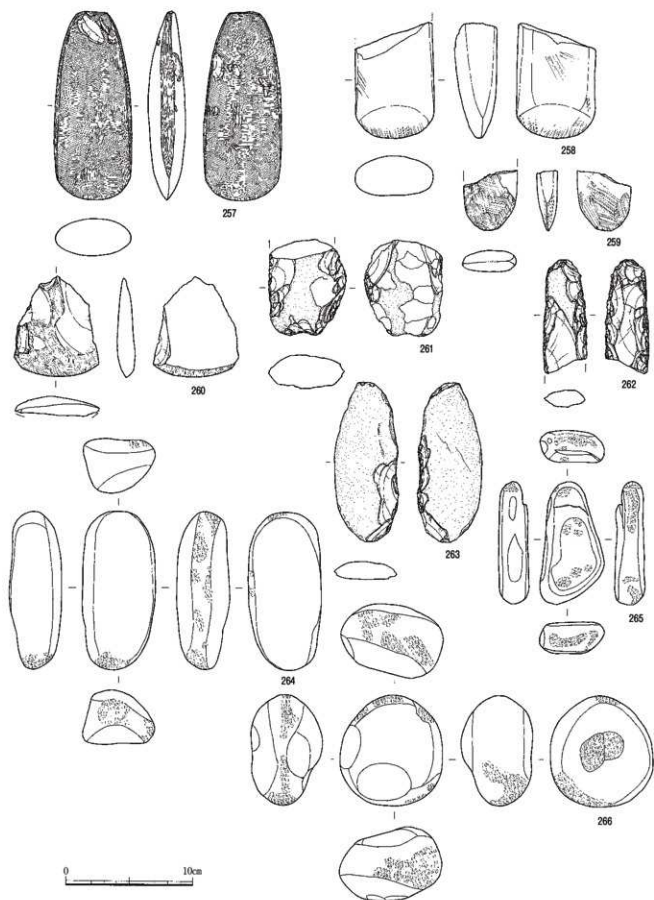
観覧番号	器種	器形	出土区	部位	胎土						構成	外 形	内 面	類	遺物番号	備考
					赤		青	石	灰白	その他						
					西	北										
171	甗	C-6	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系磁文	ナデ	Ⅱ	7203		
172	甗	B-15	胴部	胴体	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・赤鉄文	ナデ	Ⅱ	3028, 3271		
173	甗	C-15	胴部	口縁	12.0%+黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・赤鉄文	ナデ	Ⅱ	3276, 2963		
174	甗	B-11	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系引込文	ナデ	Ⅱ	11, 12		
175	甗	南面内縁	胴部	口縁	12.0%+黄鉄	明鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	5, 7		
176	甗	C-5	I10部	胴部	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2635, 2634, 2628, 2646, 2664, 2667		
177	甗	C-5	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	浅黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2439, 2464		
178	甗	C-5	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2476		
179	甗	C-6	I10部	底面	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	1800		
180	甗	C-6	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文・縞状紋状磁系陶文	ナデ	Ⅱ	2206		
181	甗	C-5	I10部	胴体	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3009, 2552		
182	甗	C-6	I10部	底面	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2360		
183	甗	C-5	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2474		
184	甗	E-2	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2307		
185	甗	C-4	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・ヘラケズリ陶文・縞状紋状磁系陶文	ナデ	Ⅱ	2743	縞状紋	
186	甗	E-2	I10部	胴体	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・ヘラケズリ陶文	ナデ	Ⅱ	2309		
187	甗	D-3	I10部	底面	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・ヘラケズリ陶文・縞状紋状磁系陶文	ナデ	Ⅱ	2275		
188	甗	C-4	I10部	胴体	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・ヘラケズリ陶文	ナデ	Ⅱ	2779		
189	甗	C-6	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3073		
190	甗	C-6	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	1796		
191	甗	C-5	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2501		
192	甗	C-6	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2886		
193	甗	B-11	胴部	胴体	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	縞状紋状磁系陶文	ナデ	Ⅱ	1		
194	甗	B-11	胴部	胴体	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	7		
195	甗	C-4	胴部	底面	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2707		
196	甗	C-4	胴部	底面	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2794		
197	甗	-	底面	12.0%+黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	○	ナデ	黄鉄系陶文	-	-		
198	甗	C-5	底面	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	○	ナデ	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	2617, 2629, 2639		
199	甗	B-12	I10部	底面	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ナデ	X	3322		
200	甗	B-11	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	縞状黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	4		
201	甗	B-11	胴部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	13		
202	甗	C-16	胴部	底面	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ヘラケズリ	Ⅱ	3307		
203	甗	C-14	胴部	底面	浅黄鉄	浅黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	3209		
204	甗	D-14	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3220, 3215, 3216, 8 T-11		
205	甗	E-10	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	87-13		
206	甗	C-15	I10部	胴部	明鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	2655		
207	甗	E-10	I10部	胴部	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	87-3, 4		
208	甗	F-11	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	117-32		
209	甗	B-16	I10部	胴体	縞状黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	山形押型文	山形押型文・ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3394		
210	甗	C-17	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	山形押型文	縞状文・ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3413	口縁部に研削	
211	甗	C-13	I10部	底面	12.0%+黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	Ⅱ	黒目・山形押型文	黒目・ヘラケズリ	Ⅱ	3645, 3475, 3466	
212	甗	C-13	胴部	底面	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文・山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	3660, 3470, 3468		
213	甗	C-13	胴部	底面	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ヘラケズリ	Ⅱ	3663, 3470, 3772		
214	甗	D-14	底面	12.0%+黄鉄	縞状黄鉄	○	○	○	○	○	山形押型文・ナデ	ナデ	Ⅱ	3210		
215	甗	C-13	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	浅黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	2407		
216	甗	C-13	I10部	胴部	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	2498, 3077		
217	甗	F-11	I10部	底面	黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	117-33		
218	甗	D-14	I10部	底面	黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	3222		
219	甗	C-13	I10部	底面	黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	3477		
220	甗	B-15	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	3379		
221	甗	C-13	I10部	底面	黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	3256		
222	甗	F-11	I10部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	117-31		
223	甗	D-14	胴部	口縁	12.0%+黄鉄	明鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3221		
224	甗	C-13	胴部	口縁	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3442, 3438		
225	甗	C-15	底面	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	ヘラケズリ	Ⅱ	3452			
226	甗	D-13	底面	12.0%+黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3548			
227	甗	C-15	胴部	底面	明鉄	明鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ナデ	Ⅱ	2964	いちこ	
228	甗	B-12	I10部	底面	黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	3510, 3313, 3511		
229	甗	B-12	胴部	底面	明鉄	明鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3268, 3273, 331		
230	甗	B-12	胴部	胴体	縞状黄鉄	縞状黄鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3270, 3287, 3271		
231	甗	C-11	胴部	口縁	12.0%+黄鉄	明鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	2291	内面深縁	
232	甗	D-4	胴部	底面	明鉄	明鉄	○	○	○	○	縞状黄鉄	縞状黄鉄	Ⅱ	2810	内面深縁	
233	甗	D-12, 13	胴部	底面	黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	黄鉄系陶文	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	3002, 3203, 3204, 3205, 3207		
234	甗	C-13	底面	12.0%+黄鉄	黄鉄	○	○	○	○	○	ナデ	ナデ	Ⅱ	3441		
235	甗	C-16	底面	12.0%+黄鉄	12.0%+黄鉄	○	○	○	○	○	ナデ	ヘラケズリ最ナデ	Ⅱ	2942		



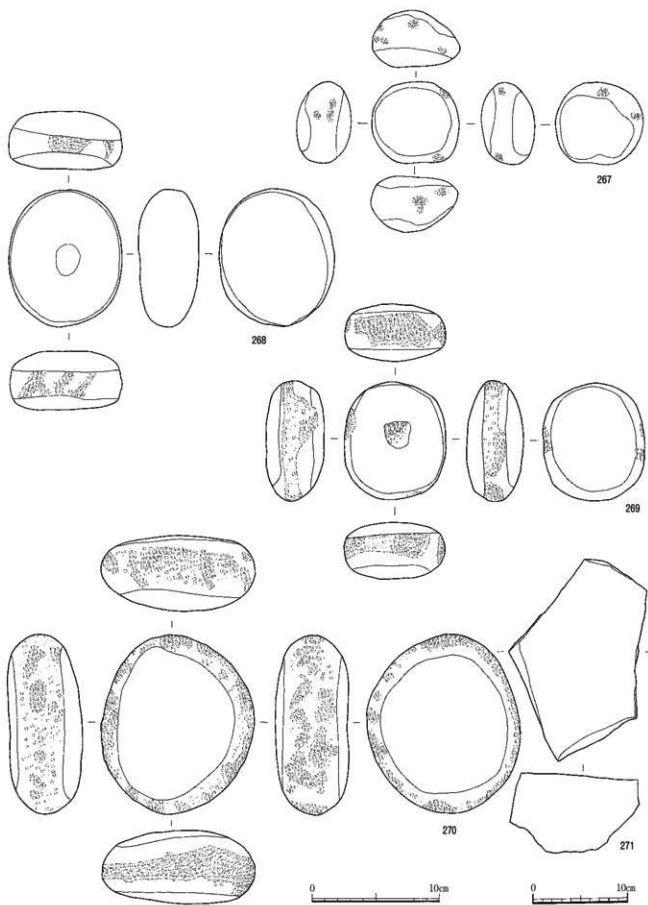
第42図 縄文時代早期 石器出土状況



第43図 縄文時代早期 石器 1



第44図 縄文時代早期 石器2



第45図 縄文時代早期 石器 3

②石器

縄文時代早期の石器は石鏃とスクレイパー、礫器、磨製石斧、打製石斧、磨石、敲石、石皿が出土している。

石鏃（第43図 236～251）

石鏃は、欠損品を含めて16点を図化した。すべて打製石鏃で、入念な交互剥離により調整されている。石材は黒曜石C、チャート、頁岩、粘板岩である。

236は背面に自然面が残る正三角形で、基部に丸みを持ち一部に欠損がある。237は逆刺にU字状の抉りのある正三角形で、基部の一部に欠損がある。238は逆刺が深く丸く抉れて幅がやや大きく、基部の一部が欠損している。239は逆刺が深く丸く抉れた正三角形で、先端部が一部欠損している。240は側辺が外湾的な作りで、先端部と左側面が欠損している。241は背面に自然面が残る、先端部に欠損があり、逆刺は浅く直線的である。242は側辺が内湾的な作りで、逆刺は浅く直線的で、先端部は鋭い作りになっている。243は逆刺が浅く直線的な二等辺三角形である。244は逆刺が丸い二等辺三角形で、先端部と基部の一部が欠損している。245は断面形が菱形で、先端部と基部を欠損している。246は逆刺が深く直線的に抉れ、先端部が鋭い二等辺三角形で、基部の一部が欠損している。247は逆刺が深く直線的に抉れる二等辺三角形で、右側面の基部のみを残して欠損している。248は側辺が外湾的な作りで、背面に自然面が残る、基部の一部に欠損がある。249は逆刺が深く直線的に抉れ、先端部が鋭い二等辺三角形で、基部の一部を欠損している。250は側辺が内湾的な作りになっていて、逆刺はU字形で先端部が欠損している。251は側辺が内湾的な作りで、逆刺はU字形である。

スクレイパー（第42図 252～254）

スクレイパーは3点図化した。石材は頁岩と黒色安山岩、玉髓である。剥片の側縁に連続した剥離を施し刃部としている。252は厚めの剥片を素材とし、自然面を残した横長剥片の下部を刃部としている。253は下部の左右側縁に二次加工を施し、刃部としている。254は右側縁の両面に二次加工を施し、刃部としている。2号集石遺構近くのV層直上で出土

している。

礫器（第42図 255、256）

礫器は2点図化した。石材は頁岩である。255は自然面を多く残した円礫の下部に、二次加工を施し、刃部としている。256は一部自然面を残した丸みを帯びた角礫の下部に、二次加工を施し、刃部としている。敲石の転用品の可能性もある。

磨製石斧（第44図 257～260）

磨製石斧は、4点図化した。石材は頁岩と砂岩である。257は両面および両側縁に、丁寧な研磨加工を施し、刃部にも入念な調整を施している。258と259は上部を欠損し、刃部には丁寧な研磨加工を施している。260は上部および裏面を欠損している。

打製石斧（第44図 261～263）

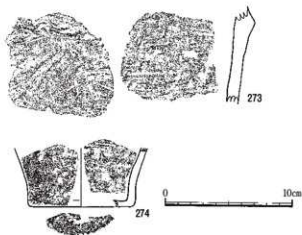
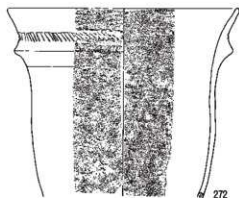
打製石斧は、3点図化した。石材は頁岩である。261は礫器から打製石斧への転用品の可能性もある。262は刃部を欠損している。263は自然面を多く残した礫の上部と下部、右側面に二次加工を施している。

磨石・敲石・石皿（第44図 264～266・第45図）

磨石・敲石は、7点図化した。石材は砂岩と安山岩である。264は下部と左側縁に敲打痕がみられる。265は正面と上部、下部、右側縁に敲打痕がみられる。266は正面中央に大きな敲打痕がみられ、上部から右側縁をまわり、下部へと連続的に続く敲打痕がみられる。267はほぼ全周縁に敲打痕がみられる。268は正面中央と上部、下部に敲打痕がみられる。269は正面中央とほぼ全周縁に敲打痕がみられる。270はほぼ全周縁に敲打痕がみられる。271は石皿で、表面が赤化している。

縄文時代早期 石器観察表

押出 番号	掲載 番号	器種	出土区	層	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	遺物番号	備考	
第 43 区	236	打製石鏃	C-15	IV	チャート	1.50	1.35	0.25	0.48	2960	A-a-a	
	237	打製石鏃	P-9	IV	黒曜石A	1.20	0.75	0.25	0.35	2936	A-a-c	
	238	打製石鏃		IV	頁岩	1.65	1.05	0.25	0.70		A-a-b	
	239	打製石鏃	C-14	IV	黒曜石B	2.00	1.75	0.35	0.74	3426	A-a-c	
	240	打製石鏃	F-9	IV	黒曜石C	2.70	1.25	0.25	1.40	231		
	241	打製石鏃	D-4	IV	シルト質頁岩	2.40	1.55	0.25	0.75	1848		
	242	打製石鏃	D-4	IV	チャート	1.50	1.35	0.25	0.46	2270	A-a-b	
	243	打製石鏃	C-13	IV	黒曜石B	2.70	1.75	0.30	1.14	3437	A-b-b	
	244	打製石鏃	C-15	IV	頁岩	2.20	1.20	0.25	1.00	3423	A-b-b	
	245	打製石鏃	E-17	IV	頁岩	2.00	0.90	0.20	0.44	30		
	246	打製石鏃	C-13	IV	チャート	1.00	0.65	0.25	0.15	3506	A-b-d	
	247	打製石鏃	C-4	IV	黒曜石B	2.40	1.55	0.25	0.82	2651		
	248	打製石鏃	F-11	V	珪質頁岩	2.80	1.45	0.30	1.14	84	C-b-d	
	249	打製石鏃	I-3	IV	黒曜石B	1.80	0.90	0.25	0.50	2317	A-c-d	
	250	打製石鏃	F-10	IV	黒曜石B	2.15	0.85	0.20	0.50	172	A-c-d	
	251	打製石鏃	C-13	IV	黒曜石B	2.20	1.25	0.35	1.02	3485	A-b-d	
	252	スクレイパー	C-6	IV	頁岩	6.60	9.30	2.05	176.00	2415		
	253	スクレイパー	C-13	IV	黒色安山岩	7.20	4.85	0.85	52.44	3436		
	254	スクレイパー	C-14	IV	玉髓	3.20	3.20	0.50	2.95	3424		
	255	礫器	F-12	IV	頁岩	9.20	8.20	3.10	300.00	58		
	256	礫器	E-8	9T	珪質頁岩	7.60	5.40	5.00	200.00		燧石転用品?	
	第 44 区	257	磨製石斧	D-14	IV	頁岩	14.85	6.15	2.95	400.00		
		258	磨製石斧	F-9	IV	砂岩	9.10	6.25	3.40	300.00	278	
		259	磨製石斧	B-13	IV	頁岩	4.80	4.20	1.70	44.80	3355	
		260	磨製石斧	E-10	IV	頁岩	7.90	6.70	1.60	80.42	177	
		261	打製石斧	C-16	IV	珪質頁岩	7.60	6.15	3.10	167.60	2946	
262		打製石斧	D-16	IV	頁岩	9.00	3.40	1.40	58.80	31		
263		打製石斧	B-16	IV	頁岩	12.55	4.90	0.90	108.50	3390		
264		磨石・燧石	D-12	IV	砂岩	12.50	5.70	4.30	410.00	28		
265		燧石	B-13	IV	安山岩	9.60	4.80	2.40	150.00	3357		
266		磨石・燧石	D-14	IV	砂岩	8.70	8.10	5.60	510.00	16		
第 45 区	267	磨石・燧石	C-5	IV	砂岩	6.90	6.40	4.30	710.00	2483		
	268	磨石・燧石	G-10	V	安山岩	10.80	8.95	4.60	720.00	12T		
	269	磨石・燧石	G-9	V上	砂岩	14.10	12.00	5.70	1260.00	288		
	270	磨石・燧石	C-10	IV	安山岩	9.20	8.00	4.50	510.00	2285		
	271	石皿	F-9	IV	安山岩	19.90	13.60	8.30	3200.00	280		



第46図 縄文時代後期 土器

3 縄文時代後期の調査

縄文時代後期については、遺構は検出されず土器の出土のみであった。

272～274はⅩⅧ類に分類されるものである。272は口縁部下位に断面三角形の突帯と細かな爪形文が廻る。器面調整は外面が条痕文で、内面はナデである。273は胴部である。内外面とも条痕文が施される。274は底部である。

4 縄文時代晩期の調査

縄文時代晩期の調査としては集石遺構が2基と掘立柱建物跡は9棟、柱穴列が18基検出された。遺物は土器、石器が出土している。

(1) 遺構

集石遺構 (第47図)

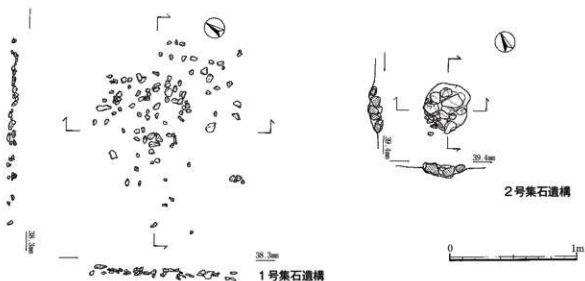
集石遺構は、Ⅲ層上面でE-9区とB-11区から2基検出された。

1号集石 (第47図)

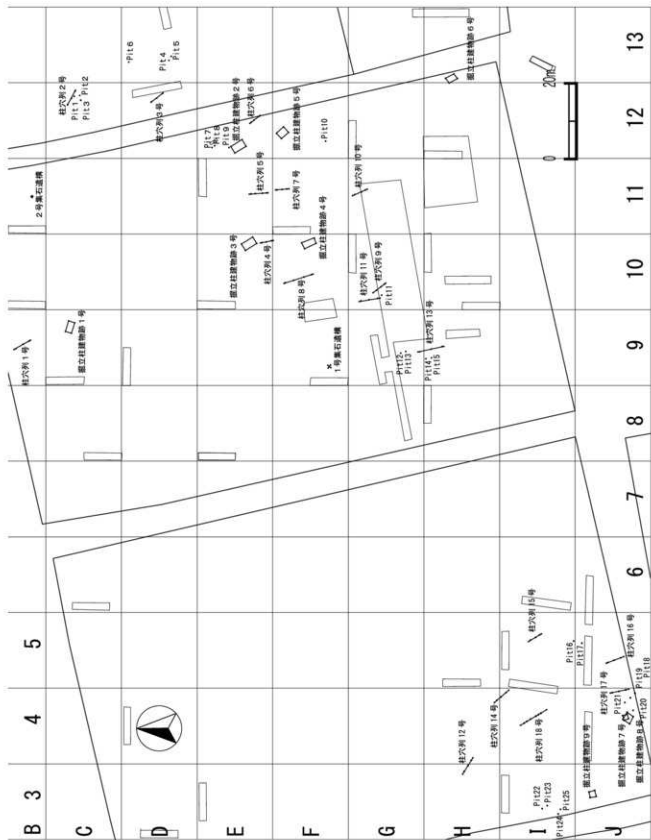
E-9区で検出された。103個の小礫からなる集石で、平均重量は38.1gである。長径約160m×短径約120mを測り、掘り込みはなく、石は散石している。

2号集石 (第47図)

B-11区で検出された。27個の握り拳大の礫からなる集石で、平均重量は259.8gである。長径約40cm×短径約35cmを測り、約10cmの掘り込みを有する。



第47図 集石遺構



掘立柱建物跡 (第49図～第51図)

掘立柱建物跡と考えられる遺構は、9棟検出された。いずれも柱が4本の1間×1間のもので、簡易な建物であったと思われる。柱穴内等からの遺物は出土していない。各掘立柱建物跡の詳細については、観察表を参考にされたい。なお6号については、掘削深度の関係から、Ⅲ層上面までの発掘調査であったため、平面図実測で終了している。

柱穴列 (第52図～第54図)

3個以上の柱穴が並んだものを柱穴列と見なして掲載した。柱穴3個からなるものが15基、4個、5個、6個からなるものがそれぞれ1基であった。軸は、概ね北西または北北西にとっており、掘り方の平面形状は円もしくは楕円である。

掘立柱建物観察表 (小数点第2位以下は四捨五入)

掘立柱建物跡1号 1間×1間									
柱基	柱穴番号	遺構柱間 (cm)	柱穴番号	掘立柱間 (cm)	PA	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
		P1-P2	212.0	P1-P4	184.0	1	13.0	-	-
	P3-P4	218.0	P2-P3	177.0	2	20.0	22.0	20.0	円
					3	17.0	27.0	25.5	円
					4	33.0	27.0	26.0	円

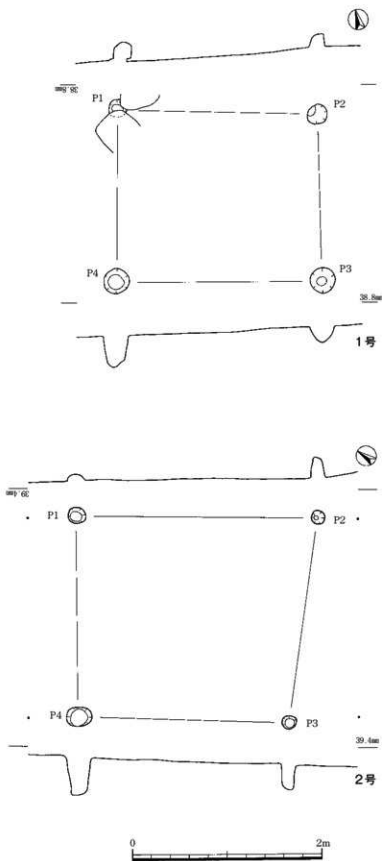
掘立柱建物跡2号 1間×1間									
柱基	柱穴番号	遺構柱間 (cm)	柱穴番号	掘立柱間 (cm)	PA	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
		P1-P2	255.0	P1-P4	212.0	1	7.0	19.0	17.0
	P3-P4	229.0	P2-P3	217.0	2	22.0	15.0	14.0	円
					3	26.0	16.0	14.0	円
					4	41.0	27.0	15.0	楕円

掘立柱建物跡3号 1間×1間									
柱基	柱穴番号	遺構柱間 (cm)	柱穴番号	掘立柱間 (cm)	PA	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
		P1-P2	270.0	P1-P4	220.0	1	52.0	20.0	18.0
	P3-P4	283.0	P2-P3	204.0	2	13.0	21.0	16.0	円
					3	46.0	17.0	15.0	円
					4	43.0	25.0	23.0	円

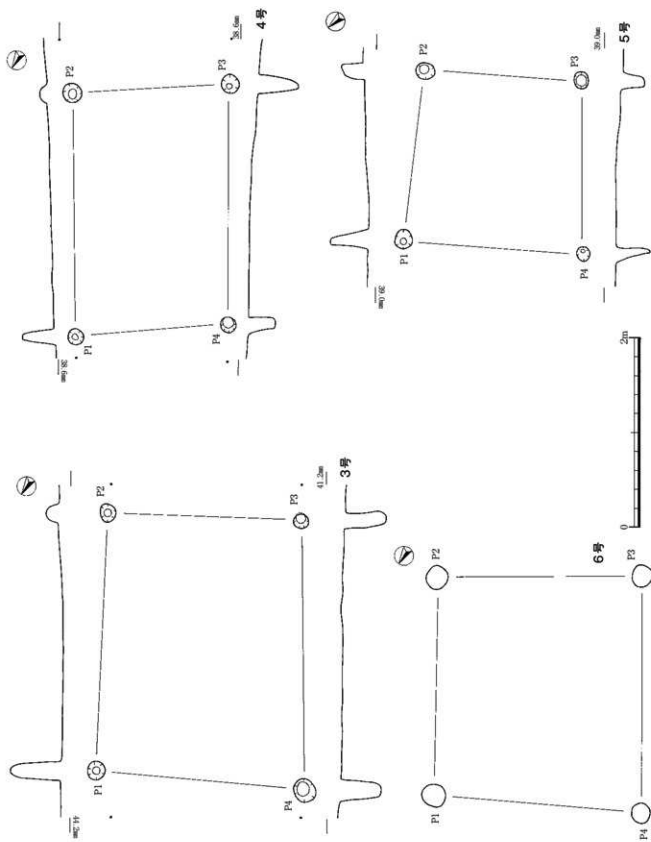
掘立柱建物跡4号 1間×1間									
柱基	柱穴番号	遺構柱間 (cm)	柱穴番号	掘立柱間 (cm)	PA	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
		P1-P2	257.0	P1-P4	162.0	1	38.0	18.5	16.0
	P3-P4	253.0	P2-P3	165.0	2	8.0	21.0	20.0	円
					3	43.0	20.0	19.0	円
					4	29.0	17.0	16.5	円

掘立柱建物跡5号 1間×1間									
柱基	柱穴番号	遺構柱間 (cm)	柱穴番号	掘立柱間 (cm)	PA	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
		P1-P2	180.0	P1-P4	190.0	1	20.0	20.5	19.0
	P3-P4	184.0	P2-P3	165.0	2	25.0	20.0	17.5	円
					3	24.0	18.5	15.0	円
					4	35.0	15.0	14.0	円

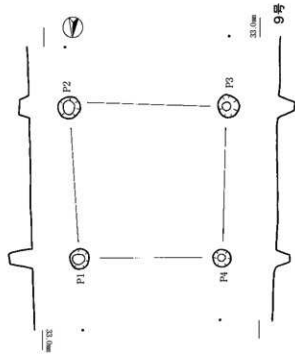
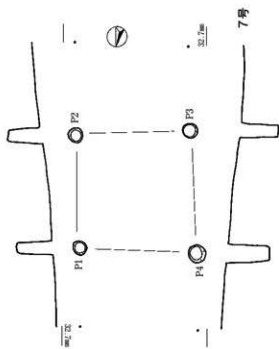
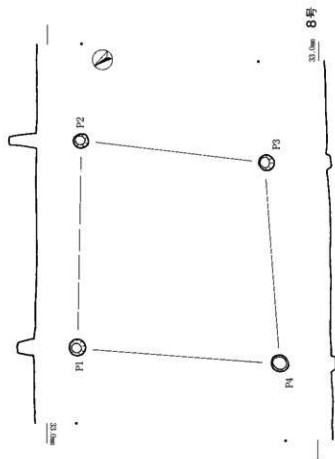
掘立柱建物跡6号 1間×1間									
柱基	柱穴番号	遺構柱間 (cm)	柱穴番号	掘立柱間 (cm)	PA	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
		P1-P2	163.0	P1-P4	155.0	1	-	19.0	17.0
	P3-P4	177.0	P2-P3	155.0	2	-	18.0	16.0	円
					3	-	17.0	15.0	円
					4	-	16.0	14.0	円



第49図 掘立柱建物跡1



第50图 独立柱建筑物 2



振立柱建物跡7号

1階×1階

柱次	形状	柱高	柱径	埋込	埋込	埋込			
番号	断面(cm)	断面(cm)	断面(cm)	深さ	長さ	幅巾			
欄	P1-P2	130.0	P1-P4	132.0	1	37.0	16.0	13.0	円
部	P3-P4	133.0	P2-P3	148.0	2	36.0	16.0	15.0	円
					3	-	16.0	15.0	円
					4	35.0	20.0	13.0	円

振立柱建物跡8号

1階×1階

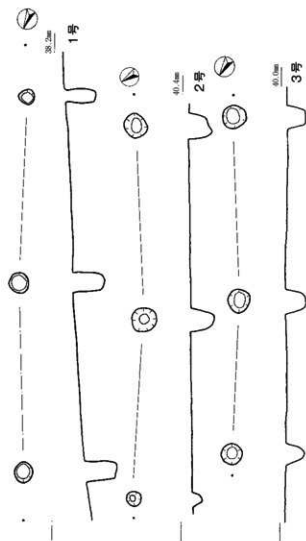
柱次	形状	柱高	柱径	埋込	埋込	埋込			
番号	断面(cm)	断面(cm)	断面(cm)	深さ	長さ	幅巾			
欄	P1-P2	218.0	P1-P4	150.0	1	17.0	17.5	17.0	円
部	P3-P4	213.0	P2-P3	152.0	2	29.0	16.0	15.0	円
					3	5.0	16.0	15.5	円
					4	6.0	17.0	16.0	円

振立柱建物跡9号

1階×1階

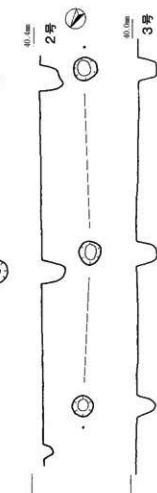
柱次	形状	柱高	柱径	埋込	埋込	埋込			
番号	断面(cm)	断面(cm)	断面(cm)	深さ	長さ	幅巾			
欄	P1-P2	160.0	P1-P4	150.0	1	25.0	21.0	20.0	方
部	P3-P4	160.0	P2-P3	152.0	2	18.0	23.5	22.0	円
					3	17.0	20.0	19.0	円

第51図 振立柱建物跡3



柱穴列1号 B-9

階	深さ (cm)	直径 (cm)	原径 (cm)	掘削方 (cm)	柱脚距離 (cm)	全長 (cm)
1	34.0	22.0	19.0	円	F1-F2 199.0	199.0
2	34.0	23.0	20.0	円	F2-F3 194.0	263.0
3	33.0	16.0	13.5	楕円	F3-F4	



柱穴列2号 C-12

階	深さ (cm)	直径 (cm)	原径 (cm)	掘削方 (cm)	柱脚距離 (cm)	全長 (cm)
1	11.0	16.0	16.0	円	F1-F2 189.0	189.0
2	25.0	26.0	25.0	円	F2-F3 203.0	263.0
3	25.0	17.0	15.0	円	F3-F4	

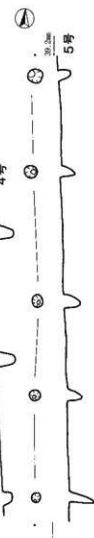


柱穴列3号 D-12

階	深さ (cm)	直径 (cm)	原径 (cm)	掘削方 (cm)	柱脚距離 (cm)	全長 (cm)
1	20.0	23.0	21.0	円	F1-F2 162.0	162.0
2	23.0	26.0	22.0	円	F2-F3 194.0	356.0
3	20.0	25.0	25.0	円	F3-F4	

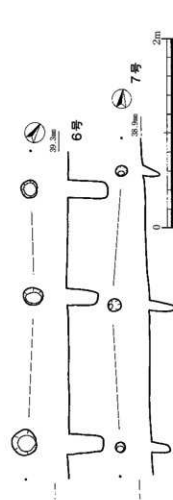
柱穴列4号 E-10

階	深さ (cm)	直径 (cm)	原径 (cm)	掘削方 (cm)	柱脚距離 (cm)	全長 (cm)
1	10.0	16.0	14.0	円	F1-F2 145.0	145.0
2	22.0	18.0	16.0	円	F2-F3 134.0	279.0
3	22.0	17.0	16.0	円	F3-F4	



柱穴列5号 E-11

階	深さ (cm)	直径 (cm)	原径 (cm)	掘削方 (cm)	柱脚距離 (cm)	全長 (cm)
1	27.0	13.0	9.0	円	F1-F2 109.0	109.0
2	15.0	12.0	11.0	円	F2-F3 100.0	430.0
3	17.0	14.0	11.0	楕円	F3-F4 138.0	
4	15.0	14.0	13.0	円	F4-F5 103.0	
5	14.0	16.0	13.0	円		



柱穴列6号 E-12

階	深さ (cm)	直径 (cm)	原径 (cm)	掘削方 (cm)	柱脚距離 (cm)	全長 (cm)
1	20.0	27.0	25.0	円	F1-F2 113.0	113.0
2	33.0	20.0	18.0	楕円	F2-F3 115.0	268.0
3	33.0	19.0	16.0	楕円	F3-F4	

柱穴列7号 F-11

階	深さ (cm)	直径 (cm)	原径 (cm)	掘削方 (cm)	柱脚距離 (cm)	全長 (cm)
1	20.0	11.0	8.0	楕円	F1-F2 151.0	151.0
2	27.0	13.0	12.0	円	F2-F3 141.0	265.0
3	18.0	12.0	10.0	円	F3-F4	



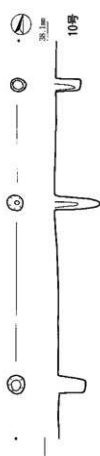
柱穴第8号 F-10

Pk	深さ (cm)	胴径 (cm)	胴体 (cm)	掘り方	柱頭距離 (cm)	全長 (cm)
1	59.0	20.0	19.0	円	P1-P2	242.0
2	55.0	27.0	20.0	掘り	P2-P3	259.0
3	53.0	19.0	15.0	掘り	P3-P4	234.0
4	28.0	19.0	18.0	円	P4-P5	



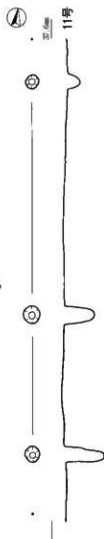
柱穴第9号 G-10

Pk	深さ (cm)	胴径 (cm)	胴体 (cm)	掘り方	柱頭距離 (cm)	全長 (cm)
1	30.0	21.0	20.0	円	P1-P2	161.0
2	44.0	34.0	21.0	掘り	P2-P3	95.0
3	36.0	24.0	23.0	円	P3-P4	



柱穴第10号 G-11

Pk	深さ (cm)	胴径 (cm)	胴体 (cm)	掘り方	柱頭距離 (cm)	全長 (cm)
1	39.0	19.0	17.0	円	P1-P2	193.0
2	48.0	17.0	15.0	円	P2-P3	125.0
3	29.0	15.0	14.0	円	P3-P4	



柱穴第11号 G-10

Pk	深さ (cm)	胴径 (cm)	胴体 (cm)	掘り方	柱頭距離 (cm)	全長 (cm)
1	43.0	17.0	15.0	円	P1-P2	148.0
2	32.0	19.0	18.0	円	P2-P3	205.0
3	13.0	16.0	14.0	円	P3-P4	

柱穴第12号 H-3-4

Pk	深さ (cm)	胴径 (cm)	胴体 (cm)	掘り方	柱頭距離 (cm)	全長 (cm)
1	10.0	14.0	11.0	掘り	P1-P2	184.0
2	11.0	13.0	12.0	円	P2-P3	165.0
3	12.0	16.0	14.0	円	P3-P4	



第53図 柱穴列2

柱穴列13号 G-H-9

深さ (cm)	残存 (cm)	原形 (cm)	掘り方 (cm)	自掘距離 (cm)	全長 (cm)
1	11.0	24.0	22.0	P1-P2	200.0
2	27.0	22.0	22.0	P2-P3	200.0
3	20.0	26.0	16.0	掘り方	25-P4

柱穴列14号 H-1-4

深さ (cm)	残存 (cm)	原形 (cm)	掘り方 (cm)	自掘距離 (cm)	全長 (cm)
1	21.0	16.0	14.0	P1-P2	143.0
2	27.0	17.0	16.0	P2-P3	174.0
3	20.0	17.0	15.0	P4	P3-P4

柱穴列15号 I-5

深さ (cm)	残存 (cm)	原形 (cm)	掘り方 (cm)	自掘距離 (cm)	全長 (cm)
1	17.0	20.0	18.0	P1-P2	133.0
2	19.0	23.0	16.0	掘り方	P2-P3
3	27.0	18.0	17.0	P4	P3-P4

柱穴列16号 J-5

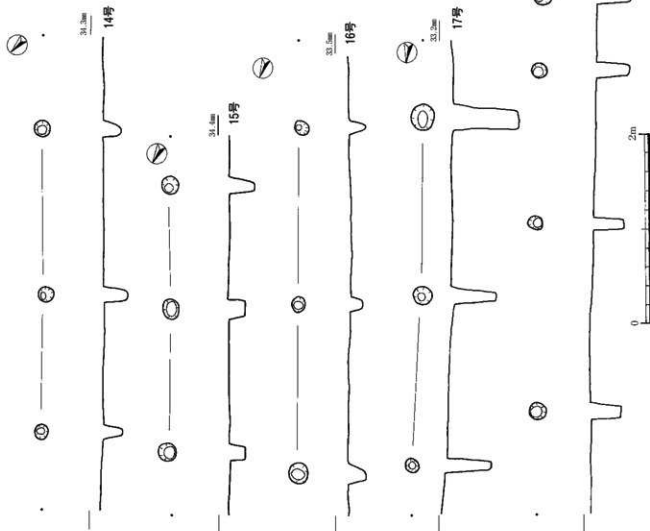
深さ (cm)	残存 (cm)	原形 (cm)	掘り方 (cm)	自掘距離 (cm)	全長 (cm)
1	19.0	22.0	20.0	P1-P2	178.0
2	14.0	16.0	14.0	P4	P2-P3
3	17.0	15.0	14.0	P4	P3-P4

柱穴列17号 J-4

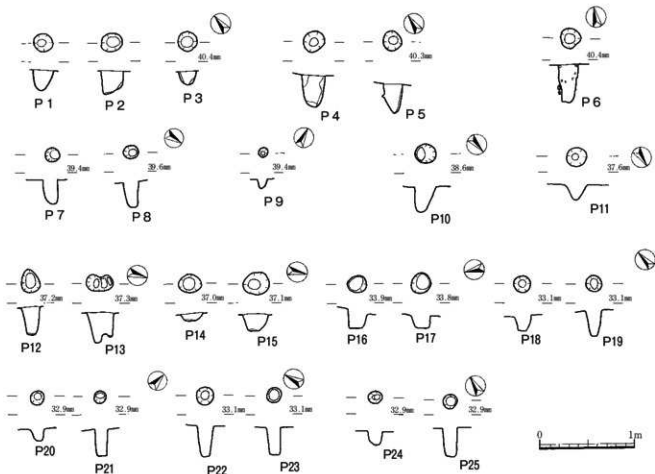
深さ (cm)	残存 (cm)	原形 (cm)	掘り方 (cm)	自掘距離 (cm)	全長 (cm)
1	48.0	15.0	14.0	P4	P1-P2
2	26.0	14.0	14.0	P2-P3	157.0
3	20.0	29.0	24.0	掘り方	25-P4

柱穴列18号 I-4

深さ (cm)	残存 (cm)	原形 (cm)	掘り方 (cm)	自掘距離 (cm)	全長 (cm)
1	22.0	18.0	17.0	P4	P1-P2
2	33.0	15.0	13.0	P4	P2-P3
3	35.0	16.0	16.0	P4	P3-P4
4	20.0	18.0	15.0	P4	P4-P5
5	27.0	16.0	15.0	P4	P4-P6
6	37.0	23.0	16.0	掘り方	



第54図 柱穴列3



第55図 柱穴

各柱穴列の詳細については観察表を参考にされた
い。

柱穴（第55図）

柱穴が1個もしくは2個で、柱穴列にならな
かったものを掲載した。

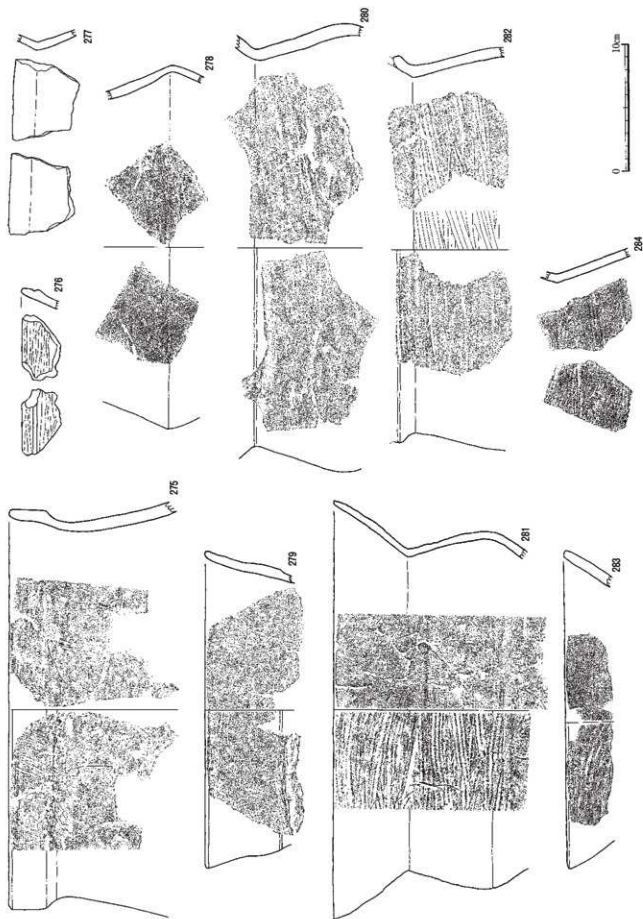
(2) 遺物

①土器（第56図～第58図）

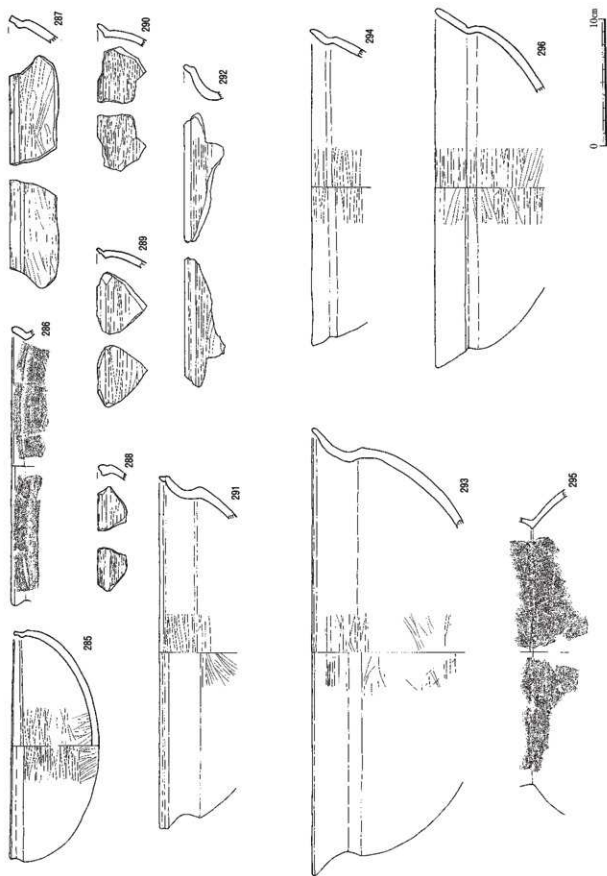
土器はⅧ類～ⅩⅩ類に分類した。

275～294は深鉢形土器である。275～279はⅧ類土
器に分類されるものである。275は口縁部文様帯の
一部に縦位の沈線が見られるもの、他は無紋であ
る。276は口縁部文様帯に2条の沈線を有する。
280～284はⅩⅩ類土器に分類されるものである。
280は口縁部がやや内湾しながら「逆ハの字」上に開
き、外面に条痕文が施される。

Pit	区	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	C-12	22.0	20.0	19.0	円
2	C-12	26.0	23.0	17.0	円
3	C-12	15.0	22.0	20.0	円
4	D-13	35.0	24.0	23.0	円
5	D-13	31.0	20.0	19.0	円
6	D-13	41.0	22.0	21.0	円
7	E-12	25.0	15.0	13.0	円
8	E-12	28.0	16.0	14.0	円
9	E-12	10.0	10.0	10.0	円
10	F-12	27.0	22.0	16.0	円
11	G-10	16.0	21.0	20.0	円
12	G-9	30.0	30.0	19.0	楕円
13	G-9	33.0	重複		
14	H-9	8.0	22.0	2.0	円
15	H-9	19.0	27.0	24.0	円
16	I-5	20.0	20.0	17.0	円
17	I-5	13.0	21.0	20.0	円
18	J-4	18.0	18.0	17.0	円
19	J-4	28.0	17.0	17.0	円
20	J-4	13.0	15.0	15.0	円
21	J-4	29.0	14.0	13.0	円
22	I-3	34.0	19.0	18.0	円
23	I-3	30.0	17.0	15.0	円
24	I-3	15.0	15.0	13.0	円
25	I-3	30.0	16.0	15.0	円



第56圖 縄文時代晚期 土器 1

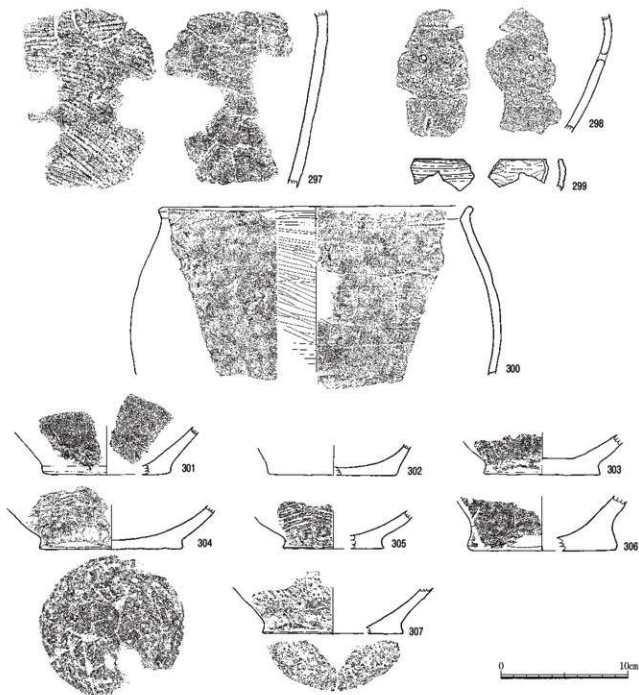


285～296は浅鉢形土器である。全てXⅨ類土器に分類した。286～290は浅いマリ状の形状を呈するもので、口縁部から頸部、頸部から肩部の幅が短い。器面調整は内外面とも丁寧なミガキが施される。281～285は口縁部がやや長くのびるものである。器面調整は内外面ともミガキ調整である。

286は頸部から肩部が長くなるものである。

297・298は深鉢形土器の胴部である。XⅧ類土器に分類されるものと思われる。297は条痕文による外面調整が施される。298は胴部に補修孔が穿たれたものである。補修孔の形状は円形を呈し、ドリル状の工具であけられたものと思われる。

299・300はXⅩ類に分類されるものである。299は口縁部がやや内湾し、5条の沈線が回るものであ



第58図 縄文時代晩期 土器3

る。浅いマリ状の形状になるものと思われる。300は口縁部が短く、口唇部は平坦につくられる。胴部は丸みを帯び、外面は丁寧なミガキ調整が施される。内面はヘラ状の工具によるナデ調整である。

301~307は、XⅦ類またはXⅧ類土器の底部である。301・302は底部と胴部の境がはっきりしない形状のものである。303・307は底部と胴部の境がはっきりしており、線れが見られるものである。

②石器 (第59図~第65図)

縄文時代晩期の石器は石鏃、石匙、石斧、磨石、石皿などが出土している。

石鏃 (第59図 308~324・第60図 325~346)

石鏃は、39点図化した。すべて打製石鏃でほとん

どのものが丁寧な交互剥離が施されている。欠損しているものは18点あった。石鏃分類表を元に分類を行うと括りの深いものが多かった。石材は黒曜石が多く19点あった。

石匙 (第61図 347・348)

石匙は2点図化した。側縁部に明瞭な括りが施され、つまみ部が形成されている。下部にも剥離が施されている。Ⅲ層で検出されたため晩期に掲載したが形状や層の攪乱等から早期の可能性もあるものである。

楔形石器・スクレイパー (第61図 349・350)

349は黒曜石製の楔形石器である。側縁に剥離を施している。350は横型のスクレイパーである。一部欠損しているが、側縁部に剥離を施している。

縄文時代後期・晩期 土器、その他の遺物観察表

採集番号	図録番号	部位	出土区	色調		胎土				完成	外 面	内 面	製	遺物番号	備 考
				内	外	石莖	長石	角閃石	その他						
第59図	272	Ⅰ線-胴部	B-10	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	赤褐色、灰白色	ナデ	Ⅲ	308, 310, 311	磨石、赤褐色
	273	Ⅰ線	F-9	明赤	明赤	○	○	○	○	良	赤褐色	ナデ	Ⅲ	267	赤褐色
	274	Ⅰ線-底部	B-10	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	308, 312, 314	赤褐色
	275	Ⅰ線-胴部	G, F-10	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	ミガキナデ	ナデ	Ⅲ	309, 304, 305, 313, 314, 315, 316, 317	土曜登壇、漆鉢
第60図	276	Ⅰ線-胴部	D-4	黄	黄	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	261	漆鉢
	277	Ⅰ線部	B-10	灰黄	明黄	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	317	
	278	Ⅰ線-胴部	E-11	にぶい青	黄	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	70	漆鉢
	279	胴部	B-4	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	288	
	280	Ⅰ線-胴部		明黄	明黄	○	○	○	○	良	貝殻赤褐色	ヘラナデ	Ⅲ		漆鉢
	281	Ⅰ線-胴部	F-11	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	ナデ	ヘラナデ	Ⅲ	294, 107	漆鉢
	282	胴部	F-9	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	286, 287, 288	
	283	Ⅰ線部	F-10	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	ヘラナデ	ナデ	Ⅲ	124, 125, 131	
	284	胴部-胴部	B-11	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	1	漆鉢
	第61図	285	完形品	C-12	にぶい青	明赤	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	324
286		Ⅰ線部	D-12	明黄	黄	○	○	○	○	良	1.ミガキ	ナデ	Ⅲ	314, 313, 313, 316	漆鉢
287		Ⅰ線部	F-8	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	262	漆鉢
288		Ⅰ線部	F-9	明赤	黄	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	260	漆鉢
289		Ⅰ線部	F-11	黄	黄	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	91	漆鉢
290		Ⅰ線部	F-11	黄	黄	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	92	漆鉢
291		Ⅰ線部	D-12	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	3107, 3108, 3143, 3175	漆鉢
292		Ⅰ線部	F-11	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	83	漆鉢
293		Ⅰ線部	C-12	にぶい青	明黄	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	324	漆鉢
294		Ⅰ線部	C-12	明赤	黄	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	2994, 2996, 3286, 2995, 3003, 3032	漆鉢
295		Ⅰ線部		にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ		漆鉢
296		胴部	C-12	灰黄	にぶい青	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	3038	漆鉢
第62図	297	胴部	F-8, 11	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	貝殻赤褐色	ナデ	Ⅲ	287, 288, 289, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298	漆鉢
	298	胴部	C-12	黄	明黄	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	3064, 3069, 3076	漆鉢
	299	Ⅰ線部	B-10	灰黄	明黄	○	○	○	○	良	沈褐色、1.ミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	417	
	300	Ⅰ線-胴部	N-8, 7	灰	灰黄	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	607	
	301	底部	I-5	にぶい青	黄	○	○	○	○	良	ヘラナデ	ナデ	Ⅲ	底部 392	
	302	底部	B-12	黄	明黄	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	底部 3116	
	303	底部	D-4	黄	黄	○	○	○	○	良	ヘラナデ	ナデ	Ⅲ	底部 1828, 2834, 2842	
	304	底部	E-11	にぶい青	にぶい青	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	底部 70	
	305	底部	C-12	灰黄	にぶい青	○	○	○	○	良	貝殻赤褐色	ナデ	Ⅲ	底部 3068, 3079	
	306	底部	E-11, 12	黄	黄	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	底部 55, 64	
第66図	307	底部	E-12	にぶい青	黄	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	底部 34, 50	
	324	Ⅰ線部	I-10	にぶい青	黄	○	○	○	○	良	ナデ	ヘラナデ	Ⅲ	成肉 486	
	325	Ⅰ線部	D-4	にぶい青	黄	○	○	○	○	良	ヘラミガキ	1.ミガキ	Ⅲ	成肉 289	
	326	Ⅰ線部	B-9	にぶい青	黄	○	○	○	○	良	ナデ	ナデ	Ⅲ	成肉 480	

石包丁・ノミ形石器 (第61図 351・352)

351は頁岩製の石包丁である。ほとんどが欠損しているが、下部と一部の側面は磨痕による刃部形成が行われている。352は頁岩製のノミ形石器である。棒状で各面に磨痕が施されている。

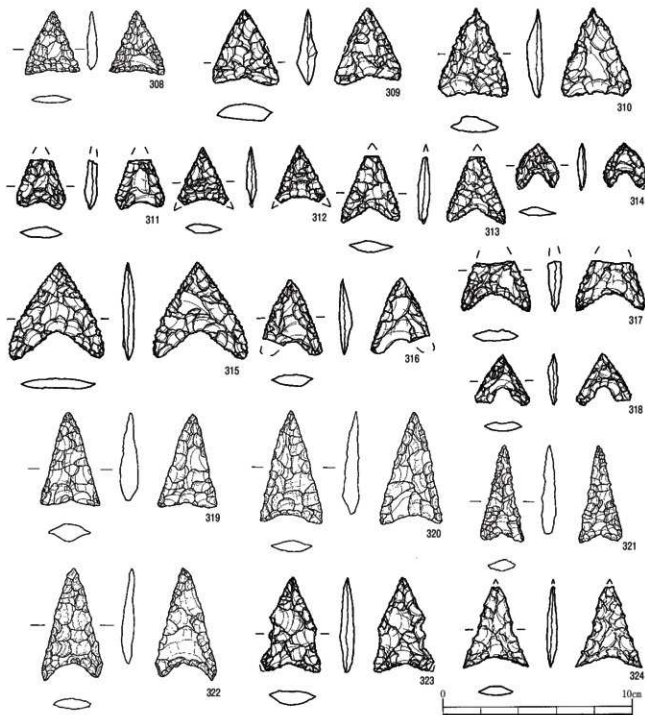
剥片・礫器 (第61図 353・354)

353は薄型剥片である。側縁部に剥離が施されて

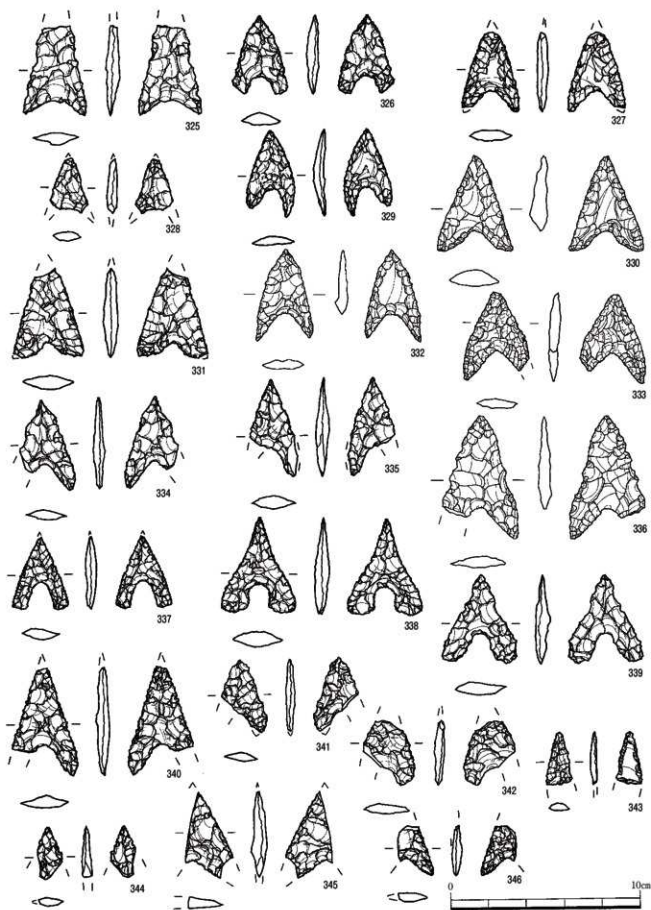
いる。354は礫器である。側縁に剥離を施し刃部形成が行われている。

石斧 (第62図 355~363)

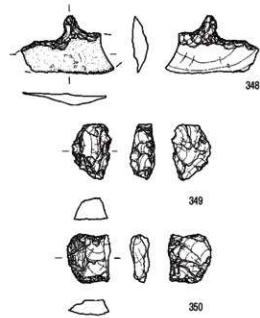
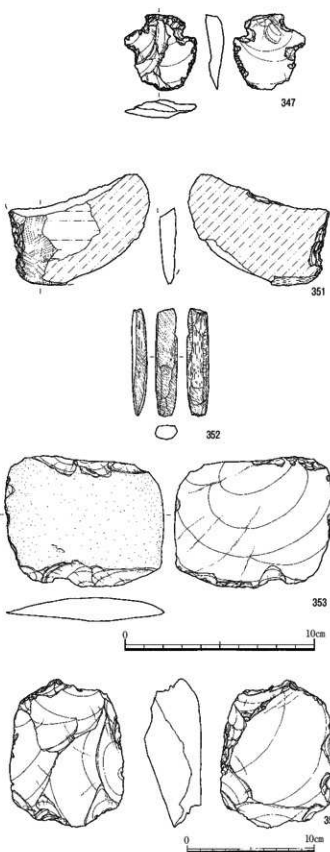
355~358は磨製石斧である。359~363は打製石斧である。355は全面を丁寧な敲打形成をした後で刃部を中心に研磨が施される。356は全面に敲打による剥離が施される上部である。一部磨痕があること



第59図 縄文時代晩期 石器1



第60図 縄文時代晩期 石器2



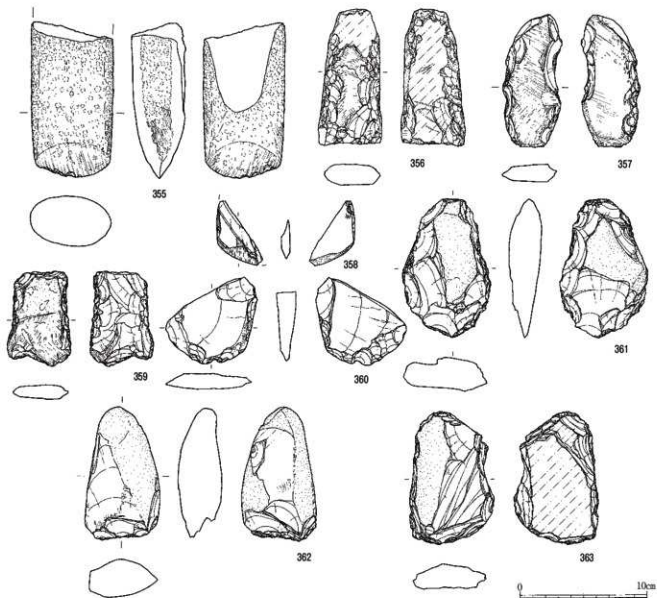
から磨製石斧であると思われる。

357は両面に丁寧な磨痕が施され、側縁は敲打による剥離が施されている。358は磨製石斧の刃部である。359は刃部が敲打によって欠損している。360は刃部に剥離が施されている。361は自然面を利用し側縁部に敲打による剥離が施されている。362は自然面を利用した縦長剥片を用い、側縁に敲打を施すものである。下部は欠損している。362は全側面敲打による剥離が施されている。

磨石・敲石 (第63図 364~368・第64図 369)
 円礫を用い、両面に作業面を施すものが多かった。368と369は磨石の機能と敲石の機能を持つものである。

石皿 (第64図 370~372・第65図 373)
 4点を図化した。370~372は両面作業面のあるもの。373は片面のみの作業面である。敲打痕などはみられなかった。

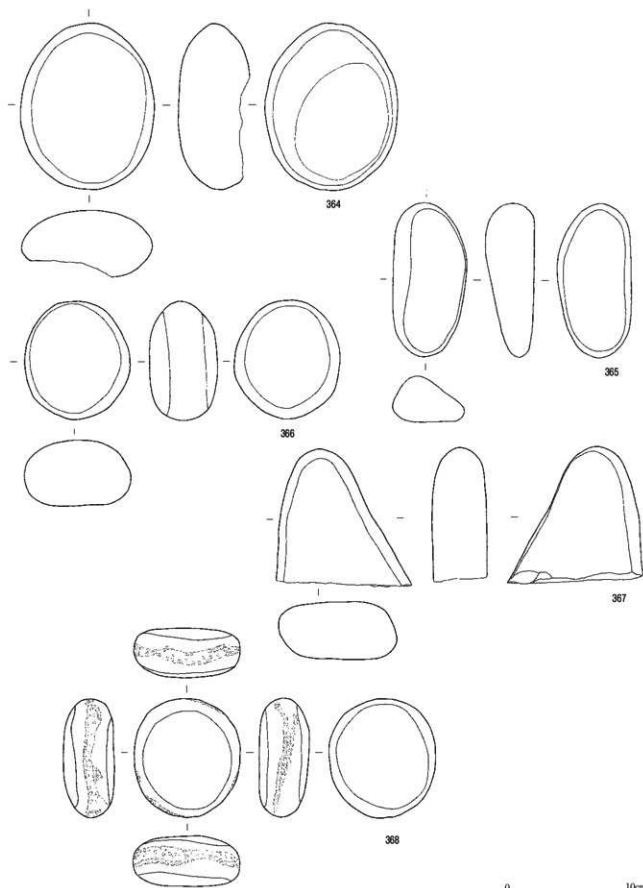
第61図 縄文時代晩期 石器3



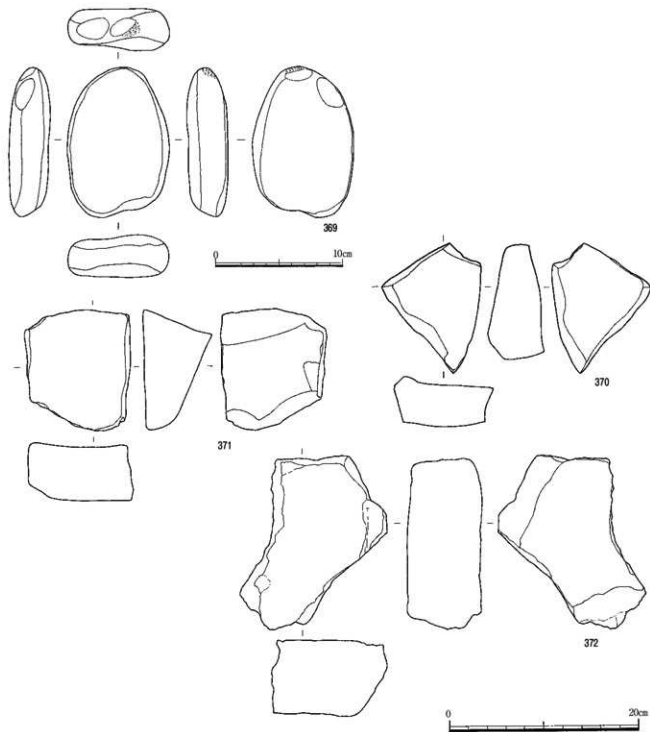
第62図 縄文時代晩期 石器4

縄文時代晩期 石器観察表 1

種別 番号	掲載 番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	遺物番号	備考
第 60 図	308	打製石鏃	G-11	Ⅲ	黒曜石A	1.75	1.45	0.20	0.47	510	A-a-a
	309	打製石鏃	I-9	Ⅲ	黒曜石B	2.00	1.75	0.45	1.10	489	A-a-a
	310	打製石鏃	C-5	Ⅲ	頁岩	2.40	1.85	0.45	1.42	2574	A-a-a
	311	打製石鏃	C-5	Ⅲ	シルト質頁岩	1.30	1.45	0.35	0.52	2612	A-a-b
	312	打製石鏃	E-12	Ⅲ	黒曜石A	1.60	1.30	0.25	0.32	49	A-a-b
	313	打製石鏃	H-9	Ⅲ	黒曜石B	1.80	1.45	0.35	0.30	486	A-a-b
	314	打製石鏃	H-10	Ⅲ	黒曜石B	1.20	1.15	0.25	0.62	406	A-a-c
	315	打製石鏃	D-4	Ⅲ	頁岩	2.50	2.30	0.25	1.41	2269	A-a-c
	316	打製石鏃	D-4	Ⅲ	頁岩	2.00	1.50	0.35	0.66	2851	A-a-c
	317	打製石鏃	G-11	Ⅲ	黒曜石C	1.30	1.40	0.35	0.71	511	A-a-c
	318	打製石鏃	C-12	Ⅲ	頁岩	1.30	1.15	0.25	0.28	3093	A-a-d
	319	打製石鏃	F-10	Ⅲ	安山岩	3.00	1.65	0.35	1.48	175	A-a-a
	320	打製石鏃	E-11	Ⅲ	黒曜石B	2.60	1.55	0.50	1.10	71	A-b-b
	321	打製石鏃	D-5	Ⅲ	黒曜石	2.50	1.10	0.35	0.62	2867	A-b-b
	322	打製石鏃	D-4	Ⅲ	シルト質頁岩	3.10	1.60	0.35	1.13	2830	A-b-b
	323	打製石鏃	D-4	Ⅲ	チャート	2.50	1.60	0.40	1.27	2822	A-b-b
324	打製石鏃	D-5	Ⅲ	黒曜石	2.20	1.55	0.25	0.72	2881	A-a-b	
第 60 図	325	打製石鏃	C-4	Ⅲ	頁岩	2.40	1.60	0.35	1.16	1841	A-a-b
	326	打製石鏃	C-4	Ⅲ	安山岩	2.10	1.35	0.40	0.74	1843	A-b-c
	327	打製石鏃	C-12	Ⅲ	黒曜石B	2.00	1.40	0.35	0.81	3091	A-b-c
	328	打製石鏃	C-4	Ⅲ	黒曜石A	1.40	1.05	0.25	0.36	2673	A-b-c
	329	打製石鏃	F-11	Ⅲ	シルト質頁岩	2.30	1.25	0.25	0.71	80	A-b-c
	330	打製石鏃	G-9	Ⅲ	玉髓	2.60	1.75	0.45	1.56	505	A-b-c



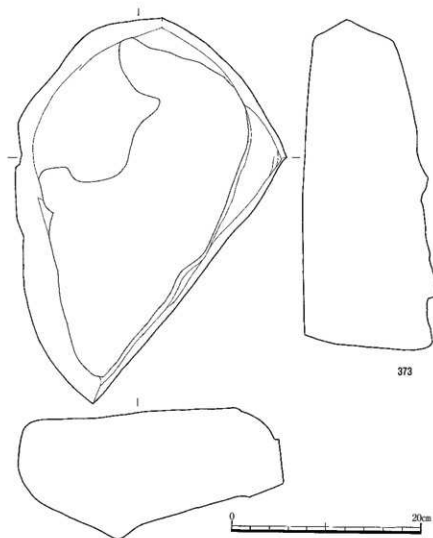
第63図 縄文時代晩期 石器5



第64図 縄文時代晩期 石器6

縄文時代晩期 石器観察表2

挿入番号	掲載番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	遺物番号	備考
第60図	331	打製石鏃	D-5	Ⅲ	黒曜石B	2.40	1.75	0.40	1.33	2873	A-b-c
	332	打製石鏃	H-9	Ⅲ	頁岩	2.30	1.40	0.25	0.68	487	A-b-c
	333	打製石鏃	I-10	Ⅲ	シルト質頁岩	2.30	1.65	0.25	0.82	497	A-b-c
	334	打製石鏃	H-10	Ⅲ	シルト質頁岩	2.40	1.25	0.25	0.62	326	A-b-c
	335	打製石鏃	D-4	Ⅲ	黒曜石B	2.60	1.20	0.40	0.72	2852	A-b-c
	336	打製石鏃	G-9	Ⅲ	黒曜石B	3.20	1.95	0.35	1.30	501	A-b-c
	337	打製石鏃	C-4	Ⅲ	玉髓	1.90	1.15	0.35	0.53	2725	A-b-a
	338	打製石鏃	E-12	Ⅲ	黒曜石B	2.50	1.65	0.45	1.18	53	A-b-d
	339	打製石鏃		表採	安山岩	2.30	1.65	0.25	0.95		A-b-d
	340	打製石鏃	F-9	Ⅲ	黒曜石B	2.90	1.60	0.35	1.08	275	A-b-d
	341	打製石鏃	F-11	Ⅲ	黒曜石A	1.95	0.95	0.25	0.35	76	A-b-?
	342	打製石鏃	I-5	Ⅲ	黒曜石A	1.70	1.30	0.35	0.54	1921	A-b-?
	343	打製石鏃	D-5	Ⅲ	黒曜石	1.40	0.65	0.20	0.15	2874	A-?-?
	344	打製石鏃	D-4	Ⅲ	黒曜石B	1.40	0.70	0.25	0.23	2823	A-?-?
	345	打製石鏃	C-12	Ⅲ	黒曜石	2.30	1.30	0.35	0.77	3052	?
	346	打製石鏃	D-5	Ⅲ	黒曜石C	1.30	0.80	0.25	0.30	2864	?



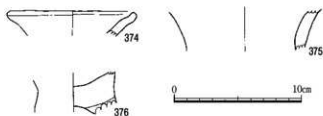
第65図 縄文時代晩期 石器7

縄文時代晩期 石器観察表3

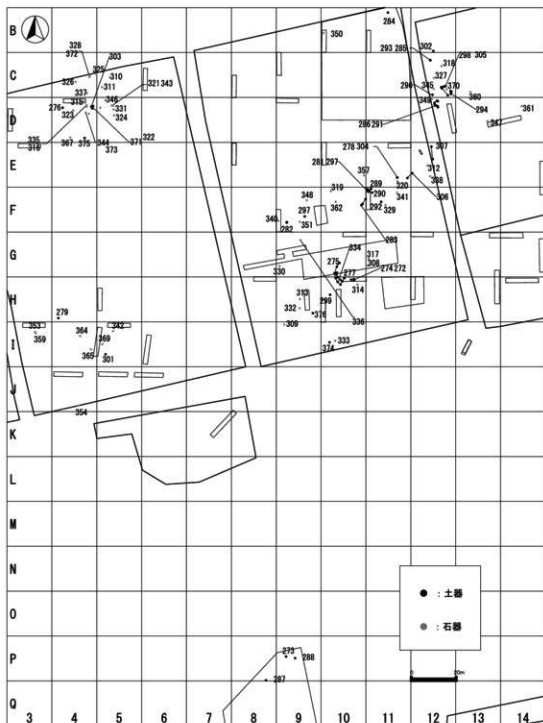
採回 番号	掲載 番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	遺物 番号	備考
第61 区	347	石匙	D-13	Ⅲ	チャート	4.00	5.60	1.50	1.17	2300	
	348	石匙	F-9	Ⅲ	玉髓	3.10	5.00	0.85	6.28	180	
	349	楔形石器	D-12	Ⅲ	黒曜石	2.95	1.80	1.10	6.45	3098	
	350	スクレイパー	B-10	Ⅲ	黒曜石	2.25	1.00	0.80	6.60	23	※コアを2次加工
	351	石袋丁	F-9	Ⅲ	頁岩	4.30	7.25	0.90	34.63	197	
	352	ノミ形石器	E-8	9T	頁岩	5.75	1.15	0.80	8.53		
	353	剥片	I-3	Ⅲ	頁岩	6.70	8.35	1.30	85.25	1944	
	354	剥片	I-4	Ⅲ	頁岩	11.65	9.05	4.40	500.00	1951	
	355	磨製石斧		表採	頁岩	12.30	6.50	4.30	500.00		※金峰山ホルンフェルス
	356	局部磨製石斧		表採	頁岩	10.65	5.05	1.70	141.10		
第62 区	357	磨製石斧	E-10	Ⅲ	頁岩	4.10	2.85	0.70	9.48	473	割れ
	358	局部磨製石斧		表採	頁岩	7.40	5.00	1.20	66.82		割れ
	359	打製石斧	I-3	Ⅲ	頁岩	6.20	6.75	1.20	73.76	1945	
	360	打製石斧	C-13	Ⅲ	頁岩	10.90	6.90	2.45	200.00	3280	
	361	打製石斧	D-14	Ⅲ	頁岩	10.55	5.95	3.60	300.00	3223	
	362	打製石斧	F-10	Ⅲ	頁岩	10.40	4.60	1.60	101.72	174	
	363	打製石斧		表採	頁岩	10.45	6.65	1.90	177.74		
	364	磨石	I-4	Ⅲ	安山岩	13.10	10.30	5.20	1100.00	1942	
	365	磨石・磨石	I-4	Ⅲ	砂岩	12.10	5.30	4.00	300.00	1940	
	366	磨石・磨石	G-9	Ⅲ	安山岩	9.25	8.30	5.10	600.00	282	
第63 区	367	磨石・磨石	D-4	Ⅲ	砂岩	10.70	10.60	4.40	700.00	2819	
	368	磨石・磨石		T	砂岩	9.40	8.40	4.00	485.00	表	
	369	磨石・磨石	I-5	Ⅲ	砂岩	11.50	8.00	3.20	453.00	1929	
	370	石皿	C-12	Ⅲ	安山岩	13.80	10.30	7.70	800.00	3080	
第64 区	371	石皿	D-4	Ⅲ	砂岩	12.70	11.10	7.20	1300.00	2859	
	372	石皿	C-4	Ⅲ	凝灰岩	18.00	11.90	7.70	2800.00	3676	
第65 区	373	石皿	D-4	Ⅲ	砂岩	40.75	28.70	14.00	1920.00	1830	

第6節 その他の遺物 (第66図 374~376)

本遺跡では、古墳時代以降に相当する包含層の多くが削平を受けたが、一部で包含層が残存し、数点の遺物を出土していたため、ここで掲載しておきたい。374・375は成川式土器の壺の口縁部である。375は先端が欠損している。376は菱形土器の底部であるが、脚部の先端が欠損している。



第66図 その他の遺物



第67図 縄文時代後期・晩期, その他の遺物出土状況

第7節 小結

中尾遺跡の現地地形は緩やかに傾斜した平坦な台地であるが、発掘調査から馬の背状の尾根が東西方向に数条走る旧地形を想定できる。尾根部分は、圃場整備等による攪乱をうけて古代～近世の包含層の大部分を消失し、一部では表土直下に縄文時代早期～旧石器時代の包含層が出現した。Ⅺ層上面までの調査は、調査深度の大きい尾根部分に相当するB～D-9～11区と、下層確認トレンチに限られた。縄文時代草創期の遺構・遺物が出土したB-13～15区などその他の調査区は、包含層の上部のみの調査で、遺構配置・遺物出土状況は限定的なものである。

調査の結果、中尾遺跡は旧石器時代～古墳時代の複合遺跡で、縄文時代草創期と縄文時代晩期の遺構・遺物を主とした遺跡であることが判明した。

(1) 旧石器時代

旧石器時代は、Ⅷ層から下位の層に該当する。Ⅷ層より下位の層を埋土とする落とし穴状遺構1基と土坑2基が、G-9～11区で検出された。Ⅷ層は縄文時代草創期とも重なり、Ⅷ層出土の石器は旧石器時代と縄文時代草創期が混在している。Ⅷ層出土遺物の中から、ナイフ形石器と台形石器、三稜尖頭器、両面加工尖頭器を旧石器時代の遺物とした。8点の旧石器が出土したB-10区周辺は第6図と第28図の出土状況の比較から、石器製作址であった可能性も考えられる。

(2) 縄文時代草創期

縄文時代草創期では、調査区北側のB～D-9～11区を中心に、集石遺構10基と連穴土坑8基、落とし穴状遺構4基、土坑3基が検出され、隆帯土器と石斧などの石器、頁岩類、黒曜石などの剥片が出土した。一部の集石遺構と連穴土坑は近接して検出され、重複した状態3組、隣接した状態1組が検出された。連穴土坑は、平坦部の傾斜面際から、北東軸4基と北西軸3基、東西軸1基を検出された。B-14～15区では、集石遺構の礫より下面を未調査であり、連穴土坑の存在は未確認である。

隆帯土器は、隆帯上に連続して指頭圧痕を施したものが大半を占め、太い隆帯文が多数であり、細い隆帯文や密接したものは少数であった。口唇部内面に張り出すものや屈曲部が肥厚するものが目立った。少数であるが、隆帯文が垂下するものや隆帯文の端部のあるもの、爪形文を施されたもの、無文の

ものも出土した。C-11区では遺物を伴った集石遺構と連穴土坑の間で、隆帯土器や石斧、頁岩類の剥片の集中が確認された。

(3) 縄文時代早期

縄文時代早期の包含層であるⅣ層は、攪乱と調査深度の関係から、前後の時期より調査面積が小さい。調査区北側で遺構・遺物が出土した。

早期土器では、Ⅵ類を前平式土器、Ⅶ類を加栗山式土器、Ⅷ類を吉田式土器、Ⅸ類を石坂式土器、Ⅹ類を桑ノ丸式土器、Ⅺ類を中原式土器、Ⅻ類を押型文式土器、Ⅼ類を縄目文土器、Ⅽ類を右京西式土器、Ⅾ類を右京西式の文様で尖底の土器、Ⅿ類を形式不明の土器に比定される。調査区東側では集石遺構2基と押型土器、石斧などの石器を検出・出土した。調査区西側では石坂式土器が出土した。

(4) 縄文時代後期・晩期

縄文時代後期では、市来式土器が出土した。縄文時代晩期では、集石遺構2基と1間×1間の掘立柱建物跡9軒、柱穴列18基、柱穴25個が検出された。晩期土器では、ⅰ類を市来式土器、ⅱ類を上加世田式土器、ⅲ類を入佐式土器、ⅳ類をその他の土器に比定される。

(5) 古墳時代

D-4区で、数点の成川式土器が出土した。

<参考文献>

- 鹿児島県教育委員会「加治屋園遺跡」1981 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(14)
- 吹上町教育委員会「塚ノ越遺跡ほか」1990 吹上町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
- 鹿児島市教育委員会「掃除山遺跡」1992 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(12)
- 西之表市教育委員会「奥ノ仁田遺跡・奥嵐遺跡」1995 西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(7)
- 加世田市教育委員会「柵ノ原遺跡」1998 加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書(15)
- 西之表市教育委員会「鬼ヶ野遺跡」2004 西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(14)
- 始良町教育委員会「建昌城跡 平成11～15年度」2005 始良町埋蔵文化財発掘調査報告書(10)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター「三角山遺跡群(3)」2006 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(96)

荒 田 遺 跡

第V章 荒田遺跡の発掘調査成果

第1節 調査の経過

荒田遺跡は平成14年に本調査を実施した。本遺跡は研究水田用地造成のための発掘調査を行った。尾根状の台地全体にわたる遺跡である。近隣には秋葉遺跡、桜谷遺跡がある。調査は平成14年5月12日から11月5日まで行い、実働日数は89日であった。

平成14年度 日記抄

5月 表土剥ぎ。U・9・10区Ⅲ～Ⅴ層掘り下げ、遺物取り上げ。1号～11号集石検出・実測・写真撮影。トレンチ設定、掘り下げ、土層断面図作成、写真撮影。T・U・9区Ⅳ～Ⅴ層掘り下げ。

6月 T・8・9区Ⅳ層掘り下げ、遺物取り上げ。4号集石下部掘り込み。コンタ図作成。土坑1～3号掘り下げ、土坑断面図作成。S・8区掘り下げ。集石遺構掘り下げ、実測、写真撮影。

7月 S・8・9区Ⅳ層掘り下げ。土坑4号検出、

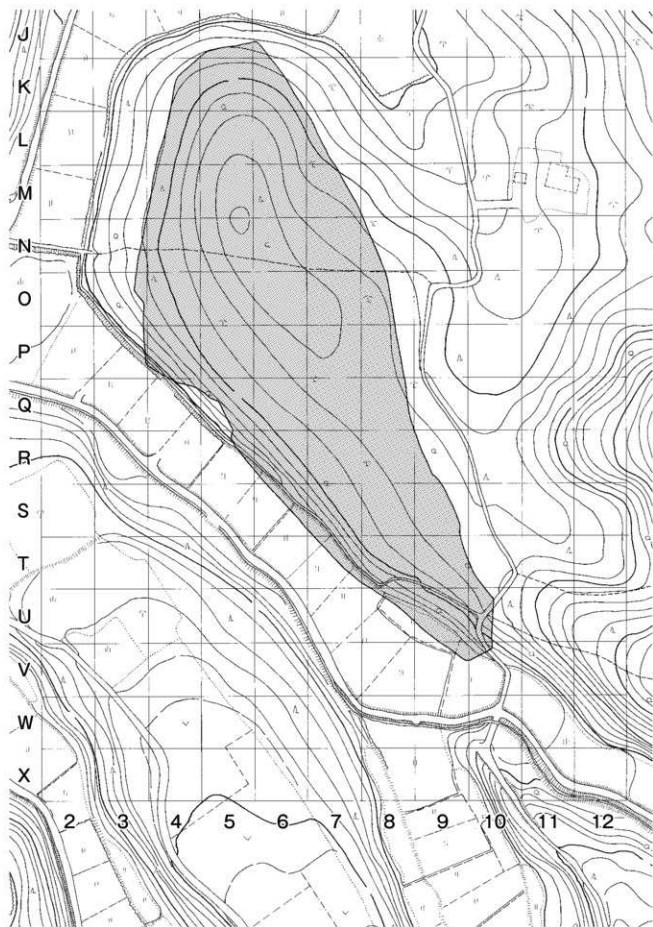
実測、写真撮影。R・U・8区Ⅳ層掘り下げ。S・R・7区表土～Ⅳ層掘り下げ。T・8・9区表土除去。19～22号集石検出、実測、写真撮影。遺物取り上げ。S・R・8・9区、T・9区コンタ図作成。Ⅶ層、Ⅷ層掘り下げ。

8月 R・6、R・S・7・8・9区トレンチ掘り下げ。R・S・6区表土剥ぎ、Ⅳ層掘り下げ。U・7・8・9区、F・8区Ⅶa、Ⅶb層掘り下げ。P・Q・5区Ⅳ層掘り下げ。R・S・6・7区Ⅳ層コンタ図作成。R・S・8・9区、T・9区土層断面図作成。T・U・V・8・9・10区Ⅷ層遺物取り上げ。

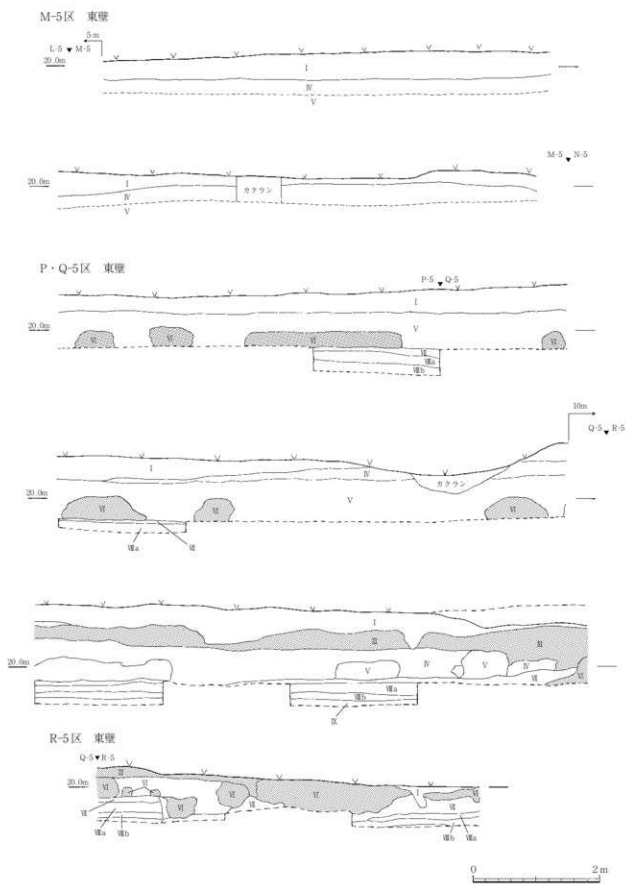
9月 P・6・7区、Q・7区Ⅳ層掘り下げ。コンタ図作成。U・8・9区Ⅷb層掘り下げ。S・7、R・S・6・7区Ⅷa層、P・Q・6・7区Ⅴ層コンタ図作成。遺物取り上げ。S・T・7区土層断面図作成。R・8・9区北側土層断面図作成。



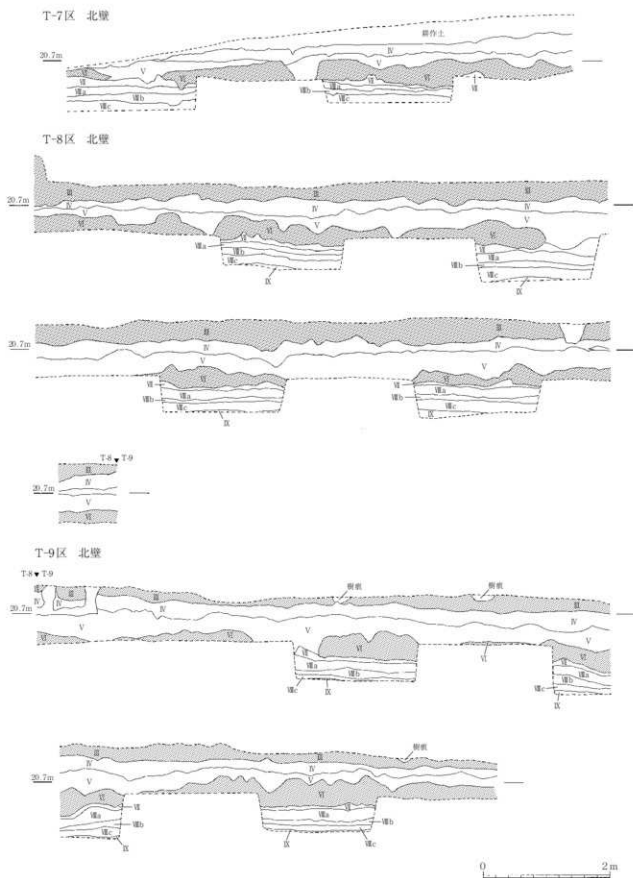
第1図 荒田遺跡位置図 (1/25000)



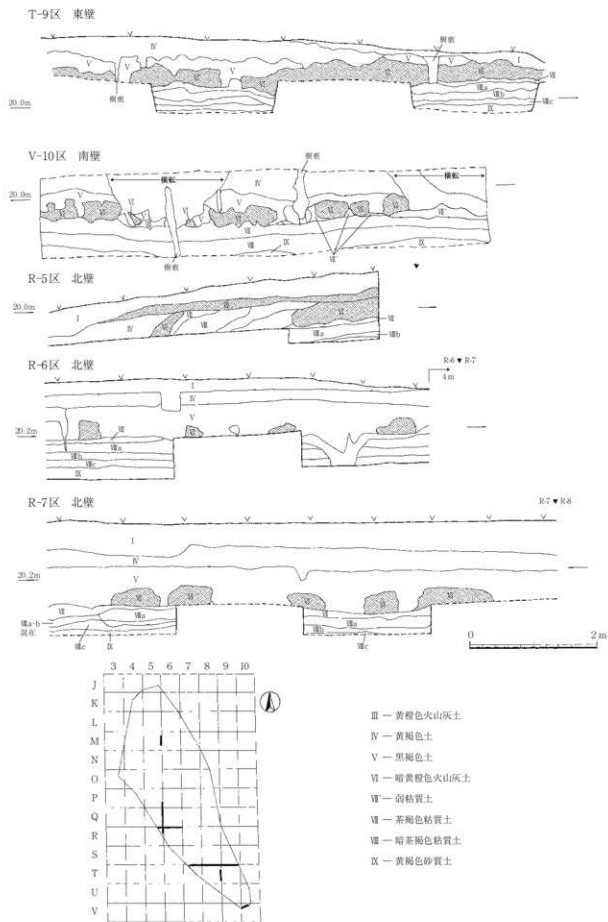
第2図 地形図及びグリッド配置図



第3図 土層断面図1



第4图 土层断面图2



第5圖 土層断面圖3

- 10月 N・O・P・Q-4・5区Ⅶ層掘り下げ。
L・M-4・5・6・7区Ⅳ層掘り下げ。
コンタ図作成。遺物取り上げ。M-4・
5・6区トレンチ掘り下げ。土層断面図作
成。28号集石実測。O-6・7区トレンチ
土層断面図作成。写真撮影。
- 11月 土層断面図作成。集石実測。

第2節 遺跡の層序（第3図～第5図）

荒田遺跡における層序は農業開発総合センター遺跡群における標準的な層序と同様である。Ⅱ層はほとんど削平されている。主な時代と遺物包含層は以下の通りである。

- ・縄文時代晩期（Ⅲ層）
土器・石器
- ・縄文時代早期（Ⅳ層）
集石・土坑・土器・石器
- ・縄文時代草創期（Ⅶa層）
ブロック・集石
土器・石器
- ・旧石器時代（Ⅶb層）
ブロック
石器

第3節 発掘調査の方法及び概要

荒田遺跡の発掘調査は、農業開発総合センター内の国土座標に合わせた20×20mの調査範囲（グリッド）を設定して実施し、遺跡内の北側からA・B・C…、西側から1・2・3…とした。調査面積は17000㎡である。表土は重機により除去しⅡ層以下は人力で掘り下げた。調査前は竹林状の荒地であった。Ⅱ層はほとんどなかった。Ⅲ層からは縄文時代晩期で土器と石器が数点ずつ出土している。Ⅳ層からは縄文時代早期で、遺構が集石35基と土坑3基が検出されている。土器では桑ノ丸式・押型文・右京西式土器の出土が多かった。また、塞ノ神式土器や石鏃、石斧、磨石などが出土している。Ⅶa層では縄文時代草創期で集石が検出された。また、頁岩製のブロックが1基検出され、石斧が出土している。また、隆帯文土器や磨石が数点出土している。

Ⅶb層は旧石器時代のブロックが3基検出されている。遺物ではナイフ形石器、三稜尖頭器、細石刃核、細石刃が出土している。

第4節 旧石器時代の調査

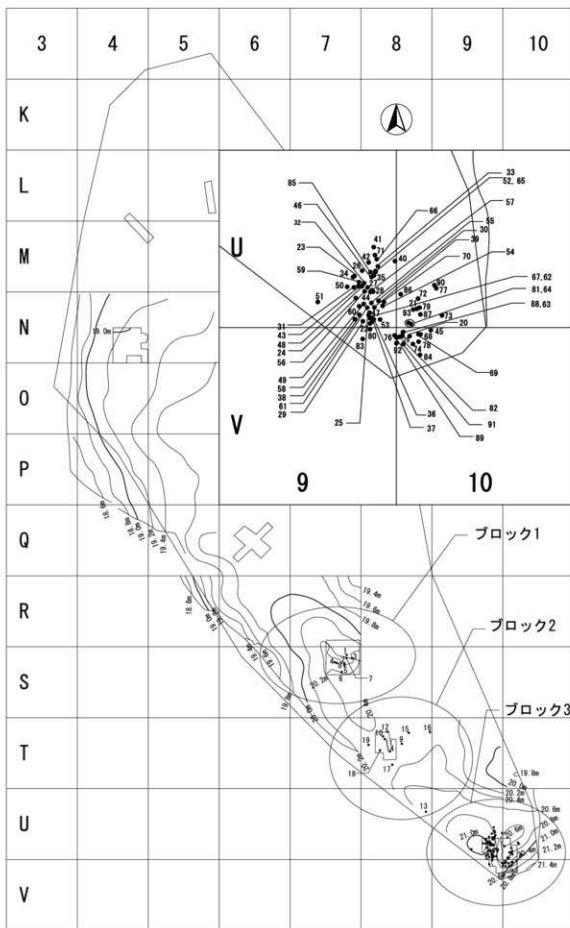
荒田遺跡の旧石器時代の遺物は、Ⅶb層から出土している。また、分布状況から3つのブロックに分け、北側からブロック1・2・3と設定した。

ブロック1（第7図 1～8）

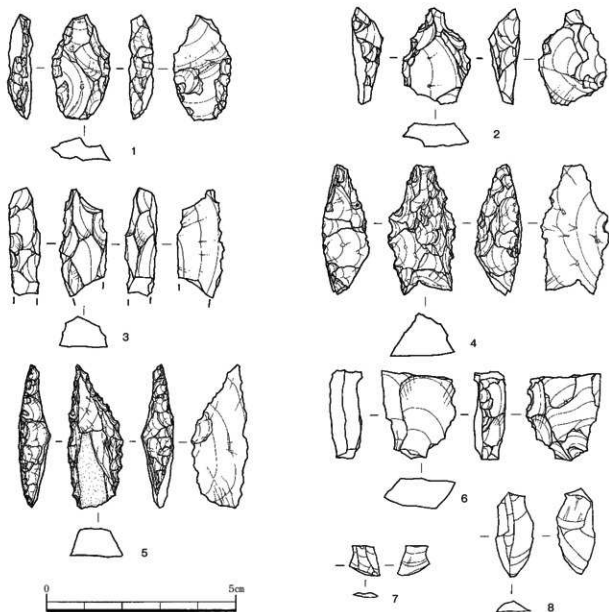
1はナイフ形石器。黒曜石の縦長剥片を素材としている。左側面に、正面からと裏面からのブランディングが施されている。2～4は三稜尖頭器。ともに横長剥片を素材としている。2は下部から上部に向けて窄まる形状で、細かな剥離が観察できる。3は横長剥片を素材とし、正面のみ左右両側面から剥離を形成している。4は横長剥片を素材とし、正面を両側面からの加工により整形した後、側縁部に細かな剥離を施している。裏面には加工が確認できない。5は両面加工尖頭器。正面に自然面を残す横長剥片を素材としている。両側縁の下部から上部にかけて細かな剥離を正面から施している。6は二次加工剥片。右側縁部に裏面からの細かな剥離形成が観察できる。7と8は細石刃。7は断面がほぼ平坦、8は三角形を呈する。

ブロック2（第8図～第9図 9～19）

9から14はナイフ形石器。9は鉄石英製の縦長剥片を素材とし、両側縁部から基部にかけて細かなブランディングを施す。10は上部からの打撃により剥片を取り出したもので、右側縁部に細かなブランディングを施す。11は、縦長剥片の左側面をほぼ垂直に加工し、その上下に細かなブランディングを施している。12は縦長剥片を素材とし、左側縁部に細かなブランディングを施している。裏面には加工が確認できない。13は右側面を上部から、左側面は裏面からのブランディングが施される。14も縦長剥片を素材とし、左側面にブランディングを施している。15は台形石器。縦長剥片を素材とし、両側縁部に細かな剥離を施している。16は細石刃。断面は平坦な方形となる。17～19は細石刃核。いずれも自然面を残すものである。17は正面を作業面とし、上部から



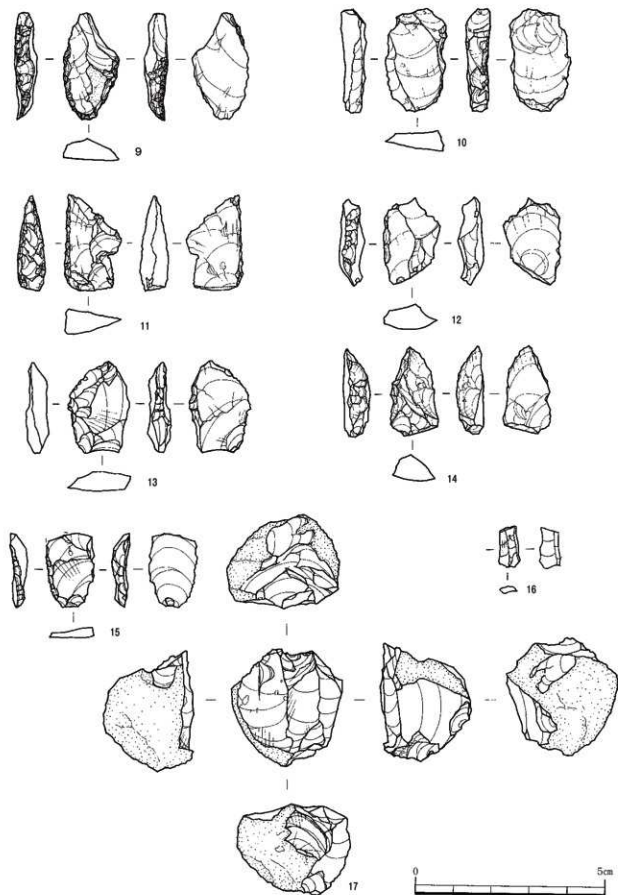
第6図 旧石器時代遺物出土状況



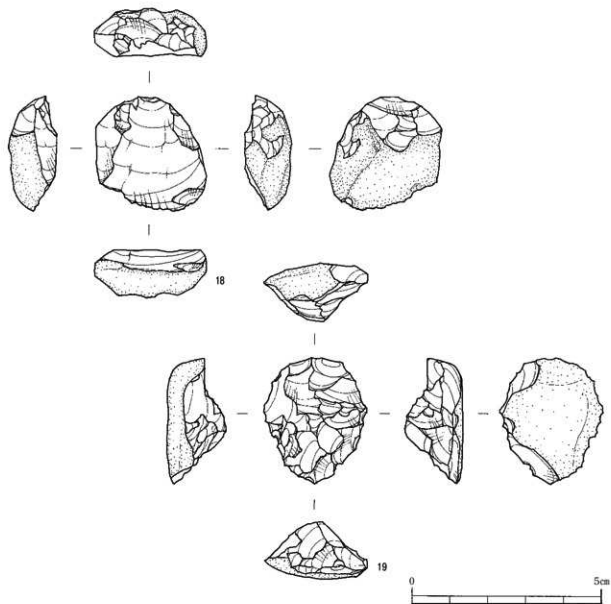
第7図 旧石器1

旧石器時代石器観察表

挿図番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第7図	1	ナイフ型石器	S-7	埋	黒曜石	2.75	1.55	0.7	2.56	
	2	三稜尖頭器	S-7	埋	黒曜石	3.0	1.8	0.85	3.03	
	3	三稜尖頭器	S-7	埋	黒曜石	(2.9)	1.3	0.8	3.1	
	4	三稜尖頭器	S-7	埋	黒曜石	3.5	1.7	1.1	5.77	
	5	両面加工尖頭器	S-7	埋	黒曜石	3.8	1.4	0.7	3.82	
	6	二次加工刮片	S-7	埋	黒曜石	2.3	2.0	0.8	3.91	
	7	細石刃	S-7	埋	黒曜石	0.75	0.6	0.15	0.07	
	8	細石刃	S-7	埋	黒曜石	2.2	1.0	0.27	0.64	
第8図	9	ナイフ型石器	T-8	埋	鉄石英	2.9	1.5	0.6	2.27	
	10	ナイフ型石器	T-8	埋	黒曜石	2.7	1.65	0.65	3.02	
	11	ナイフ型石器	T-8	埋	黒曜石	2.5	1.4	0.7	2.32	
	12	ナイフ型石器	T-8	埋	黒曜石	2.3	1.5	0.65	2.07	
	13	ナイフ型石器	U-8	埋	黒曜石	2.4	1.7	0.6	2.38	
	14	ナイフ型石器	T-8	埋	黒曜石	1.9	1.3	0.4	1.01	
	15	台形石器	T-8	埋	黒曜石	2.3	1.3	0.73	1.82	
	16	細石刃	T-8	埋	黒曜石	1.1	0.5	0.1	0.12	
第9図	17	細石刃核	T-8	埋	黒曜石	3.1	3.0	2.4	19.87	
	18	細石刃核	T-8	埋	黒曜石	3.1	3.0	1.2	10.94	
第10図	19	細石刃核	T-8	埋	黒曜石	3.35	2.3	1.4	10.91	
	20	ナイフ型石器	V-10	埋	安山岩	(4.2)	1.6	0.8	5.61	
	21	二次加工刮片	U-10	埋	頁岩	3.6	4.5	1.2	20.72	



第8圖 旧石器2



第9図 旧石器3

旧石器時代石器観察表

採回番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第 11 図	22	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.0	0.5	0.2	0.12	
	23	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.5	0.6	0.25	0.28	
	24	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.1	0.6	0.2	0.12	
	25	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.2	0.15	0.7	0.12	
	26	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.2	0.5	0.2	0.23	
	27	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.2	0.8	0.15	0.19	
	28	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.6	0.6	0.15	0.32	
	29	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.3	0.6	0.2	0.16	
	30	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.4	0.6	0.2	0.3	
	31	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.1	0.6	0.15	0.18	
	32	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.3	0.75	0.2	0.17	
	33	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.3	0.1	0.6	0.17	
	34	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.55	0.7	0.25	0.42	
	35	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.1	0.6	0.2	0.14	
	36	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.3	0.8	0.1	0.13	
	37	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	0.85	0.5	0.1	0.1	
	38	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.25	0.6	0.3	0.22	
	39	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.0	0.55	0.15	0.1	
	40	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.15	0.6	0.13	0.17	
	41	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.0	0.7	0.2	0.21	
	42	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.45	0.5	0.2	0.26	
	43	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.15	0.5	0.15	0.13	
	44	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.0	0.55	0.1	0.06	
	45	礮石刃	V-10	Ⅴ	黒曜石	1.4	0.8	0.2	0.22	
	46	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.6	0.9	0.3	0.37	
	47	礮石刃	U-9	Ⅴ	黒曜石	1.4	0.6	0.1	0.17	

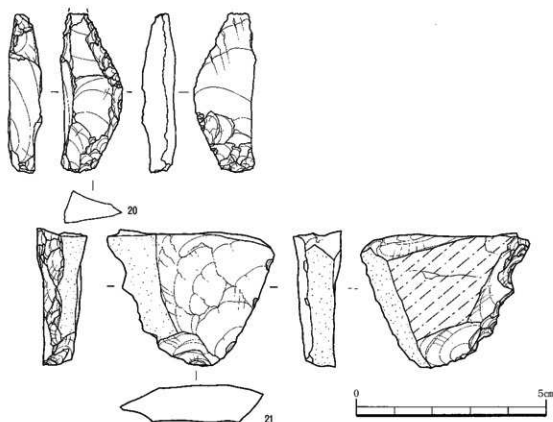
の打撃で細石刃を取り出している。18は正面に大きな剥離を有する。19は左下下部からの剥離により作業面を成形し、正面を主作業面とするものである。

ブロック3 (第10図～第14図 20～93)

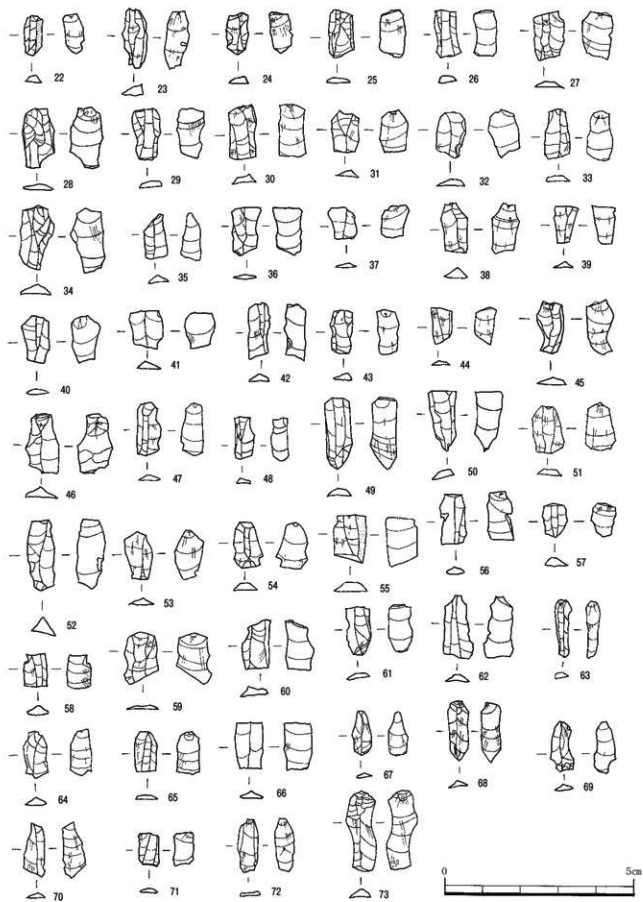
20はナイフ形石器である。縦長剥片を素材としている。右側面基部から上部まで正面より細かなプランディングを施している。基部には裏面からも加工している。先端部は欠損している。21は頁岩製の二次加工剥片。両側面に自然面、裏面に平坦な摺理面を有する。左側面の自然面に細かな剥離を施している。

22～73は細石刃である。断面は、三角形状を呈するものがほとんどであるが、一部平坦なものもある。74～93は細石刃核。74は正面を作業面とするもので、打面は後方に傾斜する。裏面に細かな剥離を観察することができる。75は作業面を正面と左側面に有するものである。76は、作業面が正面と両側面の3面で、上部の打面が三角形に残るものである。77は正面に作業面を有する。打面となる上面はほぼ平坦で、緩やかに後方に傾斜する。

78は打面を正面からの細かな剥離で成形している。作業面は正面。79は作業面が正面になる。上部の打面は左側から加工をして平坦面を成形している。80は正面と左側面に作業面を有する。上部は平坦で後方へ傾斜し、下面とV字状に交わる。81は正面が作業面である。左側面から裏面にかけて自然面が残る。82は正面と左側面に作業面を有する。上面と下面が平坦でほぼ平行になる。83は右側面からの打撃により上部の打面を形成し、正面で左側から順に細石刃をとりだしている。84は正面を主作業面とする裏面に細かな調整の跡を確認できる。85は打面に比較して作業面が狭い。86は上部に平坦な打面を有し、正面の作業面がほぼ方形となる。87は横長の剥片を素材としている。88は正面と左側面に作業面を有する。89は正面と右側面に作業面とし、下部に向けて窄まる形状となる。90は打面が平坦で正面の作業面と垂直に交わる。91は正面と右側面に作業面を有する。92は作業面の正面に対して、打面が後方に傾斜する。93は打面が三角形状となるが、両側面には細かな加工は確認できない。



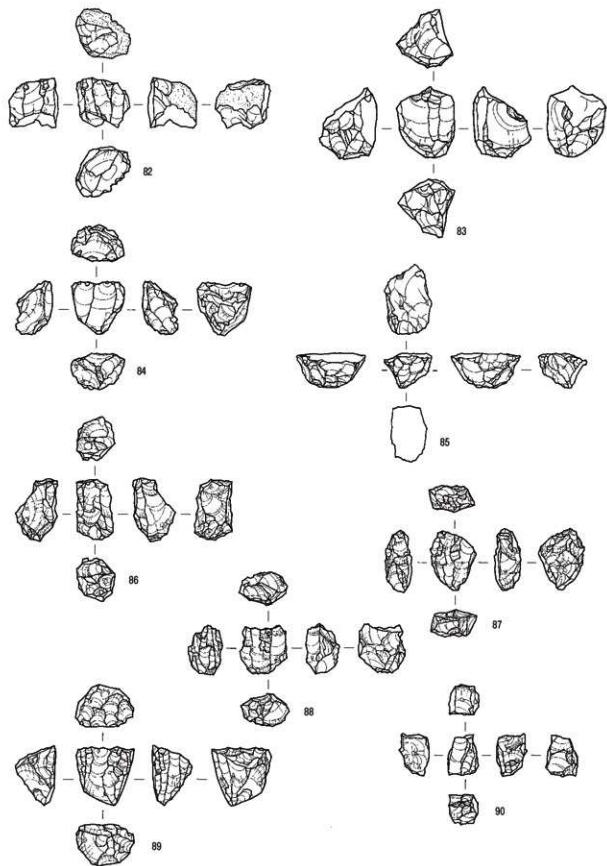
第10図 旧石器4



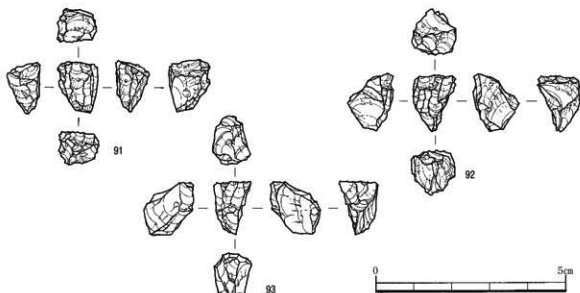
第11图 旧石器5



第12図 旧石器6



第13圖 旧石器 7



第14図 旧石器8

旧石器時代石器観察表

挿図番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第 11 図	48	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.1	0.35	0.2	0.1	
	49	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.9	0.6	0.2	0.56	
	50	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.6	0.6	0.2	0.33	
	51	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.2	0.7	0.15	0.19	
	52	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.8	0.6	0.4	0.39	
	53	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.25	0.7	0.2	0.18	
	54	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.2	0.65	0.2	0.22	
	55	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.2	0.9	0.2	0.27	
	56	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.27	0.4	0.2	0.21	
	57	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	0.8	0.6	0.2	0.1	
	58	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	0.9	0.6	0.55	0.16	
	59	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.3	0.8	0.1	0.21	
	60	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.25	0.7	0.23	0.25	
	61	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.25	0.6	0.1	0.15	
	62	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.6	0.15	0.7	0.3	
	63	細石刃	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.5	0.3	0.2	0.13	
	64	細石刃	U-10	Ⅱ	黒曜石	1.2	0.9	0.2	0.18	
	65	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.05	0.6	0.1	0.14	
	66	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.2	0.6	0.2	0.18	
	67	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.2	0.5	0.2	0.07	
	68	細石刃	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.5	0.6	0.1	0.19	
	69	細石刃	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.3	0.5	0.2	0.15	
	70	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.3	0.5	0.15	0.16	
71	細石刃	U-9	Ⅱ	黒曜石	0.8	0.5	0.1	0.08		
72	細石刃	U-10	Ⅱ	黒曜石	1.3	0.5	0.1	0.13		
73	細石刃	U-10	Ⅱ	黒曜石	2.1	0.6	0.2	0.29		
第 12 図	74	細石刃核	V-10	Ⅱ	黒曜石	2.5	1.15	1.6	2.86	
	75	細石刃核	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.65	1.25	1.2	2.51	
	76	細石刃核	V-10	Ⅱ	珪質頁岩	2.0	1.2	1.0	1.95	
	77	細石刃核	U-10	Ⅱ	珪質頁岩	2.5	1.7	1.3	5.15	
	78	細石刃核	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.35	1.2	0.9	1.34	
	79	細石刃核	U-10	Ⅱ	黒曜石	1.95	1.8	1.4	3.64	
	80	細石刃核	V-9	Ⅱ	黒曜石	1.9	1.8	1.8	4.73	
	81	細石刃核	U-10	Ⅱ	黒曜石	1.6	1.2	0.7	2.7	
	82	細石刃核	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.3	1.4	1.3	2.25	
第 13 図	83	細石刃核	V-9	Ⅱ	黒曜石	1.9	1.5	1.55	3.26	
	84	細石刃核	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.4	1.4	0.95	1.79	
	85	細石刃核	U-9	Ⅱ	黒曜石	1.6	1.0	1.15	1.73	
	86	細石刃核	U-10	Ⅱ	黒曜石	1.6	1.0	1.15	1.79	
	87	細石刃核	U-10	Ⅱ	黒曜石	1.7	1.3	1.05	1.23	
	88	細石刃核	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.3	1.25	0.9	1.27	
	89	細石刃核	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.55	1.55	1.1	2.3	
	90	細石刃核	U-10	Ⅱ	黒曜石	1.1	0.8	0.8	0.83	
	91	細石刃核	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.35	1.05	0.9	1.24	
	92	細石刃核	V-10	Ⅱ	黒曜石	1.5	1.15	1.1	1.45	
	93	細石刃核	U-10	Ⅱ	黒曜石	1.4	1.0	1.3	1.45	

第5節 縄文時代の調査

縄文時代は本遺跡の中心的なものである。草創期、早期、晩期で遺構、遺物が出土している。

1 縄文時代草創期の調査

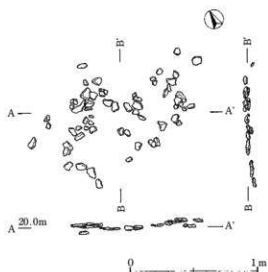
縄文時代草創期は、Ⅶa層で集石が検出されている。石器では頁岩のブロック内から石斧や礫器、隆帯文土器が出土している。

(1) 遺構

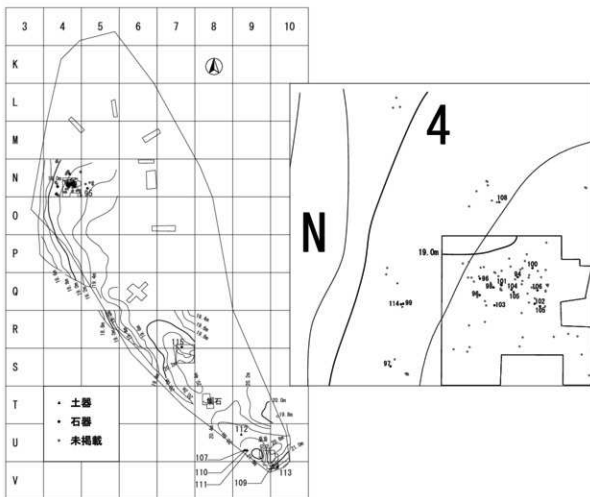
縄文時代草創期は集石が1基と石器製作の跡と思われる頁岩のブロックが1基検出している。

集石 (第16図)

T-8区のⅦa層で検出されたもので、110×140cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に63個からなり、平均重量は約55.8gである。礫はほぼ集中している。平坦で掘り込みは見られない。



第16図 縄文時代草創期 集石遺構



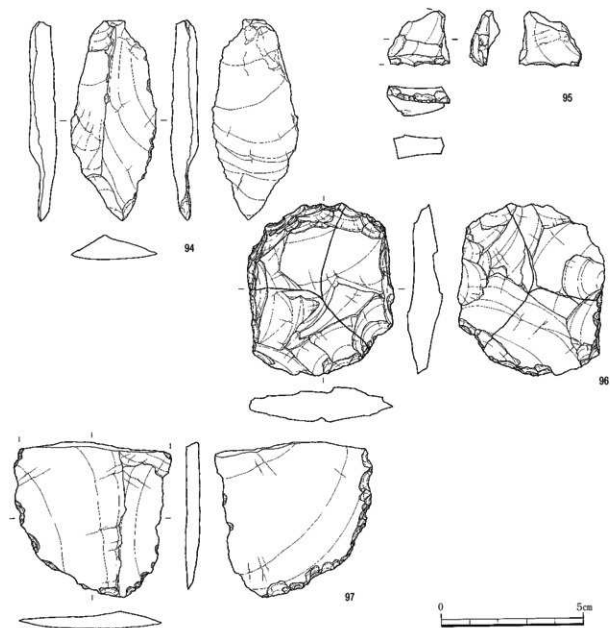
第15図 縄文時代草創期 出土状況

ブロック (第17図・第18図 94~104)

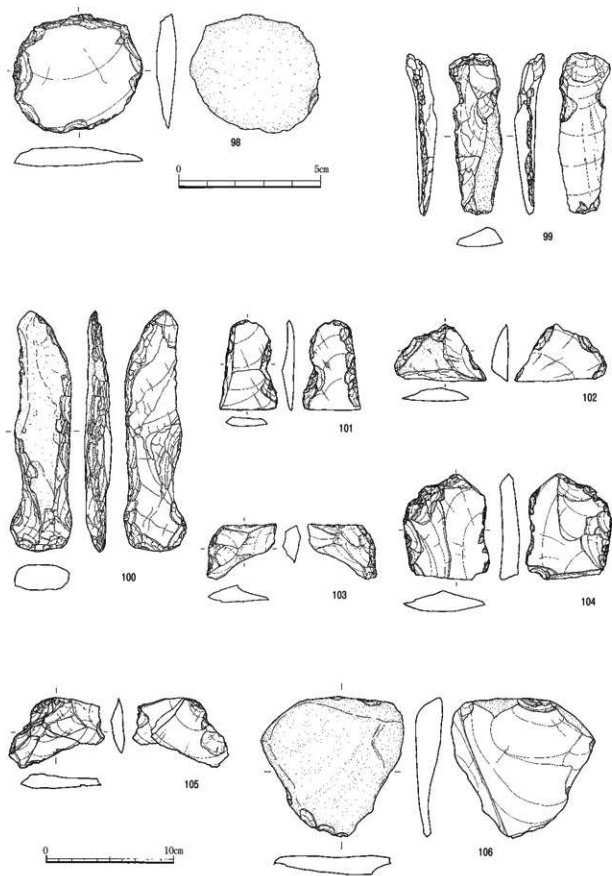
N-4区で検出された、頁岩のブロックである。

94はナイフ型石器である。縦長剥片の右側縁にブランディングを行っている。95は上牛鼻産黒曜石に類似し下部に細かいブランディングを施した台形石器である。96~98は、スクレイパーである。96・98は全側縁にブランディングを施したものである。97は薄型の剥片の下部にブランディングを施している。99~105は、打裂石斧である。99は縦長剥片を使用し、側縁には抉りが見られ、下部側縁には刃部形成が見

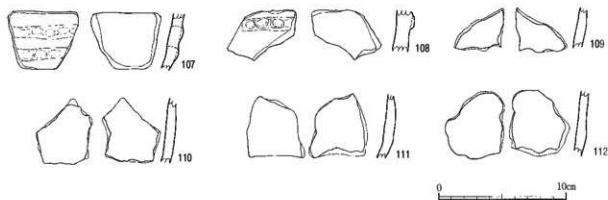
られる。100は縦長剥片の側縁に抉りが見られ下部に刃部形成が行われている。101は薄型の剥片に両側面にブランディングが施されている。102~105は打裂石斧に二次加工が施されている。106は自然面を利用し、下部に刃部形成が見られる礫器である。



第17図 縄文時代草創期 1



第18図 縄文時代草創期2



第19図 縄文時代草創期3

(2) 遺物

①土器 (第19図 107~112)

草創期の土器は、ほとんどのものが風化し、小片であった。そのうち6点を図化した。107は2条の隆帯文が施され、その上に爪痕が観察できる。108は1条の隆帯文で爪痕が観察できる。109~112は風化が著しく、上下や傾きなどを判別することはできなかった。

②石器 (第20図 113~115)

草創期の石器はⅧa層からブロック以外で磨石が出土した。

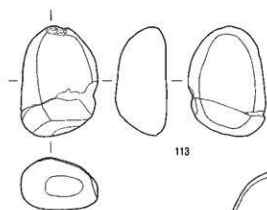
113~115は磨石である。円礫を利用し両面に作業面のあるものである。敲打痕も見られる。

縄文時代草創期石器観察表

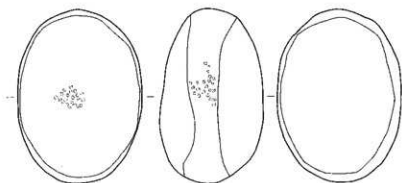
検出番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第17図	94	ナイフ型石器	N-4	Ⅷ	頁岩	2.75	1.55	0.7	15.95	
	95	台形石器	N-5	Ⅷ	黒曜石(上半葉)	3.0	1.8	0.85	3.23	
	96	スタレイバー	N-4	Ⅷ	頁岩	6.9	5.0	1.1	44.92	
	97	スタレイバー	N-4	Ⅷ	頁岩	5.2	5.0	0.6	19.58	
第18図	98	スタレイバー	N-4	Ⅷ	頁岩	4.0	4.5	0.7	15.59	
	99	打撃石片	N-4	Ⅷ	頁岩	12.5	4.2	1.7	89.38	
	100	打撃石片	N-4	Ⅷ	頁岩	19.0	4.7	2.0	205.9	
	101	打撃石片	N-4	Ⅷ	頁岩	7.0	4.4	0.9	32.18	
	102	打撃石片	N-4	Ⅷ	頁岩	4.4	6.8	1.2	36.27	
	103	打撃石片	N-4	Ⅷ	頁岩	4.0	5.0	1.2	24.92	
	104	打撃石片	N-4	Ⅷ	頁岩	8.3	6.3	1.6	102.23	
	105	打撃石片	N-4	Ⅷ	頁岩	4.7	7.1	1.1	37.18	
第20図	106	礫器	N-4	Ⅷ	頁岩	11.0	11.4	2.0	280	
	113	磨石	V-10	Ⅷ	砂岩	8.5	5.9	4.0	280	
	114	磨石	N-4	Ⅷ	砂岩	13.8	9.8	8.2	1540	
	115	磨石	R-7	Ⅷ	砂岩	22.7	13.2	6.1	2480	

縄文時代草創期土器観察表

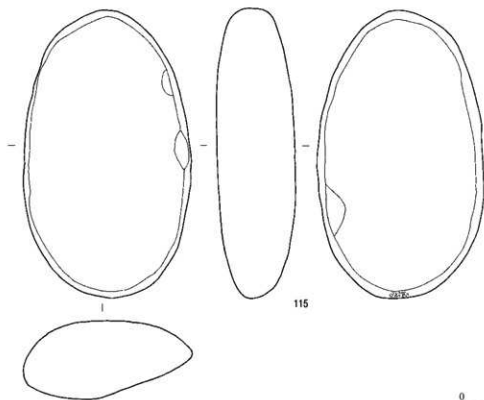
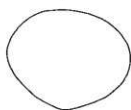
検出番号	番号	層位	出土区	部位	色調				胎土			焼成	外周	内面	備考
					内	外	石質	黒石	角閃石	その他	中身				
102	Ⅷ	U-9	胴部	上・灰・黄緑	緑	○	○					不良	—	—	—
108	Ⅷ	N-4	胴部	上・灰・黄緑	緑	○	○					不良	—	—	—
109	Ⅷ	V-10	胴部	黄緑	黄赤褐色	○	○					不良	—	—	—
110	Ⅷ	U-9	胴部	黒褐色	黒	○	○					不良	—	—	—
111	Ⅷ	U-9	胴部	黒	赤褐色	○	○					不良	—	—	—
112	Ⅷ	U-9	胴部	黒	赤褐色	○	○					不良	—	—	—



113



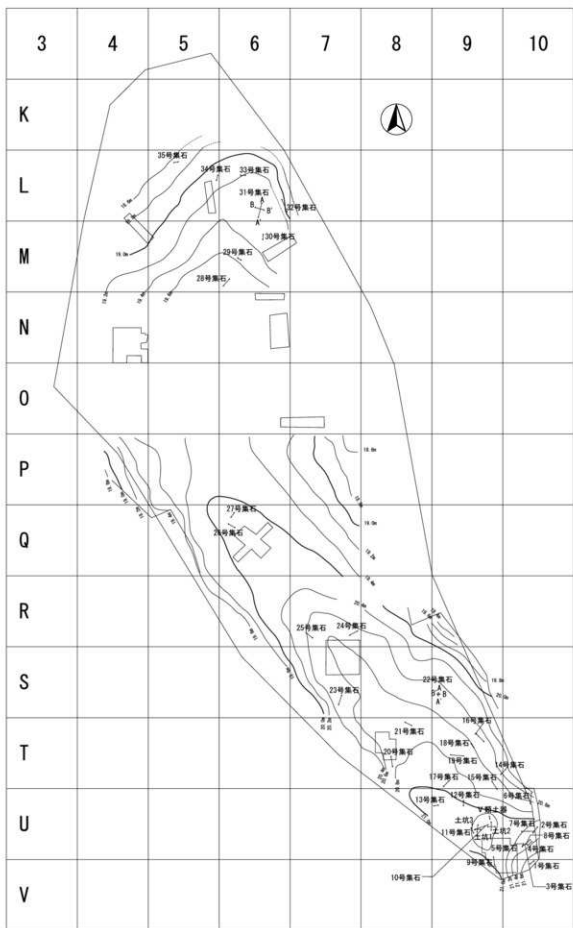
114



115



第20図 縄文時代草創期 4



第21図 縄文時代早期 遺構配置図

2 縄文時代早期の調査

縄文時代早期は遺構で35基の集石や3基の土坑が検出し、遺物は土器、石器が出土している。

(1) 遺構 (第22図～第33図)

縄文時代早期の遺構は集石が35基、土坑が3基検出されている。遺物はⅡ類からⅩ類までの土器、石器や磨石、石皿などの石器が出土した。

① 集石 (第22図～第32図)

集石は、U-10区で8基、M-6区・T-9区・U-9区で4基、L-6区で3基、L-5区・Q-6区・R-7区で2基などと広範囲で検出された。

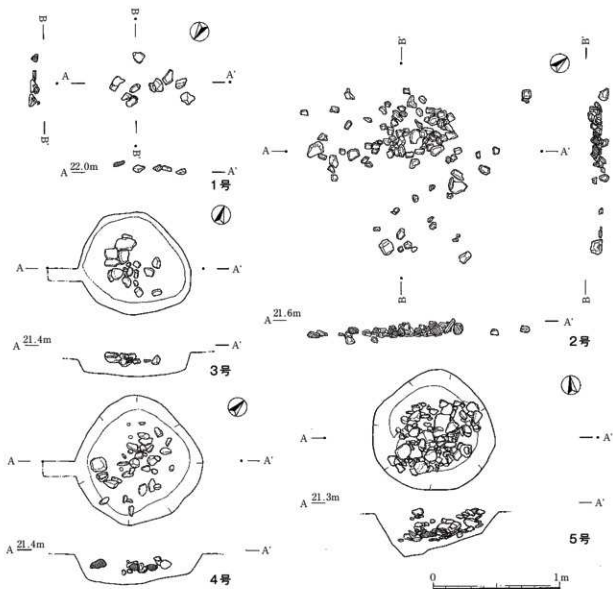
合計35基である。

1号集石 (第22図)

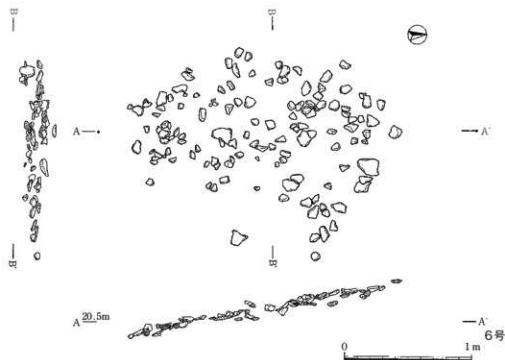
U-10区で検出されたもので、45×70cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に11個からなり、平均重量は約267.7gである。まともにはみられず、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

2号集石 (第22図)

U-10区で検出されたもので、149×175cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に95個からなる。礫は集中しているが、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。



第22図 縄文時代早期 集石遺構 1



第23図 縄文時代早期 集石遺構2

3号集石 (第22図)

U-10区で検出されたもので、50×45cmの範囲に広がる。10cm大の角礫を中心に21個からなり、平均重量は約199.3gである。掘り込みは集中している範囲の下位にあり、80×85cm、深さ約18cmである。

4号集石 (第22図)

U-10区で検出されたもので、77×65cmの範囲に広がる。10cm大の角礫を中心に37個からなり、平均重量は約154.1gである。掘り込みは集中している範囲の下位にあり、120×100cm、深さ約25cmである。

5号集石 (第22図)

U-10区で検出されたもので、60×70cmの範囲に広がる。こぶし大の角礫を中心に128個からなり、平均重量は約106.3gである。掘り込みは集中している範囲の下位にあり、65×70cm、深さ30.2cmである。礫は掘り込みの下部に入り込んでいる。

6号集石 (第23図)

U-10区で検出されたもので、170×216cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に131個からなり、平均重量は約108gである。まともにはみられず、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

7号集石 (第24図)

U-10区で検出されたもので、285×260cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に133個からなり、平均重量は約121gである。まともにはみられず、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

8号集石 (第24図)

U-10区で検出されたもので、235×235cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に69個からなり、平均重量は約182.8gである。まともにはみられず、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

9号集石 (第25図)

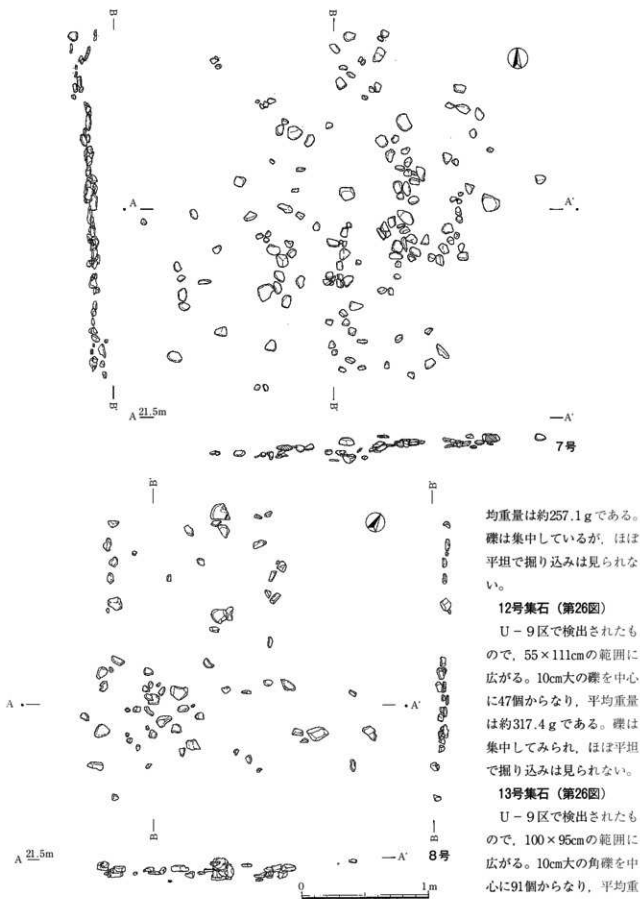
U・V-9区で検出されたもので、195×315cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に111個からなり、平均重量は約189gである。まともにはみられず、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

10号集石 (第25図)

U-9区で検出されたもので、300×367cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に291個からなり、平均重量は約95.9gである。まともには東側にみられる。ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

11号集石 (第26図)

U-9区で検出されたもので、70×85cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に125個からなり、平



均重量は約257.1gである。礫は集中しているが、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

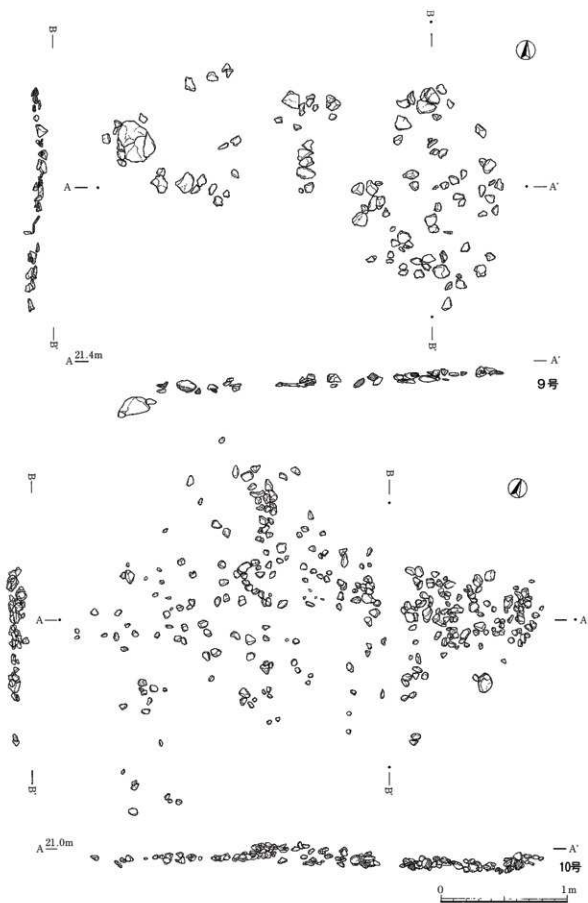
12号集石 (第26図)

U-9区で検出されたもので、55×111cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に47個からなり、平均重量は約317.4gである。礫は集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

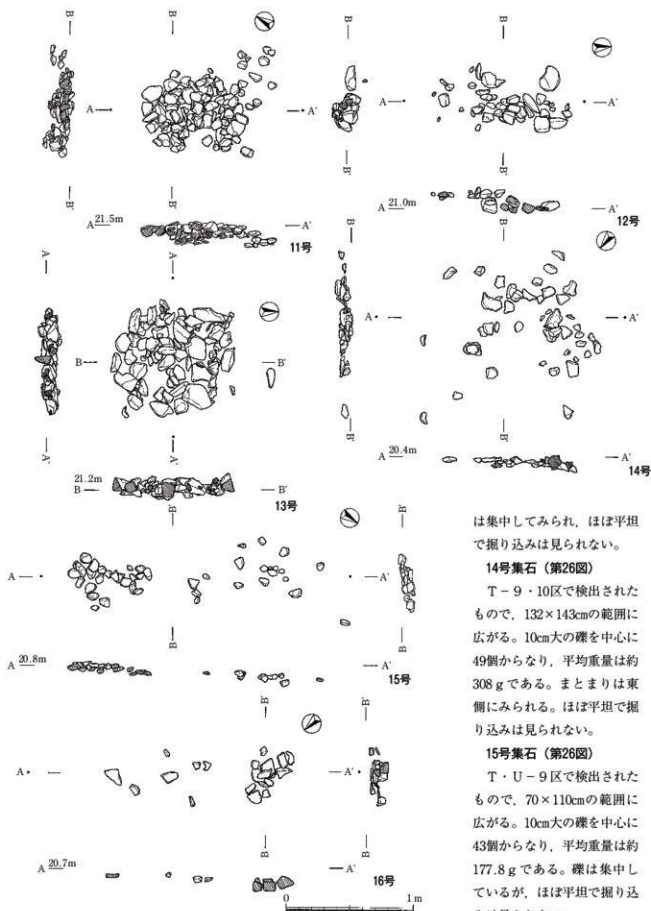
13号集石 (第26図)

U-9区で検出されたもので、100×95cmの範囲に広がる。10cm大の角礫を中心に91個からなり、平均重量は約754.8gである。礫

第24図 縄文時代早期 集石遺構3



第25図 縄文時代早期 集石遺構4



は集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

14号集石 (第26図)

T・9・10区で検出されたもので、132×143cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に49個からなり、平均重量は約308gである。まともには東側のみみられる。ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

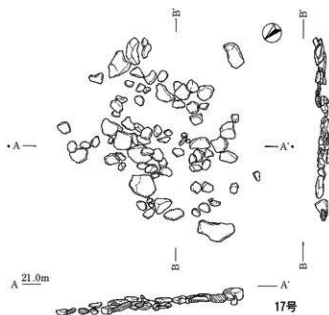
15号集石 (第26図)

T・U・9区で検出されたもので、70×110cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に43個からなり、平均重量は約177.8gである。礫は集中しているが、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

第26図 縄文時代早期 集石遺構5

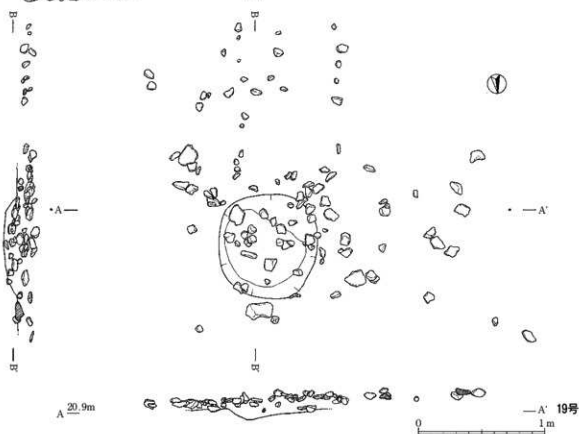
16号集石 (第26図)

T-9区で検出されたもので、46×150cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に19個からなり、平均重量は約331.3gである。まともは東側にみられる。ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

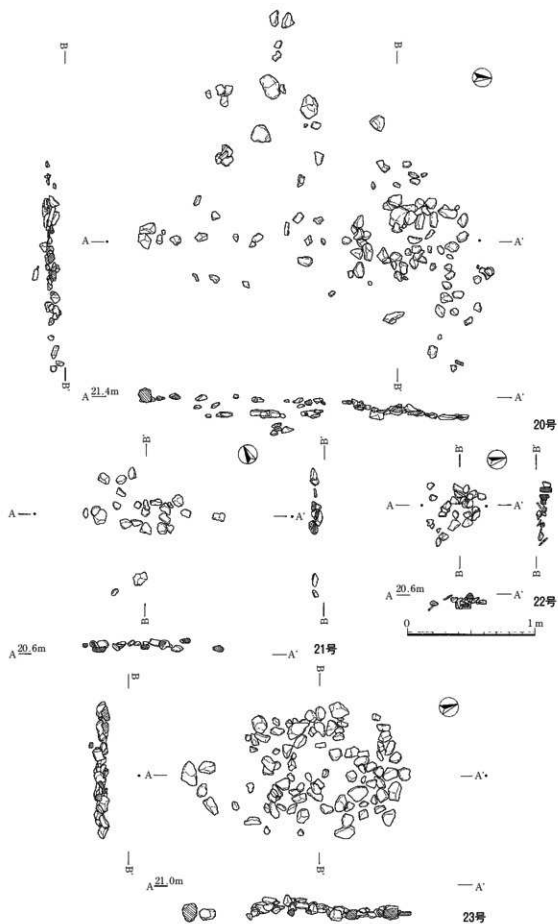


17号集石 (第27図)

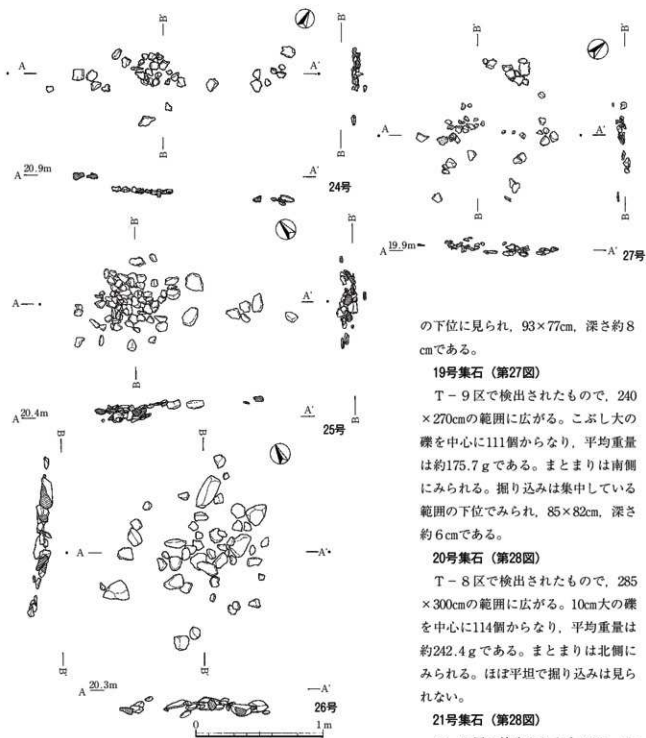
T-9区で検出されたもので、165×150cmの範囲に広がる。20cm大の礫を中心に83個からなり、平均重量は約297.7gである。礫は集中しているが、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。



第27図 縄文時代早期 集石遺構6



第28図 縄文時代早期 集石遺構 7



第29図 縄文時代早期 集石遺構 8

18号集石 (第27図)

T-9区で検出されたもので、96×147cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に84個からなり、平均重量は約87.2gである。掘り込みが集中している礫

の下位に見られ、93×77cm、深さ約8cmである。

19号集石 (第27図)

T-9区で検出されたもので、240×270cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に111個からなり、平均重量は約175.7gである。まともはは南側にみられる。掘り込みは集中している範囲の下位でみられ、85×82cm、深さ約6cmである。

20号集石 (第28図)

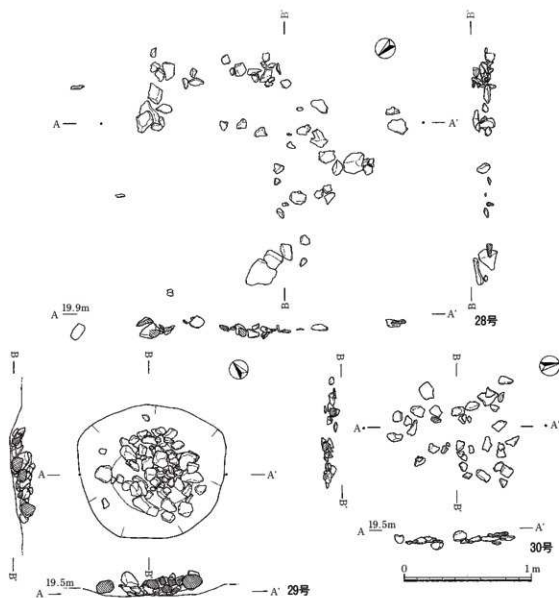
T-8区で検出されたもので、285×300cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に114個からなり、平均重量は約242.4gである。まともはは北側にみられる。ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

21号集石 (第28図)

T-8区で検出されたもので、115×95cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に25個からなり、平均重量は約252.8gである。礫は集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

22号集石 (第28図)

S-9区で検出されたもので、47×52cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に29個からなり、平均



第30図 縄文時代早期 集石遺構9

重量は約113.9gである。礫は集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

23号集石 (第28図)

S-7区で検出されたもので、108×180cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に91個からなり、平均重量は約366.7gである。礫は集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

24号集石 (第29図)

R-7区で検出されたもので、63×197cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に36個からなり、平均重量は約130gである。中央にまとまりがみられ

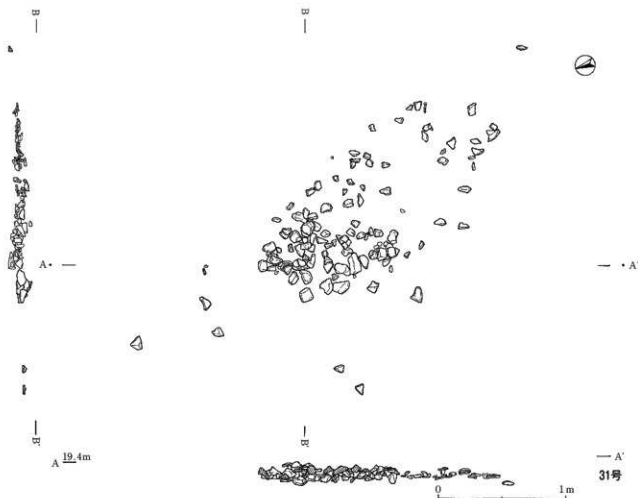
る。ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

25号集石 (第29図)

R-7区で検出されたもので、77×180cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に94個からなり、平均重量は約143gである。礫は集中してみられる。ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

26号集石 (第29図)

Q-6区で検出されたもので、155×135cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に49個からなり、平均重量は約340gである。礫は集中してみられる。ほぼ平坦で掘り込みは見られない。



第31図 縄文時代早期 集石遺構10

27号集石 (第29図)

Q-6区で検出されたもので、112×112cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に47個からなり、平均重量は約87.3gである。土器も6点みられる。まともりはみられず、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

28号集石 (第30図)

M-6区で検出されたもので、187×266cmの範囲に広がる。15cm大の礫を中心に59個からなり、平均重量は約414.7gである。まともりはみられず、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

29号集石 (第30図)

M-6区で検出されたもので、85×88cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に73個からなり、平均重量は約438.2gである。掘り込みは集中している礫の下位でみられ、105×112cm、深さ約6cmである。

30号集石 (第30図)

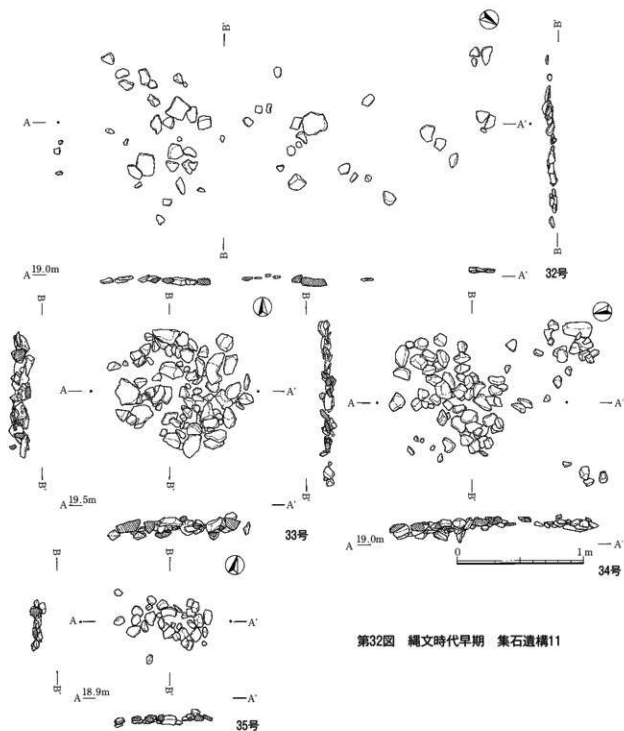
M-6区で検出されたもので、90×105cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に37個からなり、平均重量は約212.5gである。土器が一点あった。礫は集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

31号集石 (第31図)

L-6区で検出されたもので、275×310cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に130個からなり、平均重量は約197.6gである。礫は南西に集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

32号集石 (第32図)

L-6区で検出されたもので、140×200cmの範囲に広がる。10cm大の礫を中心に57個からなり、平均重量は約245.6gである。まともりはみられず、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。



第32図 縄文時代早期 集石遺構11

33号集石 (第32図)

L-6区で検出されたもので、103×115cmの範囲に広がる。15cm大の礫を中心に79個からなり、平均重量は約583.2gである。礫は集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

34号集石 (第32図)

L-5区で検出されたもので、135×165cmの範囲

に広がる。10cm大の礫を中心に87個からなり、平均重量は約374.5gである。礫は集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

35号集石 (第32図)

L-5区で検出されたもので、60×79cmの範囲に広がる。こぶし大の礫を中心に34個からなり、平均重量は約210.1gである。礫は集中してみられ、ほぼ平坦で掘り込みは見られない。

②土坑 (第33回)

3基の土坑はU-9区で集中して検出された。遺物等は3基とも検出されなかったが3基とも炭化物を含んでおり、火を使用したと思われる。

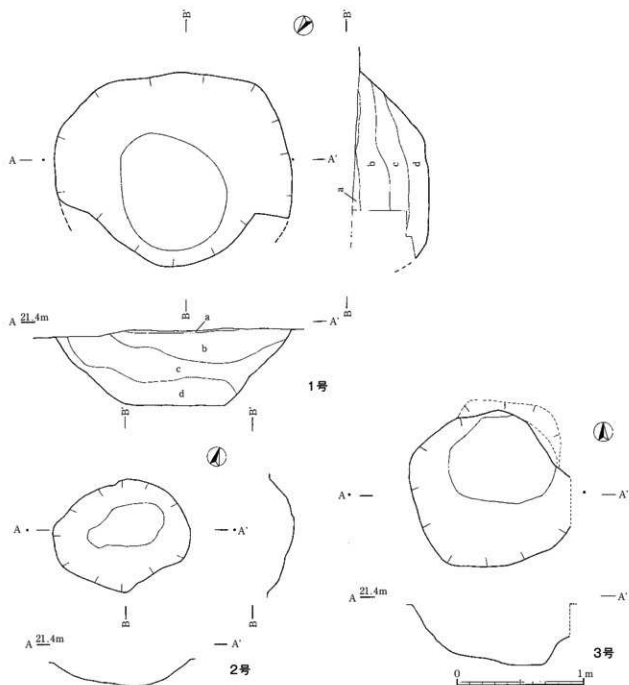
1号土坑

U-9区で検出された。平面プランは不整形で北側がトレンチによる削平をうけていた。深さ40cm。a層は茶褐色土、b層は黒褐色土で礫をまばらに含む。c層は黒褐色土だが、軽石がざっしり詰まった

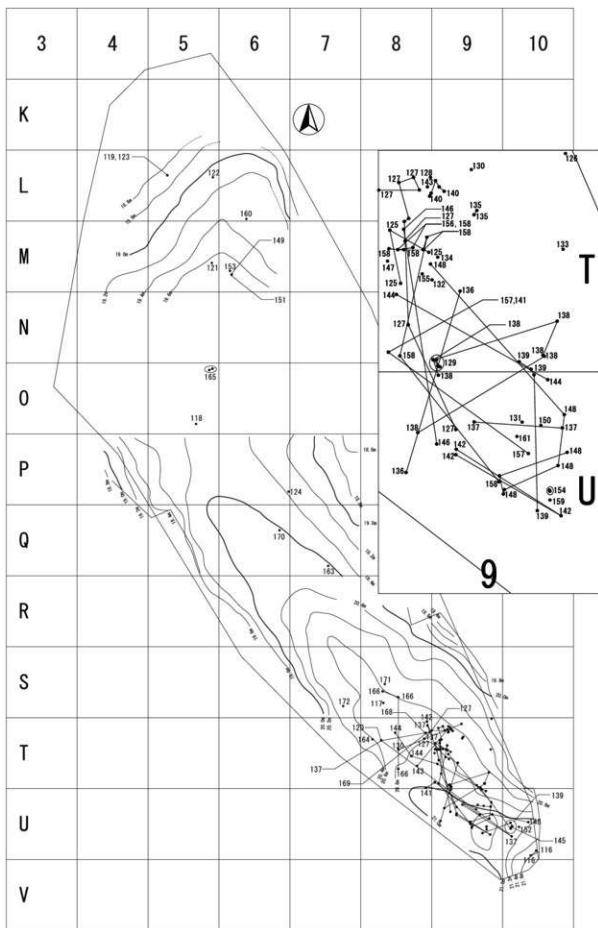
状態であった。d層は黒色土で細粒の礫と4~5mmの炭化物をまばらに含んでいる。

2号土坑

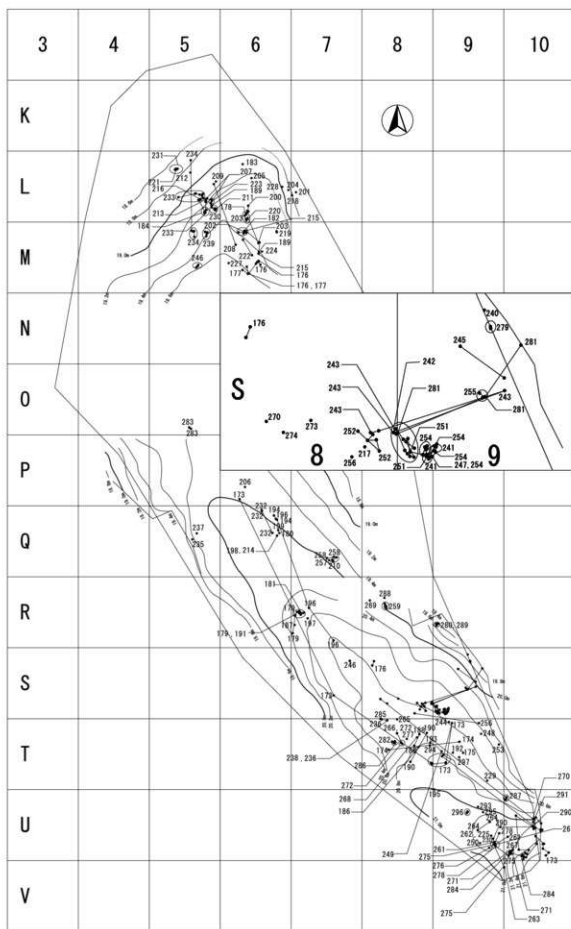
U-9区で検出された。平面プランは攪乱を受けているため原形をとどめていない。深さは20cm。4~5cm大の礫をまばらに含み比然による赤化が認められた。埋土は黒褐色土で5mm大の炭化物を多く含んでいる。



第33回 縄文時代早期 土坑



第34図 縄文時代早期 土器出土状況 1 (Ⅱ類~Ⅵ類)



第35図 縄文時代早期 土器出土状況 2 (Ⅶ類~Ⅺ類)

3号土坑

U-9区で検出された。平面プランは樹木の横転による攪乱を受けているため、不整形である。深さは約44cm。埋土は軽石を多く含み、炭化物を含んでいる。

(2) 遺物 (第36図～第76図)

① 土器 (第36図～第60図)

縄文時代の早期の土器はⅡ類からⅣ類土器に分類できた。

Ⅱ類土器 (第36図 116・117)

Ⅱ類土器は2点である。116・117は胴部で縦位の貝殻刺突文が施される。117は角筒の可能性もある。

Ⅲ類土器 (第36図 118～122)

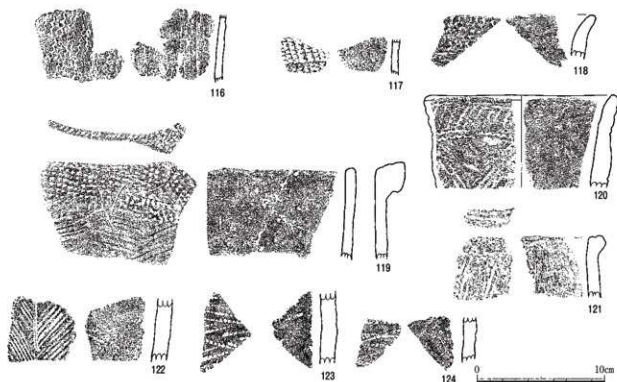
Ⅲ類土器は5点であった。口縁部は緩やかに外反または直行する。胴部は貝殻条痕文が施される。118は口縁部で貝殻刺突文を施す。119は瘤状突起のある口縁部である。刺突文が施される。120は口縁部が直行し、貝殻刺突文と貝殻条痕文が施される。121は瘤状の口縁が横に広がるもので瘤上に刺突文が施される。122は胴部で綾杉条痕文が施される。

Ⅳ類土器 (第36図 123・124)

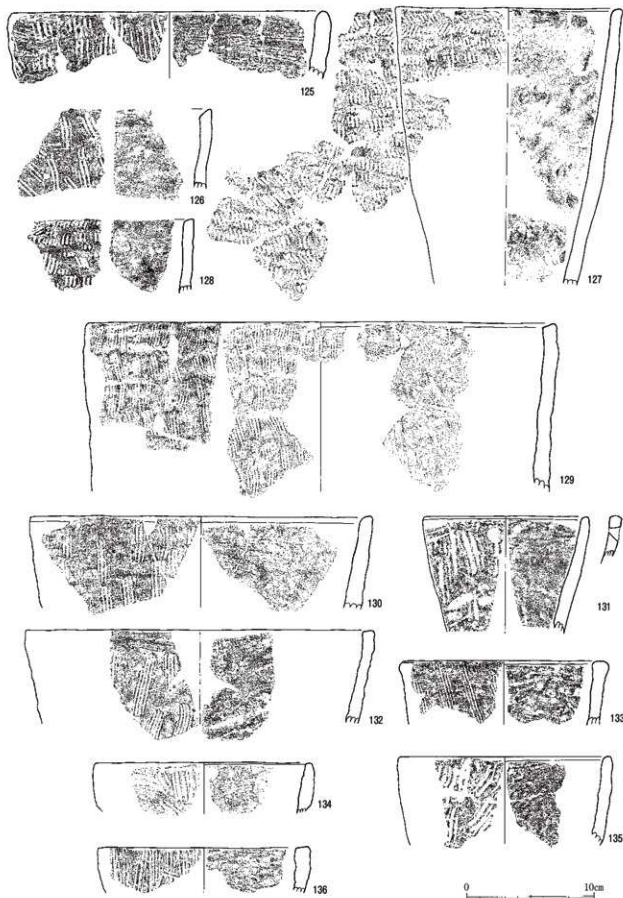
Ⅳ類土器は2点である。123・124は胴部で横位の貝殻刺突文が施される。

Ⅴ類土器 (第37図～第41図 125～170)

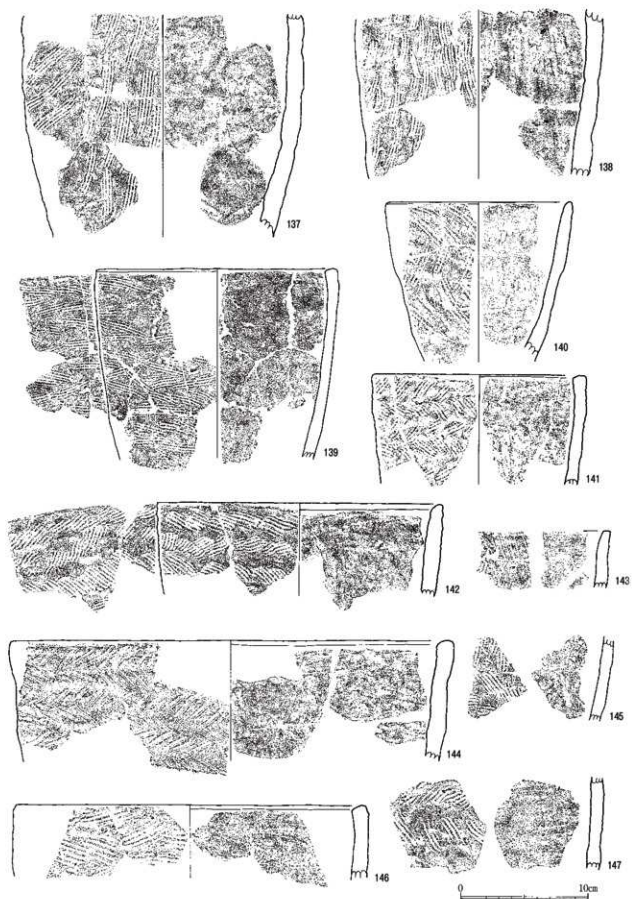
Ⅴ類土器は46点図化した。口縁部は直行または緩やかに外傾し、バケツ状を有するものである。口唇部は内傾するものが多い。貝殻または櫛状工具による施文が施される。125～138は施文具による縦位の文様のあるものである。125は3本の櫛状の施文具で条痕が施されている。内側は施文具によるケズリが施されている。126は3本の櫛状の条痕が施されている。127は底部付近まで3本の櫛状の条痕が施されている。128は127の同一個体である。129・130は4本の櫛状施文具で条痕文が施される。131は補修孔もみられる。132～136は4・5本の櫛状の施文具で条痕が施されている。134・135は同一個体である。137・138は胴部で、3・4本の施文具で条痕文が施されている。139～147は施文具による斜位の文様や同一方向への条痕文が施されたものである。139は3本の鋭い櫛状の施文具で斜位に条痕が施されている。140～147は「く」の字状に2本から6本



第36図 縄文時代早期 土器 1 (Ⅱ類～Ⅳ類土器)



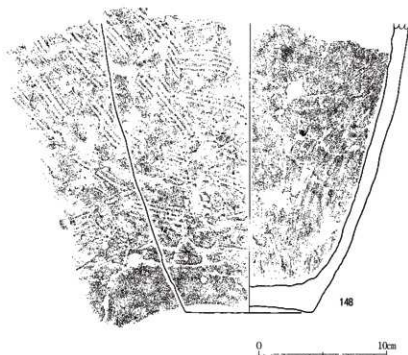
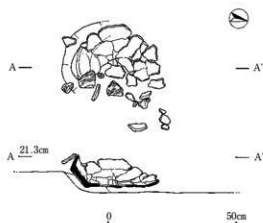
第37図 縄文時代早期 土器2 (V類土器)



第38図 縄文時代早期 土器3 (V類土器)

の櫛状の施文具で条痕が施されている。

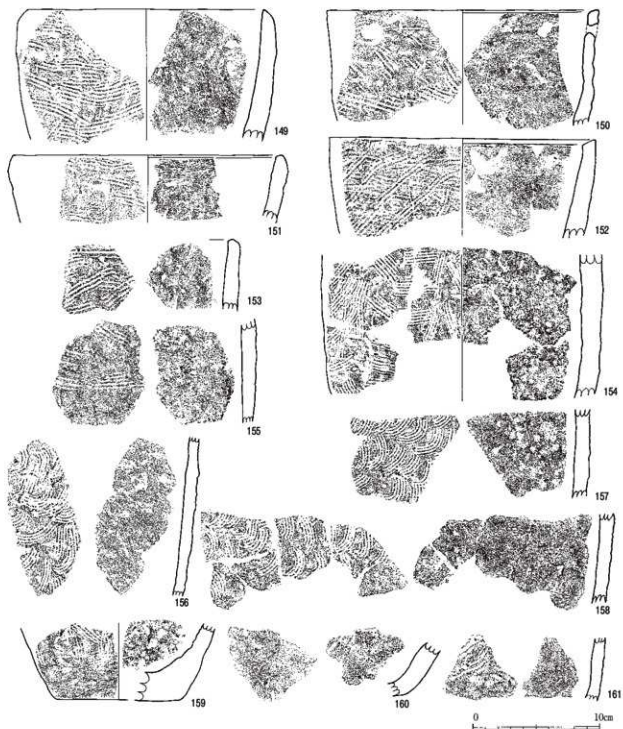
第39図はU-9区で検出された148の出土状況図である。148がつぶれた状態で出土している。外面は不規則な文様で2本から6本の櫛状の条痕文を施される。149-155は外面に不規則な文様が施されているものである。149は口唇部から4本の櫛状の文様が施されている。150は補修孔が施される。152は横位の条痕の上を斜位または縦位の文様が施されている。156-158は流水文の文様を施される。159は



第39図 縄文時代早期 土器4 (V類土器)

縄文時代早期土器観察表

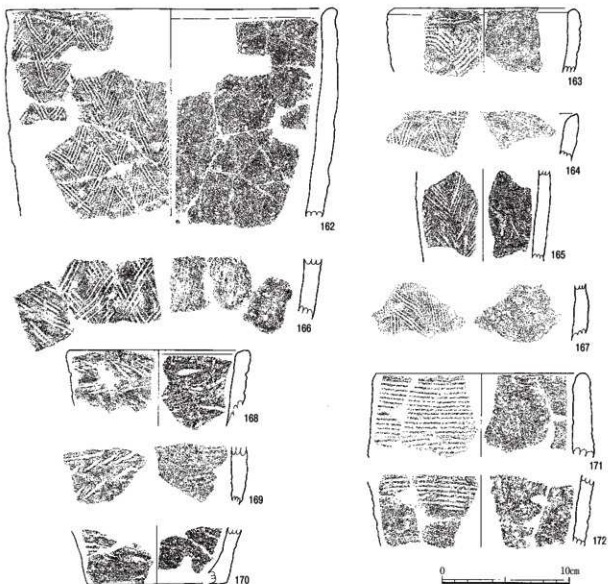
観測番号	番号	部位	出土区	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	備考	
					内	外	石英	黒石	内閃石	その他					
第36区	116	底	U-10	胴部	黒褐色	12.0%焼	○	○				良	異散列宛文	カズリ	
	117	底	S-8	胴部	黒	12.0%焼	○	○				良	異散列宛文	カズリ残ナゲ	
	118	底	O-5	口縁部	12.0%焼	12.0%焼	○	○				良	異散列宛文	カズリ残ナゲ	
	119	底	L-5	口縁部	12.0%焼	12.0%赤褐色	○	○	○			良	異散列宛文・異散条痕文	ミゴキ	
	120	底	T-8	口縁部	12.0%黄緑	緑	○	○				良	異散列宛文・異散条痕文	カズリ残ナゲ	
	121	底	M-5	口縁部	緑	明赤褐色	○	○				良	異散列宛文・異散条痕文	カズリ	
	122	底	L-5	胴部	緑	緑	○	○				良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	
	123	底	L-5	胴部	12.0%黄緑	12.0%黄緑	○	○	○			良	異散列宛文	カズリ残ナゲ	
	124	底	P-6	胴部	12.0%黄緑	緑	○	○				良	異散列宛文	カズリ残ナゲ	
	125	底	T-9	口縁部	緑	赤	○	○				良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	保存箱
	126	底	T-9	口縁部	12.0%焼	緑	○	○				良	異散条痕文	ミゴキ	保存箱
	127	底	T・U-9	口縁部	12.0%黄緑	12.0%黄緑	○	○	○			良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	
	128	底	T-9	口縁部	12.0%黄緑	緑	○	○	○			良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	
129	底	T-9	口縁部	12.0%黄緑	緑	○	○	○			良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	保存箱	
第37区	130	底	T・8・9	口縁部	緑	緑	○	○				良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	
	131	底	U-9	胴部	黄褐色	緑	○	○				良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	縦修孔有り・保存箱
	132	底	T-9	口縁部	12.0%焼	緑	○	○				良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	
	133	底	T-9	口縁部	緑	緑	○	○	○			良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	
	134	底	T-9	口縁部	黒褐色	緑	○	○				良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	
	135	底	T-9	口縁部	12.0%黄緑	緑	○	○				良	異散条痕文	カズリ残ナゲ・ミゴキ	
	136	底	T・U-9	口縁部	12.0%黄緑	緑	○	○	○			良	異散条痕文	カズリ残ナゲ	



第40図 縄文時代早期 土器5 (V類土器)

縄文時代早期土器観察表

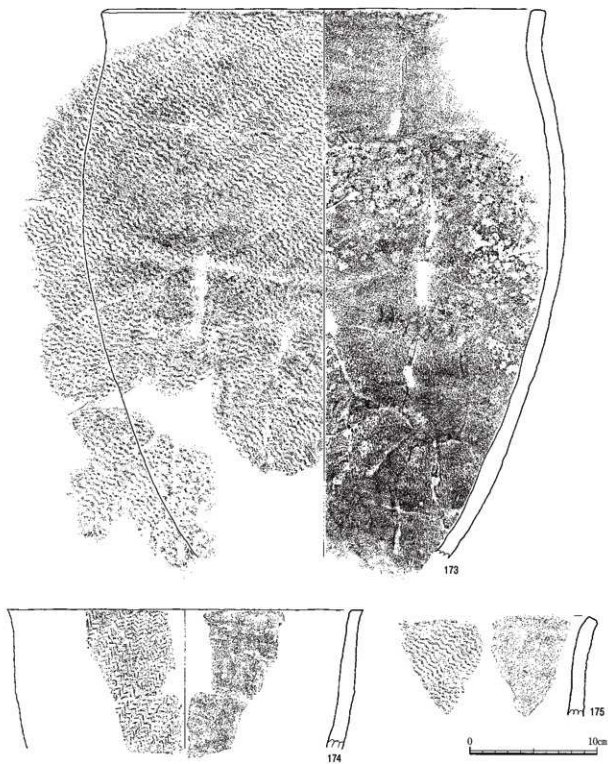
編年番号	番号	部位	出土区	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	備考
					内	外	石英	黒石	角閃石	その他				
3300	132	底	T-8, U-9-10	胴部	橙	○	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	
	138	底	T-U-9	胴部	橙	明黄緑	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	
	139	底	U-9-30	口縁-胴部	紅褐色	紅褐色	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	残片有
	140	底	T-9	口縁-胴部	紅褐色	紅褐色	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	
	141	底	T-8-9	口縁部	紅褐色	○	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	残片有
	142	底	T-8-9	口縁部	紅褐色	○	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	残片有
	143	底	T-8-9	口縁部	紅褐色	○	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	
	144	底	T-8-9	口縁部	紅褐色	紅褐色	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	残片有
	145	底	U-10	胴部	紅褐色	○	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	
	146	底	T-U-9	胴部	紅褐色	○	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	残片有
	147	底	T-9	胴部	紅褐色	○	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	残片有
	148	底	T-9, U-10	胴-底部	橙	明黄緑	○	○	○	○	良	乱段条紋文	カズリ残ナシ	



第41図 縄文時代早期 土器6 (V・VI類土器)

縄文時代早期土器観察表

器種別	番号	器形	出土区	部位	色調					胎土	焼成	外面	内面	備考
					内	外	石灰	炭石	内面石					
第40組	149	IV	M-6	11層部	橙	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	150	IV	U-9	11層部	12.5%黄橙	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	継断孔有り
	151	IV	M-6	11層部	橙	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	152	IV	U-10	11層部	橙	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	153	IV	M-6	11層部	橙	12.5%黄橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	154	IV	U-9	胴部	黒褐	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	155	IV	T-9	胴部	黒褐	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	156	IV	T-9	胴部	12.5%黄橙	明赤褐	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	157	IV	T・U-9	胴部	赤褐	赤褐	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	158	IV	T・U-9	胴部	黒褐	明赤褐	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	159	IV	U-9	底面	12.5%黄	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	160	IV	L-6	底面	橙	橙	○	○	○	○	点	ナク	カズリ残ナク	覆付否
	161	IV	U-9	底面	黒褐	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否
	第41組	162	IV	-	11層部	12.5%黄	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	ナク
163		IV	Q-7	11層部	橙	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	
164		IV	T-8	11層部	橙	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	
165		IV	O-5	胴部	12.5%黄橙	12.5%黄	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	
166		IV	S-8	胴部	12.5%黄	明赤褐	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ	覆付否
167		IV	-	胴部	橙	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	
168		IV	T-8	11層部	橙	明赤褐	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	
169		IV	T-8	胴部	12.5%黄橙	明赤褐	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	
170		IV	Q-6	底面	12.5%黄橙	明赤褐	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	
171		IV	S-8	11層部	12.5%黄橙	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	
172		IV	S-7	胴部	12.5%黄橙	橙	○	○	○	○	点	貝殻赤文	カズリ残ナク	覆付否



第42図 縄文時代早期 土器 7 (Ⅶ類土器)

縄文時代早期土器観察表

図号	番号	層位	出土区	部位	色調		胎土		焼成	外面	内面	備考
					内	外	石英	黒石				
第42図	173	IV	T-7, T-8, 9, U-10	口縁-胴部	紅褐色	黄褐色	○	○	良	山形押型文	ナデ	
	174	IV	T-8-9	口縁部	紅褐色	紅褐色	○	○	良	山形押型文	ナデ	縦向き
	175	IV	T-9	口縁部	灰黄緑	黄褐色		○	良	山形押型文	ヘラケズリ後ナデ	

3・4本の施文具で条痕文が施されている底部である。160・161も同様の底部付近である。162～167は斜位の文様が格子状に施されたものである。168～170は1本の施文具で条痕文が施されている。同一個体と思われる。

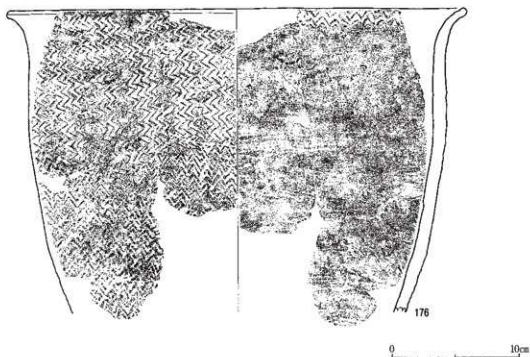
VI類土器 (第41図 171・172)

VI類土器は貝殻条痕文を口縁部から胴部上半部にかけて横位に廻らすものである。171は復元口径約16cmを測る。172は胴部である。

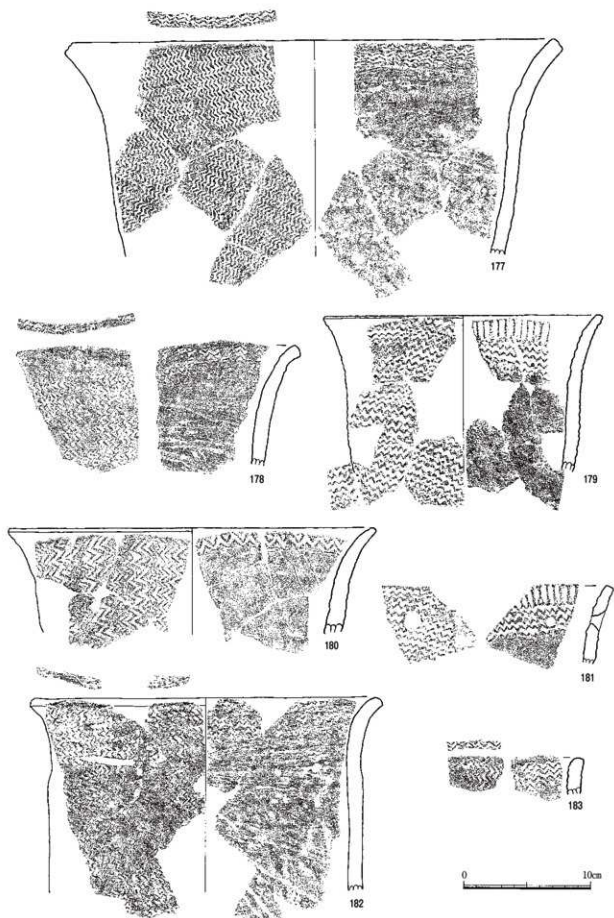
VII類土器 (第42図～第49図 173～233)

VII類土器は回転施文具による押型土器である。173～195は山形押型文で196～231は楕円押型文である。173は直行する口縁で胴部に緩やかなふくらみを持つ。174・175は直行または緩やかに外反する口縁を持つ。173～175は内側は無文である。176～178・180・183は外反する口縁部を持ち内側に横位の施文を施すものである。179・181は同一個体と思われる。内面が原体条痕と横位の施文を施すものである。184～192は胴部である。184・185は縦位と斜位の施文が施されている。193～195は底部である。195は無文であるが、わずかに山形押型文が施され

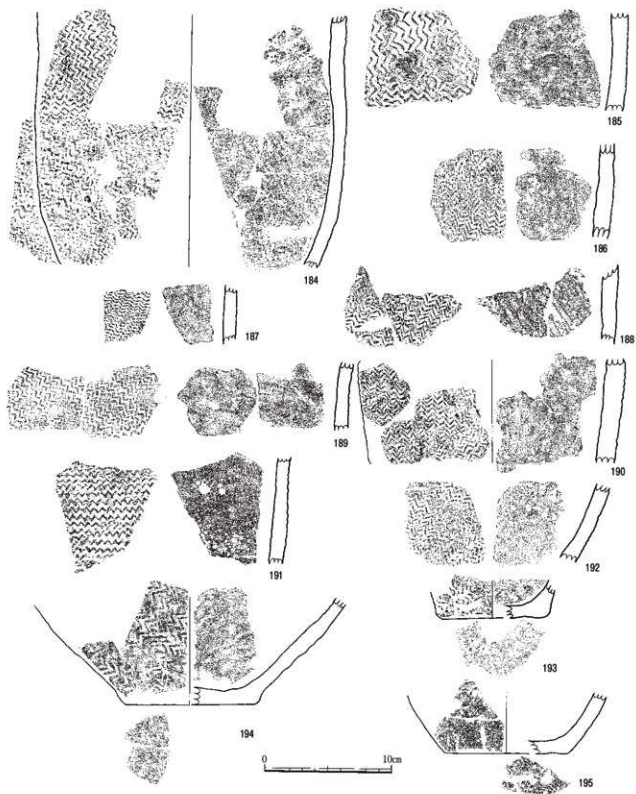
ている。196～207は楕円押型文の口縁部である。196・197は外反する口縁を持ち内面が原体条痕と横位の文様を施すものである。同一個体と思われる。198～201・204は外反する口縁を持ち楕円押型文が施されている。202・203は壺形の器形で外反する口縁を持ち、外側の口縁部上段は無文であるが、下段には小粒の押型文が施される。205～207は小粒の楕円押型文が施され、一部ナデ消しを施す。208～227は楕円押型文の胴部である。210は196と同一個体と思われる。214は内側に横位の押型文がわずかに残る。222は小型の楕円押型文が施され一部ナデ消しを施す。223は枝回転文と思われる胴部である。224は上半部は無文である。225・226は同一個体である。228～231は底部である。228は楕円押型文が施されたあと一部ナデ消しを施す。229は底部に編布を使用したと思われる圧痕が施される。232は下部に櫛状の条痕文を持ち、上面は楕円押型文を施す。底面は棒状のもので十字のような圧痕が見られる。233は外反する口縁部を持ち胴部から上面は縦位の山形押型文が施され、底部にかけては楕円押型文が施される。



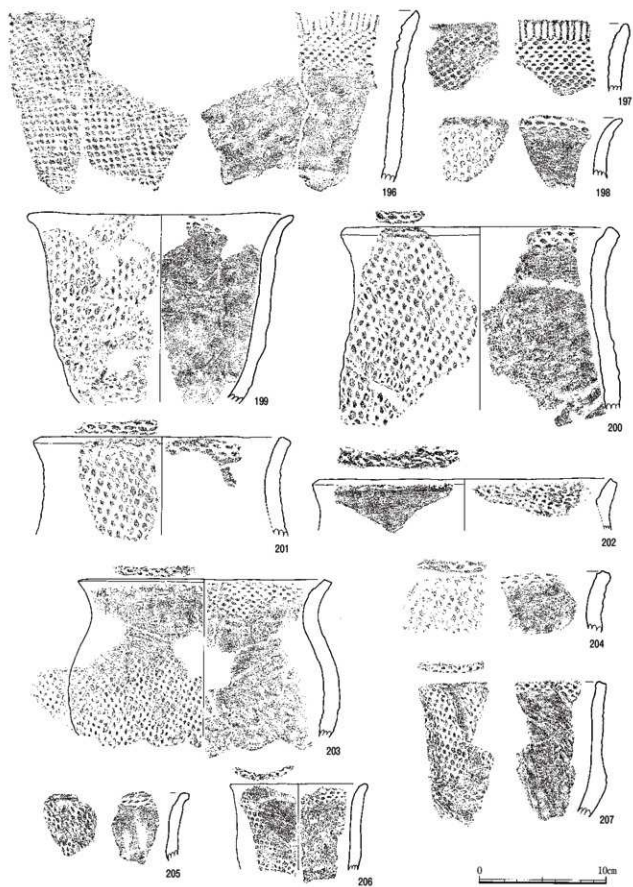
第43図 縄文時代早期 土器8 (VII類土器)



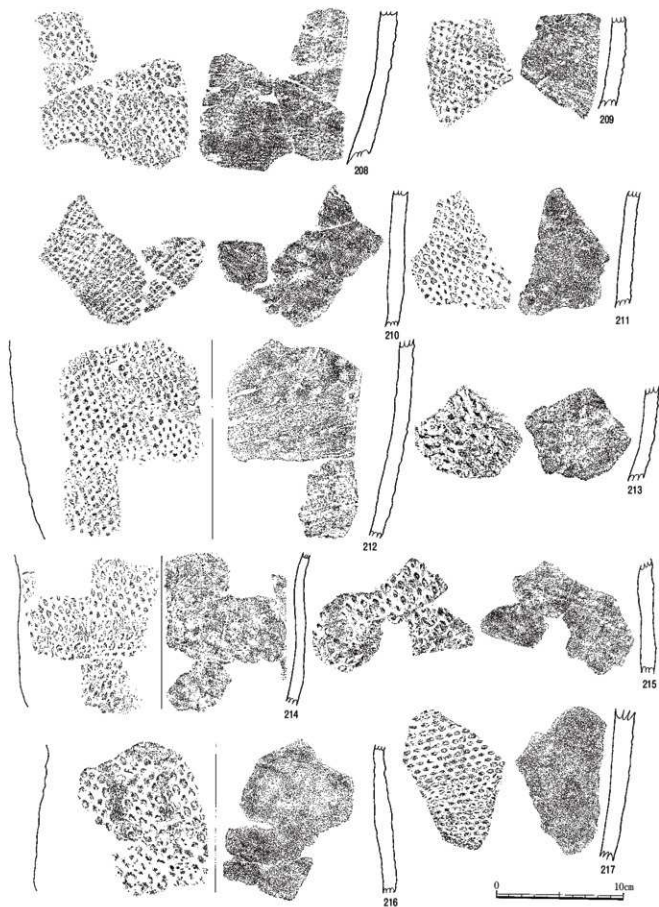
第44図 縄文時代早期 土器9 (Ⅶ類土器)



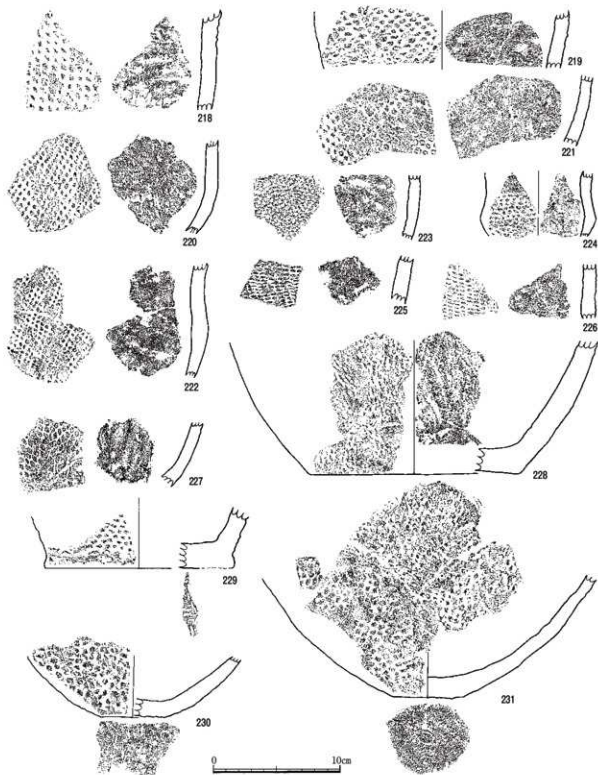
第45図 縄文時代早期 土器10 (Ⅶ類土器)



第46図 縄文時代早期 土器11 (Ⅶ類土器)



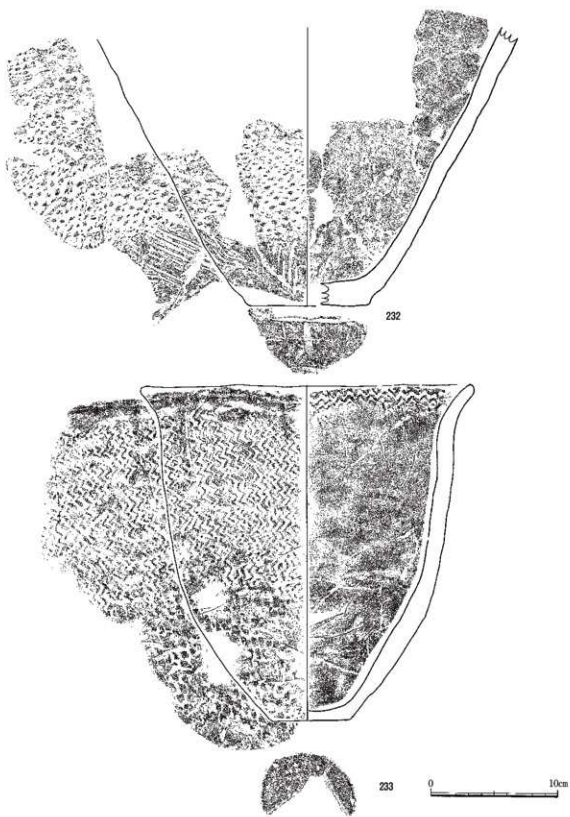
第47図 縄文時代早期 土器12 (Ⅶ類土器)



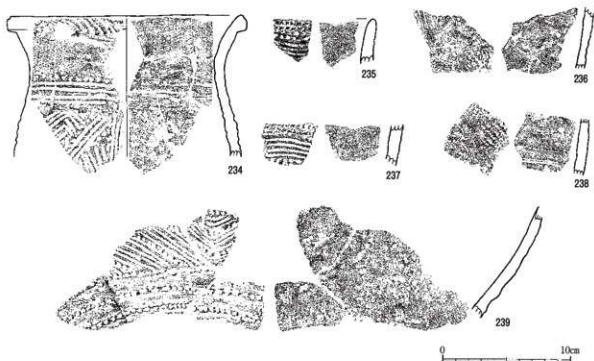
第48図 縄文時代早期 土器13 (Ⅶ類土器)

縄文時代早期土器観察表

発掘 番号	層位	出土区	部位	色調		胎土			焼成	外装	内装	備考
				内	外	石莖	長石	他(閃石・平の類)				
5-026	Ⅱ区	M-6, S-8	口縁-胴部	橙	橙	○			良	乱形押型文	押型文・ナナ	灰付着
177	Ⅱ区	M-6	口縁部	明赤	明赤	○	○		良	乱形押型文	押型文・ナナ	1) 暗赤押型文・灰付着
178	Ⅱ区	L-6	口縁部	明赤	明赤	○	○		良	乱形押型文	押型文・ナナ	1) 暗赤押型文
179	Ⅱ区	R-7	口縁部	12.5A+黄橙	12.5A+黄橙	○		○	良	乱形押型文	押型文・ナナ	
180	Ⅱ区	Q-6	口縁部	12.5A+黄橙	12.5A+黄橙	○			良	乱形押型文	押型文・ナナ	灰付着
181	Ⅱ区	R-7	口縁部	12.5A+黄橙	橙	○			良	乱形押型文	押型文・ナナ	
182	Ⅱ区	M-6	口縁部	明赤	12.5A+黄橙	○	○		良	乱形押型文	押型文・ナナ	1) 暗赤押型文・灰付着
183	Ⅱ区	L-6	口縁部	12.5A+黄橙	橙	○			良	乱形押型文	押型文・ナナ	1) 暗赤押型文・灰付着



第49図 縄文時代早期 土器14 (Ⅶ類土器)



第50図 縄文時代早期 土器15 (Ⅷ類土器)

Ⅷ類土器 (第50図 234～239)

Ⅷ類土器は沈線文や刺突文を直線・曲線的に組み合わせたものである。234は口縁径17.6cmを測り、棒状の器具で沈線や刺突文が施される。235は口縁部上部に貝殻刺突文が施される。236～238は胴部である。236と238は同一個体と思われる。239は頸部付近である。

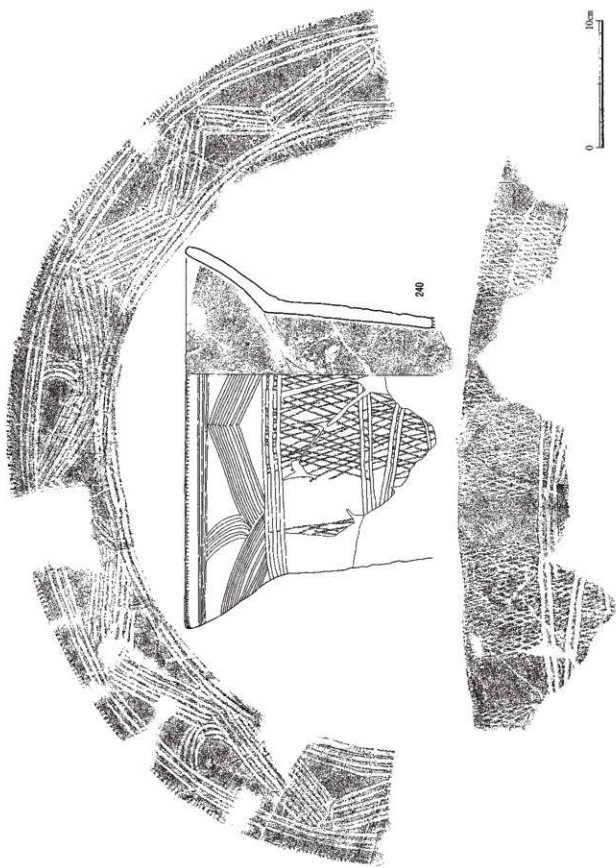
Ⅸ類土器 (第51図～第54図 240～258)

Ⅸ類土器はラッパ状に開いた口縁を持ち、沈線文を施し、胴部は沈線や撚糸文・連点文を施すものである。240～246は口縁部である。240～245は胴部に撚糸文と沈線文が施され口縁部には刺突文が施されている。245は口唇部に横位と斜位の刺突文が施されている。246は口唇部に刻目が頸部に連点文が施された壺形のものである。247～251は撚糸文と沈線文・連点文が施された胴部である。252～255は撚糸文・沈線文が施された底部である。254は上げ底である。256～258は頸部および肩部に微隆突帯を廻らすもので壺形土器となる胴部である。

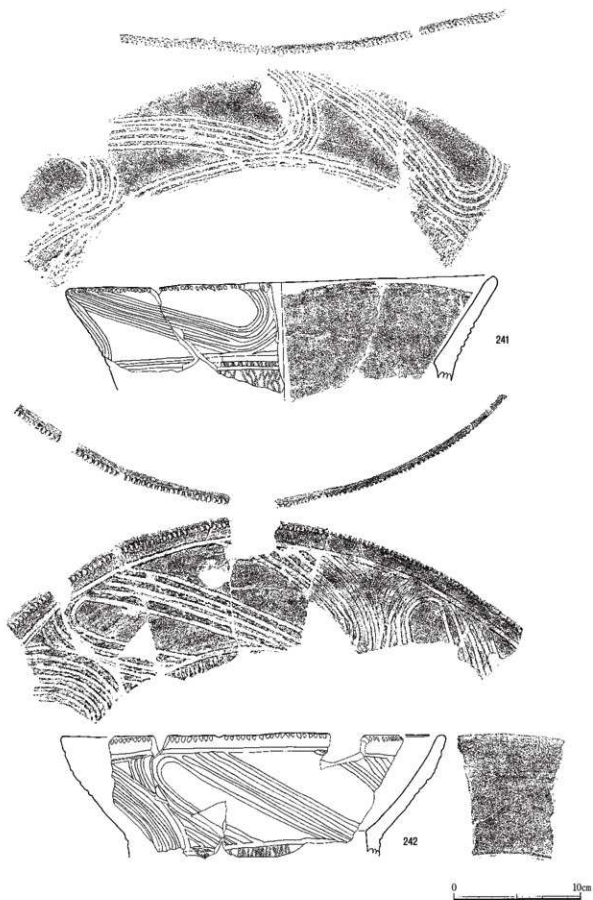
X類土器 (第55図～第59図 259～289)

X類土器は口縁部がわずかに開き口唇部が平坦に

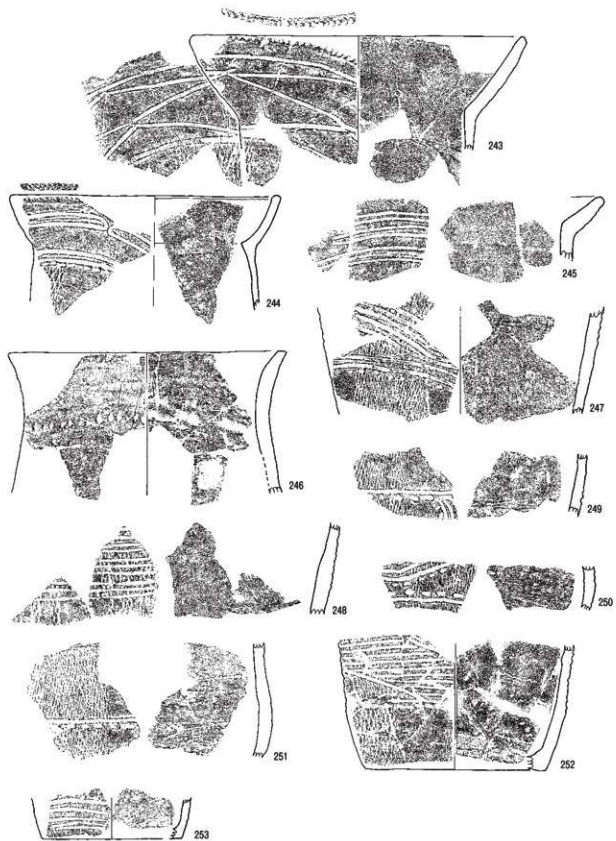
作られ刻目があるものである。外面は文様化を試みたような貝殻条痕文で器面調整が施されている。259は縦位の文様の上から横位・斜位の文様が施される。260は縦位の文様の上から斜位の文様が施される。補修孔が施される。261～264は口唇部に刻目があり、外面の文様が斜位に不規則に施される。265～270は口唇部に刻目があり外面の文様は斜位の文様が不規則に刻まれ、口縁部に横位の文様が施される。270は補修孔が施される。271は内湾口縁で口縁部の上部には横位または斜位の文様を施し、下部は縦位の文様が施される。272は5・6本の条痕が間隔をあけて斜位の文様で施され、その上を横位の文様が施される。273～278は胴部である。279は口唇部に刻目があり、縦位の文様が施された後、横位と縦位の文様が施される。波状の口縁部を持つものである。280・281は口縁部である。280は斜位の文様が施された後、胴部に横位と斜位の文様が施されている。289の底部と同一個体である。281は器面が丁寧な磨きかけられ、櫛状の条痕で横位の文様が施されている。282～285は胴部である。284～287は縦位の文様が施される底部付近である。288・289は



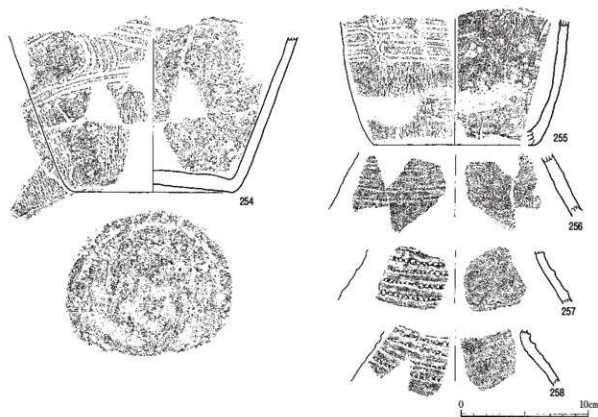
第51図 縄文時代早期 土器16 (区劃土器)



第52図 縄文時代早期 土器17 (Ⅹ類土器)



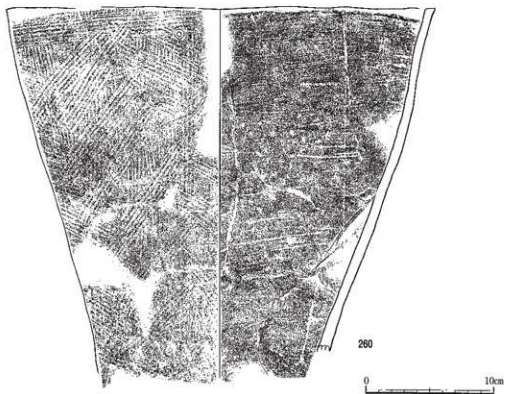
第53図 縄文時代早期 土器18 (Ⅹ類土器)



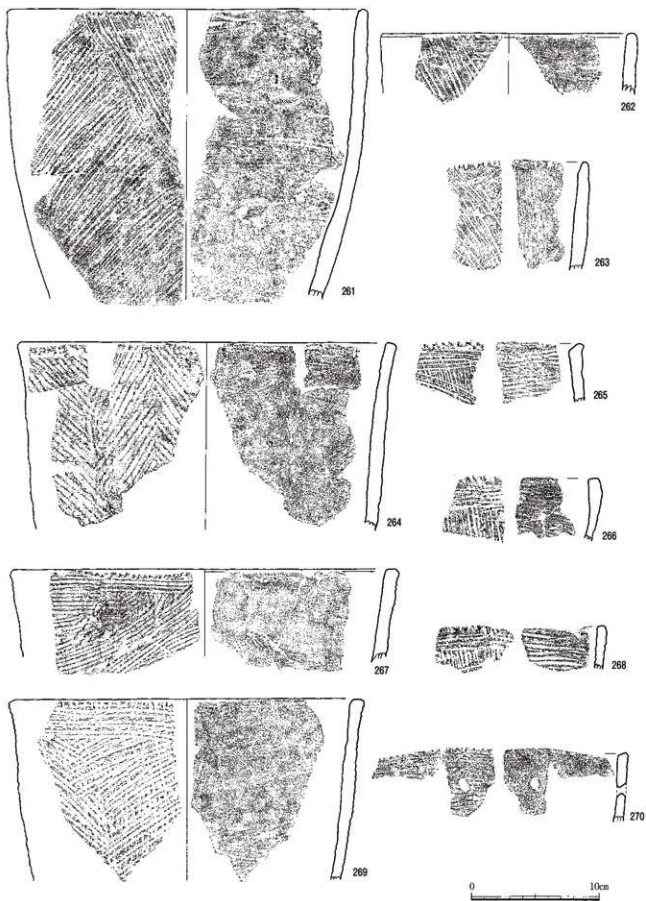
第54図 縄文時代早期 土器19 (X類土器)

縄文時代早期土器観察表

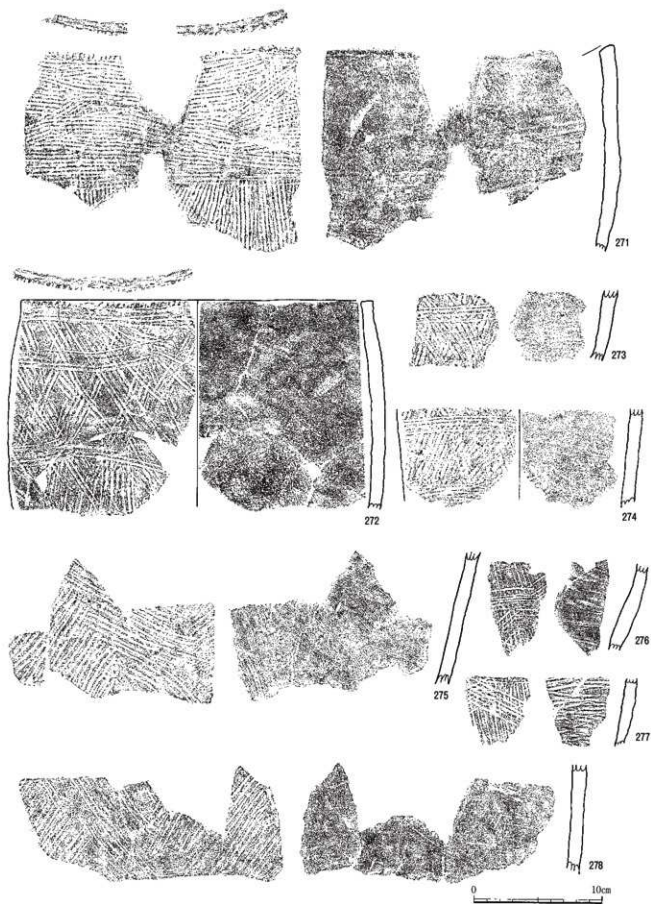
器種番号	器種	出土層	部位	色調			胎土		底面	片割	内面	備考
				内	外	石莖	長石	角閃石その他				
184	IV	M-5	胴部	12.0%黄緑	12.0%黄緑	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ残ナシ	保存否
185	-	-	胴部	12.0%黄緑	12.0%黄緑	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ残ナシ	
186	IV	T-8	胴部	12.0%黄緑	橙	○			良	山形押型文	カズリ	
187	IV	R-7	胴部	灰黄緑	明黄緑	○	○		良	山形押型文	カズリ	
188	IV	T-8	胴部	12.0%黄緑	12.0%黄緑	○	○		良	山形押型文	カズリ	
189	IV	M-6	胴部	灰黄緑	12.0%黄緑	○	○		良	山形押型文	ヘラケズリ残ナシ	保存否
190	IV	T-8	胴部	12.0%黄緑	12.0%橙	○			良	山形押型文	カズリ残ナシ	
191	IV	R-7	胴部	12.0%黄緑	12.0%黄緑	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
192	IV	T-9	胴部	12.0%黄緑	明赤褐色	○			良	山形押型文	カズリ	
193	IV	T-8	底部	12.0%黄緑	明赤褐色	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
194	IV	Q-6	底部	12.0%黄緑	橙	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
195	IV	T-9	底部	灰黄緑	橙	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
196	IV	Q-6、R-7	胴部	12.0%黄緑	橙	○	○	○	良	山形押型文	押型文・ナシ	保存否
197	IV	R-7	胴部	12.0%黄緑	浅黄緑	○	○		良	山形押型文	押型文・ナシ	
198	IV	Q-6	胴部	12.0%黄緑	橙	○	○	○	良	山形押型文	押型文・ナシ	1.押型押型文
199	IV	Q-6	胴部	1.1層～胴部	灰黄緑	橙	○	○	良	山形押型文	カズリ残ナシ	保存否
200	IV	L-6	胴部	1.1層～胴部	橙	明赤褐色	○	○	良	山形押型文	押型文・ナシ	1.押型押型文・保存否
201	IV	L-7	胴部	橙	明赤	○	○		良	山形押型文	押型文・ナシ	1.押型押型文・保存否
202	IV	M-6	胴部	12.0%黄緑	12.0%黄緑	○	○		良	ヘラケズリ	押型文	1.押型押型文・保存否
203	IV	L-1-M-6	胴部	1.1層～胴部	橙	橙	○	○	良	山形押型文	押型文・カズリ	1.押型押型文・保存否
204	IV	L-6	胴部	橙	橙	○	○		良	山形押型文	押型文・ナシ	1.押型押型文・保存否
205	IV	L-6	胴部	12.0%黄緑	12.0%黄緑	○	○		良	山形押型文	押型文	1.押型押型文
206	IV	P-6	胴部	明黄緑	明赤褐色	○	○		良	山形押型文	押型文・カズリ	1.押型押型文
207	IV	M-5	胴部	12.0%黄緑	明赤褐色	○	○		良	山形押型文	押型文	1.押型押型文
208	IV	L-5、M-6	胴部	12.0%黄緑	浅黄緑	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
209	IV	L-5	胴部	浅黄	浅黄	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
210	IV	Q-7	胴部	12.0%黄緑	浅黄緑	○	○		良	山形押型文	押型文・カズリ	
211	IV	M-5	胴部	12.0%黄緑	明赤	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	保存否
212	IV	M-5	胴部	12.0%黄緑	浅黄	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
213	IV	M-5	胴部	12.0%黄緑	12.0%黄緑	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
214	IV	Q-6	胴部	灰黄緑	橙	○	○		良	山形押型文	押型文・カズリ	
215	IV	M-6	胴部	黄緑	浅黄緑	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
216	IV	L-1-M-5	胴部	12.0%黄緑	橙	○	○		良	山形押型文	カズリ残ナシ	
217	IV	S-8	胴部	12.0%黄緑	橙	○	○	○	良	山形押型文	カズリ残ナシ	



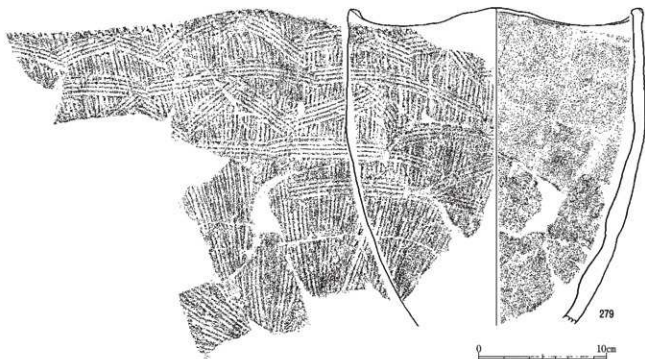
第55図 縄文時代早期 土器20 (X類土器)



第56図 縄文時代早期 土器21 (X類土器)



第57図 縄文時代早期 土器22 (X類土器)



第58図 縄文時代早期 土器23 (X類土器)

縄文時代早期土器観察表

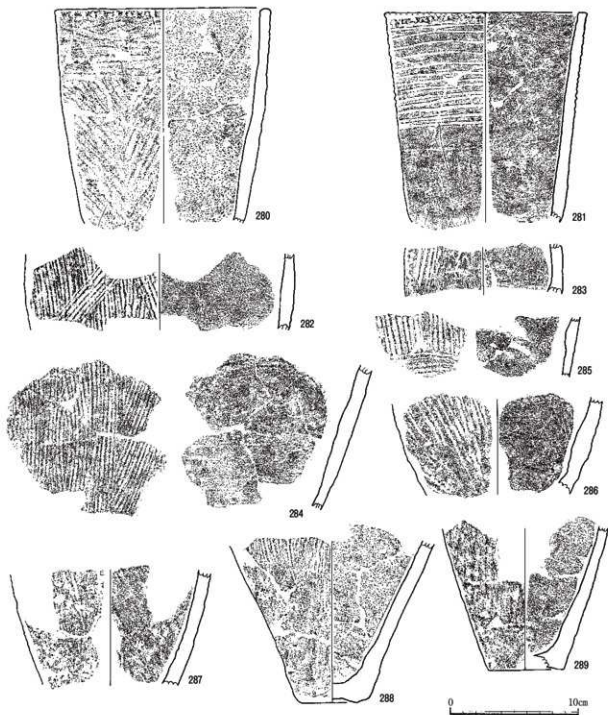
器種番号	番号	器種	出土区	部位	色産		胎土		底文	外面	内面	備考
					内	外	石瓦	灰石				
第1区	218	片	L-7	胴部	焼	12.6A+焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	復刻書
	219	片	M-6	胴部	12.6A+黄緑	12.6A+黄緑	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
	220	片	L-6	胴部	焼	明赤	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
	221	片	L-5	胴部	12.6A+焼	焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	復刻書
	222	片	M-6	胴部	12.6A+黄緑	明赤	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
	223	片	M-5	胴部	12.6A+黄緑	12.6A+黄緑	○	○	良	短刻軸文	ナズリ残ナシ	
	224	片	M-6	胴部	12.6A+焼	焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
	225	片	U-9	胴部	焼	焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
	226	片	-	胴部	焼	焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
	227	片	M-6	胴部	12.6A+焼	12.6A+焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
	228	片	L-6	胴+底部	焼	焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
	229	片	T-9	胴+底部	12.6A+焼	焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
	230	片	M-5、U-9	胴+底部	12.6A+焼	焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	
第2区	231	片	L-5	胴+底部	焼	焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ残ナシ	復刻書
	232	片	Q-6	胴+底部	12.6A+黄緑	焼	○	○	良	縄目押型文、赤線文	ナズリ残ナシ	復刻書
	233	片	L、M-5	交形	焼	焼	○	○	良	山形押型文、縄目押型文	ナズリ残ナシ	
第3区	234	片	M、N-5	1段+胴部	焼	12.6A+焼	○	○	赤線目	縄目文、赤線文	ナズリ残ナシ	
	235	片	Q-5	1段部	焼	焼	○	○	良	刺突文、赤線文	ナズリ残ナシ	
	236	片	T-8	胴部	焼	焼	○	○	良	刺突文、赤線文	ナズリ残ナシ	
	237	片	Q-5	胴部	焼	焼	○	○	良	刺突文、赤線文	ナズリ残ナシ	
	238	片	T-8	胴部	焼	焼	○	○	良	刺突文、赤線文	ナズリ残ナシ	
	239	片	S-5	胴部	焼	12.6A+黄緑	○	○	良	刺突文、赤線文	ナズリ残ナシ	復刻書
第4区	240	片	S-9	1段+胴部	焼	焼	○	○	良	縄目押型文、比羅文	ナズリ残ナシ	復刻書
	241	片	S-9	1段部	焼	焼	○	○	良	縄目押型文、比羅文	ナズリ残ナシ	復刻書
	242	片	S-9	1段部	焼	焼	○	○	良	縄目押型文、比羅文	ナズリ残ナシ	復刻書
	243	片	S-8、9	1段部	焼	焼	○	○	良	縄目押型文、比羅文	ナズリ残ナシ	復刻書
	244	片	T-9	1段部	12.6A+黄緑	12.6A+黄緑	○	○	良	縄目押型文、比羅文	ナズリ残ナシ	
	245	片	S-9	1段部	焼	焼	○	○	良	縄目押型文、比羅文	ナズリ残ナシ	復刻書
第5区	246	片	N-5、S-7	1段部	12.6A+黄緑	12.6A+黄緑	○	○	良	縄目押型文、比羅文、透点文	ナズリ	復刻書
	247	片	S-9	胴部	明赤	明赤	○	○	良	縄目押型文、比羅文、透点文	ナズリ	復刻書
	248	片	T-9	胴部	12.6A+黄緑	焼	○	○	良	縄目押型文、比羅文	ナズリ	
	249	片	T-9	胴部	12.6A+黄緑	12.6A+黄緑	○	○	良	縄目押型文、比羅文、透点文	ナズリ	復刻書
	250	片	U-9	胴部	12.6A+黄緑	12.6A+黄緑	○	○	良	縄目押型文、比羅文、透点文	ナズリ	復刻書
	251	片	S-9	胴部	明赤	12.6A+黄緑	○	○	良	縄目押型文、比羅文、透点文	ナズリ	
第6区	252	片	S-8	底部	明赤	明赤	○	○	良	縄目押型文	ナズリ	
	253	片	T-9	底部	12.6A+黄緑	12.6A+黄緑	○	○	良	縄目押型文、比羅文	ナズリ	
	254	片	S-9	底部	12.6A+焼	明赤	○	○	良	縄目押型文	ナズリ	
	255	片	S-9	底部	明赤	焼	○	○	良	縄目押型文	ナズリ	
	256	片	S-8、T-9	底部	12.6A+焼	焼	○	○	良	刺突文	ナズリ	
	257	片	Q-7	胴部	12.6A+黄緑	12.6A+黄緑	○	○	良	刺突文	ナズリ	
258	片	Q-7	胴部	12.6A+黄緑	12.6A+黄緑	○	○	良	刺突文	ナズリ		

縦位の文様が施された底部である。

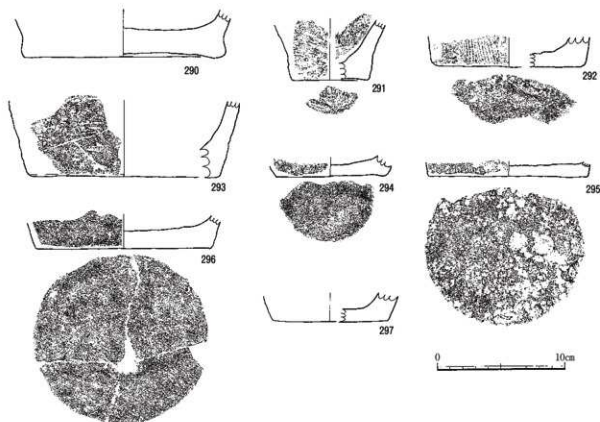
XI類土器 (第60図 290~297)

XI類土器は早期の底部の細分化が難しいものである。290は上げ底で底部径15.9cmを測る。側面、底部とも磨きがかけられている。291はヘラケズリが

施される。292・295は側面に縦位の貝殻条痕文が施される。297は側面に磨きがかけられている。



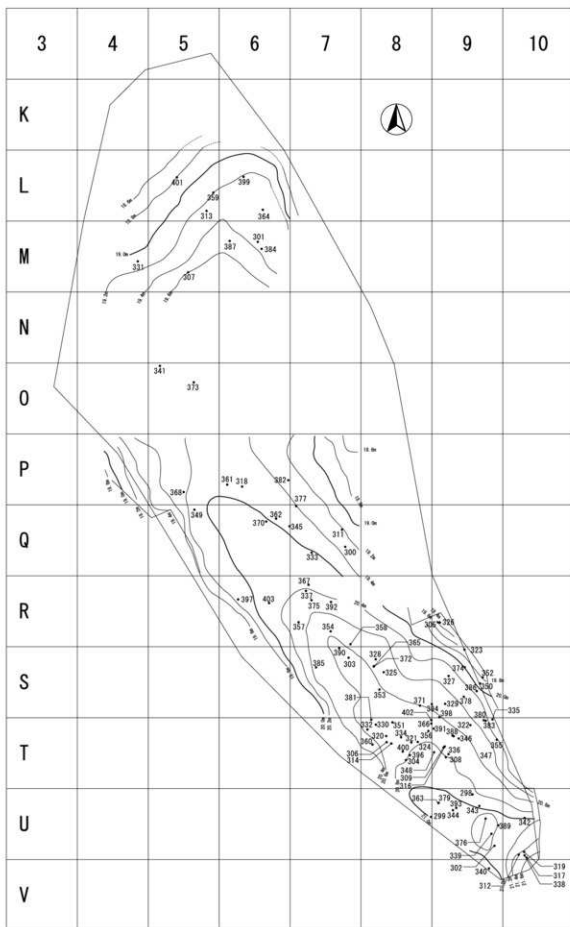
第59図 縄文時代早期 土器24 (XI類土器)



第60図 縄文時代早期 土器25 (XI類土器)

縄文時代早期土器観察表

発掘番号	層位	形状	出土区	部位	色澤			胎土			焼成	外装	内装	備考
					内	外	石莖	長石	角閃石	その他				
259	IV	R-8	I層→II層	口縁	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
260	IV	-	I層	胴部	12.8A+黄緑	12.8A+黄緑	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
261	IV	U-9, 10	I層→II層	唇	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
262	IV	U-9	I層	唇	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
263	IV	V-10	I層	口縁	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
264	IV	U-9	I層	口縁	12.8A+黄	橙	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
265	IV	T-8	I層	胴部	12.8A+黄緑	12.8A+黄緑	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
266	IV	T-8	I層	胴部	12.8A+黄緑	12.8A+黄緑	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
267	IV	U-10	I層	口縁	12.8A+黄	12.8A+橙	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
268	IV	T-8	I層	胴部	12.8A+黄緑	12.8A+黄緑	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
269	IV	R-8	I層	胴部	黄緑	橙	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
270	IV	S-8, U-10	I層	口縁	12.8A+黄緑	12.8A+黄緑	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	焼物孔
271	IV	U-10	I層	明角輪	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	焼物孔
272	IV	T-8	I層	胴部	12.8A+黄	12.8A+黄緑	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
273	IV	S-8	胴部	12.8A+黄緑	12.8A+黄緑	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
274	IV	S-8	胴部	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
275	IV	U-9	胴部	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
276	IV	U-9	胴部	灰黄輪	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
277	IV	T-8	胴部	12.8A+黄緑	12.8A+黄緑	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
278	IV	U-9	胴部	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
279	IV	S-8	I層→II層	胴部	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
280	IV	R-9	I層→II層	胴部	黄緑	橙	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
281	IV	S-9	I層→II層	明角輪	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
282	IV	T-8	胴部	橙	○	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
283	IV	O-5	胴部	12.8A+黄	12.8A+黄緑	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
284	IV	V-10, U-9	胴部	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
285	IV	S-8	胴部	12.8A+黄	12.8A+黄緑	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
286	IV	T-8	胴部	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
287	IV	U-10	胴部	12.8A+黄緑	12.8A+黄	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
288	IV	R-8	胴→底	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
289	IV	R-9	胴→底	12.8A+黄緑	橙	○	○	○	○	○	良	漆文	カズリ残ナク	復行否
290	IV	U-9, 10	底	12.8A+黄	橙	○	○	○	○	○	良	カズリ残ナク	カズリ残ナク	
291	IV	U-10	底	12.8A+黄緑	12.8A+黄緑	○	○	○	○	○	良	カズリ残ナク	カズリ残ナク	
292	IV	-	底	橙	12.8A+黄緑	○	○	○	○	○	良	カズリ残ナク	カズリ残ナク	
293	IV	U-9	底	橙	○	○	○	○	○	○	良	カズリ残ナク	カズリ残ナク	
294	IV	T-8	底	12.8A+黄	明赤輪	○	○	○	○	○	良	カズリ残ナク	カズリ残ナク	
295	IV	U-9	底	12.8A+黄緑	明赤輪	○	○	○	○	○	良	カズリ残ナク	カズリ残ナク	
296	IV	U-9	底	明赤輪	明赤輪	○	○	○	○	○	良	カズリ残ナク	カズリ残ナク	
297	IV	T-9	底	明赤輪	明赤輪	○	○	○	○	○	良	カズリ残ナク・ミギキ	カズリ残ナク	



第61図 縄文時代早期 石器出土状況

②石器 (第62図～第75図)

縄文時代早期の石器は、石鏃、石斧、礮器、磨石、石皿等が出土した。

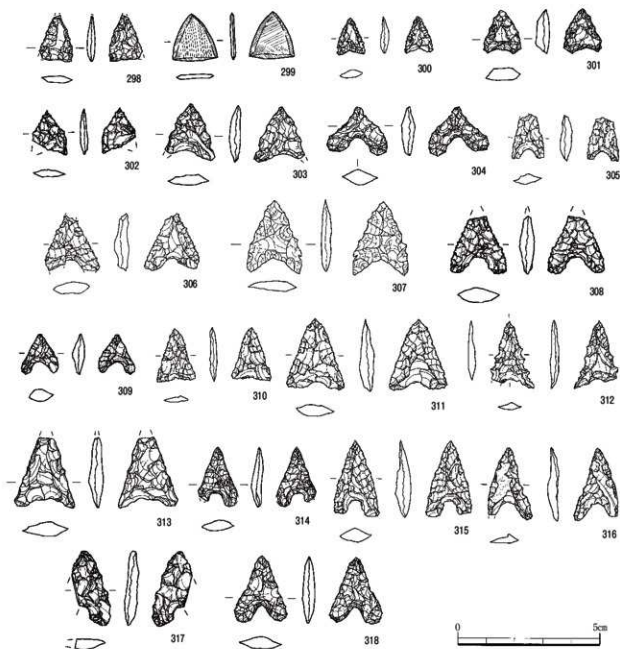
石鏃 (第62図・第63図 298～336)

石鏃は、本報告書P39の農業開発総合センター遺跡群内の石鏃分類図によって分類した。Aaa 2点、Aab 6点、Aac 4点、Aba 1点、Abb 3点、Abc 11点、Acc 3点、Bab 1点、Bea 1点、不明なものが7点である。石鏃は打裂が37点でほとんどが入念な交互剥離

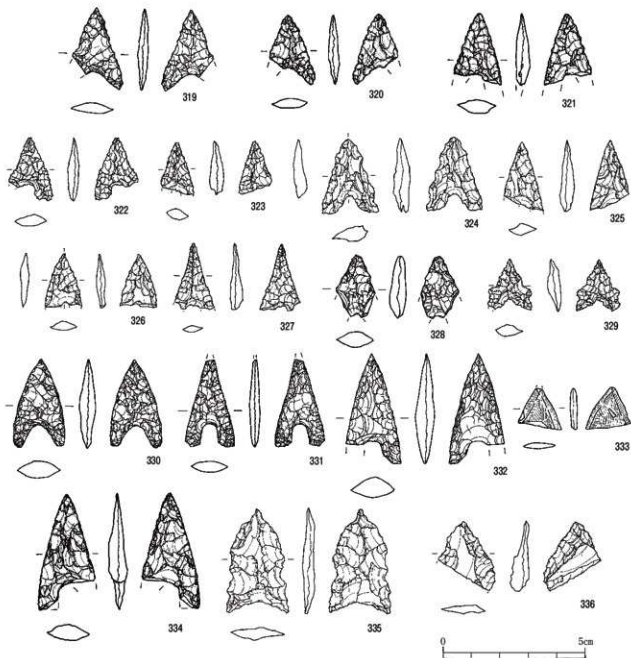
により調整されている。磨製が2点で299は全面に磨きがかけられている。40点中24点が破損しており、先端部が破損しているものは4点、先端部と基端の両方破損しているのは3点、基端が破損しているのは17点で片方のみ破損が8点、両方とも破損しているのが9点である。平均重量は約1.2gである。石材は黒曜石が19点で最も多かった。

スクレイパー (第64図 337～340)

スクレイパーは4点図化した。337は上牛鼻産類



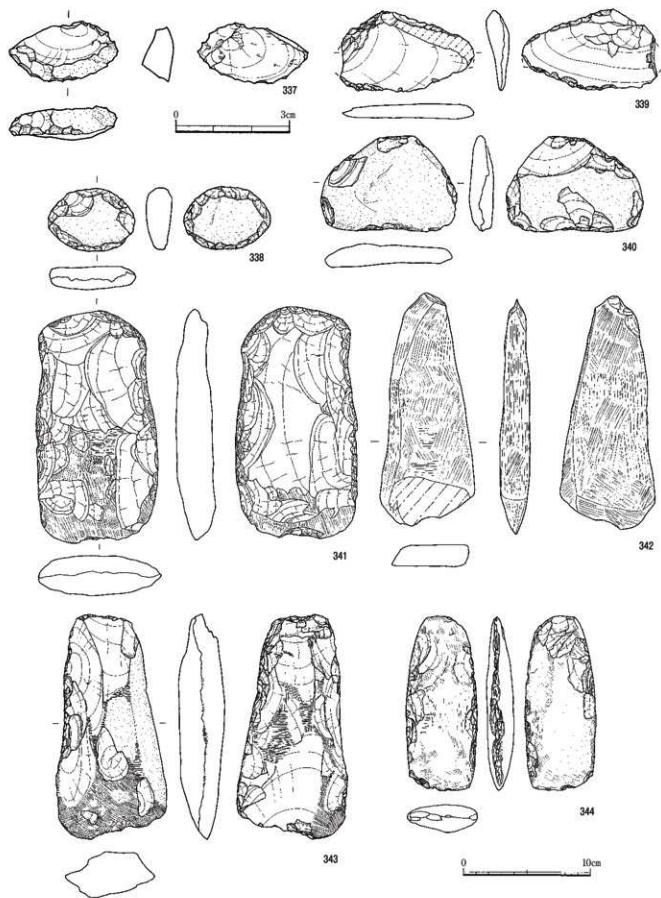
第62図 縄文時代早期 石器 1



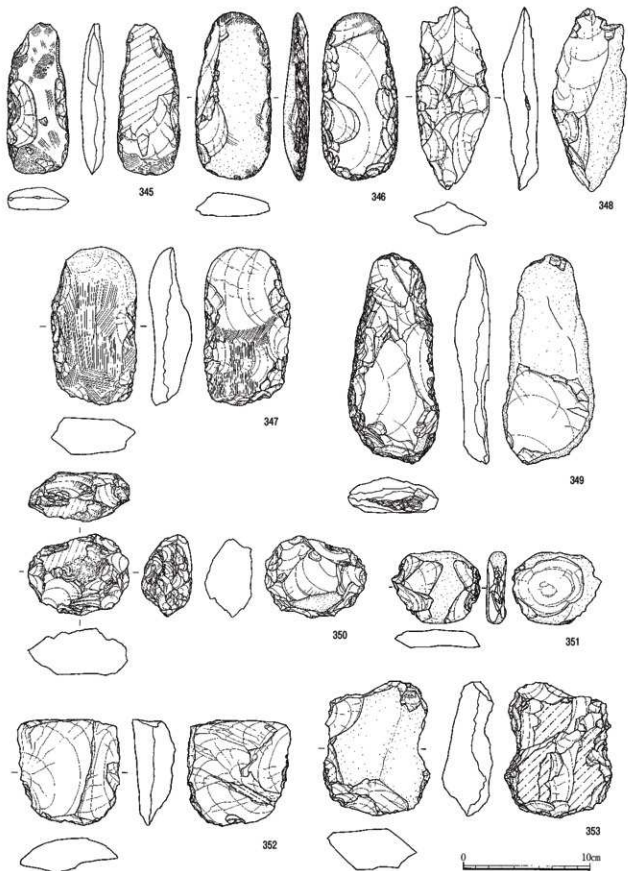
第63図 縄文時代早期 石器2

縄文時代早期石器観察表

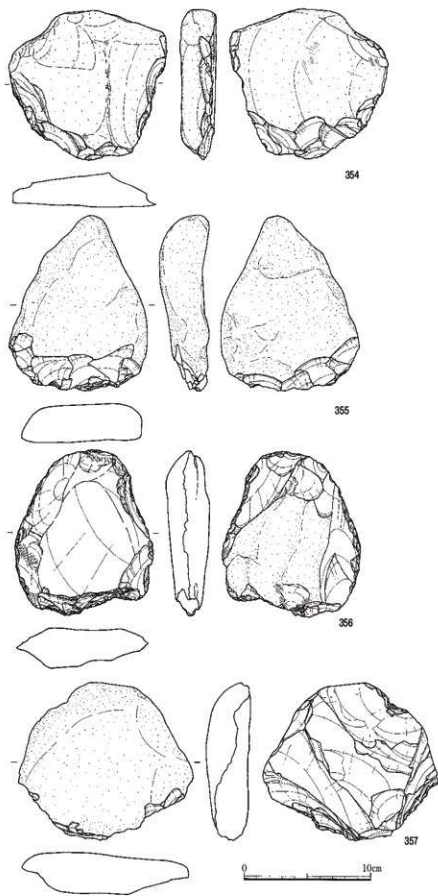
挿入番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考分類
第 62 図	298	打製石鏃	U-9	IV	頁岩	(1.6)	1.3	0.3	0.46	A-a-a
	299	磨製石鏃	U-8	IV	頁岩	1.7	1.6	0.3	0.63	A-a-a
	300	打製石鏃	Q-7	IV	黒曜石(白東)	1.3	0.7	0.3	0.26	A-a-b
	301	打製石鏃	M-6	IV	黒曜石(上牛鼻)	1.6	1.3	0.4	0.85	A-a-b
	302	打製石鏃	U-9	IV	玉髓	(1.6)	(1.3)	0.2	0.4	A-a-b
	303	打製石鏃	S-7	IV	瑪瑙玉髓	2.0	1.7	0.4	1.06	A-a-b
	304	打製石鏃	T-8	IV	瑪瑙玉髓	1.7	0.5	2.2	0.93	A-a-b
	305	打製石鏃	R-9	IV	頁岩	(1.6)	1.2	0.4	0.61	A-a-b
	306	打製石鏃	T-8	IV	黒曜石(三輪)	(2.0)	1.9	0.4	1.28	A-a-c
	307	打製石鏃	M-5	IV	黒曜石(上牛鼻)	2.5	2.0	0.3	1.25	A-a-c
	308	打製石鏃	T-9	IV	鉄石条	(2.1)	1.9	0.5	1.67	A-a-c
	309	打製石鏃	T-9	IV	黒曜石(上牛鼻)	1.4	1.3	0.45	0.4	A-a-c
	310	打製石鏃	-	IV	黒曜石	1.9	0.9	0.3	0.43	A-b-a
	311	打製石鏃	Q-7	IV	頁岩	1.5	2.0	0.5	1.79	A-b-b
	312	打製石鏃	U-10	IV	黒曜石(上牛鼻)	2.4	(1.9)	0.3	0.68	A-b-b
	313	打製石鏃	L-5	IV	シルト質頁岩	(2.5)	2.2	0.5	1.69	A-b-b
	314	打製石鏃	T-8	IV	瑪瑙玉髓	2.1	1.4	0.4	0.68	A-b-c
	315	打製石鏃	-	IV	黒曜石(上牛鼻)	2.7	1.6	0.5	1.78	A-b-c
	316	打製石鏃	T-9	IV	黒曜石(上牛鼻)	2.5	1.6	0.4	0.77	A-b-c
317	打製石鏃	U-10	IV	黒曜石(白東)	0.7	(1.4)	0.4	1.38	A-b-c	
318	打製石鏃	P-6	IV	黒曜石	2.3	1.8	0.4	1.23	A-b-c	



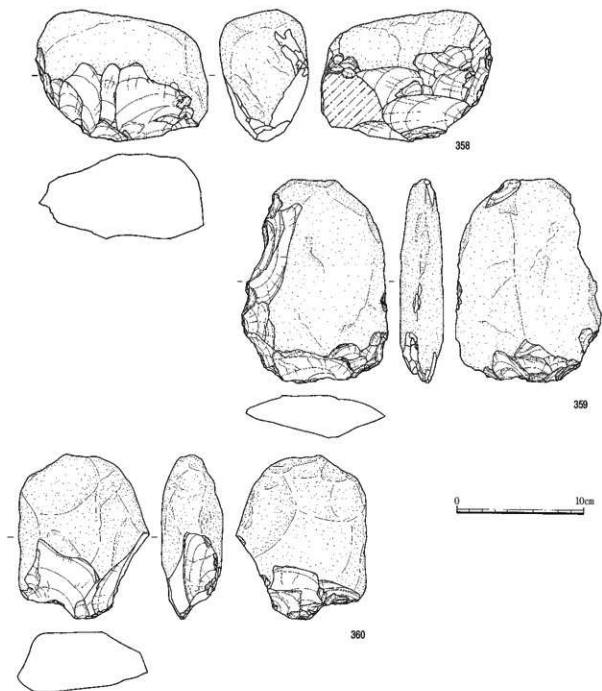
第64図 縄文時代早期 石器3



第65図 縄文時代早期 石器4



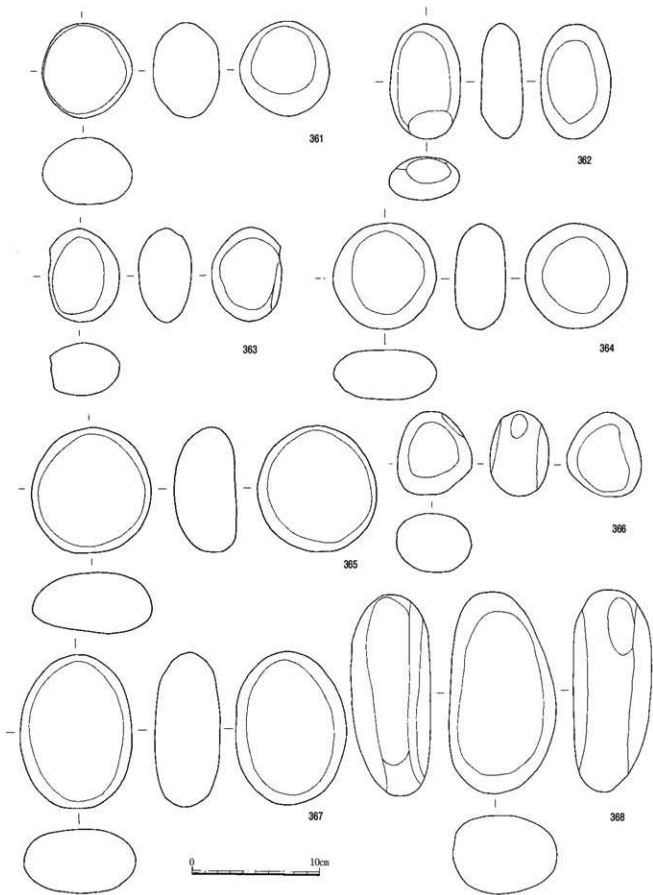
第66図 縄文時代早期 石器5



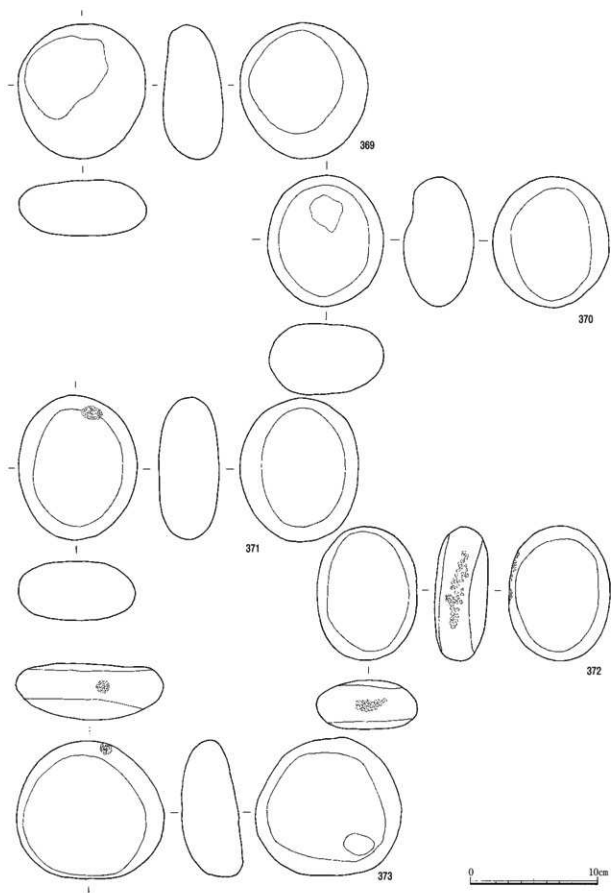
第67図 縄文時代早期 石器6

縄文時代早期石器観察表

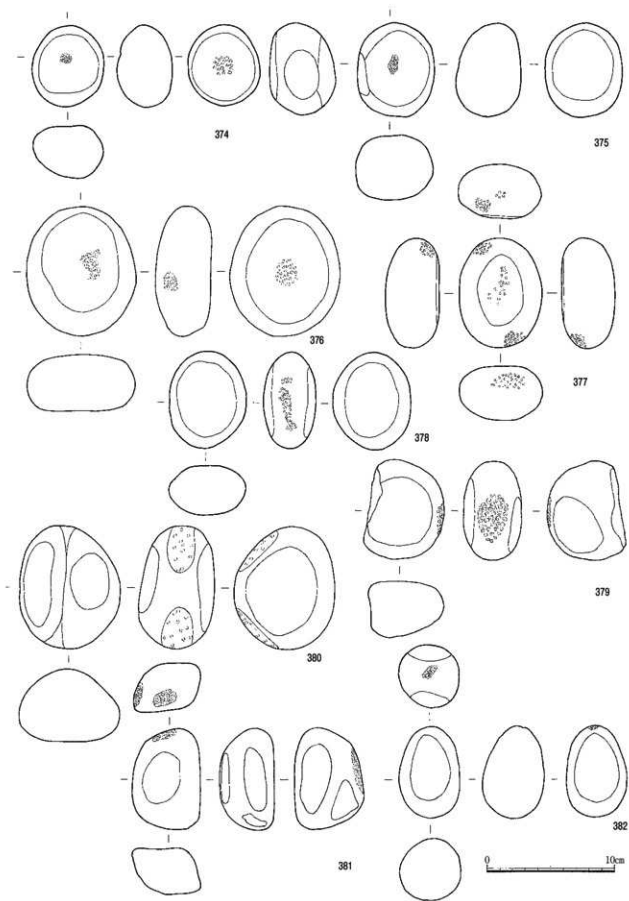
標本番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第 63 号	319	打製石鏃	U-10	IV	頁岩	2.6	(1.6)	0.4	1.01	A-b-c
	320	打製石鏃	T-8	IV	黒曜石(日東)	(2.5)	(1.7)	0.4	1.07	A-b-c
	321	打製石鏃	T-8	IV	頁岩	(7.55)	1.65	0.5	1.3	A-b-c
	322	打製石鏃	T-9	IV	黒曜石	2.2	1.6	0.4	0.93	A-b-c
	323	打製石鏃	S-9	IV	黒曜石(日東)	(1.9)	(1.2)	0.4	0.79	A-b-?
	324	打製石鏃	T-8	IV	頁岩	2.6	2.0	0.6	1.89	A-b-c
	325	打製石鏃	S-8	IV	頁岩	(2.5)	(1.5)	0.4	1.29	A-b-?
	326	打製石鏃	R-9	IV	頁岩	(1.9)	(1.3)	0.3	0.69	A-b-?
	327	打製石鏃	-	IV	黒曜石(上午巻)	2.4	1.5	0.4	0.93	A-b-?
	328	打製石鏃	S-8	IV	黒曜石(日東)	(2.2)	(1.3)	0.6	1.43	A-b-?
	329	打製石鏃	S-9	IV	黒曜石(三輪)	1.8	1.6	0.5	0.72	B-a-b
	330	打製石鏃	T-8	IV	黒曜石	3.1	1.9	0.6	2.16	A-b-c
	331	打製石鏃	M-4	IV	黒曜石	(3.1)	1.8	0.4	1.22	A-c-c
	332	打製石鏃	T-8	IV	頁岩	3.8	2.1	0.7	3.13	A-c-c
	333	磨製石鏃	Q-7	IV	頁岩	(1.2)	1.5	0.2	0.4	?
	334	打製石鏃	T-8	IV	頁岩	4.2	(2.2)	0.6	3.09	A-c-c
335	打製石鏃	T-9	IV	頁岩	3.7	2.2	0.4	3.17	B-c-a	
336	打製石鏃	T-9	IV	鉄石英	1.5	(1.5)	0.7	1.91	?	



第68図 縄文時代早期 石器7



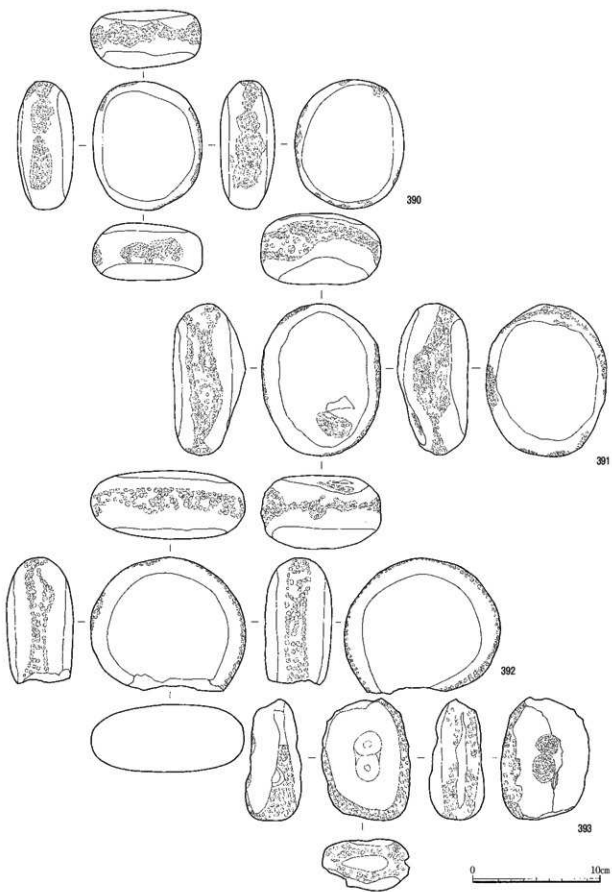
第69図 縄文時代早期 石器8



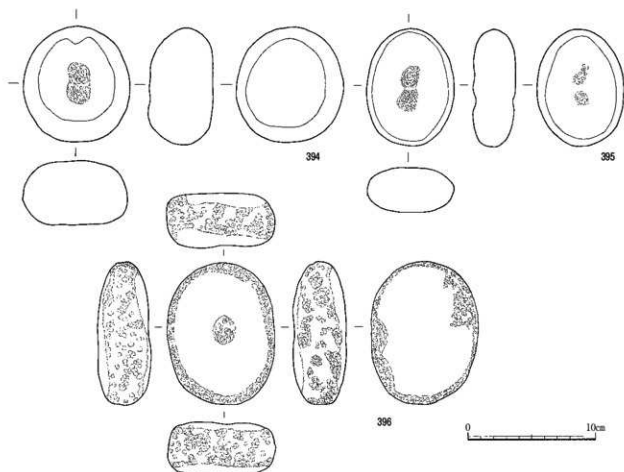
第70図 縄文時代早期 石器9



第71図 縄文時代早期 石器10



第72図 縄文時代早期 石器11



第73図 縄文時代早期 石器12

似の黒曜石で一部風化がみられる。下部に刃部形成が施されている。338は砂岩製で両側面に剥離を施している。339は縦長剥片を利用して側面に刃部を有するものである。340は自然面を残し、下部に刃部形成を施す。

石斧 (第64図・第65図 341~349)

341~345は磨製石斧である。341は両側面に剥離を施しているが、刃部は磨きが施されている。342は全面に丁寧な磨きが施される。343は刃部と基部に磨きが施される。344は自然面を残し、両面の刃部に磨きが施される。345は裏面が欠損しているが刃部に丁寧な磨きが施されている。346~349は打製石斧である。346は自然面を残し、側面に剥離が施されている。347は両面に磨きが施されているが側縁と刃部には敲打による剥離が施されている。348は縦長剥片にやや粗い剥離が施されている。349は

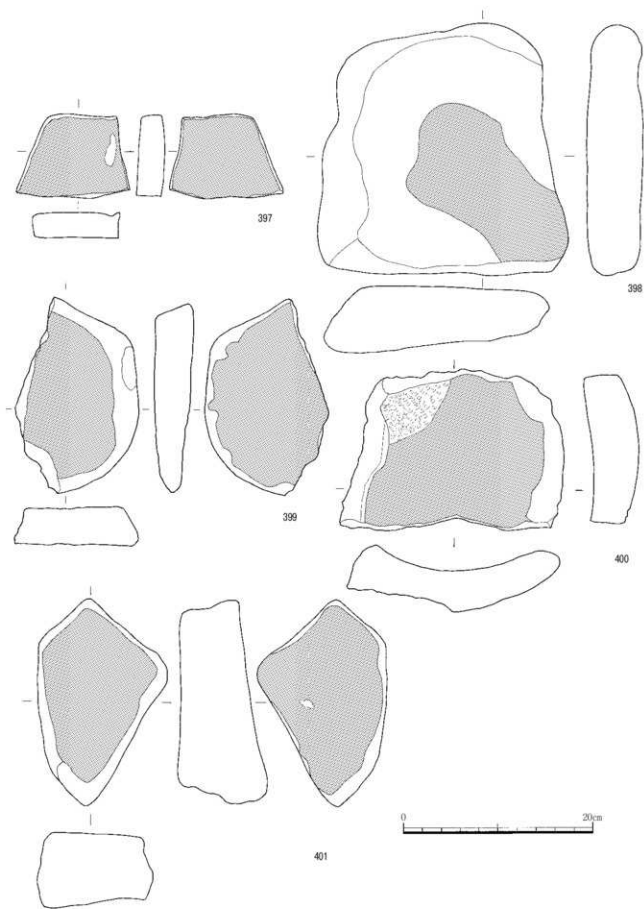
側縁と刃部に剥離が施されている。

石核 礫器 (第65~67図 350~360)

350は頁岩製の石核である。351~360は礫器である。352は側面に剥離を施し、下部を鋭利にし刃部形成が施されている。353は自然面を残し、側縁に挟りを施し、下部は刃部形成が施されている。354~360は自然面を多く残し、下部に刃部形成を行っている。

磨石 敲石 凹石 (第68図~第73図 361~396)

361~396は磨石、敲石、凹石である。円礫を用いた磨石が多く、石材は砂岩が多い。361~370は両面と側縁、または下部に磨石の機能のあるもの。371~382は磨石の機能を持つものと一部に敲石の機能を持つものである。383~388、390~392は磨石の機能と側縁に敲石の機能を持つものである。389・394・395は磨石と凹石の機能を持つものである。



第74図 縄文時代早期 石器13

393・396は磨石と敲石、凹石の機能を持つものである。

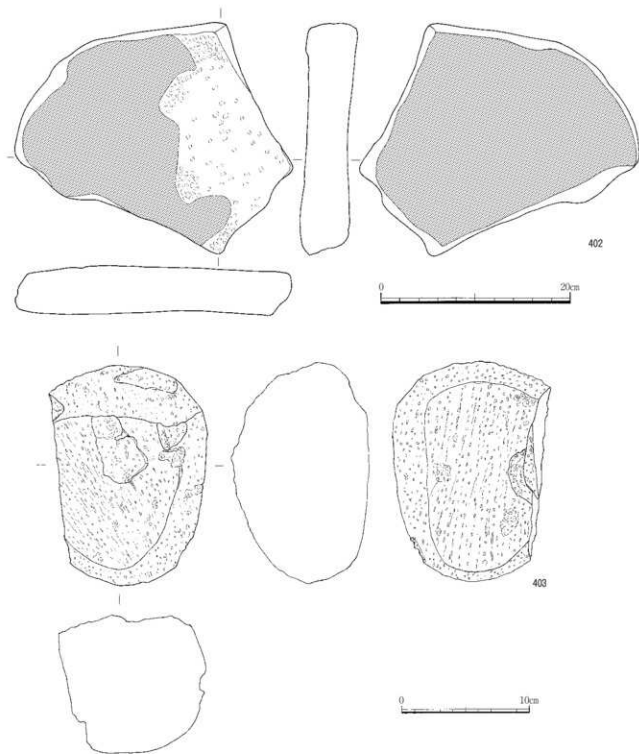
石皿（第74図・第75図 397～402）

6点を図化した。石材は砂岩のものが多い。397・399・401は両面とも作業面があるものである。

398は片面のみの作業面である。399は33号集石で出土している。400・402は敲打痕がみられる。

軽石製品（第75図 403）

403は軽石製品である。用途は不明であるが、各所に磨痕が見られる。



第75図 縄文時代早期 石器14

縄文時代早期石器観察表

標頭番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	備考
第64区	337	スタレイバー	R-7	IV	黒曜石(上牛鼻)	1.6	2.85	0.8	3.4	
	338	スタレイバー	U-10	IV	砂岩	4.85	6.1	1.8	75	
	339	スタレイバー	U-9	IV	頁岩	6.3	10.55	1.6	105	
	340	スタレイバー	V-9	IV	頁岩	7.5	10.75	1.85	180	
	341	磨製石斧	O-5	IV	頁岩	18.2	9.2	3.1	790	
	342	磨製石斧	U-10	IV	頁岩	17.7	7.4	1.7	420	
	343	磨製石斧	U-9	IV	頁岩	17.65	8.75	3.6	550	
第65区	344	磨製石斧	U-9	IV	頁岩	13.7	5.5	2.0	225	
	345	磨製石斧	Q-6	IV	頁岩	11.8	4.6	1.75	125	
	346	打製石斧	T-9	IV	頁岩	13.3	6.0	2.0	210	
	347	打製石斧	T-9	IV	頁岩	12.4	6.85	2.95	320	
	348	打製石斧	T-9	IV	頁岩	14.5	5.8	2.5	182	
	349	打製石斧	Q-5	IV	頁岩	16.5	7.1	2.7	329	
	350	石槌	S-9	IV	頁岩	6.45	7.9	3.9	215	
	351	礫器	T-8	IV	頁岩	5.6	7.1	1.5	70.5	
	352	礫器	S-9	IV	頁岩	8.3	8.15	3.1	238	
	353	礫器	S-8	IV	頁岩	10.55	8.45	3.7	370	
第66区	354	礫器	R-7	IV	頁岩	11.8	12.6	2.9	515	
	355	礫器	T-9	IV	頁岩	13.8	10.9	3.3	650	
	356	礫器	T-8	IV	頁岩	13.0	10.9	3.3	510	
	357	礫器	R-7	IV	頁岩	12.35	13.9	3.4	652	
第67区	358	礫器	R-7	IV	頁岩	10.3	13.55	6.9	1255	
	359	礫器	L-5	IV	頁岩	15.9	11.55	3.4	690	
	360	礫器	T-8	IV	頁岩	12.9	10.3	4.85	825	
第68区	361	磨石	P-6	IV	安山岩	7.5	7.0	5.3	360	
	362	磨石	Q-6	IV	砂岩	9.0	5.4	3.2	250	
	363	磨石	U-9	IV	砂岩	7.5	(5.5)	4.2	255	
	364	磨石	L-6	IV	安山岩	8.3	8.0	3.9	385	
	365	磨石	S-8	IV	安山岩	9.9	9.4	4.8	650	
	366	磨石	T-8	IV	砂岩	6.6	5.8	4.6	225	
	367	磨石	R-7	IV	安山岩	12.0	8.8	5.0	855	
	368	磨石	P-5	IV	砂岩	15.8	8.5	6.3	1245	
第69区	369	磨石	-	IV	安山岩	10.5	11.0	4.5	680	
	370	磨石	Q-6	IV	安山岩	10.2	9.0	5.5	740	
	371	磨石・敲石	S-8	IV	安山岩	11.3	9.4	4.7	745	
	372	磨石・敲石	S-8	IV	安山岩	10.5	7.9	3.9	500	
	373	磨石・敲石	O-5	IV	安山岩	10.7	11.6	4.4	800	
	374	磨石・敲石	S-9	IV	砂岩	6.5	5.6	4.2	210	
	375	磨石・敲石	R-7	IV	砂岩	7.9	6.2	5.1	310	
第70区	376	磨石・敲石	U-9	IV	砂岩	10.3	8.6	4.4	540	
	377	磨石・敲石	Q-7	IV	安山岩	8.6	6.5	4.2	345	
	378	磨石・敲石	S-9	IV	砂岩	7.6	6.0	4.0	270	
	379	磨石・敲石	U-9	IV	砂岩	7.8	(6.3)	4.5	300	
	380	磨石・敲石	T-9	IV	砂岩	9.6	7.9	5.9	590	
	381	磨石・敲石	T-8	IV	砂岩	8.0	5.5	3.7	240	
	382	磨石・敲石	P-6	IV	砂岩	7.2	4.3	4.9	230	
	383	磨石・敲石	T-9	IV	砂岩	6.9	6.5	3.5	220	
第71区	384	磨石・敲石	M-6	IV	砂岩	8.2	6.2	4.0	290	
	385	磨石・敲石	S-7	IV	砂岩	8.1	7.6	5.0	450	
	386	磨石・敲石	S-9	IV	砂岩	7.3	6.4	3.3	210	
	387	磨石・敲石	M-6	IV	チャート	9.2	6.6	3.9	330	
	388	磨石・敲石	T-9	IV	安山岩	9.4	7.4	4.1	500	
	389	磨石・凹石	U-9	IV	砂岩	8.8	5.9	4.6	295	
	390	磨石・敲石	S-7	IV	安山岩	10.1	8.5	4.4	500	
	391	磨石・敲石	T-9	IV	砂岩	12.0	9.3	5.4	860	
第72区	392	磨石・敲石	R-7	IV	安山岩	(10.2)	12.2	5.2	1040	
	393	磨石・敲石・凹石	U-9	IV	頁岩	9.6	6.9	4.2	340	
	394	磨石・凹石	S-9	IV	砂岩	9.0	8.4	4.9	540	
	395	磨石・凹石	-	IV	砂岩	9.3	6.8	3.4	310	
第73区	396	磨石・敲石・凹石	T-8	IV	安山岩	11.2	8.5	4.3	650	
	397	石皿	R-6	IV	頁岩	8.6	12.0	2.7	520	
	398	石皿	T-9	IV	安山岩	21.8	13.8	9.8	7800	
	399	石皿	L-6	IV	砂岩	20.8	13.1	4.0	1400	兼石33号
	400	石皿	T-8	IV	砂岩	16.4	22.3	5.1	2800	
	401	石皿	L-5	IV	砂岩	21.8	13.8	9.8	2500	
	402	石皿	T-8	IV	砂岩	24.3	29.5	5.3	4500	
第75区	403	軽石製品	R-6	IV	軽石	17.2	12.0	10.8	850	

3 縄文時代晩期の調査

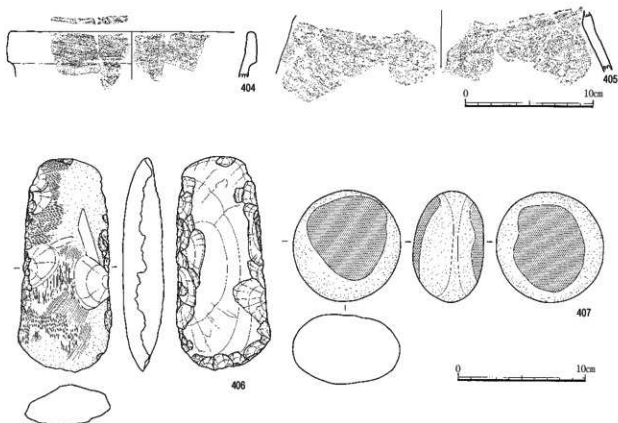
縄文時代晩期では遺構は検出されなかった。遺物は土器・石器ともに数点ずつ出土した。

(1) 土器 (第76図 404・405)

404は深鉢型土器の口縁部である。405は胴部である。

(2) 石器 (第76図 406・407)

406は打製石斧である。両側面に剥離を施している。上面に磨痕が見られる。407は円礫を利用し、両面に磨石の機能を持つものである。敲打痕などはみられない。



第76図 縄文時代晩期 土器・石器

縄文時代晩期土器観察表

検出番号	層位	出土区	部位	色調		胎土				底面	外面	内面	備考
				内	外	石英	黒石	角閃石	その他				
404	Ⅲ	U-9	口縁部	オリーブ緑	暗灰黒	○	○			黒	ナナ	ナズリ黒ナナ	
405	Ⅲ	F-9	胴部	黒	暗黒	○	○			黒	ナナ	ナズリ黒ナナ	

縄文時代晩期石器観察表

検出番号	番号	器種	出土区	層位	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	備考
第76図	406	打製石斧	N-5	Ⅲ	頁岩	16.75	7.45	3.2	500	
	407	磨石	U-8	Ⅲ	砂岩	8.7	8.5	5.5	600	

第6節 小結

荒田遺跡では、旧石器時代から縄文時代晩期の遺構・遺物が出土している。

旧石器時代

旧石器時代ではS-7区、T-8区、U・V-9・10区でブロックが3基検出された。石材は黒曜石が多く、S-7区、T-8区ではナイフ型石器が出土し、U・V-9・10区では細石刃が集中して出土している。

縄文時代草創期

縄文時代草創期の遺構はT-8区のⅦ層上面で集石が1基検出された。集石には掘り込みは見られなかった。N-4区では頁岩のブロックが検出された。ブロック内の器種が打製石斧と思われるものが多く、また、頁岩の剥片やチップの広がりから石器の製作跡と思われる。

遺物では土器が出土したがほとんどのものが風化が著しく図化することが難しかった。爪痕の見られる隆帯土器を2点図化できた。石器は磨石を3点図化した。

縄文時代早期

縄文時代早期の遺構は集石が35基、土坑が3基検出された。集石はT・U-9・10区に集中して検出されているが全体的には広範囲で出土している。掘り込みが見られたものは4基であった。遺物では、土器がⅡ類土器からⅩ類土器の10種類に分類した。南北の標高差が3mあり、その影響なのか、広範囲での土器の接合が見られた。それぞれの類に比類する土器型式は次の通りである。

Ⅱ類土器 加栗山式土器

Ⅲ類土器 石坂式土器

Ⅳ類土器 下洞峯式土器

Ⅴ類土器 桑ノ丸式土器

Ⅵ類土器 中原式土器

Ⅶ類土器 押型文土器

Ⅷ類土器 平椀式土器

Ⅸ類土器 塞ノ神式土器

Ⅹ類土器 右京西タイプ

Ⅱ類からⅣ類土器は数点の出土であった。Ⅴ類土器はU-9区で出土したほぼ完形に近いものや施文

に多くの種類が見られる物が出土した。本遺跡で出土量が最も多かったのはⅦ類土器の押型文土器である。口縁部が直行し復元口径が約43cmの大型のものから口縁部が外反する復元口径が約11cmの小型のものまで幅広く出土した。Ⅴ・Ⅶ類土器はT-8・9区やU-9・10区に多く出土している。Ⅸ類土器はS-8・9区に集中して出土している。Ⅹ類土器はⅦ類土器について出土量が多かった右京西タイプである。復元口径41cmの大型のものなどが出土した。口唇部に刻み目があり、条痕文が施されたものであるが、口唇部の器形が平坦で内径しているものがあった。これは、下洞峯式土器や桑ノ丸式土器の特徴に類似している。農業センター遺跡群では、右京西タイプの出土量が少ないので新たな資料となるであろう。また、281は口唇部の刻みからⅩ類土器の範疇に入れてあるが器面は丁寧に磨きがかけてあった。

石器は農業開発総合センター遺跡群の他の遺跡とはほとんど変わりがなかった。石鏃はT-8・9区に多く出土していた。出土したもので多かったのは磨石で62点あったが、そのうち、36点を図化した。

縄文時代晩期

縄文時代晩期の遺構は検出されなかった。土器は上加世田式と思われる土器が出土した。石器は打製石斧と磨石と計2点図化した。

参考文献

- 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(83) 農業開発総合センター遺跡群Ⅰ「窪見ノ上遺跡 建石ヶ原遺跡 古里遺跡 西原遺跡」2005
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(41) 「上野原遺跡(第2〜7地点)」2002
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(28) 「上野原遺跡(第10地点)」2001

桜 谷 遺 跡

第VI章 桜谷遺跡の発掘調査成果

第1節 調査の経過

桜谷遺跡は、平成14年5月～10月、平成15年1月～2月に調査を実施した。本調査は、研究水田部分の削平部分を対象とした。

平成14年度日誌抄

平成14年

5月 調査開始。表土剥ぎ、Ⅲ層・Ⅳ層掘り下げ。縄文早期の集石遺構が検出され、遺物も多く出土する。

6月 Ⅳ層掘り下げ継続。早期遺物出土、集石遺構検出。弥生時代中期の竪穴式住居跡検出・掘り下げ。下層確認調査（トレンチ調査）。

7月 Ⅲ層・Ⅳ層掘り下げ継続。早期遺物出土、集石遺構検出。縄文晩期の土坑調査。弥生時代竪穴式住居跡実測。

8月 Ⅳ層掘り下げ。下層確認調査。土層断面実測。8日鹿児島大学本田道輝助教現地指導。

導。

9月 Ⅳ層掘り下げ。Ⅶ層・Ⅷ層掘り下げ。旧石器ブロック検出。

10月 Ⅶ層・Ⅷ層掘り下げ。旧石器ブロック検出・遺物取り上げ。

11月 7日鹿児島大学森脇広教授現地指導。

12月 12日・13日熊本大学小畑弘己助教現地指導。16日・17日立命館大学矢野健一助教現地指導。

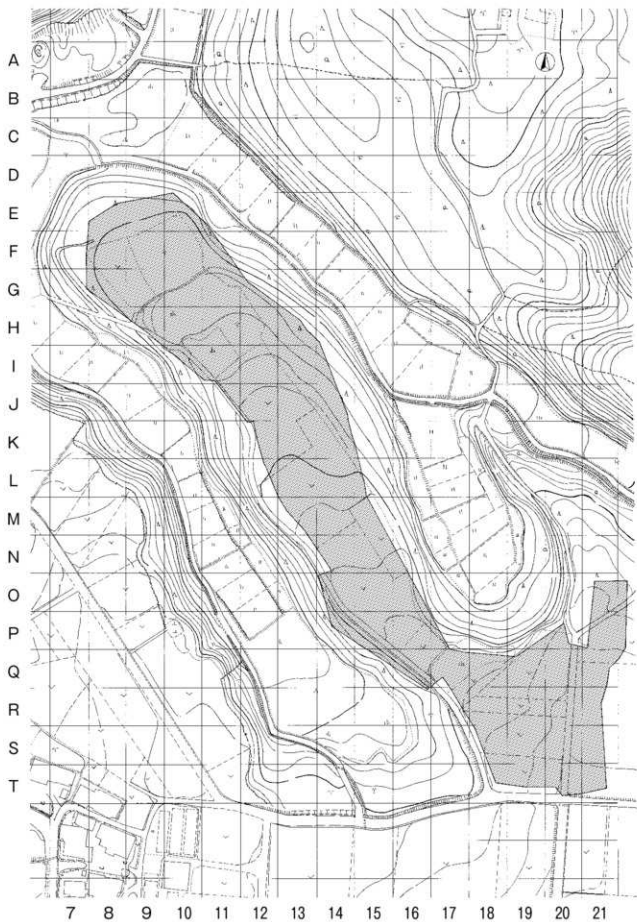
第2節 遺跡の層序

桜谷遺跡における層序は、農業開発総合センター遺跡群の標準的な層序と同様である。東側・西側・北側には谷が入り込む、いわゆる舌状台地状（幅約60m）を呈している。台地と谷部の比高差は7～10mである。台地の南側が高く標高約29mで、北側は標高約20mとだんだん低くなっている。

全体的に、Ⅱ層・Ⅲ層が削平されている。北側では弥生時代中期の竪穴式住居跡が検出されたが、遺構の部分だけの検出で、遺物包含層は削平されてい

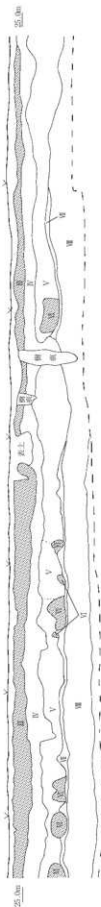
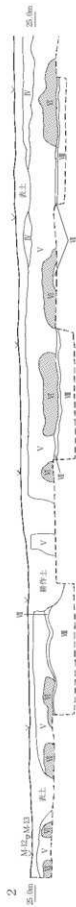
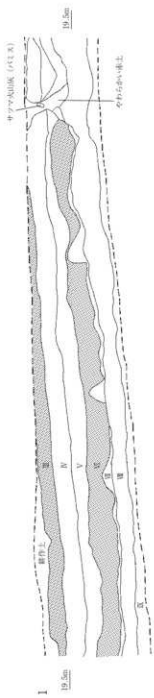


第1図 桜谷遺跡位置図 (1/25000)



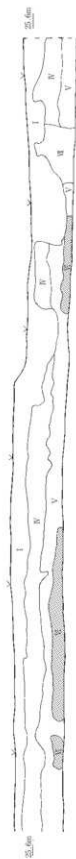
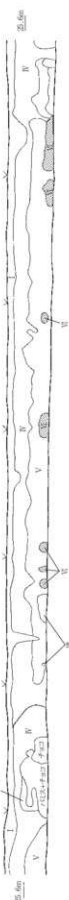
第2図 桜谷遺跡地形図・調査範囲・グリッド配置図 (1/2000)

- 1層 灰褐色土 (埋藏作土)
- 2層 赤土 (埋藏作土)
- 3層 赤褐色山灰土 (アサキヤ山灰)
- 4層 赤褐色土
- V層 赤褐色土
- VI層 赤褐色山灰土 (アサキヤ山灰)
- 埋藏 埋藏赤褐色土
- IV層 赤褐色山灰土 (アサキヤ山灰)
- 埋藏 埋藏赤褐色土 (アサキヤ山灰)

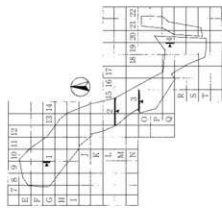
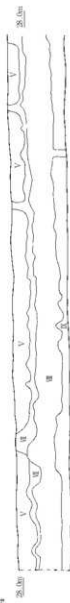


第3図 土層断面図1

3



4



第4図 土層断面図2

る。また、標高20m前後の北側の低い範囲では、液状化現象が各所にみられる。

第3節 発掘調査の方法及び概要

発掘調査は国土地標にあわせた20×20mの調査範囲(グリッド)を設定して実施し、遺跡地内の北側からA・B・C…、西側から1・2・3…とした。

遺跡は、谷を挟んで東側は荒田遺跡があり、大野原台地へ続く南面は神原遺跡に接している。標高20～29mの緩斜地にあり、東…北…西側に比高差7～10mの谷が入り込んでいる。

上部の地層が削平されている範囲が多く、古墳時代以降の遺構は検出されず、遺物も数点しか出土しなかった。弥生時代中期前葉の竪穴式住居跡が1基検出されているが、遺物包含層は削平されている。縄文時代晩期についても土坑が3基と柱穴列が1基検出されているが、遺物包含層は残存していない。IV・V層は遺跡のほぼ全域に残存し、縄文時代早期の遺構・遺物が多く出土している。遺構は集石遺構が36基検出され、1か所石器(石鏃)製作跡と思われるブロックが検出されている。遺物は石坂式土器を中心に岩本式・前平式・志風頭式・加栗山式・吉田式・押型文土器・桑ノ丸式・塞ノ神式等豊富な資料が出土している。特に押型文土器は底部に網底がみられたり、山形押型文と貝殻刺突文の2種の文様を有するものなど特殊なものが多い。石器も環状石斧・有孔石器といった特殊な石器を初め石鏃・石斧・磨石・石皿等豊富である。

Ⅶ層、Ⅷ層は分層が困難であったが、縄文草創期と思われる土器2点と石鏃2点、磨石1点が出土し、旧石器時代でナイフ型石器文化期と思われるブロックからナイフ型石器・台形石器・スクレイパー等が、細石器文化期と思われるブロックから細石刃・細石刃核が検出されている。

第4節 旧石器時代の調査

旧石器時代としては、Ⅶ層から石器や剥片が出土し、ブロックが2か所検出された。ブロックはナイフ形石器文化期のもとの細石器文化期のもと思われるが、これらの2時期をⅦ層内で分層することは困難であった。また縄文時代草創期の包含層であるⅦ層との分層も困難で、Ⅶ層より草創期の遺物も出土する状況であったことから、これら3時期の遺物は混在して出土している可能性が考えられる。

遺構(第5図～第7図)

ブロック1(第6図)

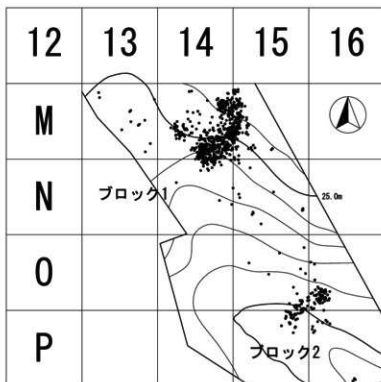
M-14区を中心に検出された。ナイフ形石器・台形石器・三稜尖頭器・スクレイパー・石核・剥片等が集中して出土している。石材は黒曜石・チャート・玉随・頁岩を主体とするものである。

ブロック2(第7図)

O・P-15・16区を中心に検出された。細石刃・細石刃核・スクレイパー・石核・剥片等が集中して出土している。石材は黒曜石・チャート・玉随・頁岩を主体とするものである。

遺物(第8図～第12図 1～39)

出土遺物については、Ⅶ層内でナイフ形石器文化



第5図 旧石器時代遺構配置図及び遺物出土状況

期と細石器文化期を分層することが困難であったことや、2時期の遺物が一部混在して出土していることから、ブロックごとに掲載するのではなく器種ごとに掲載した。

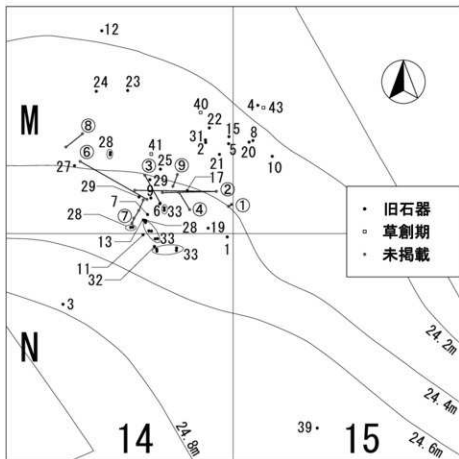
使用されている石材については、観察表の中で黒曜石を産地によりA～Dの4種類に分類したが、産地が明確でないものについては、黒曜石とだけ記載した。A～Dの産地については、縄文時代早期石器(p244)を参照されたい。

1・2はナイフ形石器である。比較的小形のものである。1はチャート製で、左側縁にブランディングを施したものである。2は桑ノ木津留産の黒曜石を使用したものである。先端部と基部は欠損している。先端部右側縁にブランディングが施される。3～11は台形石器である。全て黒曜石製である。小形のものから大形のものまで出土している。剥片の鋭利な部分を上部水平方向に用い、両側縁は細かいブランディングを施す。

12・13は三稜尖頭器である。縦長剥片を素材とし、両側面全体に整形加工を施したものである。12は黒曜石製で、13は頁岩製である。14はチャート製の楔形石器である。上下辺に剥離がみられる。

15～24はスクレイパーである。15・16・18は左側縁に二次加工が施されたものである。15は黒曜石製、16はチャート製である。17・20・22は、両端部に二次加工が施されるものである。17・20・22は日東産の黒曜石である。19はチャート製のもので、上部と左側縁に二次加工を施すものである。21は下辺部と右側縁に二次加工が施されたものである。日東産の黒曜石である。23は頁岩製の大型剥片を素材として、下辺部に二次加工を施したエンドスクレイパーである。上辺部に一部自然面が残る。24は左側縁の一部に自然面を残し、その他の周縁に二次加工を施したものである。

25～27は使用痕剥片である。25の石材は玉髄である。右側面に微細剥離が観察される。26は頁岩製の



第6図 旧石器時代ブロック1遺物出土状況

ものである。左側面に微細剥離がみられる。27はチャート製である。27の右側面に使用痕が観察される。また左側面には自然面が残る。

28～33は石核である。28は3点の剥片が接合したものである。玉随製である。29-1・29-2は大型剥片の頁岩を素材とした石核で、礫皮面を打面にして剥片を剥いている。30は上半鼻産の黒曜石を素材とした石核である。平坦な節理面を打面にして小型の縦長剥片を剥いている。31は日東産の黒曜石を素材としたもので、求心状に剥離を行っている。32・33は玉随を素材とした石核である。28を含め同一母岩の可能性も推測される。33は5点が接合したものである。

34～36は細石刃である。石材は34が玉随製で、他はチャート製である。3点とも両端部が、欠損している。

37～39は細石刃核である。37・39は上半鼻産の黒曜石を素材としたもので、38はチャート製である。

平坦面を打点として細石刃を剥ぎ取っている。37は表面に、39は左側面に風化した自然面を残す。

なお、図化しなかったが接合資料として①～⑤、⑧・⑨を写真図版30に掲載した。①～⑤は頁岩製、⑧・⑨は玉随製である。

第5節 縄文時代の調査

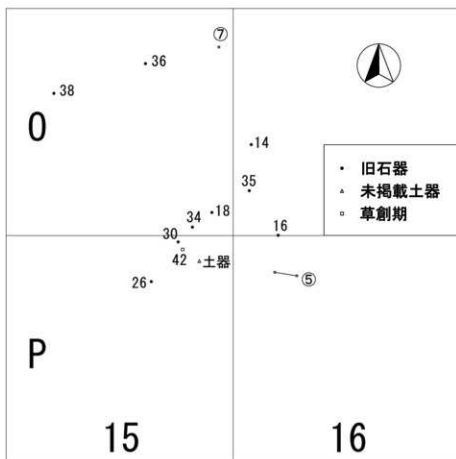
1 縄文時代草創期

縄文時代草創期は、遺構は検出されず遺物も土器2点、石鏃2点、磨石1点と非常に少ない。

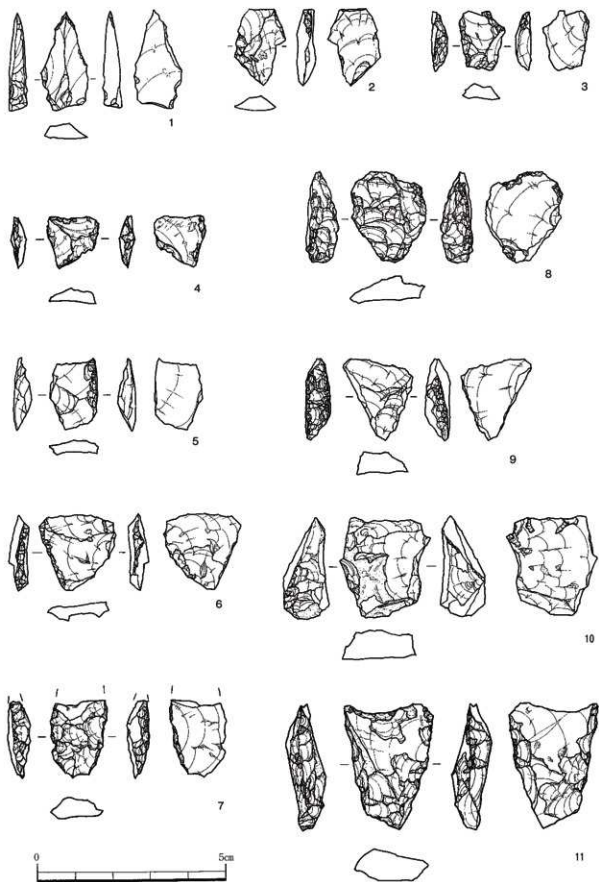
これらの出土遺物は前述の旧石器時代細石刃文化期の終末期に重なる資料の可能性も考えられるが、本遺跡では縄文時代草創期に相当するⅧ層と旧石器時代に相当するⅧ層との区別が困難であったため、草創期の出土遺物として取り扱うこととした。

遺物(第13図 40～43)

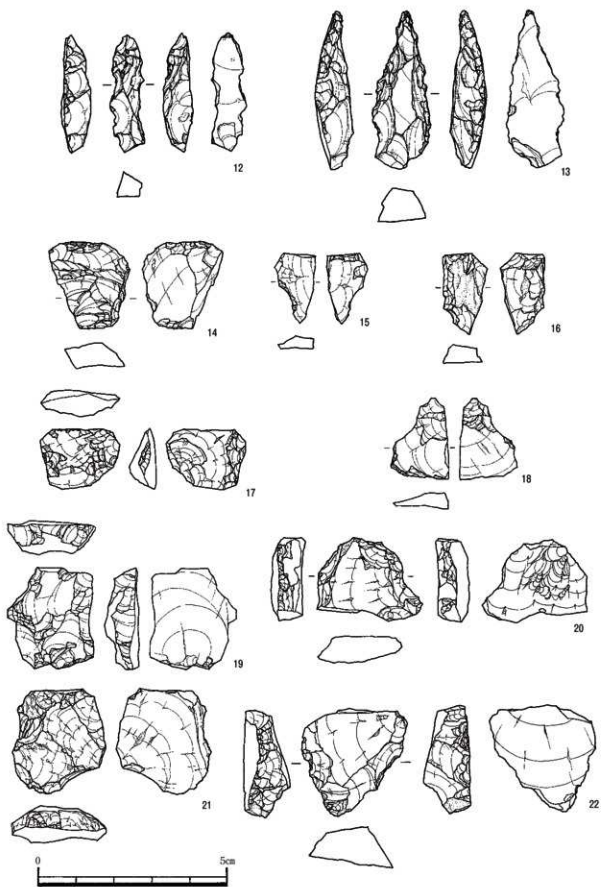
土器はM-14、P-15区から1点ずつ出土した。焼成不良のため脆く、表面も摩滅が激しい。2点の



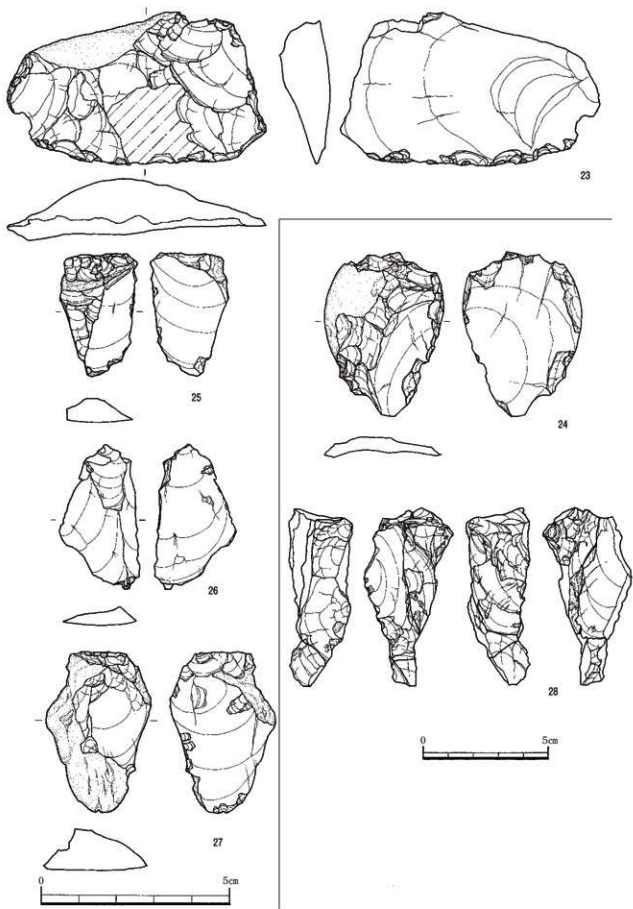
第7図 旧石器時代ブロック2遺物出土状況



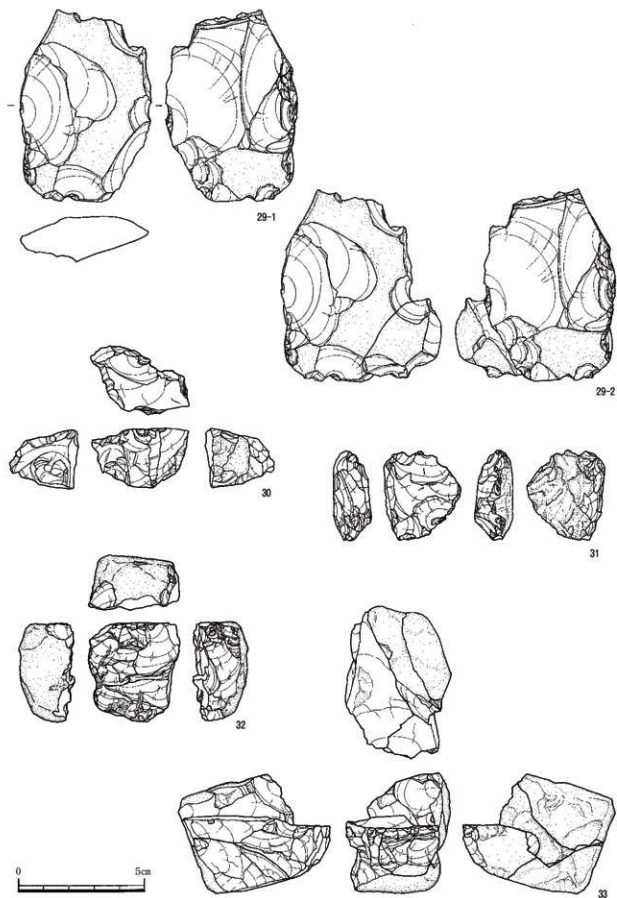
第8圖 旧石器 1



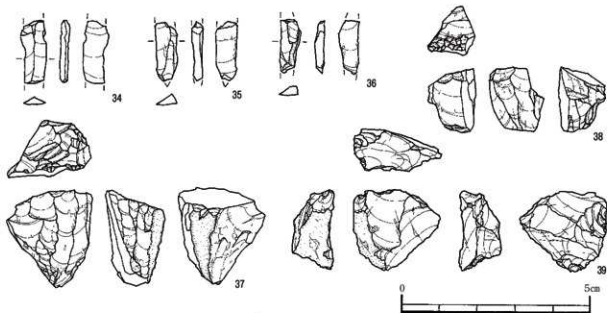
第9圖 旧石器2



第10圖 旧石器3



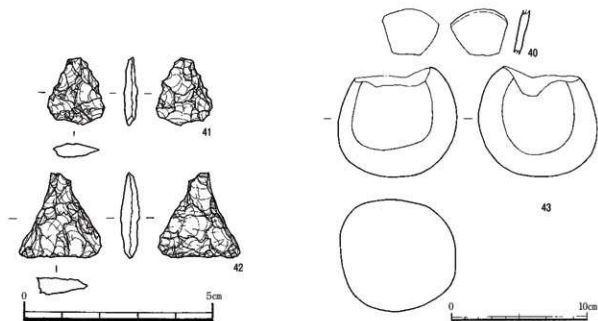
第11圖 旧石器4



第12図 旧石器5

旧石器時代石器観察表

種別 番号	掲載 番号	注記番号	層	器種	出土区	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
第8図	1	666	Ⅷ	ナイフ型石器	N-14	チャート	2.6	1.3	0.5	1.3	
	2	8325	Ⅷ	ナイフ型石器	M-14	黒曜石D	2.1	1.4	0.5	0.9	
	3	7941	Ⅷ	台形石器	N-14	黒曜石D	1.7	1.3	0.6	0.6	
	4	8170	Ⅷ	台形石器	M-15	黒曜石	1.4	1.4	0.5	0.5	
	5	8309	Ⅷ	台形石器	M-14	黒曜石A	1.9	1.2	0.6	0.9	
	6	8465	Ⅷ	台形石器	M-14	黒曜石A	2.1	2.1	0.5	1.5	
	7	8452	Ⅷ	台形石器	M-14	黒曜石	(2.1)	2.1	0.6	(1.7)	
	8	8198	Ⅷ	台形石器	M-15	黒曜石	2.5	2.1	0.7	2.9	
	9	8463	Ⅷ	台形石器	M-14	黒曜石	2.3	1.9	0.7	1.8	
	10	8239	Ⅷ	台形石器	M-15	黒曜石A	2.7	2.3	0.8	5.7	
	11	8592	Ⅷ	台形石器	N-14	黒曜石C	3.4	2.4	1.1	5.7	
第9図	12	8523	Ⅷ	三稜尖頭器	M-14	黒曜石C	3.2	0.8	0.8	1.8	
	13	8011	Ⅷ	三稜尖頭器	M-14	頁岩	4.2	1.6	1.0	5.4	
	14	8803	Ⅷ	楕形石器	O-15	チャート	2.3	2.2	0.6	4.0	
	15	8316	Ⅷ	スクレイパー	M-14	黒曜石	1.8	1.1	0.3	0.6	
	16	8757	Ⅷ	スクレイパー	P-16	チャート	2.1	1.2	0.5	1.4	
	17	8373	Ⅷ	スクレイパー	M-14	黒曜石A	1.7	2.1	0.7	1.7	
	18	8705	Ⅷ	スクレイパー	O-15	チャート	2.1	1.5	0.5	1.6	
	19	8633	Ⅷ	スクレイパー	M-14	チャート	2.7	2.2	0.9	5.3	
	20	8199	Ⅷ	スクレイパー	M-15	黒曜石A	4.3	2.8	0.8	5.0	
	21	8304	Ⅷ	スクレイパー	M-14	黒曜石A	2.0	2.5	1.0	5.8	
	22	8320	Ⅷ	スクレイパー	M-14	黒曜石A	2.9	2.9	1.1	7.3	
第10図	23	8587	Ⅷ	スクレイパー	M-14	頁岩	3.8	6.9	1.4	31.4	
	24	8585	Ⅷ	スクレイパー	M-14	頁岩	6.5	4.7	0.6	22.2	
	25	8389	Ⅷ	使用痕跡片	M-14	玉髄	3.3	2.0	1.6	4.7	
	26	8741	Ⅷ	使用痕跡片	P-15	黒曜石C	3.8	2.1	0.5	2.9	
	27	8833	Ⅷ	使用痕跡片	M-14	チャート	4.3	2.8	1.1	12.4	
	28	8661・8622 8636	Ⅷ	石核	M-14	玉髄	7.0	2.9	2.5	49.6	
第11図	29	8476・8499	Ⅷ	石核	M-14	頁岩	7.6	6.3	1.8	115.6	29-1・29-2
	30	8717	Ⅷ	石核	P-15	黒曜石C	2.4	3.9	2.7	20.1	
	31	8325	Ⅷ	石核	M-14	黒曜石A	3.6	3.1	1.5	14.3	
	32	8610	Ⅷ	石核	N-14	玉髄	3.9	3.6	2.2	37.1	
	33	8627・8609 8611・8433 8446	Ⅷ	石核	M・N-14	玉髄	4.8	4.1	5.8	111.3	
第12図	34	6360	Ⅷ	細石刃	O-15	玉髄	(1.7)	0.7	0.3	(0.5)	
	35	6724	Ⅷ	細石刃	O-16	チャート	(1.6)	0.6	0.3	(0.2)	
	36	6815	Ⅷ	細石刃	O-15	チャート	(1.5)	0.6	0.3	(0.2)	
	37	1080	Ⅷ	細石刃核	I-14	黒曜石C	2.6	2.3	1.6	0.9	
	38	6612	Ⅷ	細石刃核	O-15	チャート	2.6	1.3	1.3	3.1	
	39	2264	Ⅷ	細石刃核	N-15	黒曜石C	2.2	2.3	1.1	4.0	



第13図 縄文時代草創期 出土遺物

縄文時代草創期土器観察表

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他		外面	内面	
第13図	40	M-14	Ⅷ	胴部	黒褐色	暗褐色	○	○			不良	ナデ?	ナデ?	
	未掲載	P-15	Ⅷ	胴部	にぶい橙	灰褐色	○	○	○		不良	ナデ?	ナデ?	

縄文時代草創期石器観察表

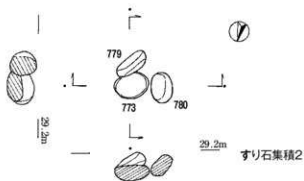
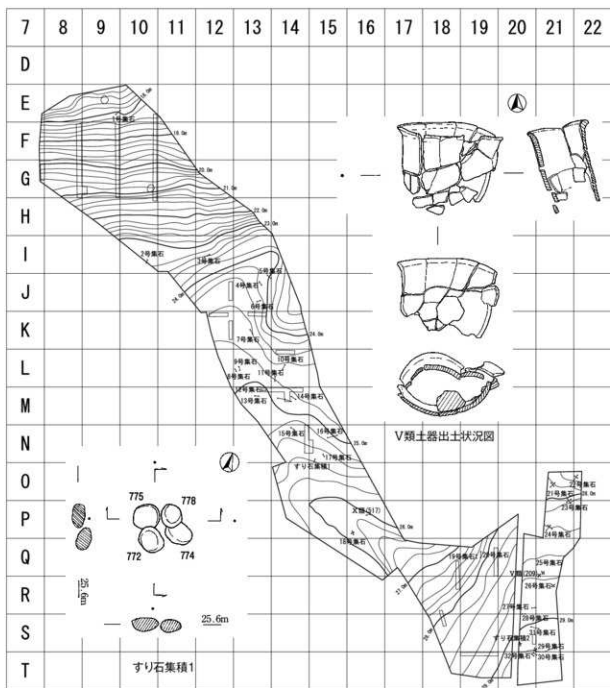
挿図 番号	遺物 番号	注記番号	層	器種	出土区	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第13図	41	8483	Ⅷ	石鏃	M-14	玉髓	1.9	1.5	0.4	0.9	C-a-a
	42	8720	Ⅷ	石鏃未製品	P-15	玉髓	2.5	2.2	0.5	1.7	-
	43	8167	Ⅷ	磨石	M-15	安山岩	7.5	8.7	8.2	900	

うち1点は実測に絶えうる大きさではなかったため、1点のみを掲載した。

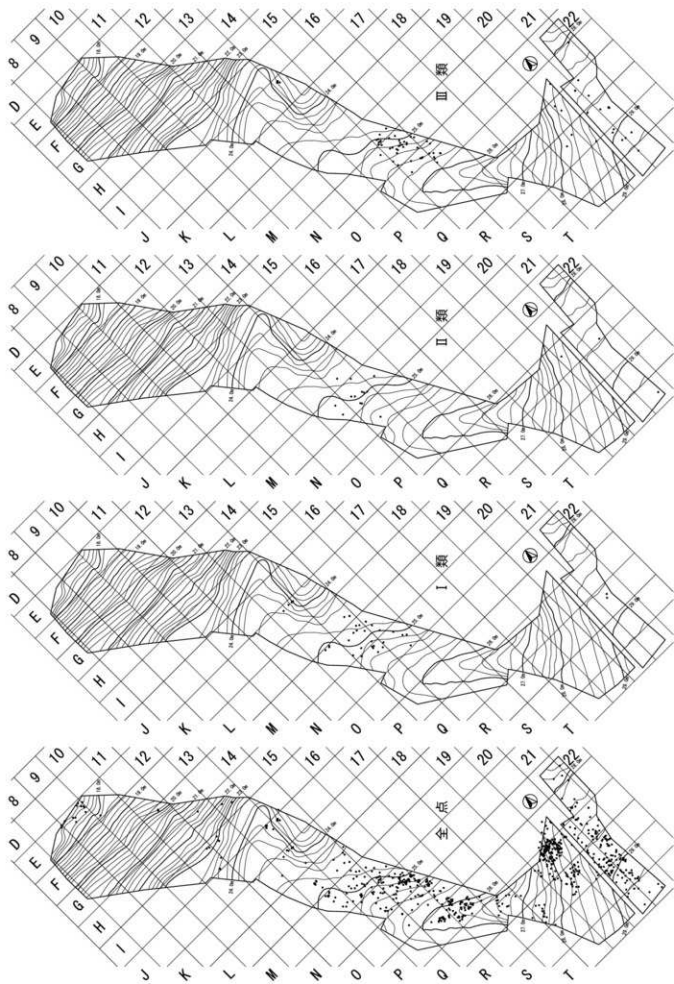
40は胴部である。内面は煤付着のためか、黒褐色を呈するが、摩滅が激しいため詳細は不明である。41・42は石鏃である。個体部の挟りが浅いため、中央部の稜は見られない。基部は挟りがなく、粗いつくりである。43は磨石である。一部欠損しており、両面に磨り面を有する。

2 縄文時代早期

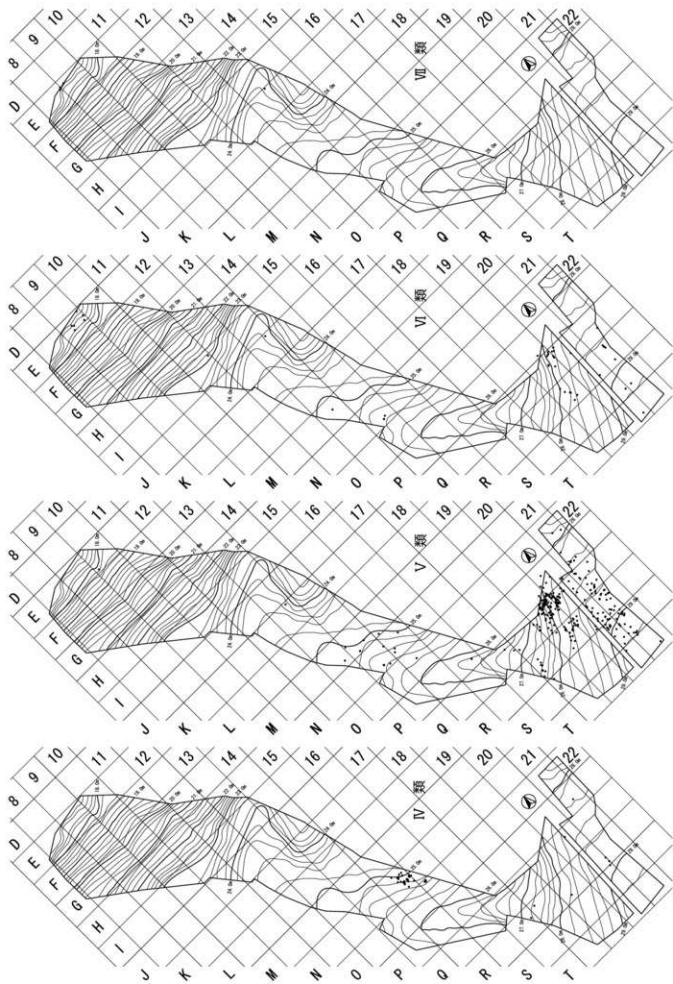
縄文時代早期は、本遺跡の中心となる時代で、遺構・遺物ともに遺跡の中央と北側に集中しており、遺構数、遺物量ともに非常に多い。遺構は、集石遺構が36基、石器（石鏃）製作跡と思われるブロックが1か所検出されている。遺物は、早期前葉から後葉に相当するⅠ類土器からⅧ類土器が出土している。石器も、環状石斧・有溝砥石と思われる特殊な石器をはじめ、石鏃・石斧・磨石・石皿等が出土している。



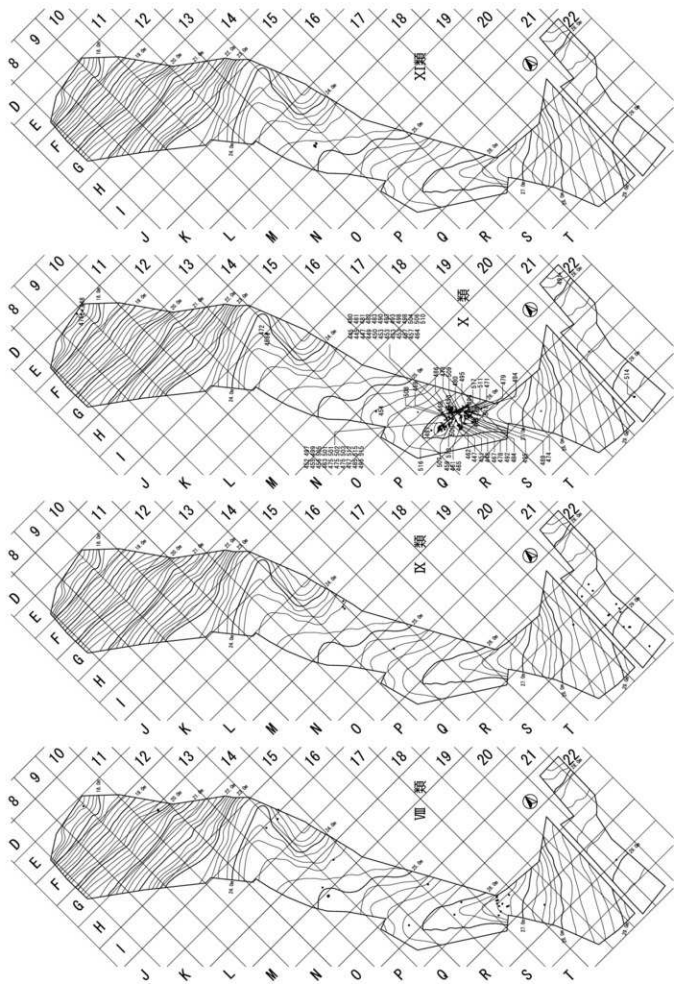
第14図 縄文時代早期 遺構配置図及び遺物出土状況図



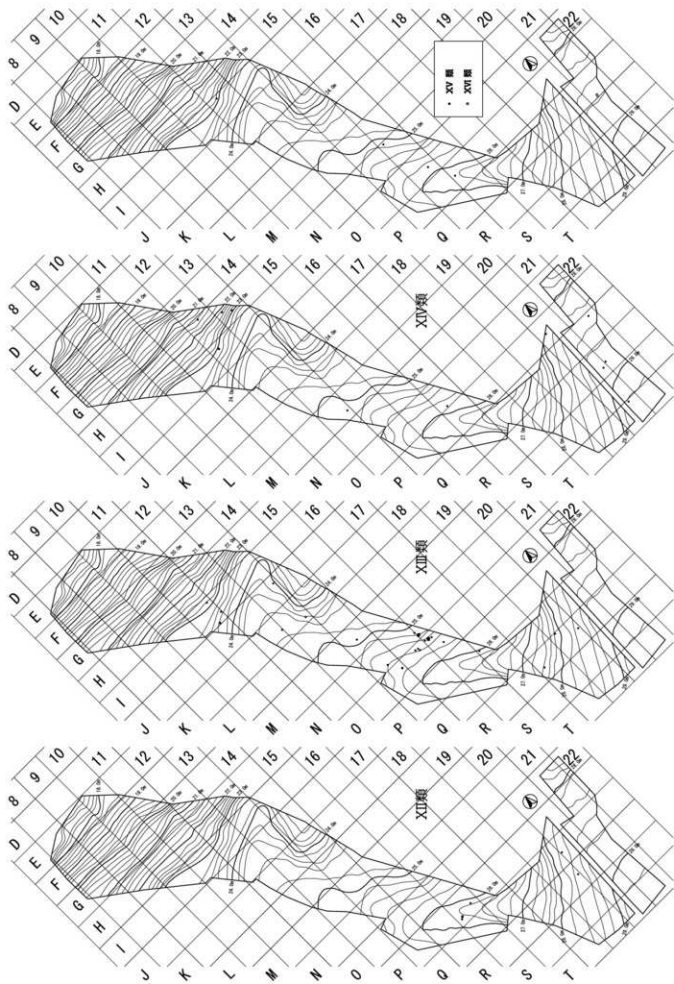
第15圖 繩文時代早期 土器出土状況 1



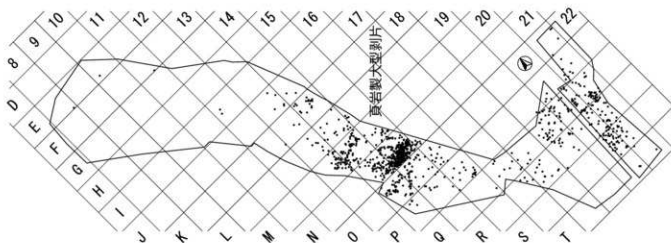
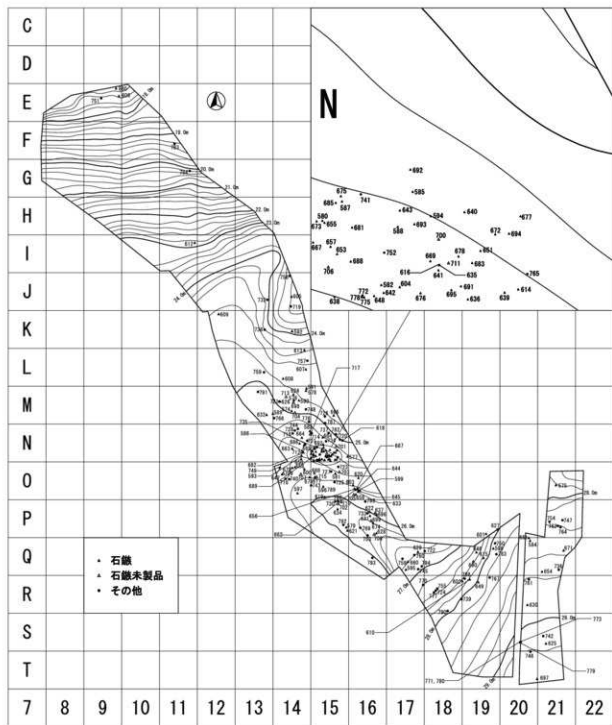
第16圖 繩文時代早期 土器出土状況2



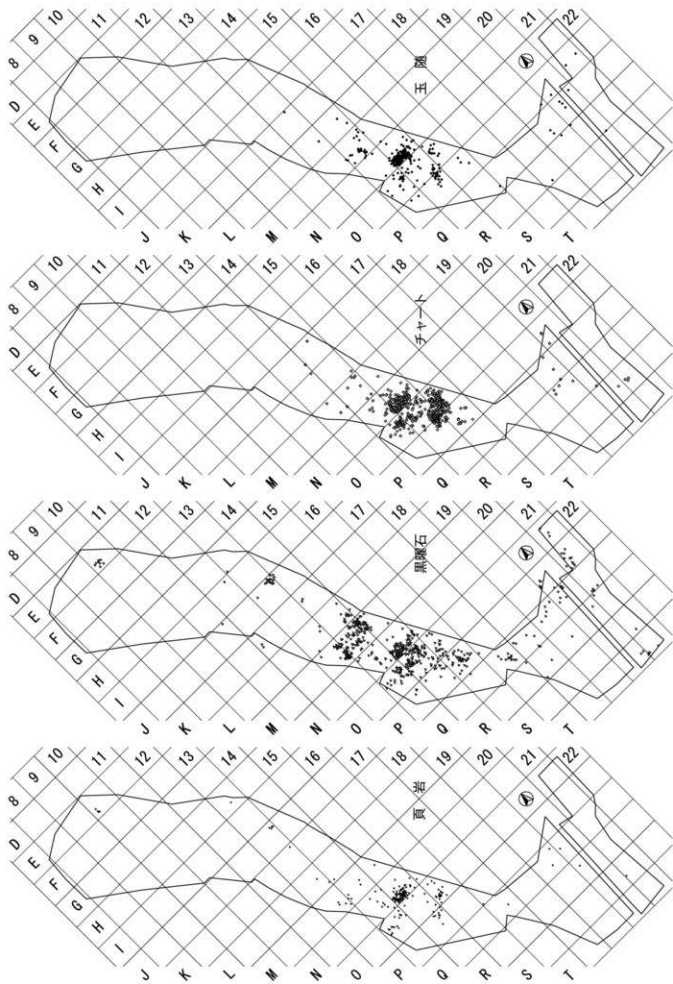
第17圖 繩文時代早期 土器出土状況3



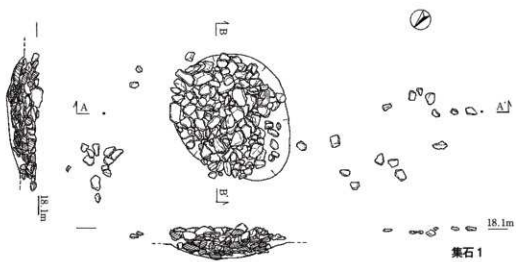
第18圖 繩文時代早期 土器出土状況 4



第19図 縄文時代早期 石器出土状況及び頁岩製大型剥片出土状況



第20図 石材別 小型剥片出土状況



第21回 集石遺構 1

(1) 遺構 (第21図～第31図 集石
1～集石36)

縄文時代早期では、集石が36基検出された。

集石1

E-9・10区で検出された。礫数327である。10cm以上の礫を多用している。密集度が高く掘り込みも確認された。

集石2

I-10区で検出された。礫数75である。礫は少量であるが密集している。

集石3

I-12区で検出された。礫数107である。広範囲にわたり礫が散在している。

集石4

J-13区で検出された。礫数137である。密集度は高い。

集石5

J-13区で検出された。礫数62である。中心部で礫の密集が見られるが全体に散在した状態である。

集石6

J-13区で検出された。礫数57である。礫は少量であるが密集している。

集石7

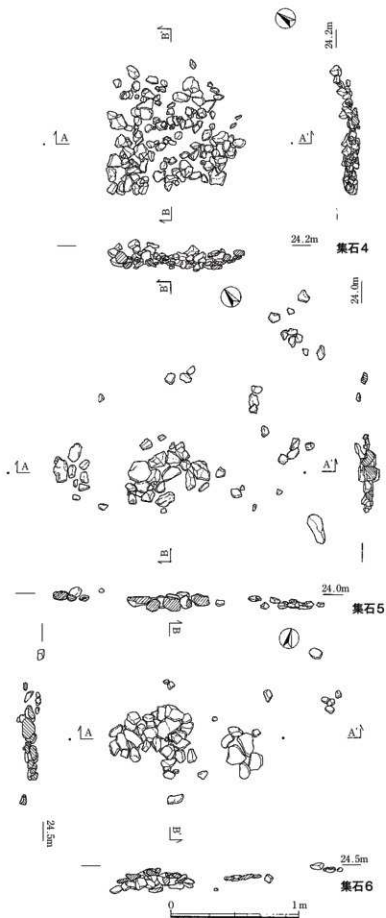
K-13区で検出された。礫数123である。10cm以内の礫を多用しており密集度は高い。

集石8

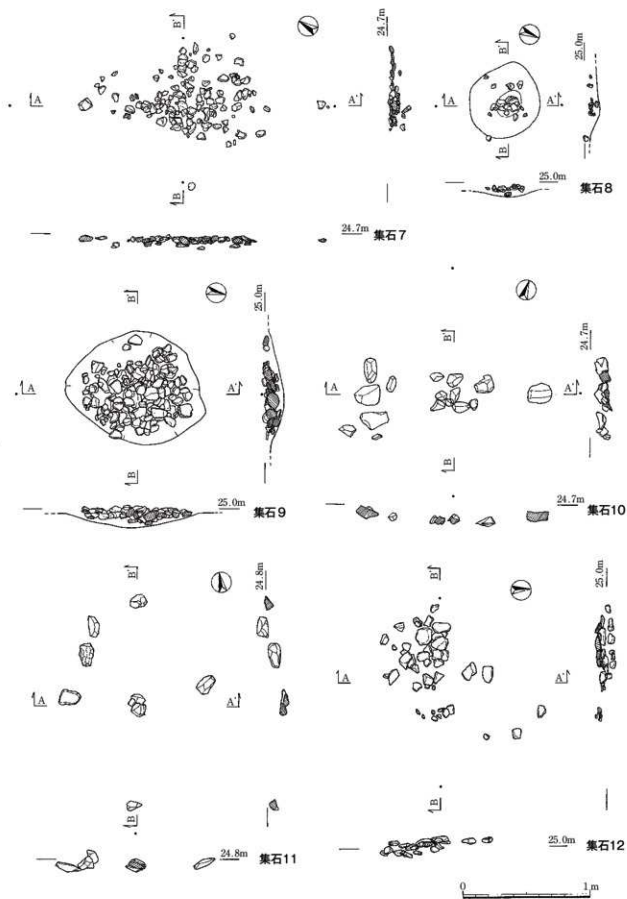
L-13区で検出された。礫数20である。礫は少量であるが比較的密集している。掘り込みが確認できた。

集石9

L-13区で検出された。礫数145である。礫の密集度が高く掘り込みが確認できた。



第22図 集石遺構2



第23図 集石遺構3

集石10

L-14区で検出された。礫数16である。残存する礫も少量でまともに欠ける。

集石11

L-14区で検出された。礫数8である。礫は少量でまともに欠ける。

集石12

M-13区で検出された。礫数45である。礫は少量であるが比較的密集している。

集石13

M-13区で検出された。礫数80である。礫は西側で密集しているが東側に散在している。浅い掘り込みが確認された。

集石14

M-14区で検出された。礫数67である。範囲内の両端に礫の密集が見られる。

集石15

N-14区で検出された。礫数29である。礫は少量でありまともに欠ける。

集石16

N-15区で検出された。礫数211である。礫が長径約4 m50cm短径約3 mの広範囲に散在している。礫の密集度は低い。



第24図 集石遺構4

集石17

N-15区で検出された。礫数35である。10cmを超える礫を多用しているがややまとまりに欠ける。

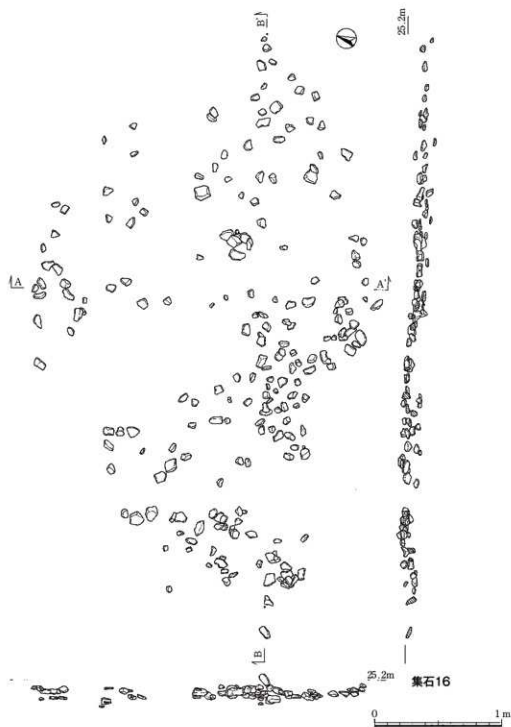
集石18

P-16区で検出された。礫数56である。礫は少量であるが比較的密集している。土器片が3点出土し

ている。

集石19

Q-19区で検出された。礫数100である。20cmを超える礫もあるが、ほとんどが小礫である。密集度は高い。石板式土器の破片が10点出土した。



第25図 集石遺構5

集石20

Q-19区で検出された。礫数100である。中心部から南側にかけてやや密集している。北側周辺部はまとまりに欠ける。石坂式土器の破片が5点出土した。

集石21

O-21区で検出された。礫数454である。10cm以内の小礫を多用している。礫の密集度は高い。掘り

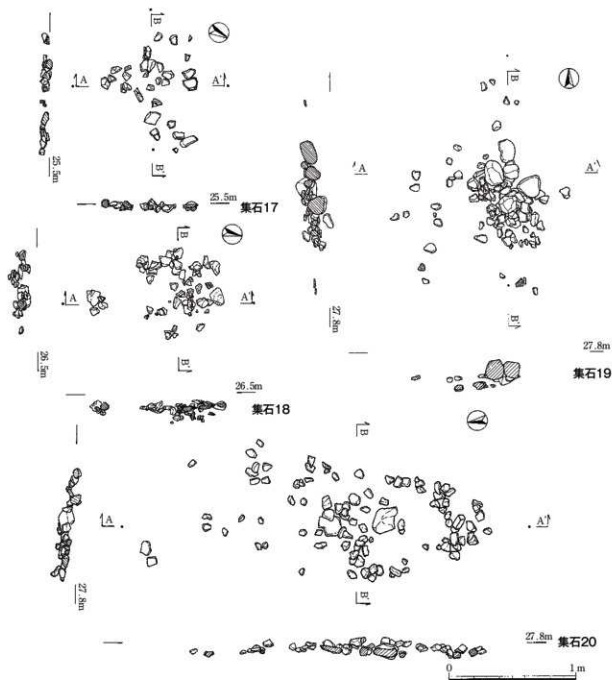
込みが確認された。石畿が1点出土した。

集石22

O-21・22区で検出された。礫数122である。10cm以内の小礫を多用している。押型文土器の破片が2点出土した。

集石23

O・P-21区で検出された。礫数113である。密集度は低い。



第26図 集石遺構6

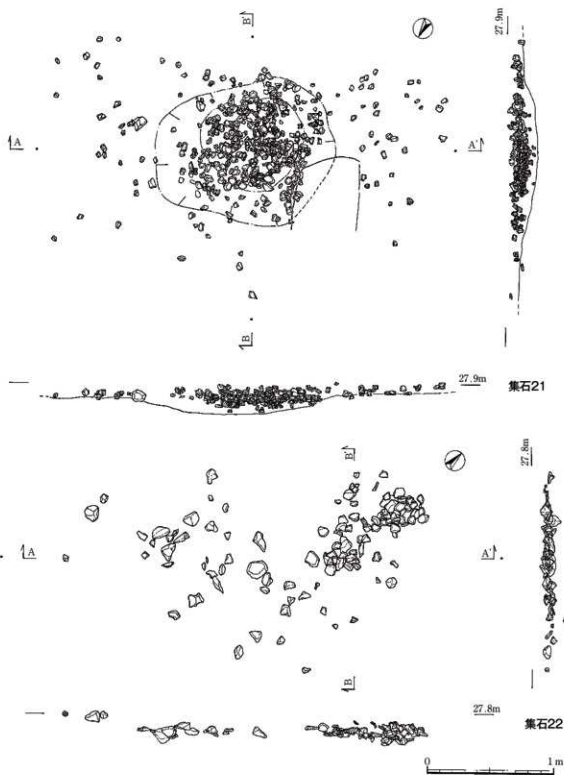
集石24

P-21区で検出された。礫数45である。小さめの礫を多用している。集石周辺部から石坂式土器の破

片が多数出土している。

集石25

Q-21区で検出された。礫数43である。礫は少量



第27図 集石遺構7

であるが比較的密集している。石坂式土器の破片が5点供伴している。

集石26

R-21区で検出された。礫数47である。20cmを超える礫を多用している。

集石27

R-20区で検出された。礫数33である。礫はまとまりに欠ける。土器片が6点出土している。

集石28

R・S-20区で検出された。礫数52である。礫は少量であるが比較的密集している。

集石29

S-20区で検出された。礫数91である。礫は比較的密集している。浅い掘り込みが確認された。

集石30

T-20・21区で検出された。礫数203である。小礫を多用しており密集度合いが高い。

集石31

S-20・21区で検出された。礫数233である。長径約4m短径約3mの広い範囲に10cm以下の小礫が散在している。集石内からは炭化物（炭化材）が出土しており、樹種同定での結果マキ属、また放射性炭素年代測定の結果は、 $9,370 \pm 50$ BP（補正年代 $9,280 \pm 60$ BP）の値を得ている。

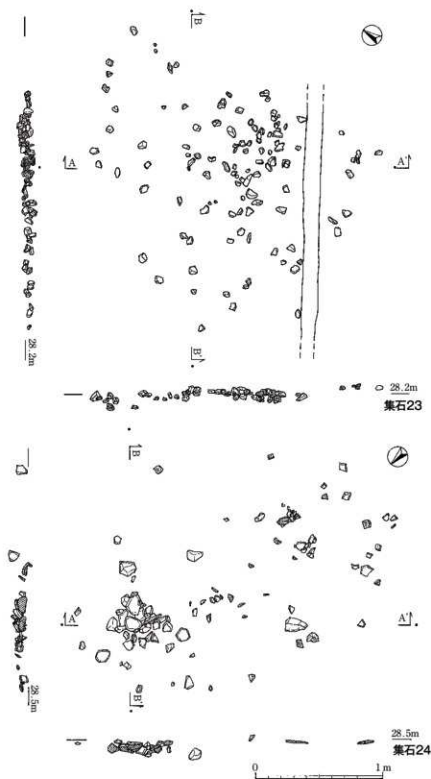
集石32

T-20区で検出された。礫数78である。礫はまとま

りに欠ける。

集石33

礫数25である。礫は少量でまとまりに欠ける。



第28図 集石遺構8

集石34

礫数24である。礫は少量でまとまりに欠ける。

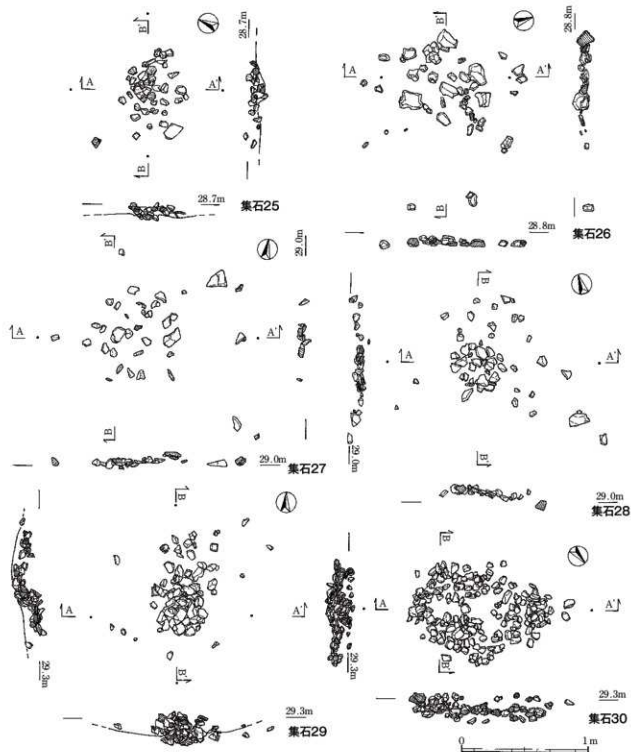
集石33・34はM-14区で検出されたが詳細な位置については不明である。

集石35

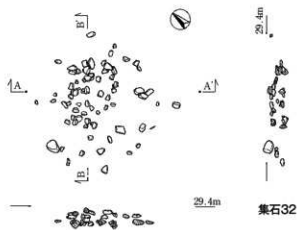
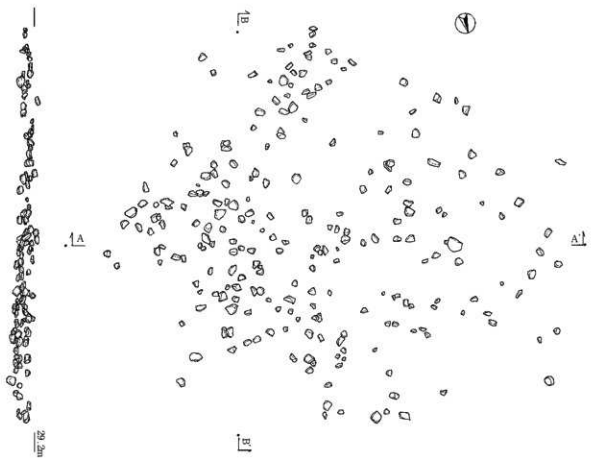
礫数19である。密集度は低い。位置は不明である。

集石36

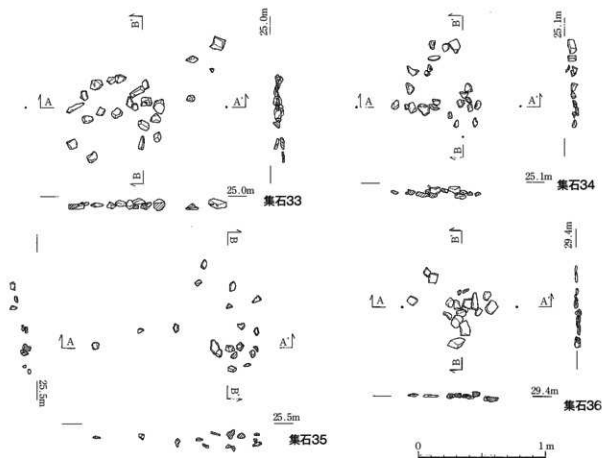
礫数15である。礫は少量であるが比較的密集している。位置は不明である。



第29図 集石遺構9



第30回 集石遺構10



第31図 集石遺構11

(2) 遺物 (第32図～第94図)

①土器 (第32図～第74図)

縄文時代の早期の土器はⅠ類からⅧ類に分類できた。

Ⅰ類土器 (第32図・第33図 44～72)

Ⅰ類土器は口縁内面に明瞭な段を有する貝殻条痕文系円筒土器である。口唇部はヘラもしくは貝殻による連続刺突が施される。結果正面観が小波状を呈する。

44～64は口縁部である。44～49は口縁部に横位の貝殻刺突文が3～5条施される。50～64は斜位の貝殻刺突文が施されている。63の内面には赤色顔料が附着している。65～69は胴部である。貝殻条痕による調整がなされている。70～72は底部である。71は底面にハケによる丁寧な調整がなされている。

Ⅱ類土器 (第34図 73～87)

Ⅱ類土器は口唇部が水平もしくは外面に傾斜する

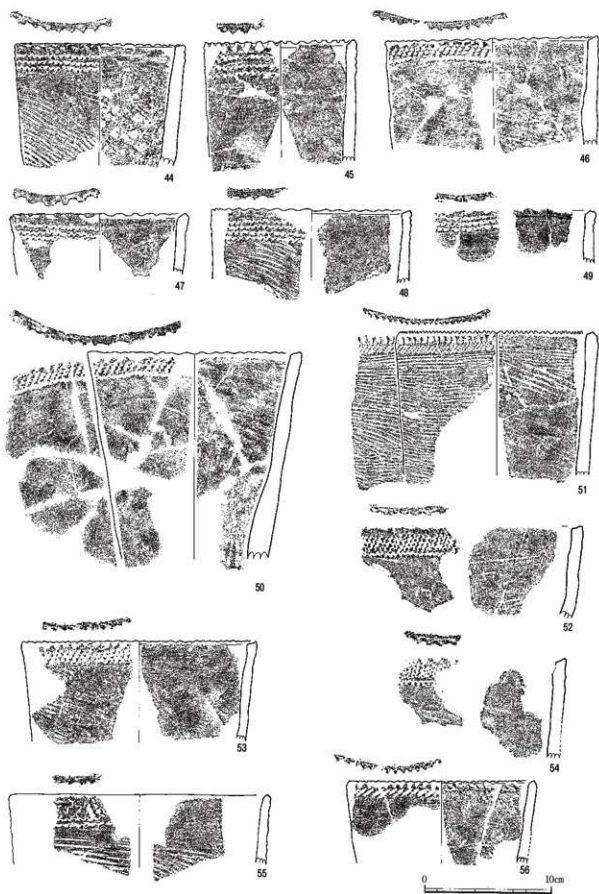
貝殻条痕文系円筒土器である。15点を図化した。

73～80は口縁部に「く」の字または逆「く」の字状の連続刺突が施されている。胴部は横、斜位の貝殻条痕が施されている。75・76は口縁部内面に不明瞭ながら段が確認できるためⅠ類に分類される可能性もある。81は口縁部に棒状の工具による連続刺突が施されている。84は口縁部に横位、胴部にかけて斜、縦位の貝殻刺突文が施されている。85は口縁部に竹管状の工具による連続刺突が施されている。86・87は胴部である。斜位の貝殻条痕による調整がなされている。

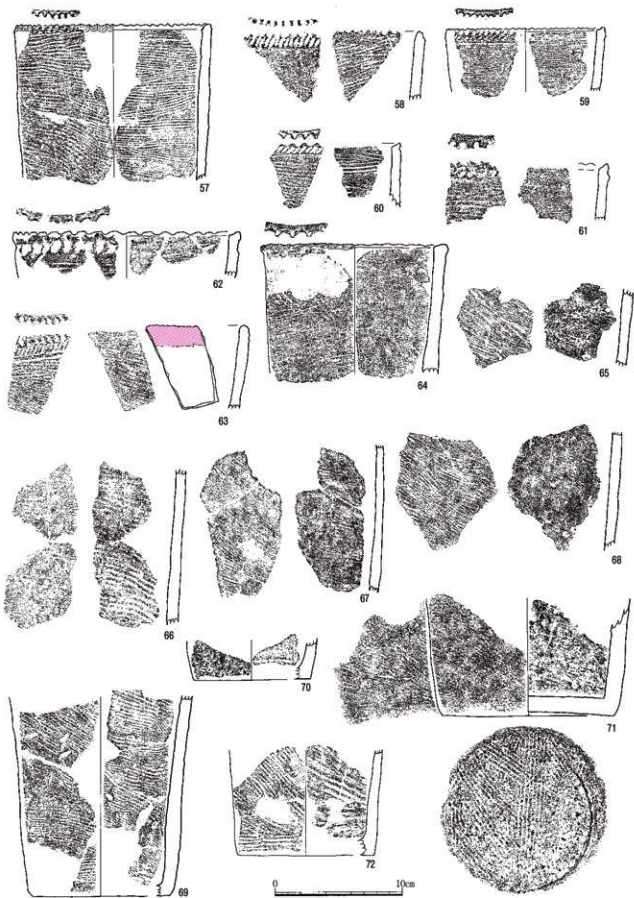
Ⅲ類土器 (第35図～第37図 88～146)

Ⅲ類土器は、口縁部に横位の貝殻刺突文、胴部に斜位の条痕を施し、その上から貝殻刺突文を重ねているものである。また、楔形貼付文を有するものもある。器形は円筒と角筒がある。

88～98は口縁部直下に左右に刺突を施した楔形貼



第32図 縄文時代早期 土器 1 (I類)



第33図 縄文時代早期 土器2 (I類)